本書の見かた

本ページは見本を使って本書の基本的な読みかたを説明しています。

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

タイトル
階層により区別しています。

フォグランプ

タイプ別装備

タイプ別装備
お車のグレードなどにより装備の有無が異なる事を示しています。

フォグランプスイッチ

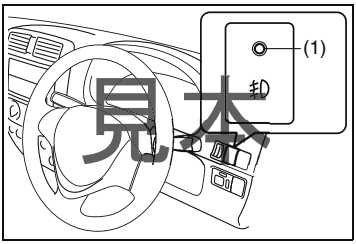
ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

参照先
関連する内容が記載されているページなどを案内しています。

→ 3-53ページ（ライトスイッチ）

章番号
各章の番号を案内しています。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



操作要領
装備の取扱いかたなどを説明しています。

注 記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

警告・注意・注記・アドバイス
前ページをお読みください。

お知りになりたいことをさがすときは

次のような方法で検索されますと、すばやくさがせます。

■ タイトルからさがす

- ♦ 総合目次
- ♦ 各章のはじめの目次
- ♦ ヘッダー

■ 取り付け位置、警告灯・表示灯からさがす

- ♦ イラスト目次 → 1-2ページ

■ ブザー音からさがす

- ♦ 警告ブザーが鳴ったときは → 1-24ページ

■ 名称からさがす

- ♦ さくいん → 9-1ページ

■ 4WD車特有の記載をさがす

- ♦ 4WD車を運転するときは → 2-34ページ
- ♦ タイヤチェーン → 6-20ページ
- ♦ けん引してもらうときは → 7-3ページ

■ オイルや、交換部品をさがす

- ♦ お車との上手なつきあいかた → 6-1ページ
- ♦ 万一のとき → 7-1ページ
- ♦ サービスデータ → 8-1ページ

■ よくあるご質問（Q & A）からさがす

- ♦ よくあるご質問（Q & A） → 1-29ページ

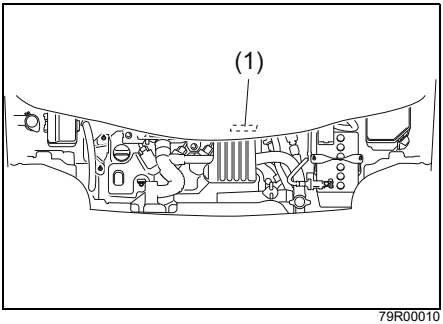
ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、IDラベルをご覧ください。

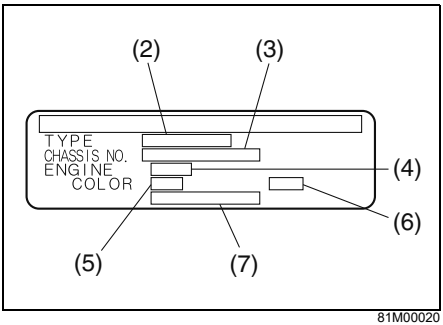
ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	
車体色記号	
機種記号	
トランスミッション	
ナンバープレート（車両番号）	
ご購入年月日	年　月　日

IDラベル（1）

エンジンルームに貼付してあります。



79R00010



81M00020

(2) 車両型式　　(3) 車台番号
(4) エンジン型式　(5) 車体色記号
(6) 車体色と内装色の組合せコード
(7) 機種記号

データの記録について

この車には、車両の制御や操作などに関するデータを記録するコンピュータが装備されており、以下のデータを記録します。

データの種類について

- エンジンの回転数など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ、シフトポジションなど、操作の状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報（イベントデータレコーダー（EDR）に記録されます。EDR は Event Data Recorderの略です。）
  → **3-59ページ（SRSエアバッグ）**

アドバイス

- お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。
- 会話などの音声は記録しません。
- 使用条件などにより、データが記録されない場合があります。

データの開示について

マツダおよびマツダが委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、マツダおよびマツダが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

MEMO

総 合 目 次

1 クイックガイド

イラスト目次 ····· 1-2
警告ブザーが鳴ったときは ····· 1-24
よくあるご質問（Q & A） ····· 1-29

2 必読！安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために ····· 2-2

3 運転する前に

ドアの開閉 ····· 3-2
警報装置 ····· 3-29
ウインドーの開閉 ····· 3-31
各部の調節 ····· 3-36
シートの調節 ····· 3-42
シートベルト ····· 3-52
SRSエアバッグ ····· 3-59
お子さま用シート ····· 3-71
メーター ····· 3-83
スイッチの使いかた ····· 3-134

4 運転するときは

エンジン始動・停止 ····· 4-2
パーキングブレーキ ····· 4-12
オートマチック車 ····· 4-14
車両接近通報装置 ····· 4-27
DSC&TCS ····· 4-28
衝突被害軽減ブレーキ他 ····· 4-36

マイルドハイブリッド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-133
アイドリングストップシステム ・・・・・・・・・・・・・ 4-137

5 装備の取扱い

主な装備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-2
エアコン、ヒーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-27
オーディオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-41

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2
寒冷時の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-15

7 万一のとき

トラブルが起きたときの対処方法 ・・・・・・・・・・・・・・ 7-2
パンク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-9
バッテリーあがり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28
オーバーヒート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-30
ヒューズ切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-32
電球切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-37

8 サービスデータ

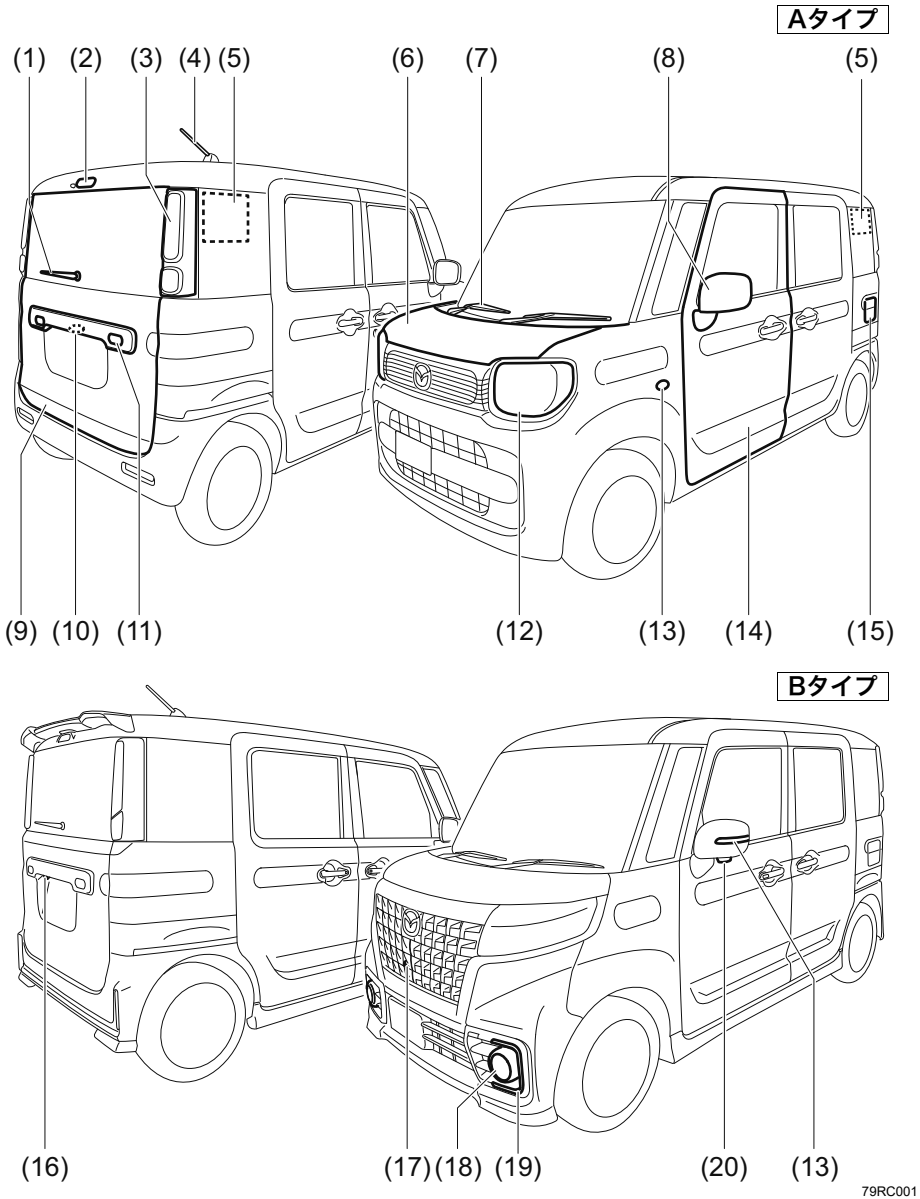
サービスデータ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1

9 さくいん

さくいん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9-1

イラスト目次

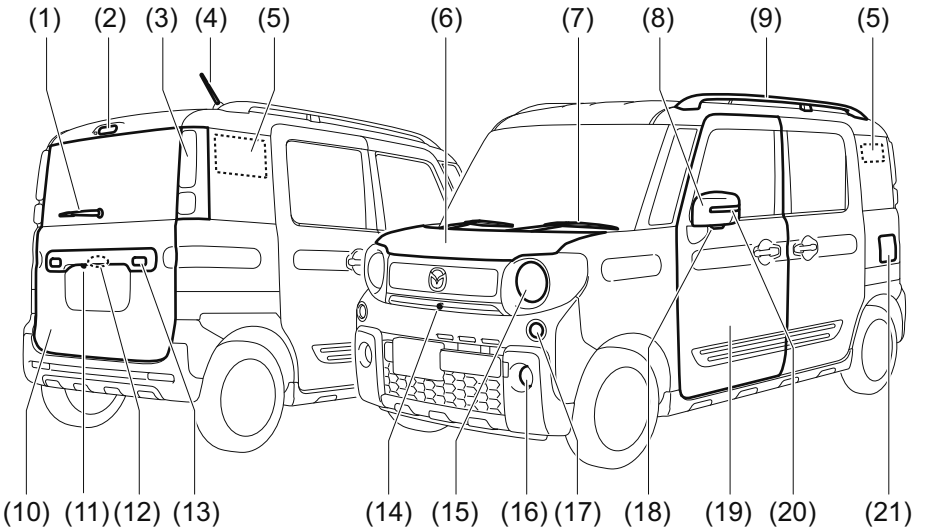
■ 外観



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　リヤワイパー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-141
(2)　ハイマウントストップランプ　・・・・・・・・・・・・・・・　7-42
(3)　リヤコンビネーションランプ　・・・・・・・・・・・・・・・　7-44
(4)　ルーフアンテナ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-41
(5)　ガラスアンテナ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-42
(6)　ボンネット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-4
(7)　フロントワイパー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-141
(8)　ドアミラー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-36
(9)　バックドア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-5
(10) 番号灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-46
(11) 後退灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-45
(12) ヘッドライト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-134、7-40
(13) 方向指示器／非常点滅表示灯
　　（フェンダーまたはドアミラー）・・・・・・・・・・・・・　7-42
(14) ドア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-3
(15) 燃料給油口(フューエルリッド)　・・・・・・・・・・・・・・・　5-2
(16) バックカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-93
(17) フロントカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-93
(18) フォグランプ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-137、7-42
(19) LEDイルミネーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-136
(20) サイドカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-93

Cタイプ

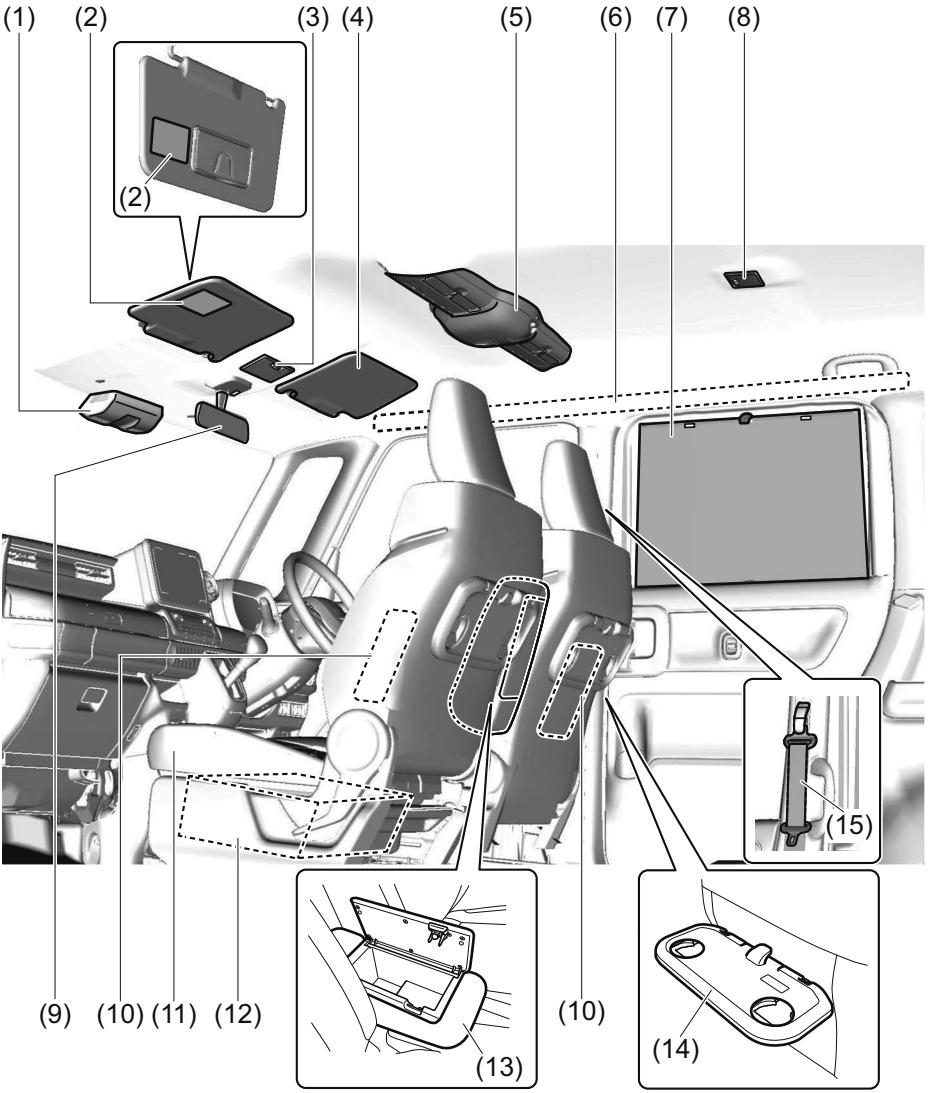


79RA106

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　リヤワイパー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-141
(2)　ハイマウントストップランプ　・・・・・・・・・・・・・・・　7-42
(3)　リヤコンビネーションランプ　・・・・・・・・・・・・・・・　7-44
(4)　ルーフアンテナ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-41
(5)　ガラスアンテナ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-42
(6)　ボンネット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-4
(7)　フロントワイパー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-141
(8)　ドアミラー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-36
(9)　ルーフレール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-25
(10) バックドア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-5
(11) バックカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-93
(12) 番号灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-46
(13) 後退灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-45
(14) フロントカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-93
(15) ヘッドライト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-134、7-42
(16) フォグランプ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-137、7-42
(17) 方向指示器／非常点滅表示灯
　　（フロントバンパー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-43
(18) サイドカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-93
(19) ドア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-3
(20) 方向指示器／非常点滅表示灯（ドアミラー）・・・・・　7-42
(21) 燃料給油口（フューエルリッド）　・・・・・・・・・・・・・・　5-2

■ 内装1



79RB002

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

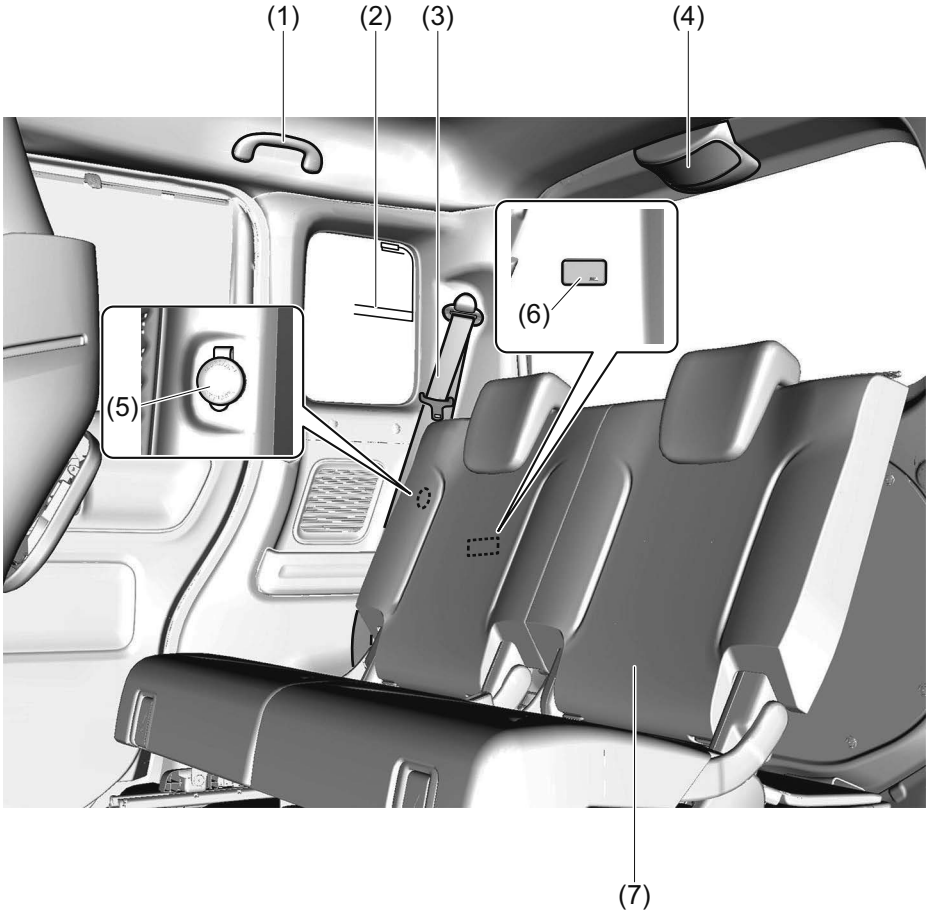
(1)　ステレオカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-36
(2)　助手席SRSエアバッグに関する
　　警告ラベル(※1、※2)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2-33
(3)　前席室内灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-8
(4)　サンバイザー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-6
(5)　スリムサーキュレーター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-36
(6)　SRSカーテンエアバッグ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-60
(7)　ロールサンシェード　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-7
(8)　後席室内灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-8
(9)　ルームミラー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-36
(10) SRSサイドエアバッグ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-59
(11) 前席シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-42
(12) シートアンダーボックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-18
(13) アームレスト(ひじ掛け)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-22
　　アームレストボックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-17
(14) パーソナルテーブル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-23
(15) シートベルト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-52

※1　お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。
※2　前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。



72M00150

■ 内装2

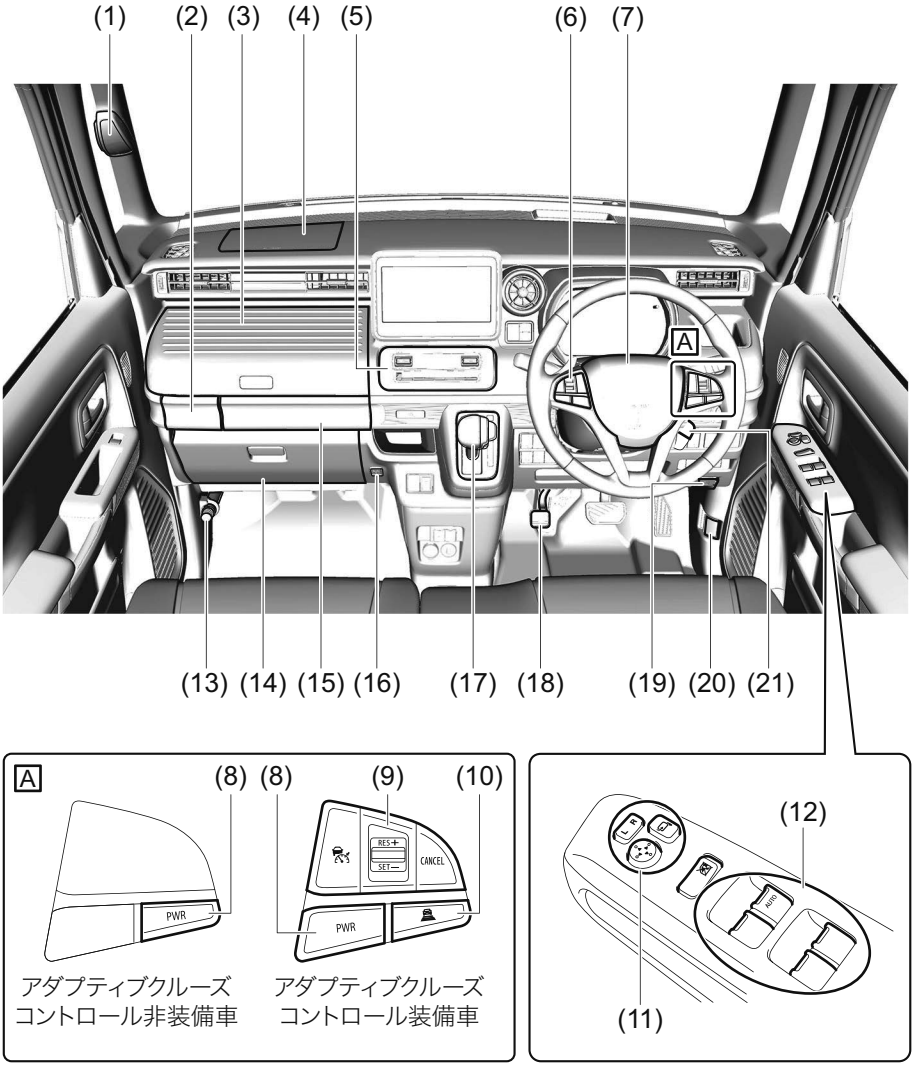


79RR0100

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　アシストグリップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-22
(2)　ガラスアンテナ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-42
(3)　シートベルト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-52
(4)　後方視界支援ミラー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-41
(5)　アクセサリーソケット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-20
(6)　荷室室内灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-8
(7)　後席シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-45

■ 内装3

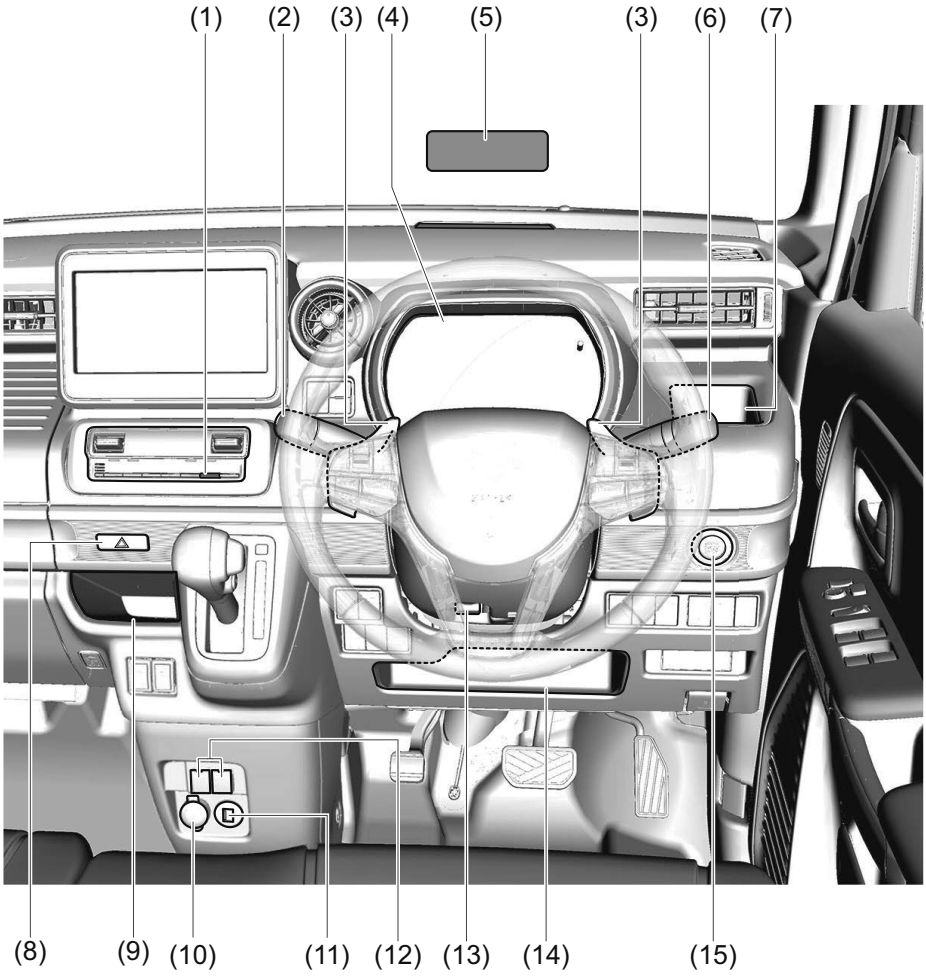


79RC002

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　サイドアンダービューミラー　・・・・・・・・・・・・・・・　3-40
(2)　ドリンクホルダー(助手席)　・・・・・・・・・・・・・・・・　5-13
(3)　インパネアッパーボックス　・・・・・・・・・・・・・・・・　5-11
(4)　助手席SRSエアバッグ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-59
(5)　エアコン､ヒーター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-27
(6)　ステアリングオーディオスイッチ　・・・・・・・・・・・　5-42
(7)　運転席SRSエアバッグ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-59
　　ホーンスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-142
(8)　パワーモードスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-143
(9)　アダプティブクルーズコントロールスイッチ　・　4-65
(10)　車間距離設定スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-65
(11)　ドアミラー角度調節スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・　3-36
　　ドアミラー格納スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-37
(12)　パワーウインドースイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・　3-31
(13)　発炎筒　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

■ 運転席まわり1

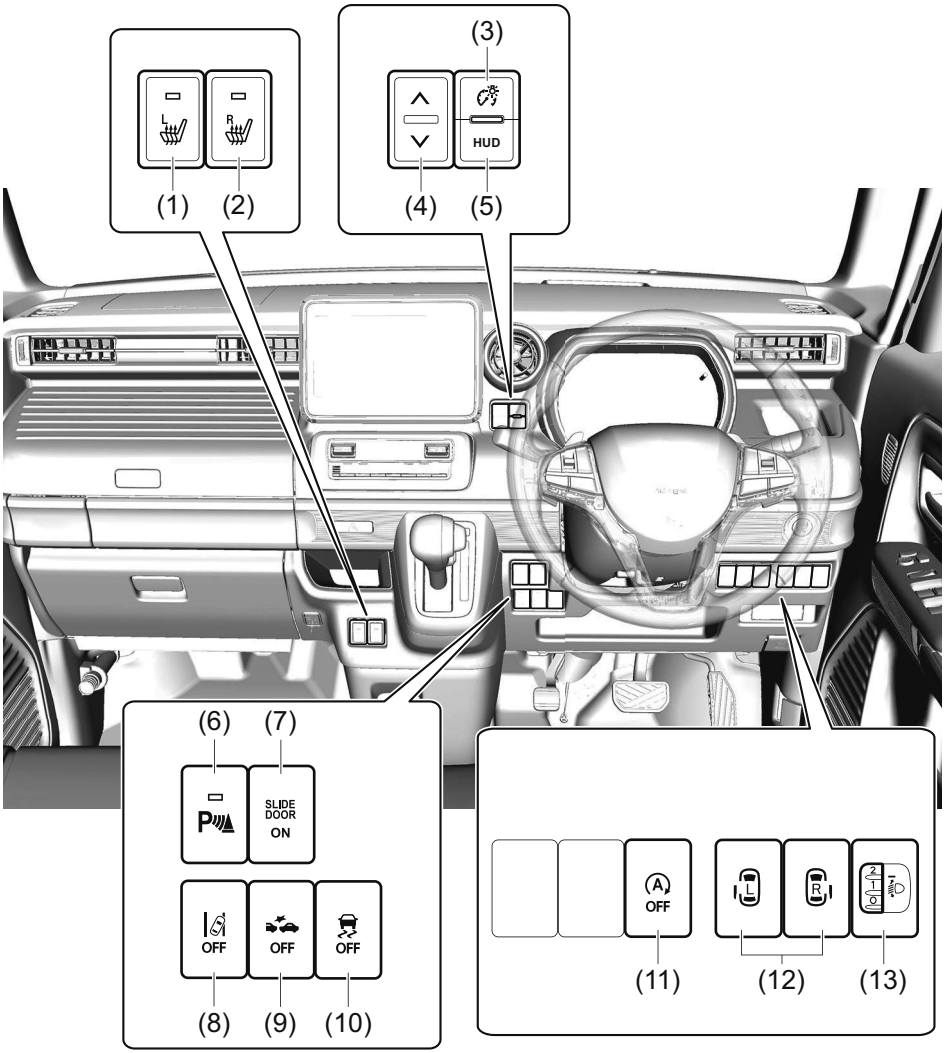


79RB004

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) ドアミラーヒータースイッチ ····· 3-40、5-37
リヤデフォッガースイッチ ····· 5-37
(2) ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-140
(3) パドルシフトスイッチ ····· 4-17
(4) メーター ····· 3-83
(5) ヘッドアップディスプレイ ····· 4-123
(6) ライトスイッチ ····· 3-134
方向指示器スイッチ ····· 3-139
フォグランプスイッチ ····· 3-137
(7) ドリンクホルダー(運転席) ····· 5-13
(8) 非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-139
(9) インパネセンターポケット ····· 5-10
(10) アクセサリーソケット ····· 5-20
(11) USBソケット ····· 5-20
(12) USB電源ソケット ····· 5-21
(13) チルトステアリング(レバー) ····· 3-42
(14) インパネアンダートレイ ····· 5-10
(15) エンジンスイッチ ····· 4-2

■ 運転席まわり2



79RA108

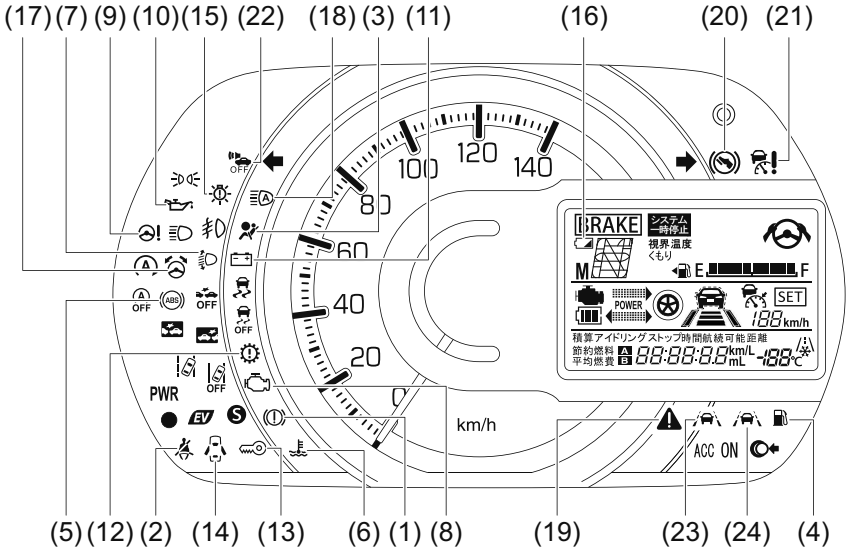
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　助手席シートヒータースイッチ　・・・・・・・・・・・・・　3-44
(2)　運転席シートヒータースイッチ　・・・・・・・・・・・・・　3-44
(3)　明るさ調整スイッチ(※)　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-131
(4)　上下スイッチ(※)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-131
(5)　HUDスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-131
(6)　リヤパーキングセンサーOFFスイッチ　・・・・・・・　4-92
(7)　パワースライドドアメインスイッチ　・・・・・・・・・　3-23
(8)　車線逸脱警報OFFスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・　4-73
(9)　デュアルカメラブレーキサポート(DCBS)
　　OFFスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-72
(10) DSC&TCS OFFスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-30
(11) アイドリングストップシステム
　　OFFスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-145
(12) パワースライドドアスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・　3-26
(13) 光軸調整ダイヤル(ハロゲン仕様車)　・・・・・・・・・　3-138

※ ヘッドアップディスプレイ表示の明るさおよび位置を調整する際に使用するスイッチです。

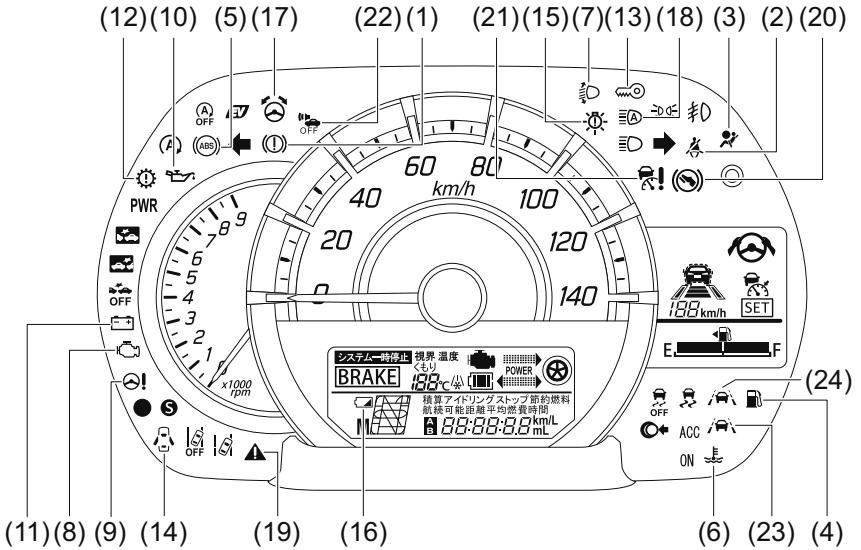
■ 警告灯

タコメーターなし車



79RC003

タコメーター装備車

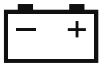


79RC006

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。次の参照先をよくお読みのうえ、マツダ販売店で点検を受けてください。
  → **3-86ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
- ※ 印の警告灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。（「水温警告灯／低水温表示灯」の初期点灯は赤色、「ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）／ハイビームアシスト作動表示灯（緑色）」の初期点灯はオレンジ色に点灯します。）点灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- 「水温警告灯（赤色）／低水温表示灯（青色）」および「ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）／ハイビームアシスト作動表示灯（緑色）」は点灯する色で表示を切り替えています。
- アイドリングストップシステム車には、特有の点灯条件があります。
  → **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

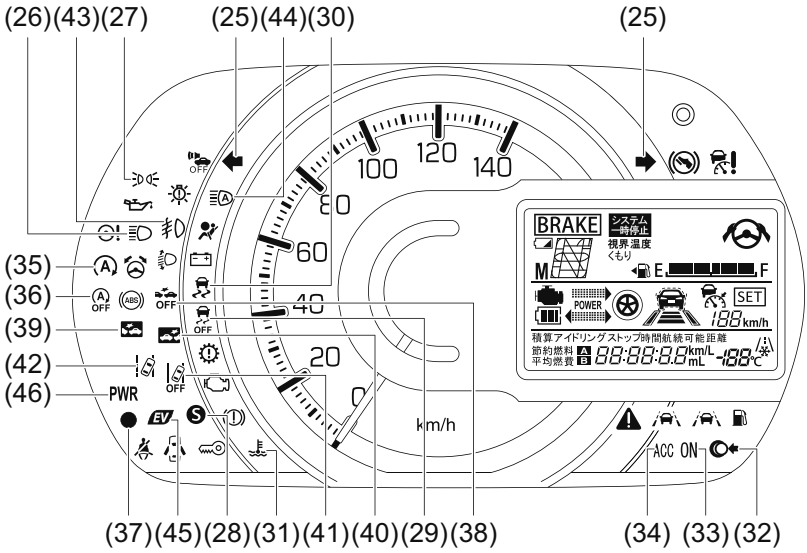
警告灯			色	警告灯名
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯
(2)			赤	前席シートベルト警告灯
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯
(6)		※	赤	水温警告灯
(7)		※	オレンジ	オートレベリング警告灯 （タイプ別装備）
(8)		※	オレンジ	エンジン警告灯

警告灯			色	警告灯名
(9)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯
(10)		※	赤	油圧警告灯
(11)		※	赤	充電警告灯
(12)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯
(13)		※	オレンジ	イモビライザー警告灯
(14)			赤	半ドア警告灯
(15)		※	オレンジ	LEDヘッドライト警告灯 （タイプ別装備）
(16)			白	携帯リモコン電池消耗警告灯
(17)			オレンジ	ハンドルロック未解除警告灯
(18)		※	オレンジ	ハイビームアシスト警告灯
(19)		※	オレンジ	マスターウォーニング
(20)		※	オレンジ	ブレーキリクエストインジケーター （タイプ別装備）
(21)		※	オレンジ	アダプティブクルーズコントロール警告灯 （タイプ別装備）

警告灯			色	警告灯名
(22)		※	オレンジ	車両接近通報装置警告灯
(23)		※	オレンジ	車線逸脱抑制機能インジケーター
(24)			白	車線逸脱抑制機能インジケーター

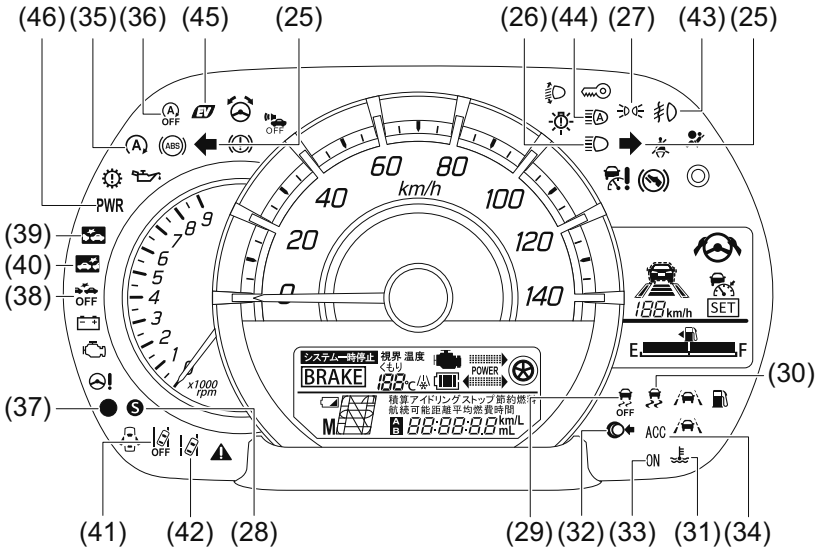
■ 表示灯

タコメーターなし車



79RC004

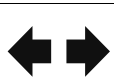
タコメーター装備車



79RC005

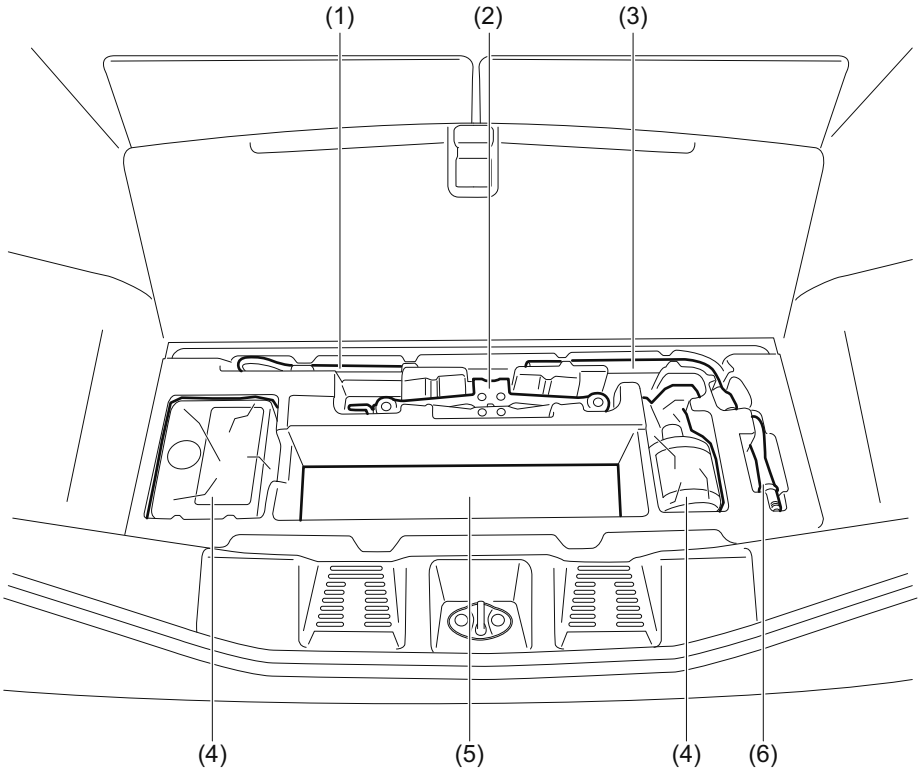
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

- ※ 印の表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。(「水温警告灯／低水温表示灯」の初期点灯は赤色、「ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）／ハイビームアシスト作動表示灯（緑色)」の初期点灯はオレンジ色に点灯します。）点灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- 「水温警告灯（赤色）／低水温表示灯（青色)」および「ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）／ハイビームアシスト作動表示灯（緑色）」は点灯する色で表示を切り替えています。
- アイドリングストップシステム車には、特有の点灯条件があります。
  → **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

表示灯			色	表示灯名
(25)			緑	方向指示器表示灯
(26)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯
(27)			緑	ライト点灯表示灯
(28)			オレンジ	Sモード表示灯（タイプ別装備）
(29)		※	オレンジ	DSC&TCS OFF表示灯
(30)		※	オレンジ	DSC&TCS作動表示灯
(31)		※	青	低水温表示灯
(32)			緑	プッシュ表示灯
(33)			オレンジ	IG ON表示灯

表示灯			色	表示灯名
(34)	ACC		オレンジ	ACC表示灯
(35)		※	緑	アイドリングストップ表示灯
(36)		※	オレンジ	アイドリングストップシステムOFF表示灯
(37)			赤	セキュリティアラームインジケーター
(38)		※	オレンジ	デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF表示灯
(39)		※	オレンジ	デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯
(40)		※	オレンジ	後退時ブレーキサポート作動表示灯
(41)		※	オレンジ	車線逸脱警報OFF表示灯
(42)		※	オレンジ	車線逸脱警報作動表示灯
(43)			緑	フォグランプ点灯表示灯（タイプ別装備）
(44)			緑	ハイビームアシスト作動表示灯
(45)			緑	EV表示灯
(46)	PWR		オレンジ	パワーモード表示灯

■ 荷室



79R10070

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　ジャッキバー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-9
(2)　ジャッキ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-9
(3)　ホイールナットレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-9
(4)　タイヤパンク応急修理セット　・・・・・・・・・・・・・・・・　7-10
(5)　ラゲッジアンダーボックス　・・・・・・・・・・・・・　5-25、7-9
(6)　けん引フック　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-9

警告ブザーが鳴ったときは

全車共通

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
いずれかのドアを開けたとき	室内ブザー ●ピー、ピー、（約10秒間）	 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。エンジンスイッチを ON にすると、警報を途中で停止できます。 → 3-29ページ（セキュリティアラーム）
エンジンスイッチを ON にしたとき	室内ブザー ●ピー、ピー、（4回）	 約8秒間 小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあってないか車の中を確認してください。 → 3-29ページ（セキュリティアラーム）
エンジンスイッチが ON のとき	室内ブザー ●ポーン（1回）	 点灯	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → 3-88ページ（燃料残量警告灯）
走行中	室内ブザー ●ピー、ピー、（約95秒間）	 点滅	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → 3-53ページ（シートベルト警告ブザー）
	室内ブザー ●ピピピッ、ピピピッ、	 点灯（赤色）	パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → 4-13ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）
	室内ブザー ●ポーン（1回）	 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → 3-93ページ（半ドア警告灯）
運転席ドアを開けたとき	室内ブザー ●ピーーー	 点灯	ヘッドライトまたは車幅灯が点灯したままです。これらを消してください。 → 3-136ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
停車中/後退中	室内ブザー ●ピー、ピー、	 表示	セレクトレバーが R に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-20ページ（R（リバース）ポジション警告ブザー）**
いずれかのドアを開閉したとき	室内/車外ブザー ●ピー、ピー、（5回）	 点滅	携帯リモコンが検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置にしてください。 → **4-7ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**
エンジンを始動しようとしたとき	室内/車外ブザー ●ピー、ピー、（5回）	 点滅	エンジンスイッチを ACC または ON にしたときは携帯リモコンを検知していましたが、始動時に検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置でエンジンスイッチを操作してください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-8ページ（エンジンのかけかた）**
運転席ドアを開けたとき	室内ブザー ●ピー、ピー、	—	エンジンスイッチが ACC になっています。LOCK（OFF）にもどしてください。 → **4-11ページ（エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー）**
	室内ブザー ●ピッ、ピッ、	—	エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしていずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされていません。マツダ販売店で点検を受けてください。 → **4-11ページ（ハンドルロック未作動警告ブザー）**
リクエストスイッチを押したとき	車外ブザー ●ピー（約2秒間）	—	エンジンスイッチが ACC または ON になっています。LOCK（OFF）にもどしてください。 → **3-17ページ（リクエストスイッチ未作動警告ブザー）**
		—	携帯リモコンが車内にあります。リモコンを車外に持ち出してください。
		 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	車外ブザー ●**ピー（約2秒間）**	 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。 → **3-10ページ（キーレスエントリー）**
走行中	室内ブザー ●**ピピピピピ** または ●**ピーーーー**	 点滅	デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が作動しています。ブレーキペダルを強く踏み込んでください。 → **4-43ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））**
停車中／徐行中	●**ピピピピピ**		誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → **4-48ページ（誤発進抑制機能）**
後退中	室内ブザー ●**ピーーーー**	 点滅	後退時ブレーキサポートが作動しています。ブレーキペダルを強く踏み込んでください。 → **4-82ページ（後退時ブレーキサポート）**
停車中／徐行中	●**ピピピピピ**		後方誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → **4-85ページ（後方誤発進抑制機能）**
停車中／後退中	●**ピッ・・ピッ・・ピッ・・** または ●**ピッ・ピッ・ピッ・** または ●**ピピピッ** または ●**ピーー**	—	リヤパーキングセンサーが車両後方の障害物を検知しています。車両の周囲を直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと後退してください。 → **4-88ページ（リヤパーキングセンサー）**

いつ	ブザー音	メーター	再始動の理由
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー ●ピー、ピー、（約5秒間）	 いずれか点灯	次のいずれかの操作をしたため、エンジンが自動で再始動しました。（※1） ●運転席シートベルトを外す ●運転席ドアを開ける 発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-10ページ（エンジンを止めるときは）**
	室内ブザー ●ピー（1回）	 点滅後、消灯	次のいずれかの状態になったため、エンジンが再始動しました。（※1） ●エアコンの設定温度と室内の温度の差が大きくなった ●デフロスタースイッチを押した ●ブレーキ倍力装置の負圧が低下した ●バッテリーの放電が進んだ
	室内ブザー ●ピー、ピー、	—	ボンネットが開いたためエンスト状態になりました。（※2）次の手順で対処してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れる ②ボンネットを完全に閉める ③エンジンスイッチを操作して再始動する → **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

※1 前記以外にも警告ブザーが鳴り、エンジンが自動再始動する場合があります。
→ **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

※2 エンスト状態になると、前記以外にも次の警告灯が点灯します。
• エンジン警告灯、パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯
→ **1-16ページ（警告灯）**

助手席側シートベルト警告ブザー装備車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	室内ブザー ●ピー、ピー、（約95秒間）	 点滅	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。ベルトを着用してください。 → 3-53ページ（シートベルト警告ブザー）

マニュアルモード付車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
パドルシフトスイッチを操作したとき	室内ブザー ●ピピッ	−	希望するギヤポジションに変速されていません。車速に見あった適切なギヤポジションを選択してください。 → 4-18ページ（マニュアルモードシフト警告）

よくあるご質問（Q & A）

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

ドアの開閉

Q. キーレスエントリーが作動しない。

A. キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。
3-10ページ（キーレスエントリー）をお読みください。

A. 携帯リモコンの電池が消耗しているときは、交換してください。
→ **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**

Q. ドアを開けたら警報が鳴る。

A. 警報装置（セキュリティアラーム）が作動しています。
次のいずれかの操作で警報を止めてください。
- エンジンスイッチを ON にする
- キーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠する

正しい取扱い方法や設定切替えについては、**3-29ページ（セキュリティアラーム）**をお読みください。

窓ガラス

Q. フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. デフロスタースイッチ（**5-35ページ**）をご使用ください。

Q. バックドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. リヤデフォッガースイッチ（**5-37ページ**）をご使用ください。

タイヤ

Q. パンクした。

A. パンクの状態によっては、タイヤパンク応急修理セットをご使用いただくことで、応急修理ができます。
→ **7-10ページ（パンク）**

バッテリーあがり

Q. バッテリーがあがり、エンジンが始動できない。

A. 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
→ **7-28ページ（鉛バッテリーあがりのときは）**

アイドリングストップシステム

Q. アイドリングストップシステムが作動しない。

A. 次の項目をお読みください。
→ **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

衝突被害軽減ブレーキ他

Q. 衝突被害軽減ブレーキ他が作動するとき、しないときを知りたい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **4-36ページ（衝突被害軽減ブレーキ他）**

エンジンオイル

Q. エンジンオイルを交換したい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **2-38ページ（エンジンオイルを交換するときは）**
→ **8-1ページ（サービスデータ）**

電装品

Q. ヘッドライト等の電球が点灯しなくなった。

A. 電球を点検してください。
→ **7-37ページ（電球の点検）**
→ **7-37ページ（電球を交換するときは）**
→ **7-39ページ（電球の容量）**

Q. 電気装置が使用できなくなった。

A. ヒューズを点検してください。
→ **7-32ページ（ヒューズが切れたときは）**

Q. 運転席パワーウインドーがオートで全開／全閉しなくなった。

A. パワーウインドーのはさみ込み防止機構の初期設定が必要です。**3-35 ページ（初期設定のしかた）**をお読みください。

MEMO

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

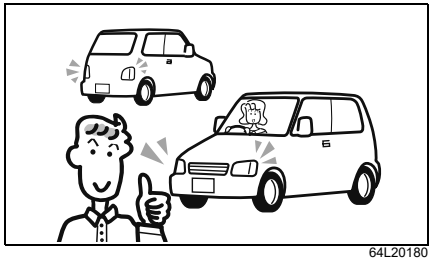
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）…… 2-2
荷物を積むときは…… 2-5
お子さまを乗せるときは…… 2-6
植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ‥ 2-12
運転席にすわって…… 2-13
エンジンをかけるときは…… 2-15
走行するときは…… 2-16
駐車するときは…… 2-23
給油するときは…… 2-26
オートマチック車を運転するときは…… 2-28
パワースライドドア装備車の正しい使いかた…… 2-30
SRSエアバッグ車を運転するときは…… 2-31
4WD車を運転するときは …… 2-34
ターボ車を運転するときは…… 2-35
こんなことにも注意して…… 2-36
エコドライブをしましょう…… 2-39

出発の前に（お車の確認）

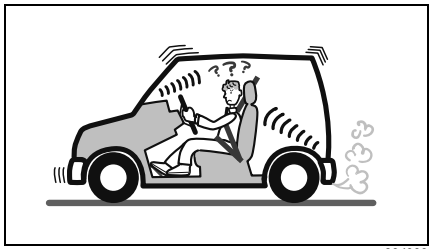
日常点検を確実に



64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



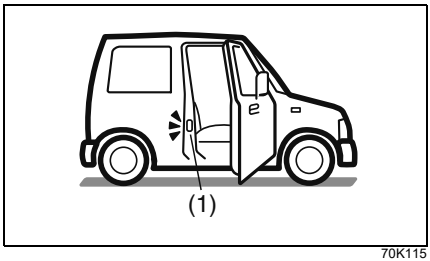
80J009

⚠注意

次のような場合はマツダ販売店で点検を受けてください。
- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認できます。
  → **メンテナンスノート（日常点検）**

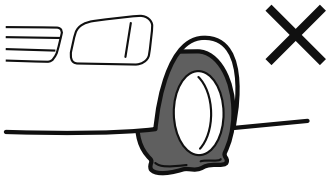


70K115

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。
- 偏平タイヤ（165/55R15 75V）は、見た目では空気圧の不足がわかりにくいので注意が必要です。

⚠警告

- **空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。**



72J20040

●指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。
- **走行安定性が悪化する**
- **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **DSC&TCS**
  - **ステレオカメラ**
  - **デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）**
  - **誤発進抑制機能**
  - **後退時ブレーキサポート**
  - **後方誤発進抑制機能**

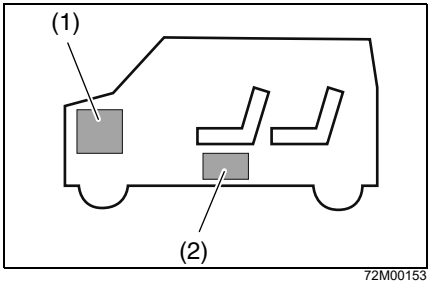
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**

バッテリーについて

この車は、次のバッテリーを搭載しています。

● **鉛バッテリー**
車の電源供給に使用されています。

● **リチウムイオンバッテリー**
車の電装品に電気を供給するために使用されています。
→ **4-133ページ**
（マイルドハイブリッド）



72M00153

(1) 鉛バッテリー
(2) リチウムイオンバッテリー

各バッテリーについて、次の「**鉛バッテリー**」および「**リチウムイオンバッテリー**」をお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

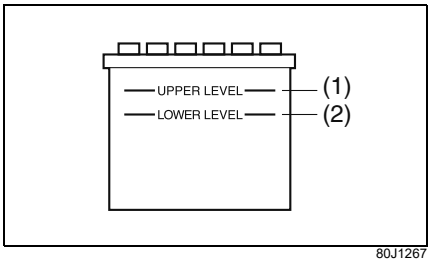
● 鉛バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーは少しずつ放電します。バッテリーあがりを防ぐためには、1 か月に一度は連続して 30 分以上走行して充電する必要があります。

■ 鉛バッテリー

鉛バッテリーの液面を点検する

液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補充してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→ **メンテナンスノート（日常点検）**



80J1267

⚠ 警告

●バッテリー液が不足すると、発熱して爆発のおそれがあります。
●バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。

注 記

この車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないとアイドリングストップシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。
●バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）
→ 8-2ページ（サービスデータ）

●バッテリー端子から電気製品の電源をとらない

■ リチウムイオンバッテリー

マイルドハイブリッド用のバッテリーで助手席下（シートアンダーボックス下）にあります。

→ **5-18ページ（シートアンダーボックス）**

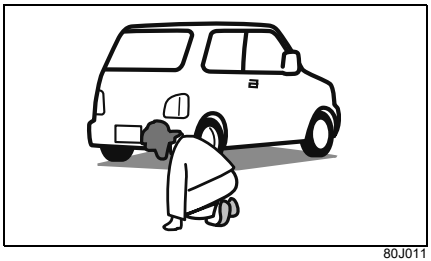
- リチウムイオンバッテリーは点検不要です。ただし、バッテリーあがりを防ぐためには、1 か月に一度は連続して30 分以上走行して充電する必要があります。
- リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

●リチウムイオンバッテリーの取扱いを誤ると、火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
• 取り外したり分解したりしない
• 水などで濡らさない
• 強い衝撃をあたえない
• 上に乗ったり、荷物を載せたりしない
• バッテリー端子を外したり、端子から電気製品の電源をとったりしない

●リチウムイオンバッテリーの下にものが落ちて取れなくなった場合は、マツダ販売店にご連絡ください。

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠警告

●燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。



80J021

●インパネの上にものを置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

●セレクトレバーにものをかけたり、セレクトレバーをハンドレスト代わりに使用したりしないでください。セレクトレバーが正常に作動しなくなり故障の原因や思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

●車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



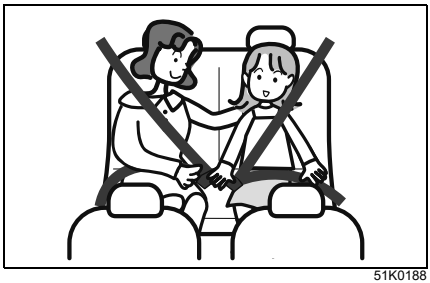
80J022

●動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

→ **2-8ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-71ページ（お子さま用シートの選択について）**

⚠ 警告

- 後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフをご使用ください。
  → 3-9ページ
  （チャイルドプルーフ）

- お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。
  - 助手席を一番後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - SRSサイド/カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。



80J062

- お子さまがアームレストやシート下のレール部分など車内の可動部に手や足などを近付けないように注意してください。はさまれてけがをするおそれがあります。

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

- お子さまをしっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  ひざの上にお子さまを抱かないでください。



69RHS159

- シートベルトを装着しないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用すると、急ブレーキ時や衝突時などにシートベルトが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。
  一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。

⚠ 警告

●この車のシートベルトは成人サイズの乗員に適するように設計されています。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。



69RHS160

●ベビーシートを使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない

⚠ 警告

お子さまがベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいると、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



69RHS161

お子さま用シートの使用について

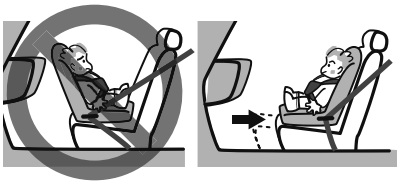
- ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- 安全のため、チャイルドシートおよびジュニアシートも後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

→ **3-71 ページ（お子さま用シートの選択について）**

- 助手席サンバイザーの両面には、助手席 SRS エアバッグ装備車にお子さま用シートを取り付ける場合の禁止事項などを示した警告ラベルが貼られています。お子さま用シートをご使用の前に、**2-33ページ**の「**助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル**」を必ずお読みください。
- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
    → **3-77ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
  - ISOFIXタイプのお子さま用シート
    → **3-79ページ(ISOFIX対応お子さま用シートの固定)**
  - テザーベルト付のお子さま用シート
    → **3-82ページ（お子さま用シートのテザーアンカーによる固定）**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートには、マツダ純正品をおすすめします。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

●前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。
やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



59RN02250

●お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしていると、SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。
●お子さま用シートが正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
●シートの背もたれを倒すと、お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。

⚠警告

●事故などで強い衝撃を受けたお子さま用シートを使用すると、万一のときに性能を十分発揮できず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
事故などによりお子さま用シートが強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。

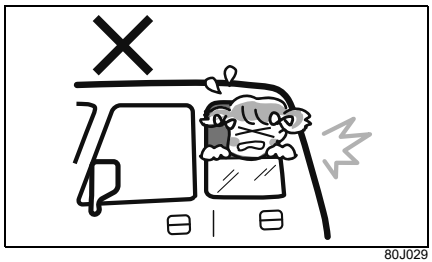
⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。

→ 2-30ページ（パワースライドドア装備車の正しい使いかた）
→ 3-20ページ（スライドドアクローザー）



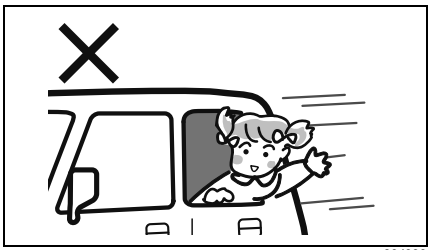
80J029

⚠警告

●ウインドーの開閉操作をするとき、誤って手足や首などが挟み込まれるおそれがあります。
- 運転者はご自身だけでなく他の乗員にもウインドー開閉操作に注意を払わせてください。
- お子さまにはウインドースイッチを操作させないでください。
- お子さまを乗せているときは常にウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。
→ 3-33ページ（ウインドーロックスイッチ）
- 車から離れるときは必ずエンジンスイッチを LOCK （OFF）にし、キーを携帯してお子様と一緒に離れてください。
- 運転席で他席のウインドーを開閉するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。

●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

窓から顔や手を出さない



80J030

⚠警告

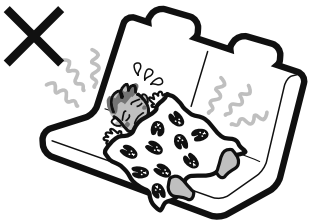
お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

⚠警告

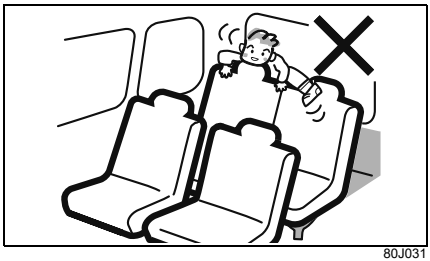
車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱中症にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



80J031

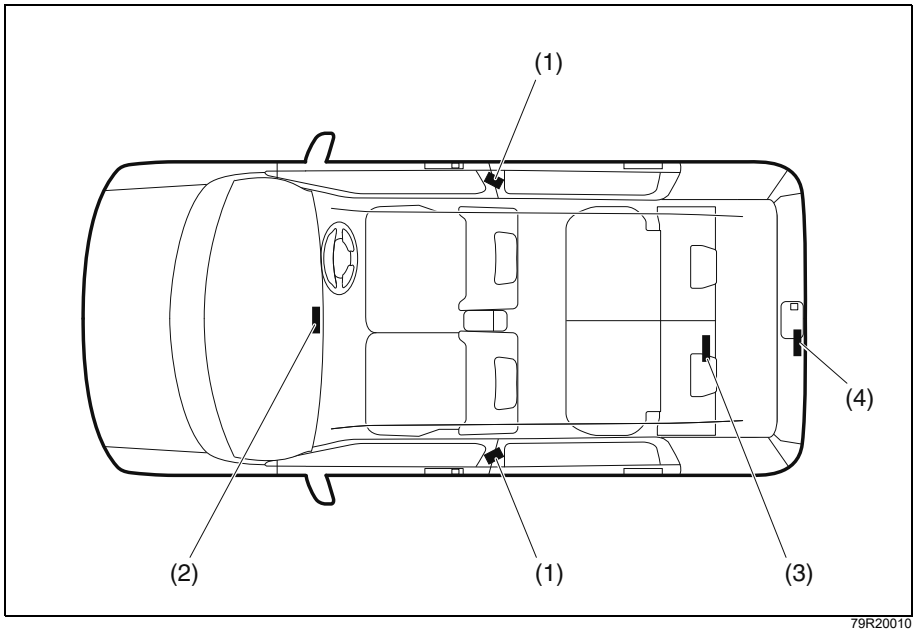
⚠警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。
道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

⚠警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムの各発信機（下図参照）から約22 cm以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。**
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムの電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**
- **詳しくは、マツダ販売店にお問い合わせください。**

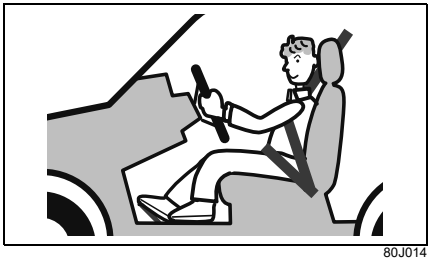


79R20010

(1) 前席ドア車外発信機
(2) 車室内発信機
(3) 荷室発信機
(4) バックドア車外発信機

運転席にすわって

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



80J014

⚠警告

●走行中にハンドルの調節（タイプ別装備）やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 3-42ページ（チルトステアリング）
→ 3-42ページ（前席シート）
→ 3-36ページ（ルームミラー）
→ 3-36ページ（ドアミラー）

●背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。



74P0210

⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

シートベルトは正しく着用



70K216

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

→ **2-13ページ（正しい運転姿勢）**

⚠警告

●走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

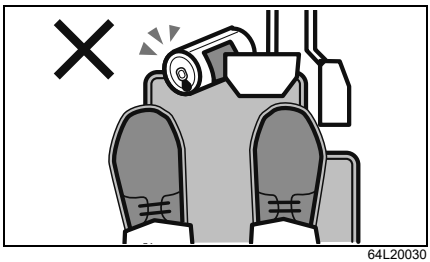
●背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

●助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。



50T20020

運転席の足元付近にものを置かない

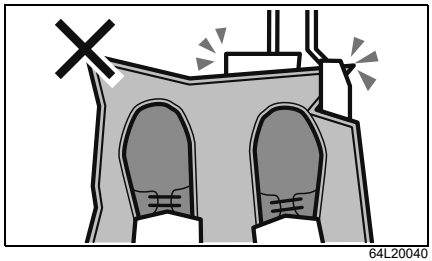


64L20030

⚠警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車にあったフロアマットを適切に使用する



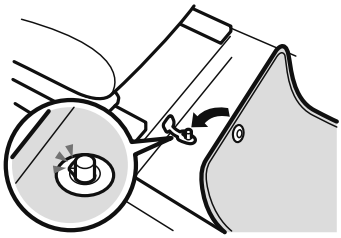
64L20040

⚠警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **足元の形にあわないフロアマットを使わない**
- **フロアマットを重ねて敷かない**
- **フロアマットは固定具などで確実に固定する**

マツダ純正フロアマットの例



64L20190

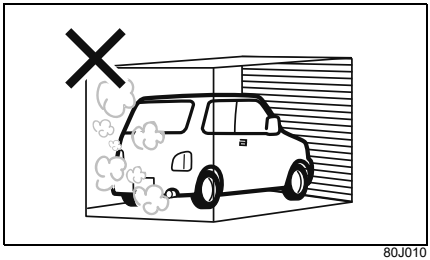
※ 運転席および助手席側のフロア（カーペット下）には、マツダ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。

アドバイス

この車専用のマツダ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

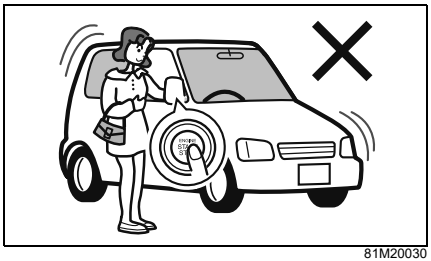


80J010

⚠警告

- **車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。**
- **車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。**

窓越しのエンジンスイッチ操作はしない



81M20030

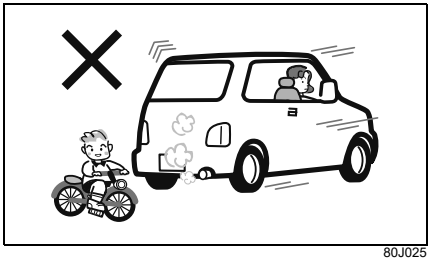
運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

⚠警告

窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
→ 4-8ページ（エンジンのかけかた）

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

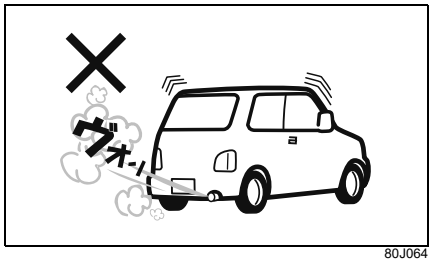


80J025

⚠注意

- **周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。**
- **全方位モニター（全方位モニター用カメラ装備車）、リヤパーキングセンサー、後方視界支援ミラー（タイプ別装備）、バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車から降りて自分の目で後方を確認してください。**

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



80J064

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。

→ 2-39ページ
（エコドライブをしましょう）

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

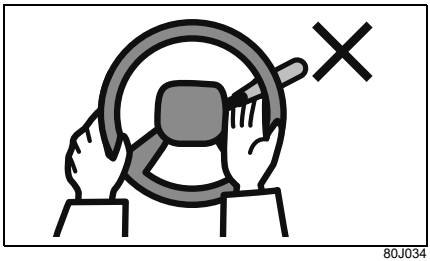


80J071

⚠ 警告

- **運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **運転者は、走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠ 警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

⚠注意

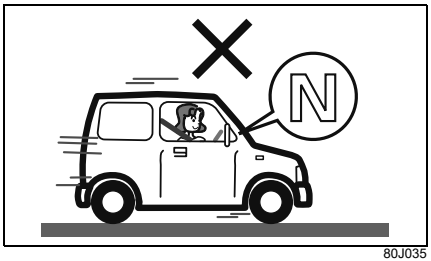
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

アクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたとき

アドバイス

走行中にアクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたときに、ブレーキ効果を優先させるため、ブレーキオーバーライドシステムによりエンジン出力が抑制される場合があります。

走行中はニュートラルにしない



80J035

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N（ニュートラル）に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度にあわせて、次のようにシフトダウンします。

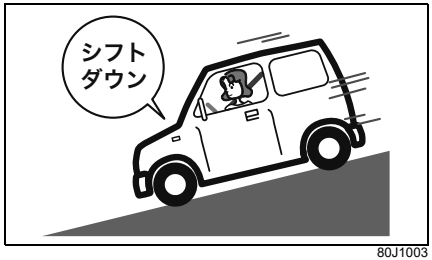
マニュアルモードなし車

SモードスイッチをONにするか、セレクトレバーを L にします。

マニュアルモード付車

パドルシフトスイッチ（ー側）を操作して、適切なギヤポジションにします。

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

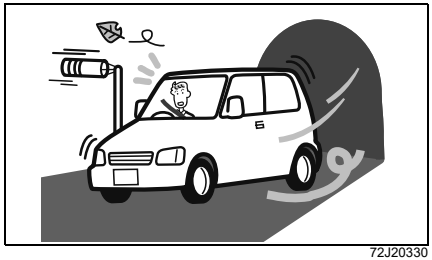


80J1003

⚠警告

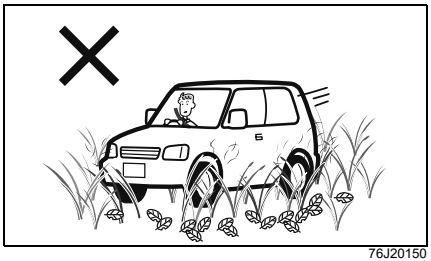
ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

横風が強いときは


72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

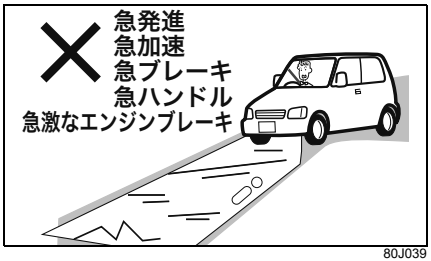
草の生い茂った場所は走行しない


76J20150

⚠警告

草などが駆動系部品や排気管にからまると、駆動装置が損傷したり、火災につながったりするおそれがあります。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

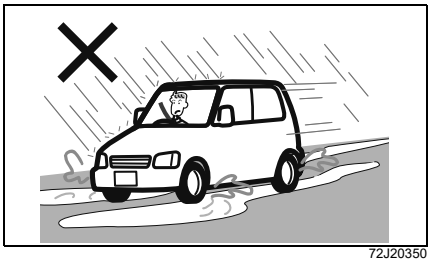


80J039

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

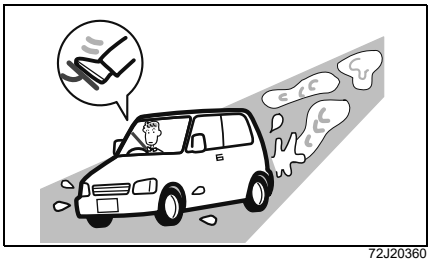


72J20350

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



72J20360

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない

注 記

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- **エンストする。**
- **電装品がショートする。**
- **エンジンやトランスミッションの損傷等**

やむをえず冠水した道路を走行するときは、水深に応じて対応してください。

- 水深が床面より下のとき、低速で慎重に走行してください。水深がより深い箇所には侵入しないでください。

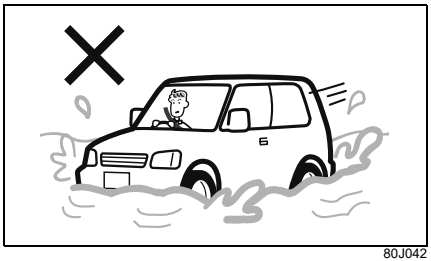
● 水深が床面より上のとき、すみやかに安全な場所に停車し、車外に出てください。

冠水状態から急激に増水したときは水没したときの対応をしてください。

→ **7-8ページ（水没したときは）**

アドバイス

水深が床面より下のときでも速度が速くなると車が停止するおそれがあります。



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑状態

注記

- **冠水した場所を走行すると、水中の異物がドライブベルトなどに巻き込まれエンジンに悪影響を及ぼす場合があります。**
- **水深が床面より上で冠水しているとき、エンジンの始動操作を行わないでください。エンジンの始動操作をするとスターターが故障する場合があります。**
- **冠水した場所を走行すると、クラッチなどに悪影響を及ぼし走行できなくなる場合があります。**
- **冠水した場所を走行しているときアイドリングストップシステムでエンジンが停止するとエンジンが損傷する場合があります。アイドリングストップシステムを停止させて走行してください。**

→ 4-137 ページ（アイドリングストップシステム）

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。

- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- DSC&TCS 装備車では、TCS（トラクションコントロールシステム）が脱出に適さないときがあります。そのようなときは、DSC&TCS OFF スイッチを操作して TCS（トラクションコントロールシステム）を作動停止の状態にしてください。

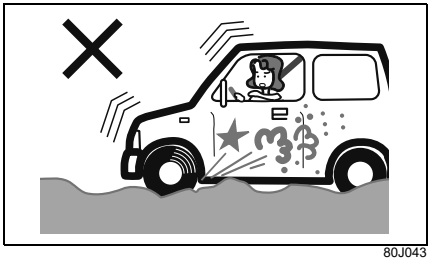
→ **4-28ページ（DSC&TCS装備車の取扱い）**

⚠警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注 記

タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
  → **1-16ページ（警告灯）**

- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、マツダ販売店にご連絡ください。

- **タイヤが突然パンクしたら？**
  ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  → **7-9ページ（パンク）**

- **ブレーキペダルが重く感じられたら？**
  車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

● ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？

すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（マツダ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠ 警告

金属音が発生したまま走行を続けないでください。ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

● ブレーキ操作の感じがいつもと違ったら？

次の様な状況を感じたら、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

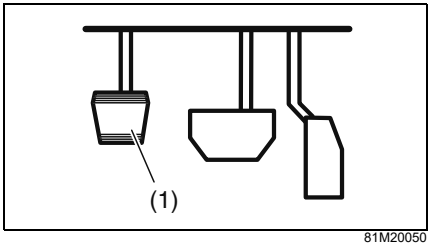
- ブレーキの効きが悪い
- ブレーキの効きに左右差がある
- ブレーキペダルの踏込量が大きい
- ブレーキのひきずり感がある

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

■ 平らな場所に駐車するときは

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。



81M20050

(1) パーキングブレーキペダル

2 セレクトレバーを P に入れます。

- ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。

→ **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

⚠ 注意

●平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、セレクトレバーを P に入れてください。

●寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。

→ **6-19ページ（パーキングブレーキ）**

■ 坂道に駐車するときは

1、2は、平らな場所に駐車するときと同じ操作です。

3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠警告

急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン作動中、冷却ファン（ラジエーターファン）が突然、回転することがあります

エンジンルーム内の冷却ファン（ラジエーターファン）は、エンジン冷却水の温度条件により、自動で停止したり回転したりします。

⚠警告

エンジン作動中は、冷却ファン（ラジエーターファン）が停止していても、自動で回転しはじめることがあるため、冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

エンジン停止後に冷却ファン（ラジエーターファン）が回転することがあります

エンジン冷却水温が高い場合、エンジンを停止させたあとでもエンジンルーム内の冷却ファン（ラジエーターファン）が回転し続けますが、異常ではありません。冷却水の温度が下がると、自動的に冷却ファン（ラジエーターファン）が停止します。

⚠警告

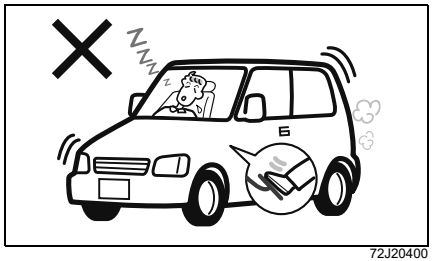
回転中の冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない



72J20400

⚠警告

- **周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。**

燃えやすいものの近くに駐車しない

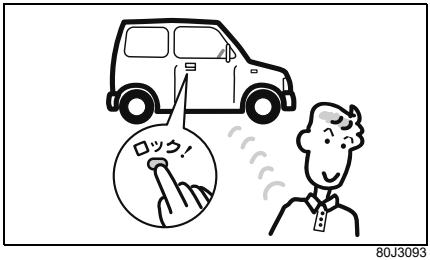


80J046

⚠警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



80J3093

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

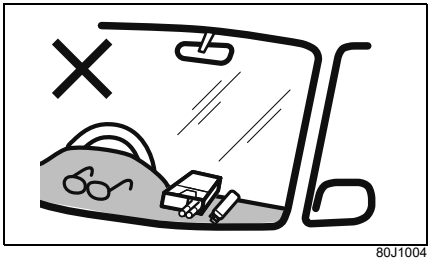
⚠警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

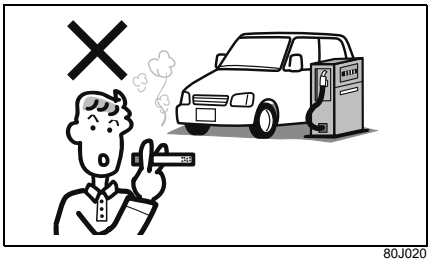
⚠ 警告

- 炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。
- 操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。

給油するときは

→ 5-2ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠ 警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
●給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

●フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
●給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
●給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
●給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。



80J1005

※ 給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示にしたがってください。

●燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
●給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをカチッという音が2回以上するまで閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
●燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
●そのほか、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、そのほかの燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-14ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT 車」を示しています。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

●セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
●エンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

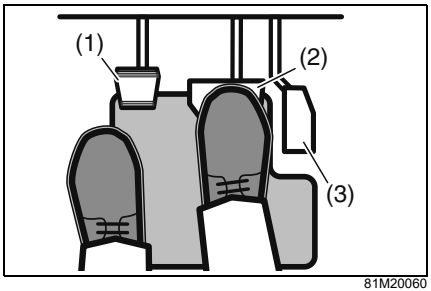
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



81M20060

(1) パーキングブレーキペダル
(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

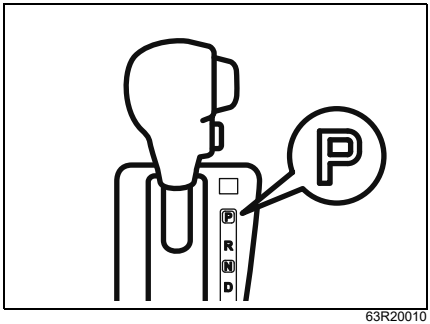
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



63R20010

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

パワースライドドア装備車の正しい使いかた

3-21ページの「**パワースライドドア**」もあわせてお読みいただき、パワースライドドア装備車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

パワースライドドアとは

パワースライドドアは、ドアハンドル、ワンアクションスイッチ、運転席にあるスイッチ、または携帯リモコンの操作により、自動開閉が可能です。

- 自動開閉中は、周囲に注意をうながすため、警告ブザーが“ピッピッピッ”と断続的に鳴り続けます。
- パワースライドドアには、スライドドアクローザー機能があります。
  → **3-20ページ（スライドドアクローザー）**

- パワースライドドアには、自動開閉するときの安全装置として、はさみ込み防止機構があります。
  → **3-28ページ（はさみ込み防止機構）**

パワースライドドアを開閉するときは

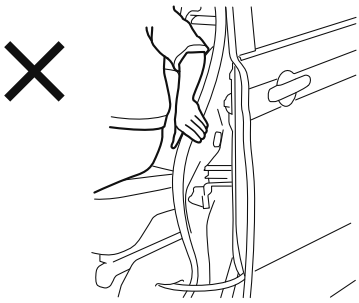
⚠警告

●パワースライドドアを開けるときは、後席窓から手や頭などの身体を出さないでください。身体をはさまれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。



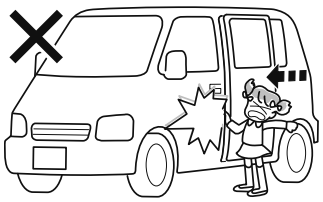
82K20020

●パワースライドドアの開閉は、車外および車内のスライドドア周囲の安全を十分に確認してから行なってください。ドアに手足や頭などの身体をはさまれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。



79R30040

●パワースライドドアの開閉はお子さまではなく大人が行ない、お子さまの身体をはさまないように気をつけてください。



82K002

●パワースライドドアは、走行中に自動開閉できないようになっていますが、次の条件をみたすと自動開閉する場合があります。完全に停車したことを確認してから操作してください。車が動いているときの開閉は、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車速が約3 km/h以下
- パーキングブレーキがかかっているか、ブレーキペダルを踏んでいる

⚠注意

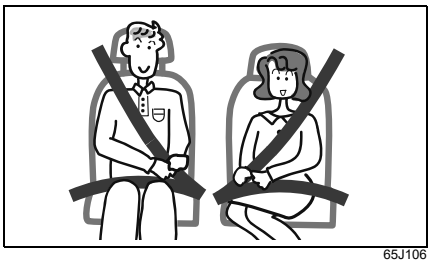
後輪のタイヤ交換などをするときは、安全のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、ドアを全閉状態にしてください。誤って作動してしまった場合、手などの身体をはさまれ、けがのおそれがあります。

→ 3-23 ページ(パワースライドドアメインスイッチ)

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-59 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



65J106

⚠警告

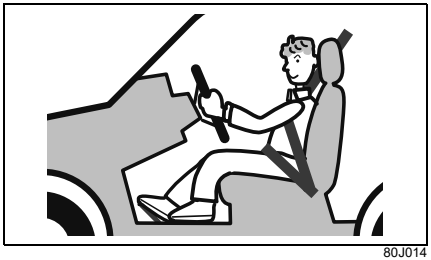
●SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。
シートベルトを装着していないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。
SRS エアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

●シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できず、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。
シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

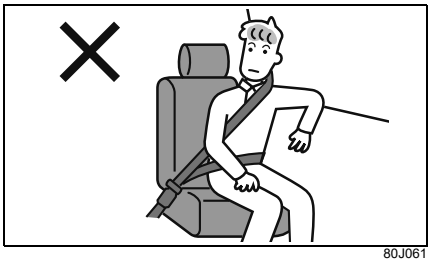
→ **2-13ページ（正しい運転姿勢）**



80J014

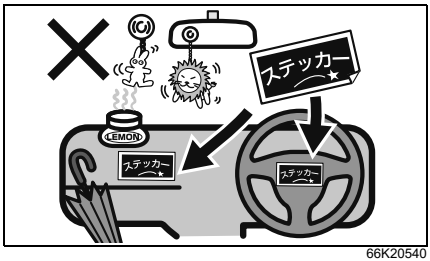
⚠ 警告

- **ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。**



80J061

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

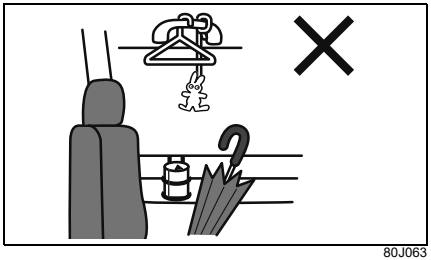


66K20540

⚠ 警告

- **ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。**
- **エアバッグ収納部およびその周辺には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。**
- **フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（マツダ純正用品を除く）などを取り付けないでください。**
- **SRS サイドエアバッグ装備車の場合、前席にシートカバーを取り付けるときは、専用のマツダ純正シートカバーを使用してください。純正の専用品以外のものを使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。**

●SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、ものが飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことをお守りください。
- **ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けない**
- **傘などを立てかけない**



80J063

助手席SRSエアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくお読みになり、適切に取り付けてください。



72M00150

⚠警告

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負ったりする可能性があります。

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席SRSエアバッグ装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席SRSエアバッグがふくらむと、後ろ向きお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱説明書（本書）を読むことを指示 → **2-8 ページ(お子さま用シートの使用について)** → **3-71 ページ(お子さま用シートの選択について)**

4WD車を運転するときは

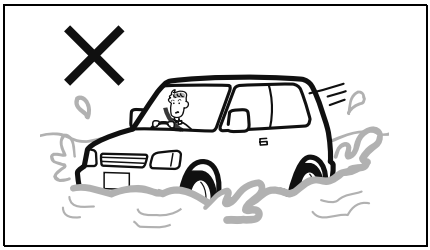
4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や水中走行をしないでください。**



80J042

ターボ車を運転するときは

ターボ車には特有の注意があります。次の内容をよく読み、正しい取扱いをしてください。

ターボ車の取扱い

ターボとは、通常のエンジンより大きな馬力を引き出す精密装置です。ターボ装置内のタービン（羽根）が、排気ガスの圧力で超高速回転することで、エンジンに多量の圧縮空気を送り込みます。タービンを含むターボ装置は700 ℃以上の高温になり、その潤滑と冷却はエンジンオイルによって行なわれています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは定期的に交換してください。
  劣化したオイルのまま運転を続けると、ターボ装置の潤滑と冷却が適切に行なわれず、タービン軸受部の固着や異音の原因となります。
  → **2-38ページ（エンジンオイルを交換するときは）**

- 高速走行直後や登坂走行直後は、すぐにエンジンを停止しないでください。
  次の表にしたがってアイドリング運転を行ない、高温になったターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。

エンジン停止直前の走行状況	アイドリング運転時間の目安
高速走行、登坂走行	約1分（※）
市街地、郊外などの一般走行	不要

※アイドリングストップシステムによりエンジンが自動停止するときはターボ装置が所定温度内にあるため、アイドリング運転は不要です。

- エンジンが冷えているときに、空ぶかしや急加速をしないでください。

注 記

前記にしたがって適切に取り扱わないと、ターボ装置の故障や破損の原因となります。

こんなことにも注意して

車検を受けるときの注意

DSC&TCS 装備車をテスターに載せる場合は、DSC&TCS OFF スイッチを操作して、次の機能を作動停止（OFF）の状態にしてください。

→ **4-30ページ**
（DSC&TCS OFFスイッチ）

- TCS（トラクションコントロールシステム）および DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）
- 衝突被害軽減ブレーキ他

→ **4-36ページ**
（衝突被害軽減ブレーキ他）

詳細については、マツダ販売店にご相談ください。

アドバイス

デュアルカメラブレーキサポート OFF スイッチを操作しても、DSC&TCS は作動停止の状態になりません。

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

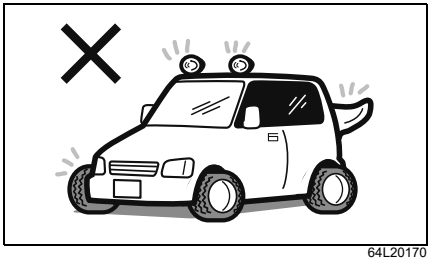
段差などに注意して

注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- **路肩など段差がある場所への乗り入れ**
- **わだちやくぼみなどがある道路の走行**

不正改造はしない



64L20170

⚠警告

- **この車に適さない部品を取り付ける、または自己流の調整や配線をするなどの改造をしないでください。火災や事故につながるおそれがあります。また、取扱い、性能、耐久性に悪影響をあたえたり、法令に違反したりするおそれがあります。**
- **ホイール、ホイールナットは指定のマツダ純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。**

注 記

- LED ヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）
  - 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着
- この車に無線機を搭載する前には、周波数、最大出力、車へのアンテナ位置、搭載や使用のための具体的な条件について、マツダ販売店にご相談することをおすすめします。
- お車の故障診断コネクターには、指定の点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。指定以外の機器を接続すると、電子部品のはたらきをさまたげたり、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。

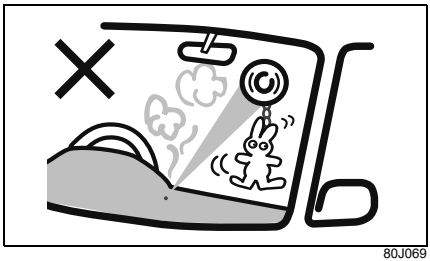
部品の取り付け、取り外し、修理をするときは

⚠警告

SRS エアバッグ、 シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。
次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にマツダ販売店にご相談ください。

- ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
- センターコンソールの修理、インパネまわり、前席下の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取り付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席の交換およびシートまわりの修理
- フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取り付けに気をつけて



80J069

⚠警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーが飛んでけがのおそれがあります。

飲み物などをこぼしたときは

⚠警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

- **SRSエアバッグシステム**
- **ナビゲーションまたはオーディオ**
- **スイッチ、配線などの電気部品**
- **セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分**

注 記

助手席のシートクッションには、シートベルト警告ブザーのセンサーが内蔵されています。シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。助手席のシートベルト警告ブザーのセンサーが損傷するおそれがあります。

エンジンオイルを交換するときは

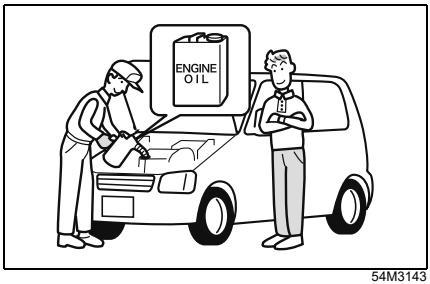
■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは **10,000 km**（ターボ車は **5,000 km**）ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは **10,000 km** ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。

→ **メンテナンスノート**

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、マツダ販売店へお申し付けください。



54M3143

■ エンジンオイルの規格／粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表 1、表 2 をそれぞれみたすオイルを使用してください。オイルは、マツダ純正オイルのご使用をおすすめします。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**

表1

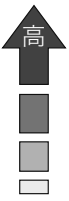
規格		オイル性能
API(※1)/ ILSAC(※2)	SP/GF-6相当	
	SN/GF-5相当	
	SM/GF-4相当	
	SL/GF-3相当	

表2

規格	ターボなし車	ターボ車
SAE粘度 (※3)	0W-16	5W-30
	0W-20	

※1 API 規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 ILSAC 規格とは、International Lubricant Specification Advisory Committeeが定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API 規格をベースに省燃費・耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。

※3 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字(Wの付く数字)は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

アドバイス

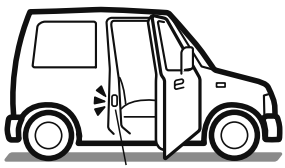
0W-16は燃費性能に優れたオイルです。（ターボなし車）

エコドライブをしましょう

→ **3-84ページ（ステータスインフォメーションランプ）**
→ **3-113ページ、3-128ページ（エコ運転表示機能）**

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」(1) で確認のうえ、調整してください。



70K115

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

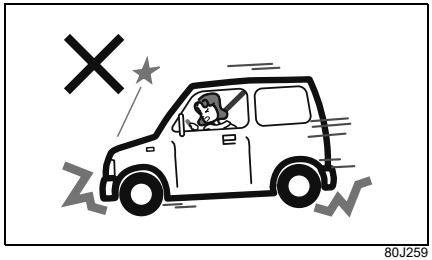
注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

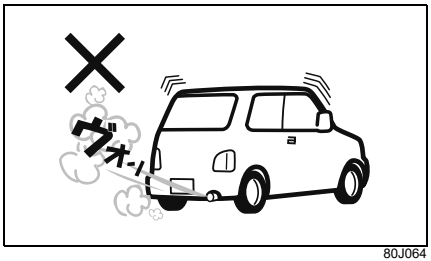
状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5 分間で 160 mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



80J259

空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

MEMO

3. 運転する前に

● **ドアの開閉**
キー ····· 3-2
ドア ····· 3-3
キーレスエントリー ····· 3-10
携帯リモコン ····· 3-12
オートドアロック ····· 3-19
スライドドアクローザー ····· 3-20
パワースライドドア ····· 3-21

● **警報装置**
セキュリティアラーム（警報装置） ····· 3-29

● **ウインドーの開閉**
パワーウインドー ····· 3-31

● **各部の調節**
ルームミラー ····· 3-36
ドアミラー ····· 3-36
サイドアンダービューミラー ····· 3-40
後方視界支援ミラー ····· 3-41
チルトステアリング ····· 3-42

● **シートの調節**
前席シート ····· 3-42
後席シート ····· 3-45
シートの便利な使いかた ····· 3-48

● **シートベルト**
シートベルトについて ····· 3-52
シートベルトの着用のしかた ····· 3-54
シートベルトの取扱いとお手入れ ····· 3-56
シートベルトプリテンショナー（前席のみ） ··· 3-57
シートベルト可変フォースリミッター
（前席のみ） ····· 3-58

● **SRSエアバッグ**
SRSエアバッグ車を運転するときは ····· 3-59
SRSエアバッグシステムの取扱い ····· 3-63
SRSエアバッグシステムの作動 ····· 3-65
SRSエアバッグ警告灯 ····· 3-70
廃棄と廃車 ····· 3-70

● **お子さま用シート**
お子さま用シートの選択について ····· 3-71
お子さま用シートのシートベルトによる固定 ··· 3-77
ISOFIX対応お子さま用シートの固定 ····· 3-79

● **メーター**
メーターの見かた ····· 3-83
警告灯・表示灯の見かた ····· 3-86
マルチインフォメーションディスプレイ
（タコメーターなし車） ····· 3-105
マルチインフォメーションディスプレイ
（タコメーター装備車） ····· 3-119

● **スイッチの使いかた**
ライトスイッチ ····· 3-134
フォグランプスイッチ ····· 3-137
光軸調整ダイヤル ····· 3-138
方向指示器スイッチ ····· 3-139
非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-139
ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-140
ホーンスイッチ ····· 3-142
パワーモードスイッチ ····· 3-143

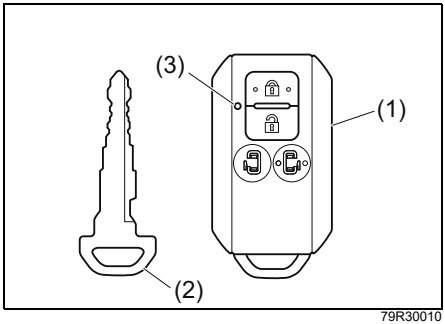
キー

キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

⚠警告

携帯リモコンを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。
※携帯リモコンは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

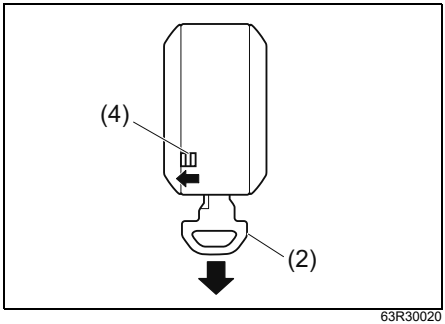
- お車には携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なエマージェンシーキー（2）が2本ついています。
  → **3-12ページ（携帯リモコン）**
- エマージェンシーキーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動・停止には使えません。エンジンの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。
  → **4-8ページ（エンジンのかけかた）**



79R30010

(3) 作動表示灯

- 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ◀ 方向に引きながら取り出します。



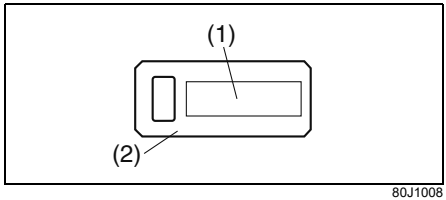
63R30020

アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。
- キーのご購入については、マツダ販売店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（2）には、キー作成時に必要なキーナンバー（1）が打刻されています。



80J1008

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

ドア

フューエルリッドが開いていると、干渉防止のため、助手席側スライドドアは少ししか開きません。

→ **5-2ページ（燃料給油口）**

⚠警告

- **ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。**

⚠注意

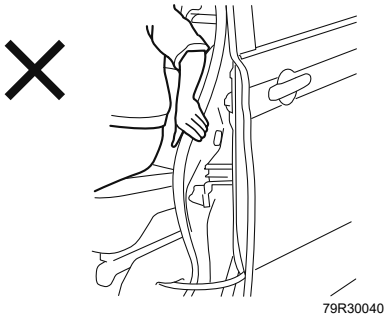
- **ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。**
- **ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。**
- **スライドドアを開けるときは、後席窓から手や頭などの身体を出さないでください。身体をはさまれ、けがのおそれがあります。**



82K20020

⚠注意

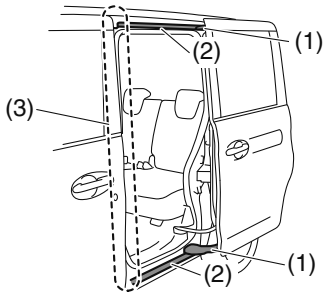
●スライドドアの開閉は、車外および車内のスライドドア周囲の安全を十分に確認してから行なってください。ドアに手足や頭などの身体をはさまれ、けがのおそれがあります。



79R30040

●傾斜地では、スライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアが不意に閉まるおそれがあります。
●バックドアやスライドドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
●エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。

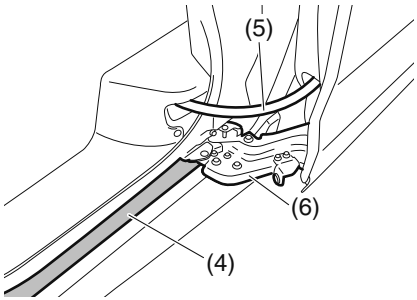
●スライドドア開口部のアーム（1）、レール（2）、およびピラー（3）には、手足をかけないでください。けがのおそれがあります。また、故障の原因となります。



79R31100

注 記

スライドドアが開いているときは次のことに気をつけてください。故障の原因となります。
●ローラー滑走面（4）に石などの異物を入れない
●配線（5）やアーム（6）を足で踏むなどして不要な力をかけない



79R30120

アドバイス

セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。

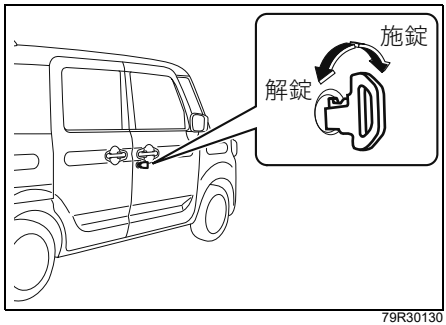
→ **3-29ページ（セキュリティアラーム）**

キー操作による車外からの施錠・解錠

→ **3-10ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-12ページ（携帯リモコン）**

■ 運転席ドア

キーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。



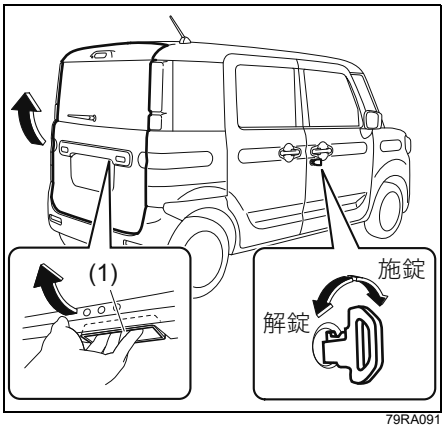
79R30130

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで、車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドル（1）を手前に引きながらドアを持ち上げます。

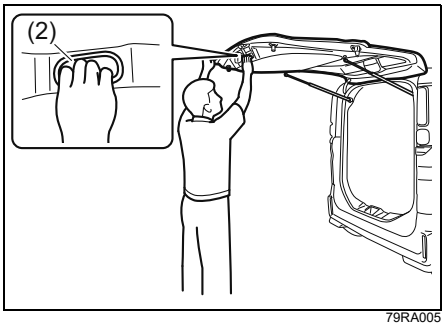


79RA091

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

バックドアを閉めるときは

バックドアを閉めるときはドア下面右側の手かけ部（2）を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押し付けます。



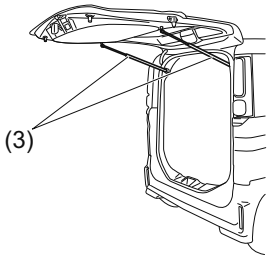
79RA005

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

バックドアをささえているダンパーステー（3）の損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドアを開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、ものをかけたりしないでください。**



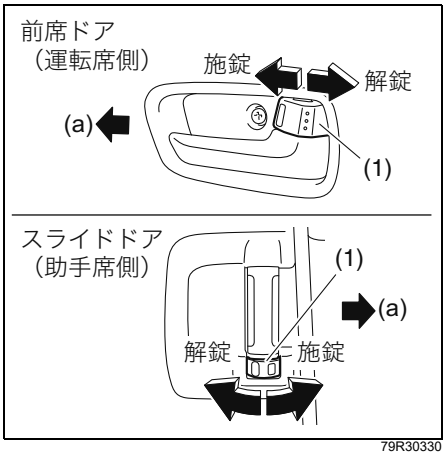
79RA006

- **上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。**

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、スライドドア

ドアを閉めてロックレバー（1）を次の図の矢印方向にすることで、施錠（車の前方向）・解錠（車の後ろ方向）できます。



79R30330

(a) 車両前方

アドバイス

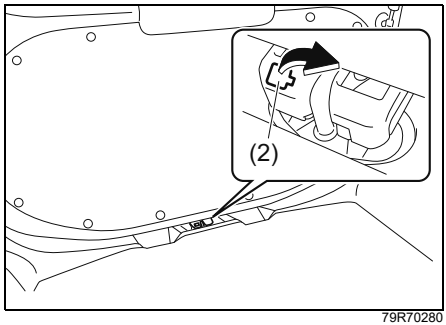
解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

■ バックドア

故障や鉛バッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
緊急を要するときは、次の手順で解錠してください。

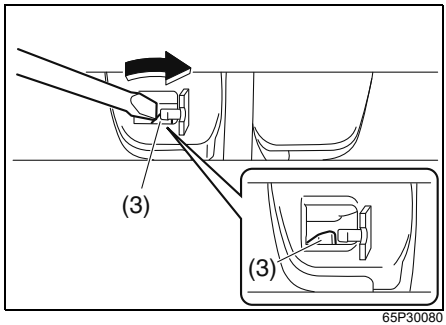
1 後席の背もたれを倒すなどして、作業スペースを確保します。
→ **3-46ページ（背もたれの角度調節）**

2 バックドアのロック機構部にあるカバー（2）を開きます。



79R70280

3 トリム内側にあるレバー（3）を引き上げると、解錠します。
施錠するときは、レバーを押し下げます。



65P30080

⚠注意

レバー操作をするときは、バックドアの穴周囲のエッジ部分をさわらないでください。けがのおそれがあります。

キーを使わない施錠

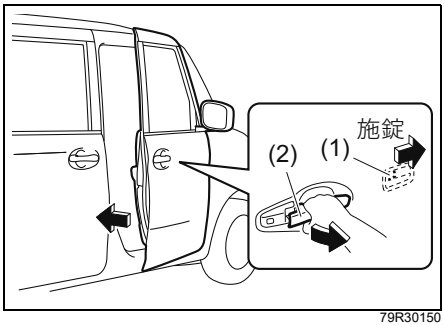
アドバイス

- **「キーを使わない施錠」**をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。
- 次のような状況では、**「キーを使わない施錠」**ができない場合があります。
  - 携帯リモコンが車内にある
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき

→ **3-17 ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**

■ 前席ドア

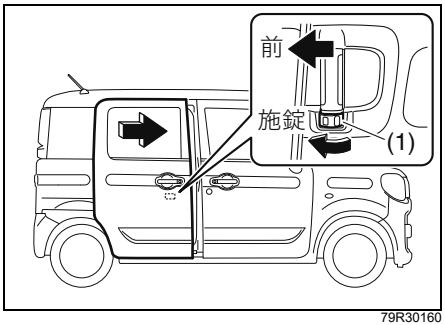
ロックレバー（1）を次の図の矢印方向にして、ドアハンドル（2）を引いたままドアを閉めると施錠できます。



79R30150

■ スライドドア

ロックレバー（1）を次の図の矢印方向にして、ドアを閉めると施錠できます。



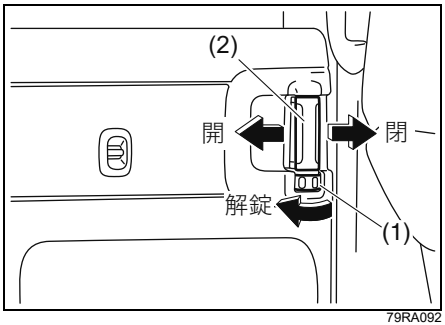
79R30160

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

車内からの開閉

■ スライドドア（手動開閉時）

- 車内から開閉するときは、次の図のようにロックレバー（1）を解錠側にして、ドアハンドル（2）を矢印方向に操作し、ドアをスライドさせます。
  → **3-21ページ（パワースライドドア）**



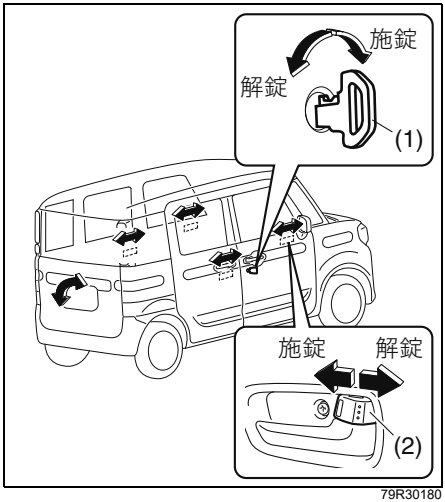
79RA092

- フューエルリッドが開いていると、干渉防止のため、助手席側スライドドアは少ししか開きません。
  → **5-2ページ（フューエルリッド）**

キーまたはロックレバー操作によるパワードアロック

→ **3-10ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-12ページ（携帯リモコン）**

運転席ドアをキー（1）またはロックレバー（2）操作で施錠・解錠すると、助手席／スライドドア／バックドアも同時に施錠・解錠します。



79R30180

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

いずれかのドアが開いていると、キーまたは運転席ドアのロックレバー操作で施錠できない場合があります。
→ **3-17 ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**

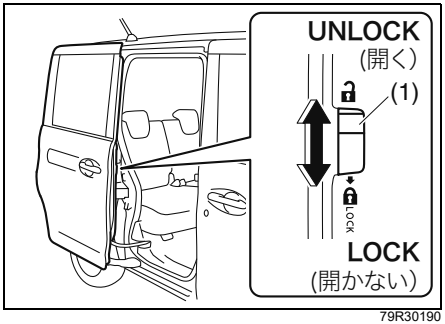
■ ドアロック解除機能

事故などでのエアバッグが展開した場合または車両後部から大きな衝撃があった場合、自動的にすべてのドアロックが解除されます。

チャイルドプルーフによる施錠・解錠

スライドドアのロックレバー位置に関係なく、車内のドアハンドルでスライドドアが開かないようにできます。お子さまなどによるドア誤開放を防止するために使用してください。

- スライドドアにあるレバー（1）を**LOCK**（開かない）の位置にして、ドアを閉めます。車内からはドアが開きません。
- スライドドアのロックレバーが解錠側にあるときは、次の操作で開けることができます。
  - 車外のドアハンドル
  - ワンアクションスイッチ（タイプ別装備）
  - 運転席にあるパワースライドドアスイッチ（タイプ別装備）
  - 携帯リモコン（タイプ別装備）



79R30190

⚠注意

●チャイルドプルーフによる施錠中でも、車内のドアハンドル以外の操作でドアを開けるときは、お子さまなどに注意してください。窓から顔や手を出していると、身体をはさまれて、思わぬけがのおそれがあります。
●スライドドアは、窓から手を出して外側のドアハンドルまたはワンアクションスイッチで開閉しないでください。腕などをはさまれ、けがのおそれがあります。

キーレスエントリー

車から約2 m以内の範囲で、携帯リモコンの操作部を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。

⚠警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

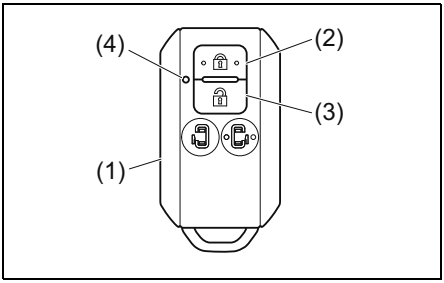
注 記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**

アドバイス

- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
  → **6-9ページ**
  （携帯リモコンの電池交換）
- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、マツダ販売店にご相談ください。



79R30020

(1) 携帯リモコン
(2) 操作部(ロックスイッチ)
(3) 操作部(アンロックスイッチ)
(4) 作動表示灯

- 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。（解錠はできます）（パワースライドドア［予約ロック機能付］（タイプ別装備）使用時を除く）
    車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき。

●1台の車両で、4個の携帯リモコンまで登録できます。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯（スイッチがDOOR位置）		約15秒間点灯	2回点滅	約15秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約 15 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
  → **5-8ページ（室内灯）**

- アドバンストキーレスエントリー＆キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車の場合、車外ブザーも鳴ります。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴		

- お車のタイプにより、解錠したとき次のものが約15秒間点灯します。
  - 車幅灯
  - 尾灯
  - LEDイルミネーション
  - インパネのスイッチ照明

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、マツダ販売店にご相談ください。
- フォグランプ装備車は、フォグランプスイッチがONの位置にあると、同時にフォグランプも点灯します。
- リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。また、次の合図が別々にカスタマイズできます。
  - 非常点滅表示灯／室内灯による合図
  - 車外ブザーによる合図

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、アンサーバック機能の車外ブザーによる合図を停止することができます。
  → **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動して約 20 秒経過すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）
  → **3-29ページ（セキュリティアラーム）**

アドバイス

リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

携帯リモコン

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。
また、そのほかに次の機能があります。

- キーレスエントリー
  → **3-10ページ（キーレスエントリー）**
- エンジンスイッチによる始動および電源の切替え
  → **4-5 ページ（アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム）**
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**
- ワンアクションスイッチ（タイプ別装備）
  → **3-25 ページ（ワンアクションスイッチによる自動開閉）**

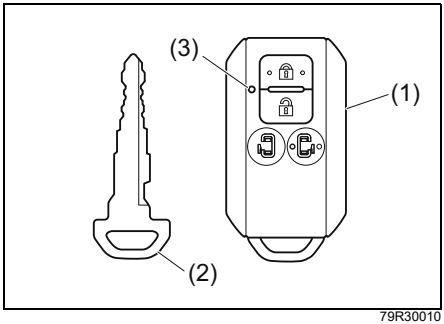
注 記

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話やほかのリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチ、ワンアクションスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
  - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

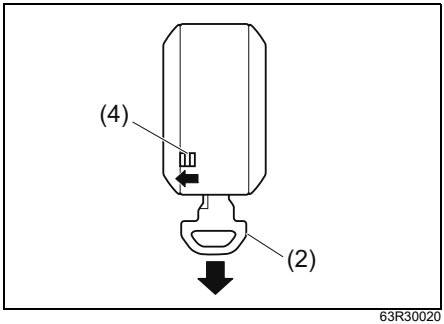
携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（2）が2本ついています。



79R30010

(3) 作動表示灯

- 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ◀ 方向に引きながら取り出します。



63R30020

⚠注意

携帯リモコンは電波法の認証に適合しています。次のことをお守りください。

- **日本国内でのみご使用ください。**
- **携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。**
- **適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。**

注 記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

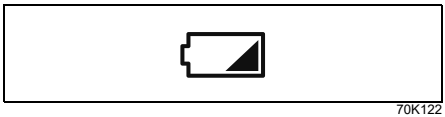
アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。

→ **6-9ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、マツダ販売店にご相談ください。

■ 携帯リモコン電池消耗警告灯



70K122

マルチインフォメーションディスプレイ内にあります。

- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに約15秒間表示されます。電池交換のうえ、警告灯をリセットしてください。
  → **1-16ページ（警告灯）**
  → **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**

アドバイス

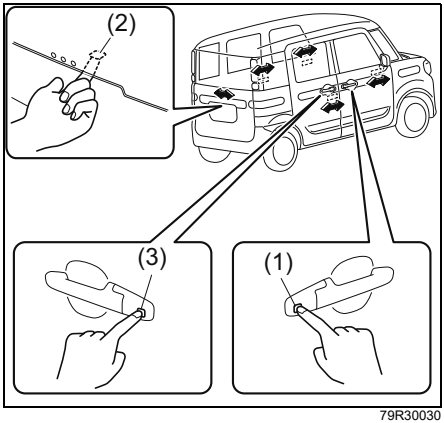
設定の切替え（カスタマイズ）をすると、表示させなくすることもできます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「**リクエストスイッチの作動範囲**」（**3-16 ページ**参照）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。また、パワースライドドア装備車はワンアクションスイッチを押すことで、すべてのドアを解錠することができます。

→ **3-25ページ（ワンアクションスイッチによる自動開閉）**

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



79R30030

(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ
(3) パワースライドドアのワンアクションスイッチ（タイプ別装備）

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

アドバイス

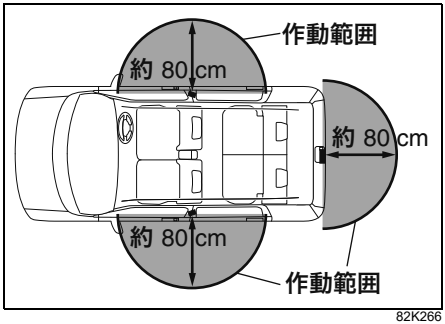
●次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
- いずれかのドアが開いている
- エンジンスイッチが ACC または ON のとき

●リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
→ **3-11ページ（アンサーバック機能）**
→ **3-12ページ（タイマーロック機能）**

●少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

リクエストスイッチの作動範囲（車外）

前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内です。



82K266

アドバイス

●**「リクエストスイッチの作動範囲」**で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
- 携帯リモコンの電池が消耗している
- 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
- 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
- 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
- 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている

●リクエストスイッチの作動は、携帯リモコンが作動範囲にあるドアのみとなります。例えば、運転席ドアの作動範囲にリモコンがあると、運転席ドアにあるリクエストスイッチは作動しますが、助手席ドアおよびバックドアにあるリクエストスイッチは作動しません。

●車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約２秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- エンジンスイッチがACCまたはONの状態で携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチをLOCK(OFF）にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  - 携帯リモコンを車内に置き忘れている
  - いずれかのドアが開いている
    → **3-93ページ（半ドア警告灯）**

エンジンスイッチをLOCK（OFF）にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」（**3-7 ページ**参照）で、携帯リモコンを閉じ込めてしまうのを防止する機能です。

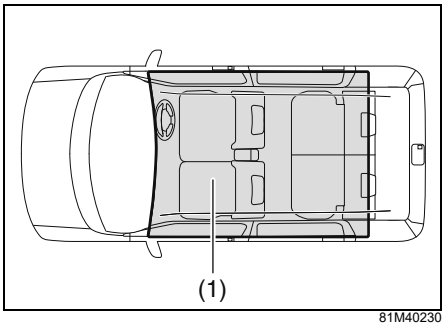
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、**「キーを使わない施錠」**ですべてのドアを施錠しようとすると、自動的にすべてのドアが解錠されます。

アドバイス

- **「キーを使わない施錠」**をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込めてしまうおそれがあります。
- エンジンスイッチがACCまたはONのときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- 鉛バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「車内の検知範囲」（1）は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



81M40230

アドバイス

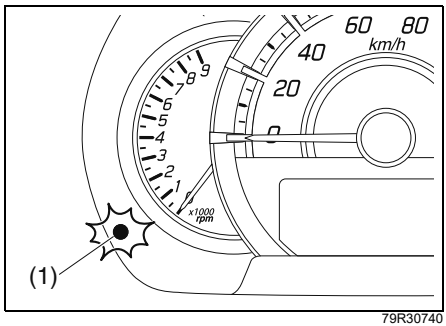
- **「車内の検知範囲」**に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
    → **5-10ページ（インパネ収納スペース）**
    → **5-13ページ（ドリンクホルダー）**
    → **5-16ページ（そのほかの装備）**
  - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある

- **「車内の検知範囲」**に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

オートドアロック

車の状態に応じて、自動的にすべてのドアを施錠または解錠します。

- エンジンスイッチが ON のとき、オートドアロックに異常があると、メーターパネル内のセキュリティアラームインジケーター（1）が点滅します。点滅した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。



79R30740

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

オートドアロック機能

オートドアロック機能は次の３つのモードがあります。モードは任意で切り替えることができます。切替えについては**3-115ページ**の「**セッティングモード（タコメーターなし車）**」、**3-130 ページ**の「**セッティングモード（タコメーター装備車）**」をお読みください。

■ 車速連動モード

車速が約15 km/h以上になると、すべてのドアが施錠されます。

■ シフト連動モード

エンジンスイッチが ON のときに、セレクトレバーを P から P 以外に操作すると、すべてのドアが施錠されます。

■ オートドアロック無効モード

自動で施錠されません。

アドバイス

- 初期設定時（工場出荷時）は車速連動モードに設定されています。
- 一度オートドアロックが作動した場合は、次のいずれかの状態になると、再度オートドアロックが作動します。
  - いずれかのドアを開けた
  - オートドアアンロック機能で解錠された
  - キー、ロックレバー、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠した

オートドアアンロック機能

オートドアアンロック機能は次の３つのモードがあります。モードは任意で切り替えることができます。切替えについては**3-115ページ**の「**セッティングモード（タコメーターなし車）**」、**3-130 ページ**の「**セッティングモード（タコメーター装備車）**」をお読みください。

■ シフト連動モード

運転席ドアが施錠された状態で、セレクトレバーを P の位置にすると、すべてのドアが解錠されます。

■ エンジンスイッチ連動モード

運転席ドアが施錠された状態で、エンジンスイッチを LOCK（OFF）に操作すると、すべてのドアが解錠されます。

■ オートドアアンロック無効モード

自動で解錠されません。

アドバイス

初期設定時（工場出荷時）はシフト連動モードに設定されています。

スライドドアクローザー

タイプ別装備

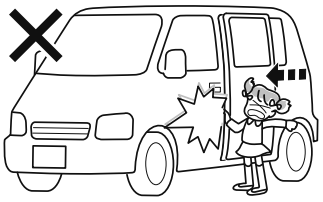
スライドドアクローザーは、スライドドアを完全に閉めるための補助機能です。スライドドアを半ドアの状態まで閉めると、この機能が作動して自動的に全閉になります。

- パワースライドドアメインスイッチの ON / OFF に関係なく、スライドドアクローザーは作動します。
  → **3-23 ページ（パワースライドドアメインスイッチ）**

- パワースライドドアは安全のため、スライドドアクローザーの作動中に次の操作を行なうと、自動で全開になります。
  - 車外のドアハンドルを引く
  - 車内のドアハンドルを、開ける方向に操作する
  - ワンアクションスイッチを押す
  - 運転席パワースライドドアスイッチを押す
  - 携帯リモコンのパワースライドドアボタンを押す

⚠警告

スライドドアが半ドア状態から自動的に全閉になります。指などをはさまないように気をつけてください。



82K002

注 記

スライドドアクローザーはモーターの駆動力を利用しているため、エンジン停止状態で必要以上に使用すると、鉛バッテリーがあがる原因となります。また、鉛バッテリーの性能が低下しているときは、作動しない場合があります。

アドバイス

スライドドアクローザー作動中にエンジンを始動すると、クローザーが正常に作動しない場合があります。

パワースライドドア

タイプ別装備

- パワースライドドアは、解錠されている状態でパワースライドドアメインスイッチが ON のとき、次の操作で自動開閉できます。
  → **3-23ページ（パワースライドドアメインスイッチ）**
  - ドアハンドル
  - ワンアクションスイッチ
  - 運転席にあるパワースライドドアスイッチ
  - 携帯リモコン
- 自動開閉中は、周囲に注意をうながすため、警告ブザーが“ピッピッピッ”と断続的に鳴り続けます。
- パワースライドドアが施錠されていると、ワンアクションスイッチ以外では自動で開けられません。先にドアを解錠してください。ワンアクションスイッチでは、施錠されていても、すべてのドアを解錠すると同時に自動でスライドして開きます。
- 急な坂道では、自動開閉できない場合があります。
- 自動開閉中にエンジンを始動すると、パワースライドドアが正常に作動しなくなる場合があります。

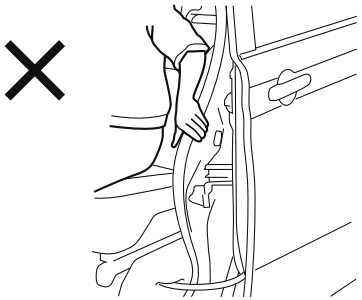
⚠ 警告

●パワースライドドアを開けるときは、後席窓から手や頭などの身体を出さないでください。身体をはさまれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。



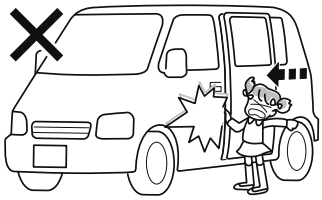
82K20020

●パワースライドドアの開閉は、車外および車内のスライドドア周囲の安全を十分に確認してから行なってください。ドアに手足や頭などの身体をはさまれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。



79R30040

●パワースライドドアの開閉はお子さまではなく大人が行ない、お子さまの身体をはさまないように気をつけてください。



82K002

●パワースライドドアは、走行中に自動開閉できないようになっていますが、次の条件をみたすと自動開閉する場合があります。完全に停車したことを確認してから操作してください。車が動いているときの開閉は、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車速が約3 km/h以下
- パーキングブレーキがかかっているか、ブレーキペダルを踏んでいる

●自動開閉中に一時停止させたままのとき、約3分後（はさみ込み防止機構で停止した場合は約30分後）に一時停止が解除され、手動開閉状態になります。このとき、傾斜地などでパワースライドドアが不意に動き出すおそれがあります。

注 記

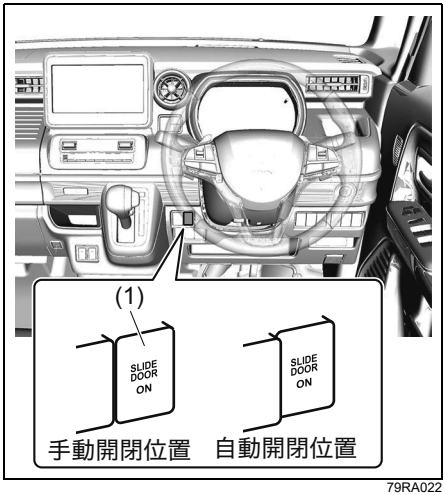
●ドアが凍結しているときは、パワースライドドアが開閉可能かを手動で確認してから、自動開閉操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 6-18ページ（ドアの凍結）

●パワースライドドアはモーターの駆動力を利用しているため、エンジン停止状態で必要以上に使用すると、鉛バッテリーがあがる原因となります。また、バッテリーの性能が低下しているときは、作動しない場合があります。

パワースライドドアメインスイッチ

パワースライドドアは、パワースライドドアメインスイッチ（1）を押すことによって、自動開閉（ ON ）と手動開閉（ OFF ）に切り替えることができます。

- 通常は ON 位置（自動開閉）にしておきます。



79RA022

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

パワースライドドアメインスイッチが OFF のときでも、スライドドアクローザーは作動します。指などをはさまないように気をつけてください。
→ 3-20ページ（スライドドアクローザー）

⚠注意

- **自動開閉中に、パワースライドドアメインスイッチを OFF にするなどして手動開閉に切り替えると、ドアが途中で停止し、警告ブザーが鳴ります。坂道などの傾斜地の場合、途中で停止したドアが不意に動き出すおそれがあります。十分に注意して開閉操作を行なってください。**
- **後輪のタイヤ交換などをするときは、安全のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。誤って自動開閉してしまうと、手などの身体をはさまれ、けがのおそれがあります。**

注 記

パワースライドドアメインスイッチを OFF 位置にするなどしてドアを手動開閉する際には、ドアをゆっくりと閉めてください。
ドアを強く閉めると部品が変形、損傷するおそれがあります。

■ メインスイッチが ON でもこんなときは自動開閉ができません

安全のため、次のようなときは自動開閉ができません。

- 自動開閉ができない場合
  - パワースライドドアを開けたまま鉛バッテリーを外すなどしてシステムへの電源供給を一度絶ち、再び鉛バッテリーを接続するなどして、ドアを全閉にするまで
  - フューエルリッドが開いているとき（助手席側スライドドアのみ）

  → **5-2ページ（フューエルリッド）**

- 自動で開かない場合
  - 車が動いている（車速3 km/h 以上）
  - エンジンスイッチが ON のとき

- 自動で閉まらない場合
  - タッチセンサーが断線している（断線時でも自動で開くことは可能）

アドバイス

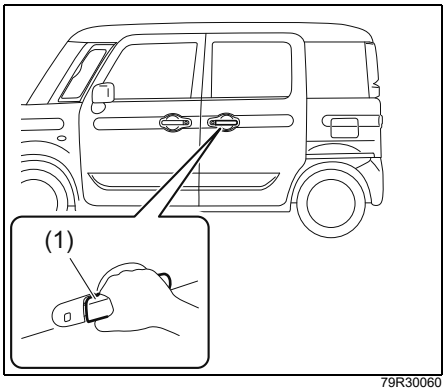
前記のようなときに、ドアハンドルで手動開閉すると警告ブザーが“ピーー”と鳴って、ドアにブレーキがかかったような状態になることがあります。これは坂道の影響などで手動開閉時にドアが急開閉するのを防ぐためであり、異常ではありません。

■ メインスイッチが ON でもこんなときは自動で開くことができません（自動で閉めることはできます）

- エンジンスイッチが ON のときに、下記条件のいずれもみたさない場合
  - パーキングブレーキがかかっている
  - ブレーキペダルを踏んでいる
  - セレクトレバーが P 位置

車外のドアハンドルによる自動開閉

パワースライドドアが全開または解錠状態の全閉時に、車外のドアハンドル（1）を引くと、自動開閉ができます。

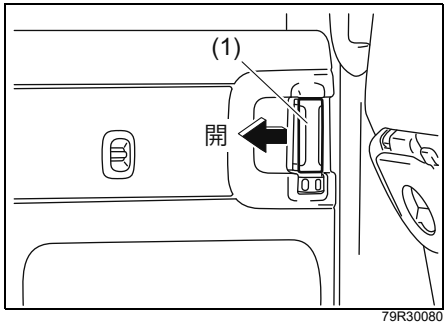


79R30060

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 自動開閉中にもう一度ドアハンドルを引くと、パワースライドドアがその場で停止します。ただし、パワースライドドア作動開始直後にドアハンドルを引くと、停止しない場合があります。
- パワースライドドアが途中で停止しているときにもう一度ドアハンドルを引くと、停止前とは逆方向へ作動します。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは自動開閉しません。

車内のドアハンドルによる自動開閉

- パワースライドドアが解錠状態の全閉時に、車内のドアハンドル（1）を次の図の矢印方向に引くと、自動で開きます。



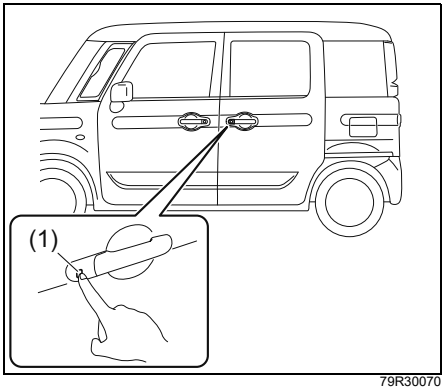
79R30080

- パワースライドドアが全開のときは、車内のドアハンドルを閉める方向（車の前方向）に操作すると、自動で閉められます。
- 自動開閉中に車内のドアハンドルを前後どちらかに操作すると、パワースライドドアがその場で停止します。ただし、パワースライドドア作動開始直後にドアハンドルを引くと、停止しない場合があります。
- パワースライドドアが途中で停止しているときにもう一度車内のドアハンドルを前後どちらかに操作すると、操作した方向に作動します。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは自動開閉しません。

ワンアクションスイッチによる自動開閉

運転席側はタイプ別装備

パワースライドドアが全開または全閉時に、車外ドアハンドルにあるワンアクションスイッチ（1）を押すと自動開閉できます。



79R30070

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

- パワースライドドアが施錠状態の場合（そのほかのドアが解錠状態でも）、所持している携帯リモコンがリクエストスイッチの作動範囲（車外）（**3-16 ページ**参照）に入っていると、ワンアクションスイッチを押すことで、すべてのドアを解錠すると同時に自動でスライドして開きます。
- 自動開閉中にもう一度ワンアクションスイッチを押すと、パワースライドドアはその場で停止します。ただし、パワースライドドア作動開始直後にワンアクションスイッチを押すと、停止しない場合があります。
- パワースライドドアが途中で停止しているときにもう一度ワンアクションスイッチを押すと、停止前とは逆方向へ作動します。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは自動開閉しません。

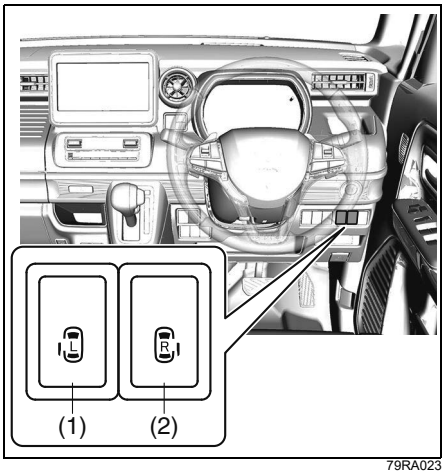
アドバイス

ワンアクションスイッチでドアを解錠すると、アンサーバック機能が作動します。

→ **3-11ページ（アンサーバック機能）**

パワースライドドアスイッチによる自動開閉

パワースライドドアが全開または解錠状態の全閉時に、運転席にあるパワースライドドアスイッチを 0.5 秒以上長押しすると、自動開閉ができます。



79RA023

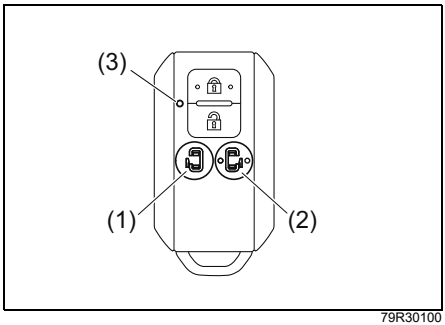
(1) 助手席側パワースライドドアスイッチ
(2) 運転席側パワースライドドアスイッチ
（タイプ別装備）

- 上図のスイッチおよびインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- スイッチは長押し（0.5秒以上）してください。スイッチを押している時間が短いと、自動開閉ができません。
- 自動開閉中にもう一度スイッチを押すと、パワースライドドアがその場で停止します。ただし、パワースライドドア作動開始直後にスイッチを押すと、停止しない場合があります。
- パワースライドドアが途中で停止しているときにもう一度スイッチを押すと、停止前とは逆方向へ作動します。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは自動開閉しません。

携帯リモコンによる自動開閉

パワースライドドアが全開または解錠状態の全閉時に、車から約2 m以内の範囲で、携帯リモコンのパワースライドドアボタン（1）または（2）（タイプ別装備）を 1 秒以上長押しすると、自動開閉ができます。



79R30100

(1) 助手席側パワースライドドアボタン
(2) 運転席側パワースライドドアボタン
（タイプ別装備）
(3) 作動表示灯

- 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- ボタンは長押し（1 秒以上）してください。ボタンを押している時間が短いと、自動開閉ができません。
- 自動開閉中にもう一度ボタンを押すと、パワースライドドアがその場で停止します。ただし、パワースライドドア作動開始直後にボタンを押すと、停止しない場合があります。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、携帯リモコンによる自動開閉ができません。
- パワースライドドアが途中で停止しているときにもう一度ボタンを押すと、自動的に全開になります。全閉にしたい場合は、再度ボタン操作をしてください。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは自動開閉しません。

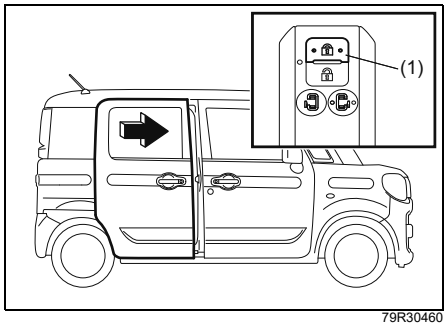
パワースライドドア［予約ロック機能付］

タイプ別装備

パワースライドドアが開いている状態で、事前にすべてのドアの施錠を予約できる機能です。
予約ロック機能を使うときは、エンジンスイッチが LOCK（OFF）の位置で、次の操作を行なってください。

1 パワースライドドア以外のドアを閉めてください。

2 パワースライドドアが自動で閉まっているとき、携帯リモコンのロックスイッチ（1）を押すと、パワースライドドア以外のドアが施錠され、アンサーバック機能でお知らせします。
→ **3-11ページ（アンサーバック機能）**



79R30460

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

3 パワースライドドアが完全に閉まると予約ロックが完了し、再度アンサーバック機能でお知らせします。
→ **3-11ページ（アンサーバック機能）**

注記

パワースライドドアが閉まったあとに、アンサーバック機能が作動しない場合は、予約ロック機能が正常に作動していない可能性があります。

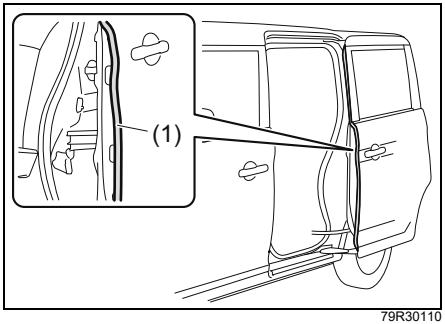
アドバイス

- 次の操作が行なわれると、予約ロック機能が解除され、すべてのドアが解錠されます。
  - 運転席のロックレバーを解錠方向へ操作する
  - 携帯リモコンで解錠操作を行なう
  - ドアハンドル、リクエストスイッチ、パワースライドドアスイッチ、携帯リモコンによるパワースライドドアの停止する
  - はさみ込み防止機構が作動する
- 予約ロック機能作動中に携帯リモコンを車内にもどすと、車内に携帯リモコンが閉じ込められることがあります。
  パワースライドドア［予約ロック機能付］を使用するときは、必ず携帯リモコンを所持した状態で行なってください。
- 施錠したあと車から離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。
- リクエストスイッチによる予約ロック機能の操作はできません。

はさみ込み防止機構

パワースライドドアには、自動開閉するときの安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- 自動で閉めているときに、ドア前端部のタッチセンサー（1）が異物のはさみ込みを検知すると、ドアの動く方向は反転し、少し動いてから停止します。
- 自動開閉中に、異物をはさみ込むなどしてドアに一定以上の負荷がかかると、ドアの動く方向は反転し、少し動いてから停止します。（過負荷検知方式）
- 自動開閉中に、2回以上はさみ込みを検知すると警告ブザーが鳴り、パワースライドドアが止まります。作動のじゃまになるようなものを取り除いたあと、再度操作してください。
- タッチセンサーに手などを強く触れたままにしていると、パワースライドドアを自動で閉められません。



79R30110

⚠警告

●はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては、タッチセンサーで検知できなかったり、過負荷検知されなかったりして、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

●はさみ込み防止機構が作動してオートスライドドアが停止したままのとき、約 30 分後に停止状態が解除され、手動開閉状態になります。このとき、傾斜地などでパワースライドドアが不意に動き出すおそれがあります。

⚠注意

全閉直前または全開直前の位置では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

注 記

パワースライドドア前端部のタッチセンサーは、刃物などの鋭利なもので傷つけないでください。タッチセンサーが切断されると、自動で閉められなくなります。

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車のリクエストスイッチで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。
セット状態にて、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチ以外のもの（※）で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※キーやロックレバーを含む

- 工場出荷時は、＜**警報モード**＞になっています。任意で＜**警報なしモード**＞に切り替えてください。
  → **3-30ページ**
  （モード設定の切替えのしかた）

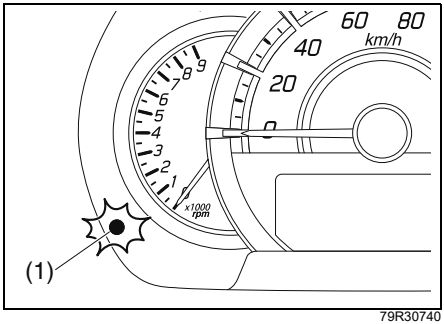
- 警報を誤作動させたときは
  → **3-30ページ**
  （警報の停止のしかた）

アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを＜**警報なしモード**＞に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた（警報モード時）

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター（1）が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。
セット中は、セキュリティアラームインジケーターが2秒間隔で点滅します。



79R30740

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーで解錠し、ドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）
  → **3-12ページ**
  （タイマーロック機能）

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、次のいずれかの操作により警報を途中で停止できます。

- エンジンスイッチを ON にする
- キーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠する

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態で鉛バッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを ON にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

＜**警報モード**＞と＜**警報なしモード**＞の2つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

＜**警報モード**＞（工場出荷時）
非常点滅表示灯が約40秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。作動中は、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

＜**警報なしモード**＞
警報は作動しません。

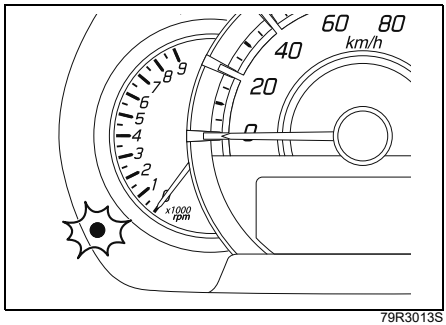
モード設定の切替えのしかた

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、モード設定を切り替えることができます。

→ **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

セキュリティアラームインジケーター

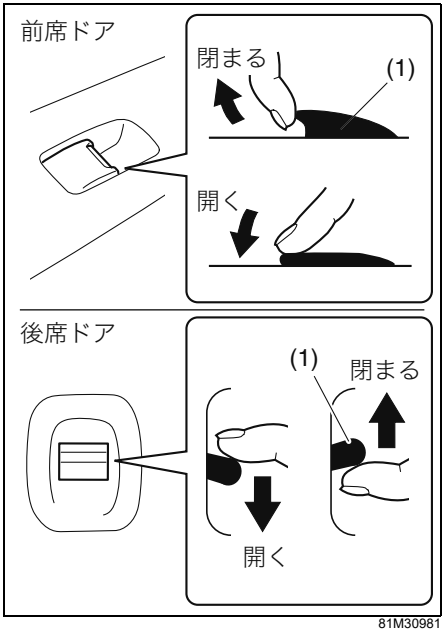


79R3013S

- セキュリティアラームが<**警報モード**>のときに、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、小刻みに点滅して約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。
  セット中は、2秒間隔で点滅します
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを ON にしたときに約8秒間小刻みに点滅します。
- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに1 秒間隔で点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。

パワーウインドー

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



81M30981

⚠警告

●ウインドーの開閉操作をするとき、誤って手足や首などが挟み込まれるおそれがあります。
- **運転者はご自身だけでなくほかの乗員にもウインドー開閉操作に注意を払わせてください。**
- **お子さまにはウインドースイッチを操作させないでください。**
- **お子さまを乗せているときは常にウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。**
  → 3-33ページ（ウインドーロックスイッチ）
- **車から離れるときは必ずエンジンスイッチを LOCK （OFF）にし、キーを携帯してお子さまと一緒に離れてください。**
- **運転席で他席のウインドーを開閉するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。**

●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注 記

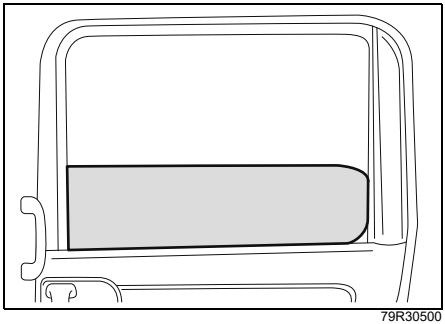
鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

アドバイス

●お子さまを乗せているときは、はさみ込み事故を未然に防ぐため、お子さま用シートを使用し、ウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。

●走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
- 前席ウインドーも開ける。
- 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

●後席ウインドーは、下図の位置までしか開きません。

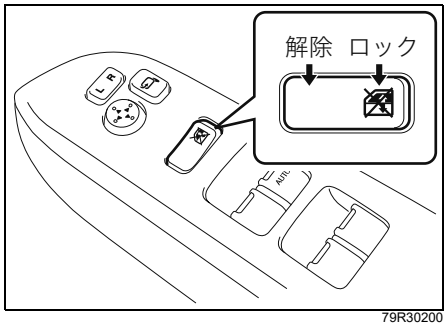


79R30500

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチの ロック 側を押すと、助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、ウインドーロックスイッチの 解除 側を押します。



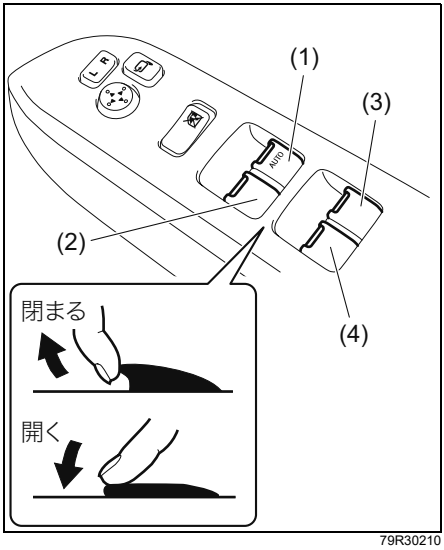
アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

運転席で各席のウインドーの開閉ができます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。（運転席ウインドーのオート機構を除く）



(1) 運転席ウインドースイッチ（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーのオート機構

運転席ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 運転席ウインドーのオフディレイタイマー機能

運転席ウインドーは、エンジンスイッチを ON の位置から ACC または LOCK（OFF）にしたあとでも、30 秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

- 30 秒以内でも、運転席または助手席のドアを開けると、運転席ウインドーの開閉ができません。
- 運転席ウインドーの開閉が可能な間は、運転席ウインドースイッチの“AUTO”の文字が点灯しています。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まりきる直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定が必要なとき

次のような場合は、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。

「**初期設定のしかた**」をお読みになり、初期設定を行なってください。

→ **3-35ページ（初期設定のしかた）**

- 鉛バッテリーの端子を外したとき
- 鉛バッテリーあがりがおきたとき
- ヒューズを点検・交換したとき

→ **7-32ページ（ヒューズが切れたときは）**

⚠警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

アドバイス

運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、初期設定を行なってください。

■ 初期設定のしかた

はさみ込み防止機構の初期設定は次の手順で行なってください。

1 エンジンを始動します。

2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。

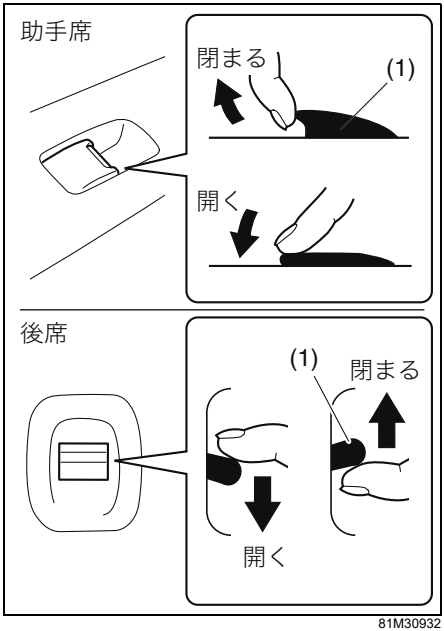
5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順 1 ～ 4 を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

助手席、後席での開閉

自席のウインドーを開閉できます。

- ウインドースイッチ（1）を操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。
  → **3-33ページ（ウインドーロックスイッチ）**



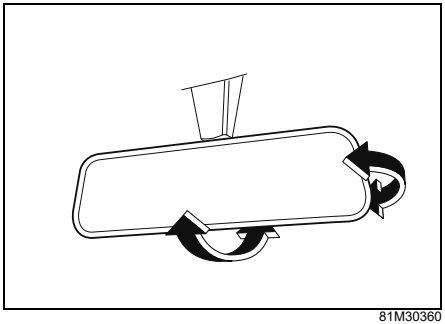
81M30932

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

ミラーの本体を持って角度を調節します。



81M30360

⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラー

角度の調節

⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

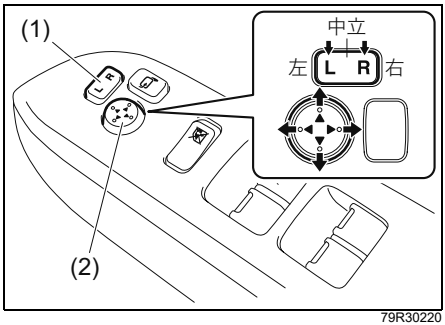
■ ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときに使用できます。

1 左右切替えスイッチ（1）を、調節したいミラーの側に押します。

2 角度調節スイッチ（2）を押して、上下左右にミラーを動かします。

3 調節後は、左右切替えスイッチを中立の位置へもどしてください。



79R30220

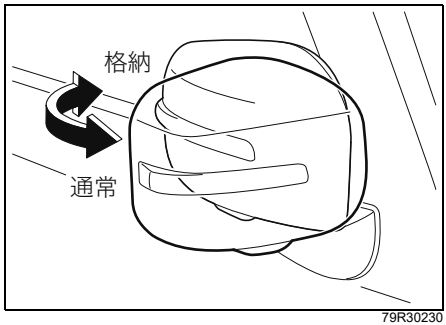
アドバイス

調節後は、左右切替えスイッチを中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に格納できます。

- 電動で格納するときは、次の「**ドアミラー格納スイッチ**」をお読みください。



79R30230

- 上図のドアミラーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

ドアミラーを格納したまま走行すると、後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
ドアミラーは、格納したまま走行しないでください。

注 記

手でドアミラーを動かすと故障の原因となります。
エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときは、手でドアミラーを動かさないでください。

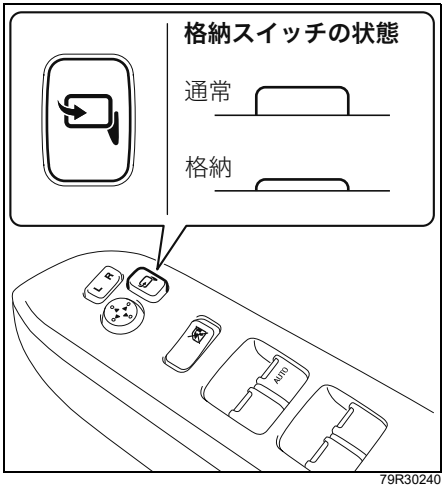
アドバイス

ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人やものに当てないように気をつけてください。

■ ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切り替わります。



79R30240

- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

⚠注意

- ドアミラーを動かすときは、次のことに注意してください。けがをしたり、ミラーが破損したりする原因となります。
  - **ドアミラーの周囲に人やものがないか確認する**
  - **動いているドアミラーに触れない**

⚠注意

●格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。
その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

注 記

ドアミラーが凍結しているときは、手で動かすことが可能かを確認してから、格納スイッチの操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 6-17ページ（ドアミラーの凍結）

アドバイス

ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。

リモート格納ミラー

タイプ別装備

ドアミラー格納スイッチが通常の位置にあるときは、ドアの施錠やエンジンスイッチの操作と連動して、ドアミラーが自動的に格納と通常の位置に切り替わります。

- リクエストスイッチまたはキーレスエントリーでドアを施錠すると、自動的にドアミラーが格納されます。
  → **3-10ページ（キーレスエントリー）**
  → **3-12ページ（携帯リモコン）**

- 通常の位置にもどすときは、エンジンスイッチを ACC または ON にします。
- 工場出荷時は、作動する設定になっています。任意で停止に切り替えてください。
  → **3-39ページ（リモート格納ミラーの停止・作動の切替えのしかた）**

注 記

ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 6-17ページ（ドアミラーの凍結）

アドバイス

- ドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、ドアミラーが自動的に格納されません。
- ドアミラー格納スイッチが格納の位置にあるときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが自動的に通常の位置にもどりません。
- タイマーロック機能が作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。
  → **3-12ページ（タイマーロック機能）**

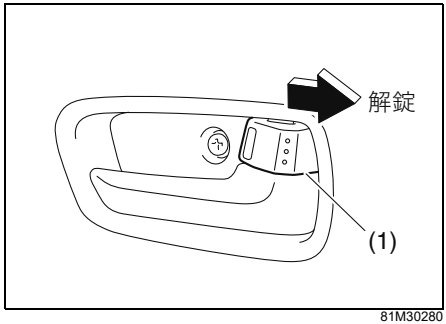
■ リモート格納ミラーの停止・作動の切替えのしかた

エンジンスイッチが LOCK（OFF）の位置にある状態で、次の手順で切り替えてください。

1 運転席にすわり、すべてのドアが閉まっているか確認します。

- いずれかのドアが開いていると、半ドア警告灯が点灯します。
  → **3-93ページ（半ドア警告灯）**

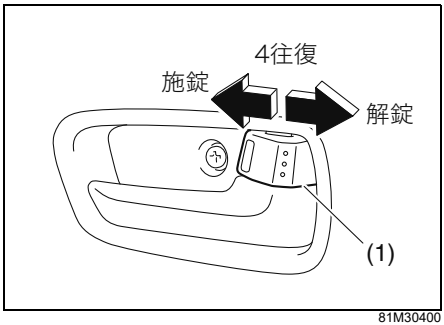
2 ロックレバー（1）を解錠側（車の後ろ方向）にします。



81M30280

※次の 3 から 4 までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

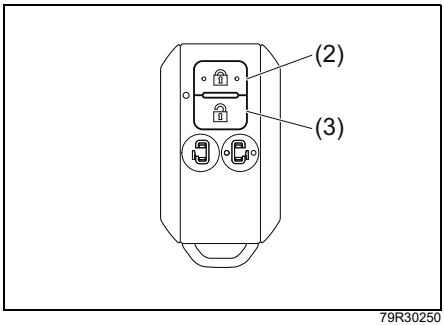
3 ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にし、解錠側（車の後ろ方向）にもどします。この操作を4往復行ないます。



81M30400

4 携帯リモコンの操作部を3回押します。

- 操作部はロック／アンロックスイッチのどちらでも結構です。
- 設定切替え中は、操作部を押してもドアの施解錠は行なわれません。



79R30250

(2) 操作部(ロックスイッチ)
(3) 操作部(アンロックスイッチ)

- 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。

前記の手順を行なうと、リモート格納ミラーの設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

リモート格納ミラーの設定状態	設定確認ブザー
停止	1回
作動	2回

- 3 から 4 までの操作が正しく行なわれなかったり、15秒以内にできなかったりしたときは、設定が切り替わらず、設定確認ブザーが鳴りません。はじめからやり直してください。

ドアミラーヒータースイッチ

タイプ別装備

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ **5-37ページ（リヤデフォッガースイッチ）**

サイドアンダービューミラー

助手席側のフロントピラーにあります。

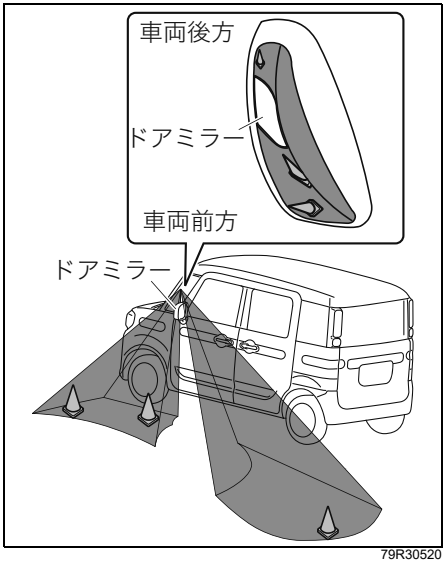
- 停車時およびごく低速時に、車両左側下部を確認するときに使用します。



79R30510

サイドアンダービューミラーから見える範囲

ミラーから見える範囲は姿勢によって異なります。



79R30520

● 前図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

ミラーだけにたよらず車から降りて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。

アドバイス

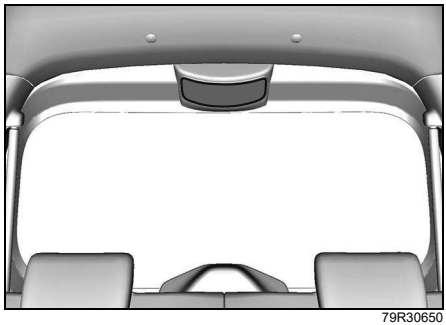
サイドアンダービューミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。

後方視界支援ミラー

タイプ別装備

バックドアの室内側にあります。

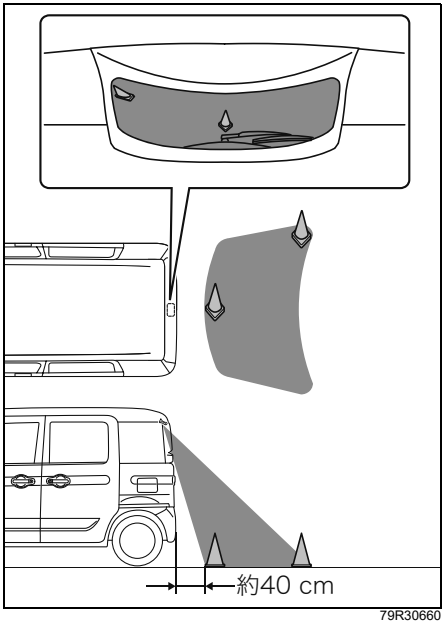
● 車両の後方を確認するときに使用します。



79R30650

後方視界支援ミラーから見える範囲

ミラーから見える範囲は姿勢によって異なります。



79R30660

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

ミラーだけにたよらず車から降りて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。

アドバイス

- 後方視界支援ミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。
- バンパーから約40 cmの範囲は映りません。

チルトステアリング

タイプ別装備

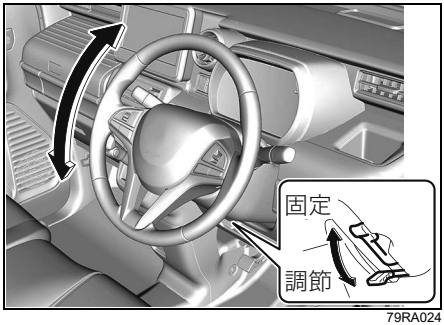
ハンドルの高さ調節

→ 2-13ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）

1 ハンドルの固定を解除します。
- 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバーを押し下げます。

2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置に調節します。

3 調節後は、ハンドルを固定します。
- その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



79RA024

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

アドバイス

ハンドルの高さを調整したあとは、シートへ正しくすわり、メーターパネルが見えることを確認してください。

前席シート

→ 5-22ページ（アームレスト）

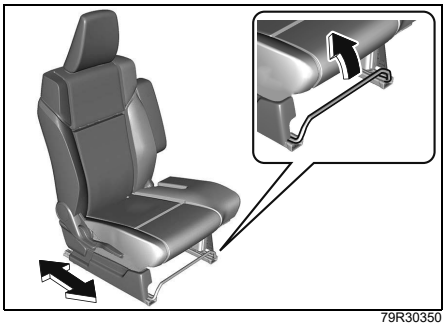
⚠注意

●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
→ 2-13 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）

●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。


79R30350

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

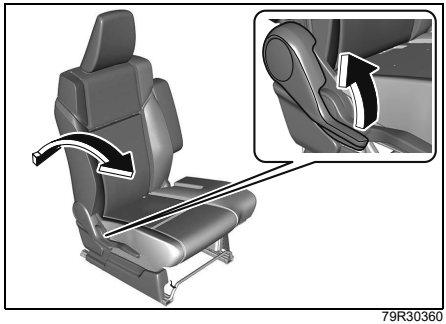
⚠警告

シートの下にものを置かないでください。(助手席のシートアンダーボックス内を除く）ものがはさまって、次のようなことが起きるおそれがあります。
- **シートが固定されない**
- **助手席下（シートアンダーボックス下）にあるリチウムイオンバッテリーを損傷する**

→ **2-3ページ（バッテリーについて）**
→ **5-18ページ（シートアンダーボックス）**

背もたれの角度調節

- 後方に倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 前方に起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



79R30360

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

⚠注意

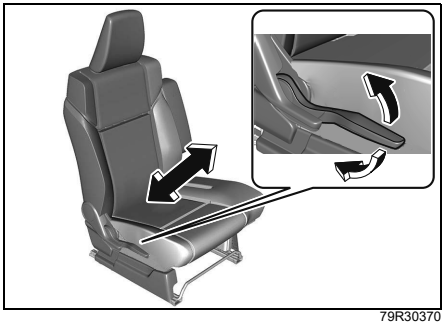
背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手などを添えて操作してください。

運転席シートの高さ調節

タイプ別装備

運転席シート右横のレバーを繰り返し操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方に動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方に動きます。



79R30370

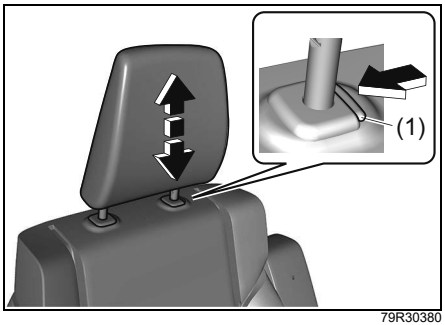
- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを押し下げます。



79R30380

■ 取り外しかた

ロックボタン（1）を押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠ 警告

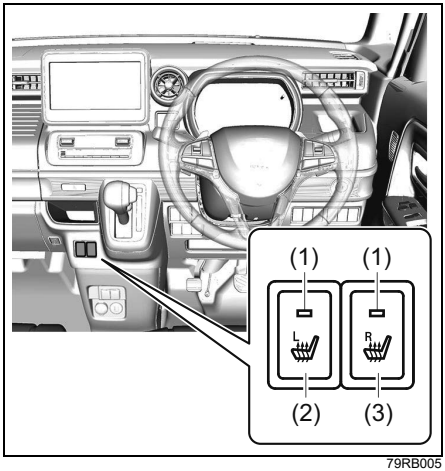
ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

シートヒータースイッチ

助手席側はタイプ別装備

シート内にあるヒーターで座面をあたためることができます。

- エンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと、ヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。もう一度押すと、ヒーターが止まります。
- シートがお好みの温度になったら、ヒーターを止めてください。



79RB005

(2) 助手席シートヒータースイッチ（タイプ別装備）
(3) 運転席シートヒータースイッチ

● 前図のイラストは代表例です。お車のタイプによりインパネおよびスイッチの数は異なります。

⚠注意

●長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。
●毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

注 記

●シートの上に重い荷物を置いたり、針や釘などをシートに刺したりしないでください。
●シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。
→ 6-5ページ（内装のお手入れ）

●水やジュースなどをこぼしたときは、やわらかい布などでふき取り、十分に乾かしてからご使用ください。
●リチウムイオンバッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。

アドバイス

ヒーターは自動停止しません。スイッチを切らないと、作動し続けます。

後席シート

⚠注意

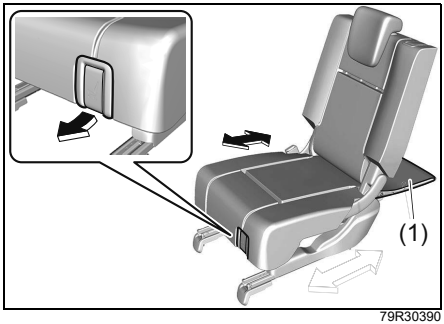
●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

前後位置の調節

■ 座席下のスライドレバーによる調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。

● ラゲッジフロアボード（1）も連動して前後に動きますので、ボード上に荷物がある場合はいったん降ろしてからシートを動かしてください。



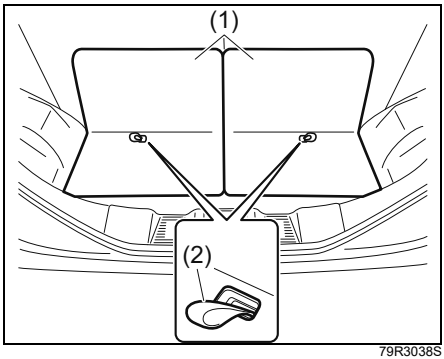
79R30390

■ 荷室側のストラップによる調節

タイプ別装備

荷室側からも前後位置の調節ができます。
ラゲッジフロアボードにあるストラップ（2）を引いてシートを前後に動かします。

- ラゲッジフロアボード（1）も連動して前後に動きますので、ボードの上に荷物がある場合はいったん降ろしてからシートを動かしてください。
  また、荷室側から調節する場合は、ボードの上に乗らないでください。



79R3038S

⚠ 警告

シートの下にものを置かないでください。ものがはさまって、シートが固定されないおそれがあります。

⚠ 注意

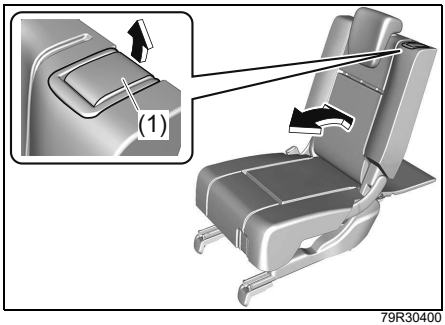
シートを動かすときは、ラゲッジフロアボードに指や手をはさまないようにご注意ください。また、荷物が倒れたり、はさまれたりすることがありますのでご注意ください。

背もたれの角度調節

1 片方の手を背もたれに添え、もう一方の手で背もたれ上面のリクライニングレバー（1）をいっぱいに引き上げます。

- シートから降りて操作してください。シートにすわったままリクライニングレバーを引き上げると、背もたれが急に最大角度まで倒れ込むことがあります。
- リクライニングレバーは、いっぱいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

2 リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれを好みの角度の少し手前まで倒します。



79R30400

3 リクライニングレバーから手を離し、固定される位置まで背もたれを倒します。

⚠ 警告

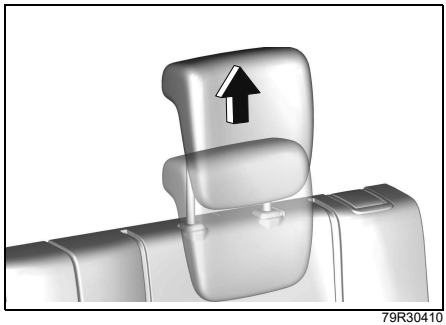
背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

ヘッドレストの操作方法と取り外し・取り付け

■ 使用時の位置

使用するときは、ヘッドレストを手で持ち上げ、しっかりと固定します。

使用時

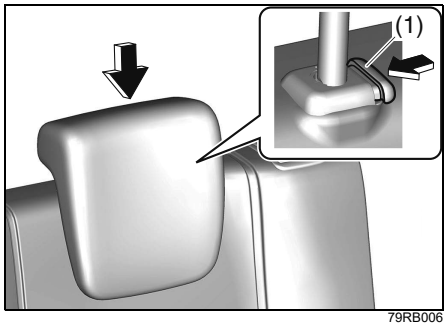


79R30410

■ 収納時の位置

収納するときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。

収納時



79RB006

■ 取り外しかた

ロックボタン（1）を押したまま引き抜きます。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま、後席に人を乗せないでください。（お子さま用シートの固定時を除く）

⚠注意

お子さま用シートの固定などで取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、使用時または収納時の位置にします。

⚠警告

- **ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。**
  ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストを使用時の位置で固定できません。
- **お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。**
  ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

シートの便利な使いかた

荷室を広げるとき(後席シート)

背もたれを前方へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されて重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

シートを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

注 記

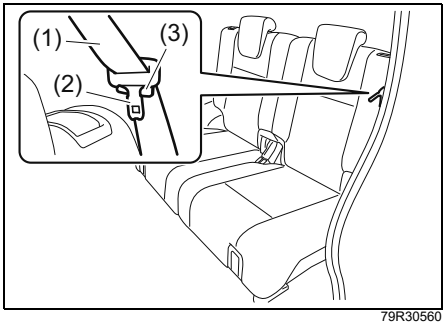
格納前に、後席の足元にものが落ちていないか確認してください。また、格納時に後席が前席に当たる場合は無理に格納させないでください。シートが損傷するおそれがあります。

■ 格納のしかた

1 格納前に次のことを確認または調節し、格納のさまたげにならないようにします。

- 後席の足元にものがないか確認する

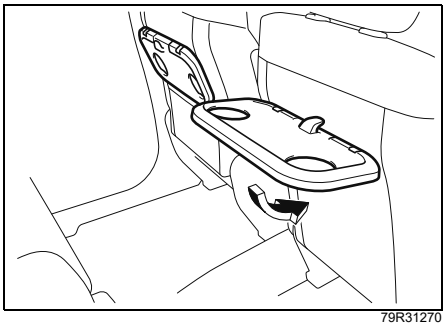
2 後席左右のシートベルト（1）およびタングプレート（2）を図のようにベルトガイド（3）にかけます。



79R30560

3 パーソナルテーブル装備車の場合、テーブルを収納します。

→ **5-23ページ**
(パーソナルテーブル)

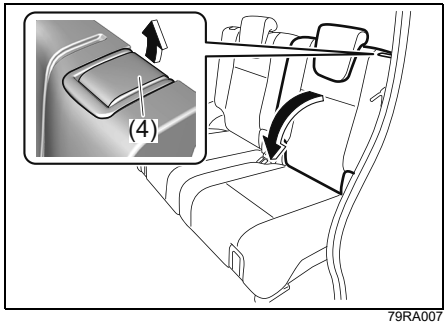

79R31270

4 片方の手を背もたれに添え、もう一方の手で背もたれ上面にあるリクライニングレバーをいっぱいに引き上げます。

- リクライニングレバーはいっぱいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

5 リクライニングレバー（4）を引き上げたまま、背もたれを前方へ倒します。

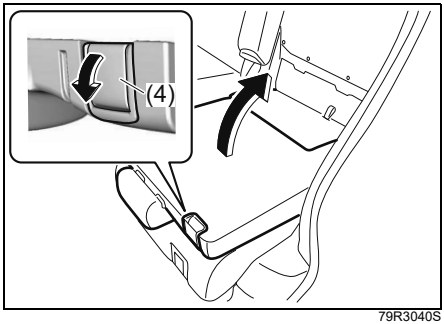
- 背もたれを倒すときに、後席のヘッドレストが前席に当たる場合は、前席を前方へ動かしてください。



79RA007

■ もとにもどすときは

1 リクライニングレバー（4）を車の前方向へいっぱいに倒し、そのまま背もたれを少し起こします。



79R3040S

2 リクライニングレバーから手を離し、固定される位置まで背もたれを起こします。

- 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

長い荷物を積むとき（助手席シート）

後席シートの格納のあとに、助手席の背もたれを前方へ倒すと、より長い荷物が積めます。

→ **3-48ページ（荷室を広げるとき（後席シート））**

⚠ 警告

- **前方へ倒した背もたれの上に、人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されてけがのおそれがあります。また、シートが破損する原因となります。**
- **背もたれを前方へ倒したときは、荷物を確実に固定してください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、荷物が飛び出して身体に当たるおそれがあります。**

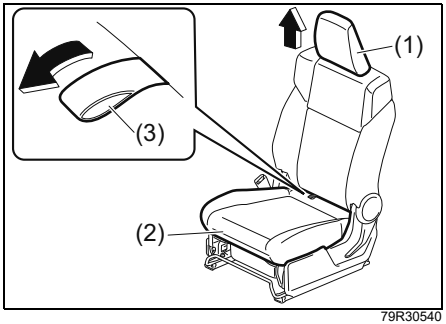
■ 背もたれの前方への倒しかた

1 助手席を後方へスライドし、ヘッドレスト（1）を外します。

→ **3-44ページ（ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け）**

2 クッション（2）の後部についているバンド（3）を引き上げて固定を外し、クッションを車の前方向へ起こします。

- バンドが引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。

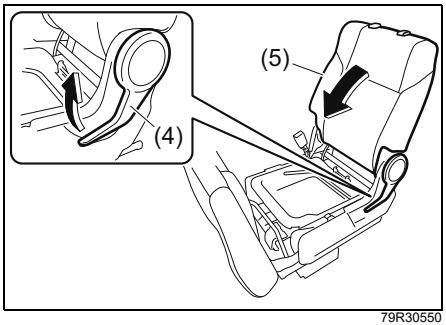


79R30540

注 記

前方へ起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

3 リクライニングレバー（4）を引き上げ、背もたれ（5）を前方へいっぱいまで倒します。



79R30550

■ もとにもどすときは

「**背もたれの前方への倒しかた**」と逆の手順で行ないます。

フルフラットシート

前席と後席の背もたれを後方へ倒すと、室内に連続的な空間が作れます。

⚠警告

フルフラットにしたシートに、人や荷物を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されたり、荷物が身体に当たったりして重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

- **フルフラットにしたシートの上を歩きまわらないでください。シートから足を踏み外すと、けがのおそれがあります。**
- **シートをもとにもどしたときは、クッションや背もたれをゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。シート自体の固定が不確実な場合、走行中に突然シートが動いたり背もたれが前方へ倒れたりして、思わぬけがをするおそれがあります。**

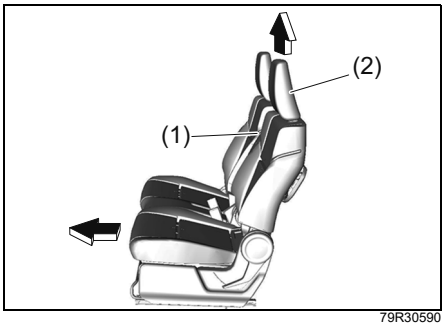
注 記

シートに強い衝撃をあたえないでください。シートが損傷することがあります。

■ フルフラットにするときは

1 アームレスト（1）を持ち上げ収納します。

2 前席のヘッドレスト（2）を外し、前席を前方へいっぱいまでスライドさせます。



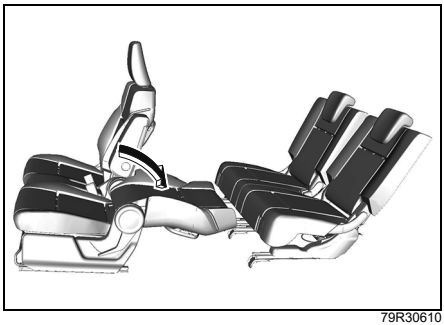
79R30590

3 後席を後方へいっぱいまでスライドさせます。

4 後席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。後席はフラットになりません。

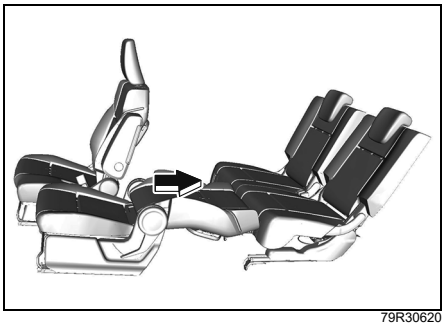

79R30600

5 前席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。



79R30610

6 後席に当たるまで、前席を後方へスライドさせます。



79R30620

■ もとにもどすときは

「**フルフラットにするときは**」と逆の手順で操作します。

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトは、**2-14 ページ**の「**シートベルトは正しく着用**」を参照のうえ、正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため全員着用させましょう。

お子さまもシートベルトを着用

→ **2-6ページ**
（お子さまを乗せるときは）

⚠警告

お子さまがベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいると、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



69RHS161

妊娠中や疾患のある方は

⚠警告

●妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。
●妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



80J075

シートベルト警告ブザー

助手席はタイプ別装備

前席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときにシートベルトを着用していないと、メーター内の前席シートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。
  → **3-87ページ（前席シートベルト警告灯）**

アドバイス

- ベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーはベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK (OFF) にするまで消灯しません。
- 助手席側の場合、助手席に乗員がすわっていないときブザーは鳴りません。ただし、助手席の座面に荷物などを載せていると鳴る場合があります。
- 警告灯は、運転席側・助手席側兼用です。

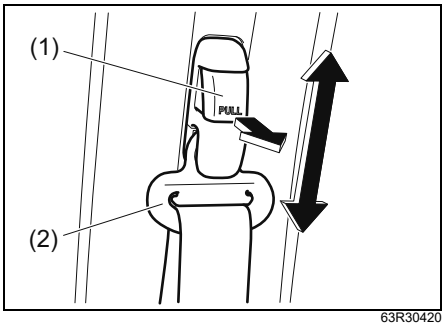
シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節（前席のみ）

身体の大きさにあわせて、シートベルトが正しく着用できるようにショルダーアンカー（2）の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー（1）を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



63R30420

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

1 運転席シートベルトを着用するときは、アームレストを収納します。
→ **5-22ページ（アームレスト）**

2 タングプレート（1）とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

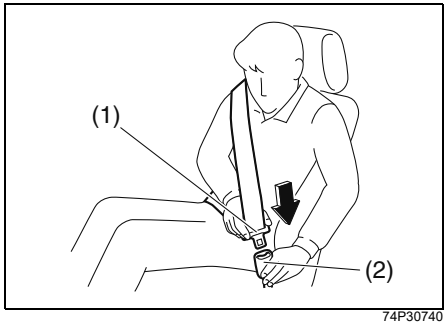


80J1147

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

3 タングプレート（1）をバックル（2）の差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



74P30740

4 ベルトを引っ張るなどして、タングプレートが確実に固定されていることを確認します。

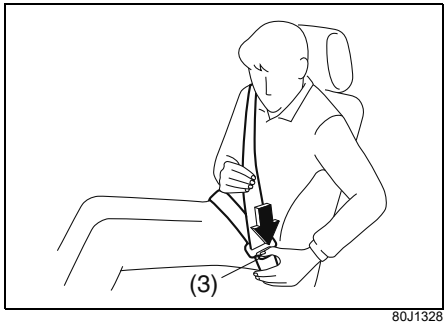
5 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

6 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

7 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン（3）を押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



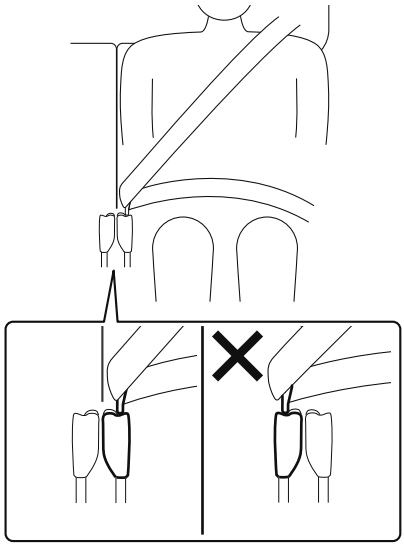
80J1328

アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

⚠ 警告

誤って隣の席用のバックルを使用すると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。
後席のシートベルトを着用するときは、必ずご自身の体に近いバックルを使用してください。

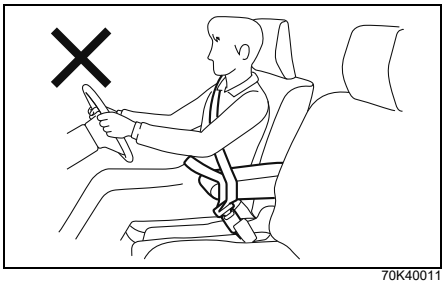

59R20380

シートベルトを正しく着用する

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあるため、シートベルトを正しく着用し、次のことに注意してください。

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腰部でなく腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに内蔵が強く圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前方に投げ出されるおそれがあります。**
- **アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下を通してください。**

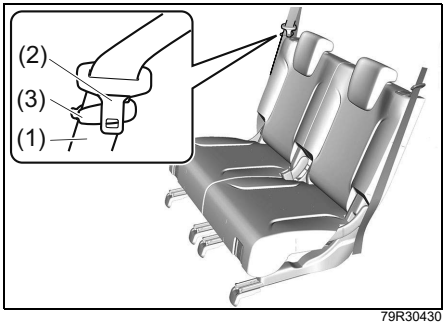


70K40011

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

後席に人を乗せないときは、シートベルト（1）およびタングプレート（2）を次の図のようにベルトガイド（3）にかけてください。



79R30430

⚠ 警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、マツダ販売店で点検を受けてください。**
- **ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。**
- **ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ 6-6ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）

⚠警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

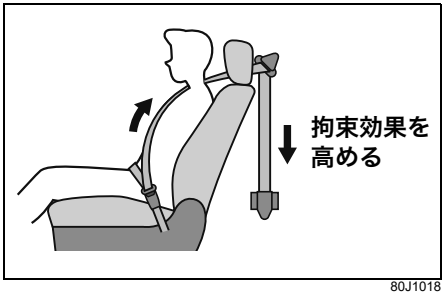
シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。衝突の強さなどによっては、運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動する場合と、シートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。
- 車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けたとき。SRSサイド／カーテンエアバッグシステムと連動しています。

→ 3-65ページ（SRSエアバッグシステムの作動）



80J1018

アドバイス

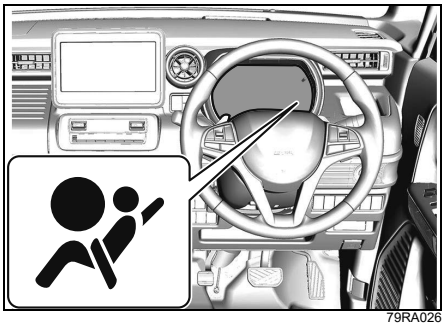
作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ 2-37ページ（部品の取り付け、取り外し、修理をするときは）

SRSエアバッグ警告灯


79RA026

メーターパネル内にあります。

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグが作動したまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-16ページ（警告灯）**

廃棄や廃車

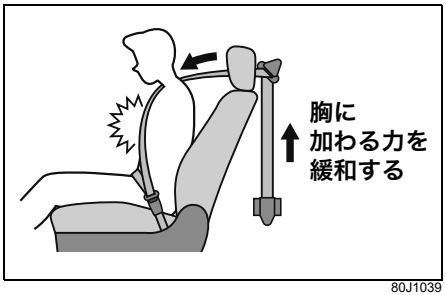
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、マツダ販売店にご相談ください。

シートベルト可変フォースリミッター（前席のみ）

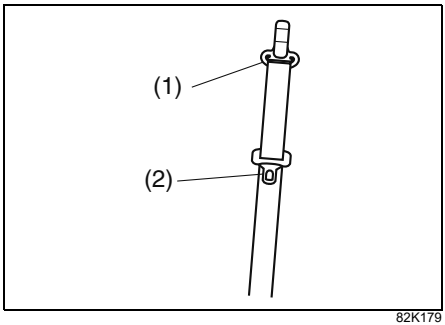
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻き取り装置内のシートベルト可変フォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを 2 段階に繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で交換してください。



82K179

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRSエアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

アドバイス

この車は､イベントデータレコーダー(EDR)システムにより､SRS エアバッグが作動したときのデータを記録･蓄積します。

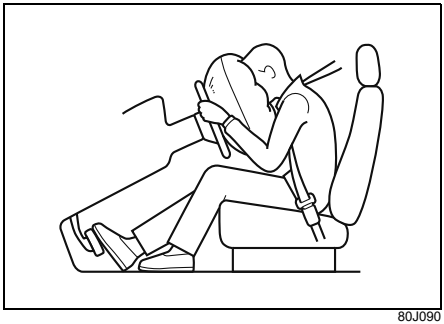
→　**データの記録について**

■ 運転席・助手席SRSエアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した運転席・助手席乗員の主に顔面への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

→　**3-54ページ（シートベルトの着用のしかた）**



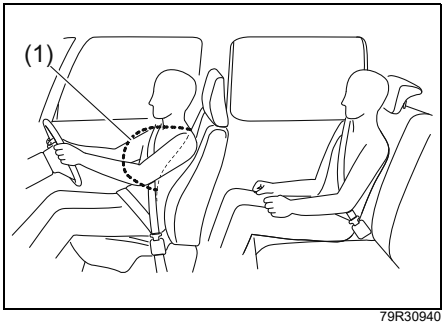
80J090

■ SRSサイドエアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席乗員の胸部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSサイドエアバッグがSRSカーテンエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS サイドエアバッグシステムは、ふくらんだSRSサイドエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席乗員の主に胸部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

→　**3-54ページ（シートベルトの着用のしかた）**



79R30940

(1)SRSサイドエアバッグ

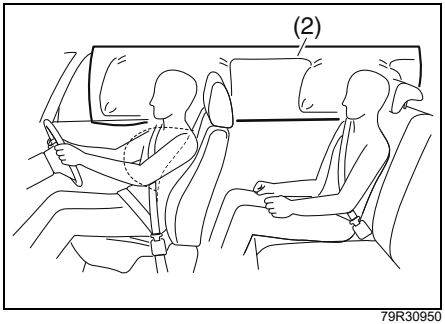
- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

■ SRSカーテンエアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席および後席外側乗員の頭部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSカーテンエアバッグがSRSサイドエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS カーテンエアバッグシステムは、ふくらんだSRS カーテンエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席および後席外側乗員の主に頭部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

→ **3-54ページ（シートベルトの着用のしかた）**



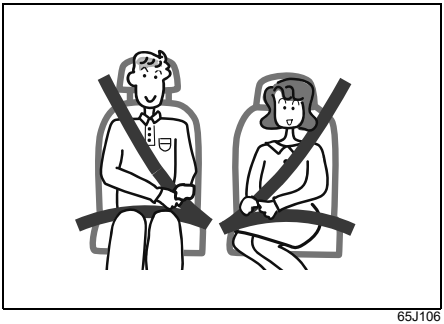
79R30950

(2)SRSカーテンエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

⚠ 警告

- SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。



65J106

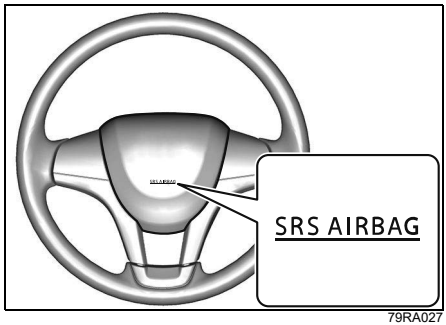
アドバイス

- 助手席 SRS エアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席 SRS エアバッグと同時にふくらみます。
- SRSサイド／カーテンエアバッグ装備車の場合、乗員の有無に関係なく、衝撃を受けた側の SRS サイド／カーテンエアバッグがふくらみます。

表示と収納場所

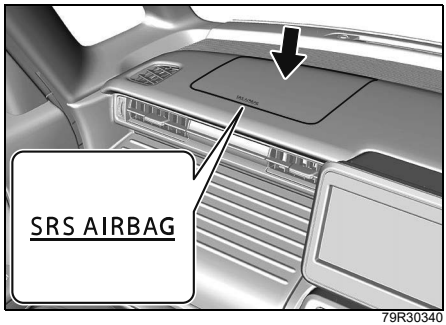
“SRS AIRBAG” の表示がある付近に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



79RA027

■ 助手席SRSエアバッグ

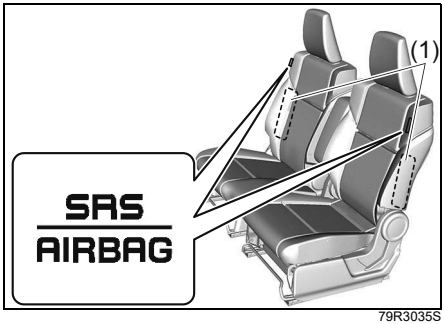


79R30340

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ SRSサイドエアバッグ

前席背もたれのドア側に収納されています。前席シートには、図のようなタグがついています。



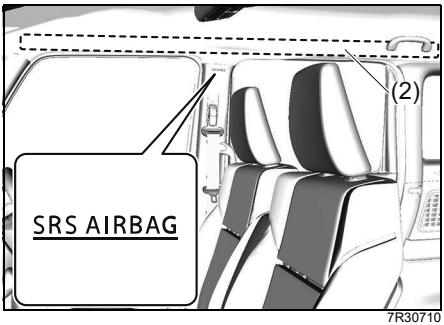
79R3035S

(1) SRSサイドエアバッグ

- 上図のイラストは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ SRSカーテンエアバッグ

運転席側および助手席側のルーフサイドに収納されています。また、装備車のピラーには図（運転席側を代表）のような表示がついています。



7R30710

(2) SRSカーテンエアバッグ

⚠警告

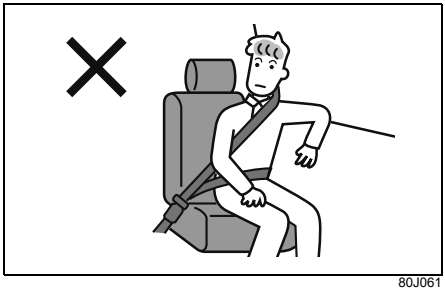
●エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、マツダ販売店で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
●エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

着座姿勢

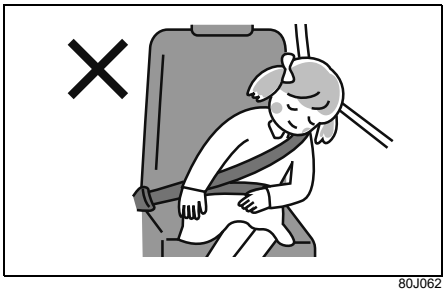
運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。
とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。
→ **2-13ページ（正しい運転姿勢）**

⚠警告

SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。とくにお子さまには注意してください。



80J061



80J062

お子さま用シートの取り付け

→ **2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-71ページ（お子さま用シートの選択について）**
→ **3-77 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
→ **3-79ページ（ISOFIX対応お子さま用 シートの固定）**

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたりSRS エアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

⚠警告

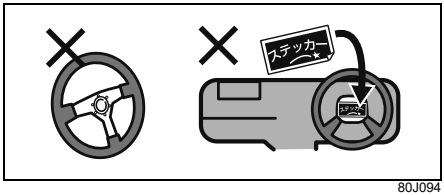
●サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。
●車両前部にグリルガードなどを装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
●無線機などを取り付けるときは、マツダ販売店にご相談ください。無線機の電波などがSRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。
●SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はマツダ販売店で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRS エアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
●SRSエアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にマツダ販売店にご相談ください。

- **ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など**
- **センターコンソールの修理、インパネまわり、前席下の修理および電気配線の修理**
- **オーディオ用品などの取り付け**
- **ダッシュボード周辺の板金塗装および修理**
- **前席シートの交換およびシートまわりの修理**
- **フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理**
- **センターピラーまわりの修理**

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠警告

●ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
●ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。万一のときにSRS エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。



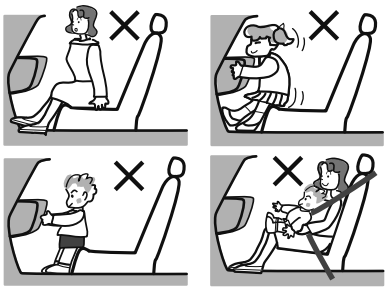
80J094

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

●助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

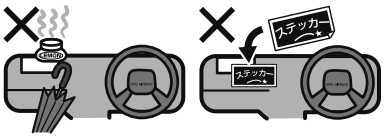
- インパネのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



80J095

- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。
  → 2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）
  → 3-71 ページ（お子さま用シートの選択について）

●エアバッグ収納部およびその周辺には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

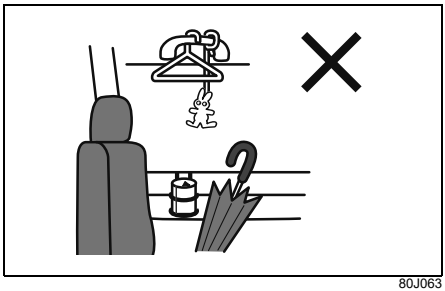
●フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（マツダ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

■ SRSサイド／カーテンエアバッグについて

⚠警告

●前席にシートカバーを取り付けるときは、SRS サイドエアバッグ装備車専用のマツダ純正シートカバーを使用し、付属の取扱説明書をよくお読みください。正しい向きと位置に取り付けないと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、純正の専用品以外のものを使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなる原因となります。

●ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、これらのものが飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。



80J063

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

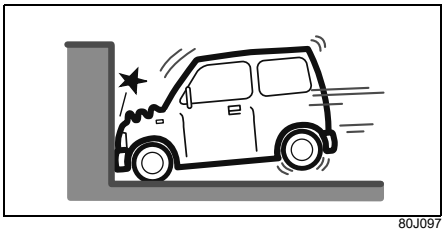
アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

運転席・助手席SRSエアバッグ

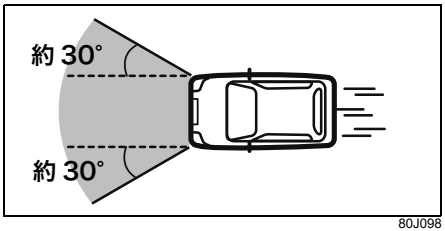
■ こんなとき作動します

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約 25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両前方左右約30°以内の方向から、上図の正面衝突と同等の強い衝撃を受けたとき

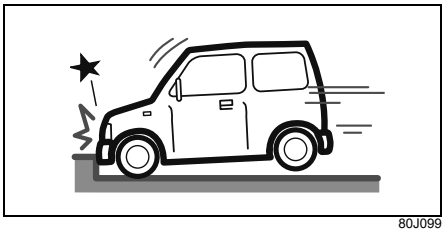


80J098

■ こんなとき作動することがあります

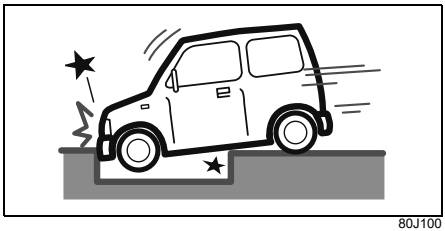
車体下部に強い衝撃を受けると、作動することがあります。

- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



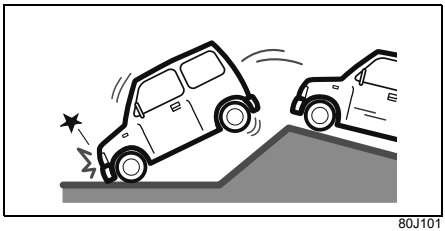
80J099

- 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき

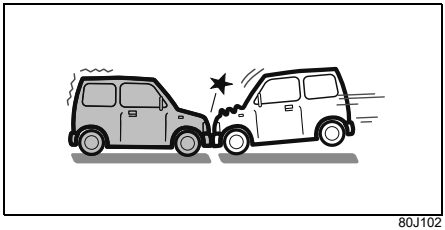


80J101

■ こんなとき作動しないことがあります

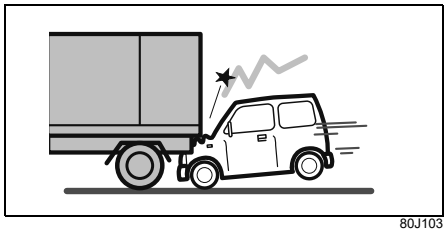
衝突の相手が変形または移動しやすかったり、自車の衝突部位が変形しやすかったりして強い衝撃が発生しない場合は作動しません。
また、衝突の角度が車両前方左右約 30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、50km/h 程度、もしくはそれ以下の速度で前面衝突したとき。



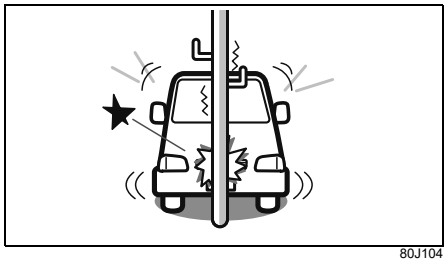
80J102

● トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



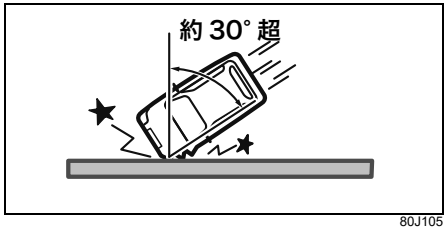
80J103

● 電柱や立木などに衝突したとき



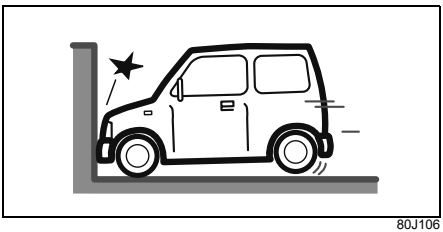
80J104

● 車両前方左右約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



80J105

● 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約 25km/h よりも低いとき

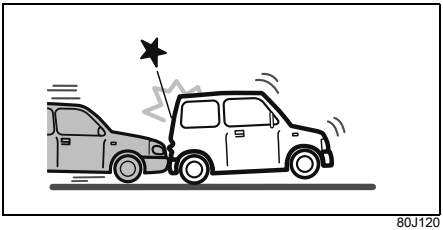


80J106

■ こんなときは作動しません

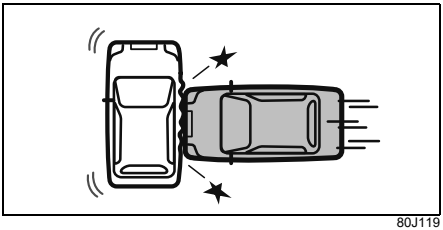
後方、横方向からの衝突、横転などでは作動しません。衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



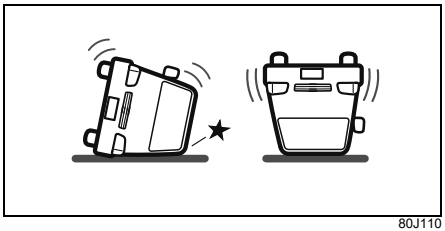
80J120

● 横方向からの衝突



80J119

● 横転や転覆をしたとき

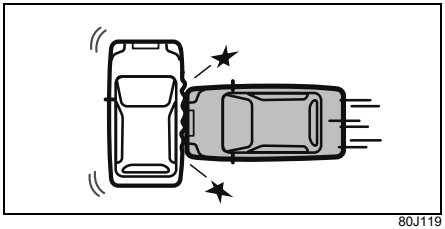


80J110

SRSサイド／カーテンエアバッグ

■ こんなとき作動します

● 一般的な乗用車に約 30km/h 以上の速度で真横から客室部に衝突されたとき、またはそれと同等以上の衝撃を受けたとき

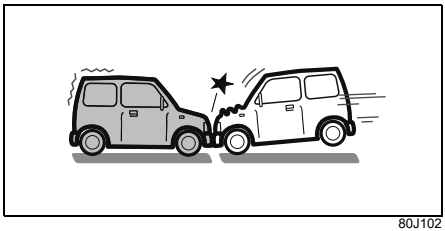


80J119

■ こんなとき作動することがあります

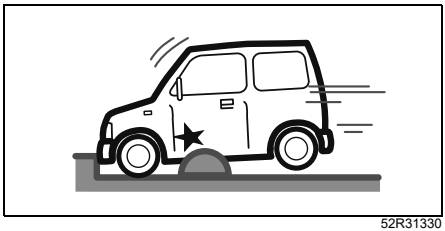
前面衝突でも横方向への衝撃が強いときは作動する場合があります。
また、車両下部に強い衝撃を受けたときに作動する場合があります。

● 前面衝突



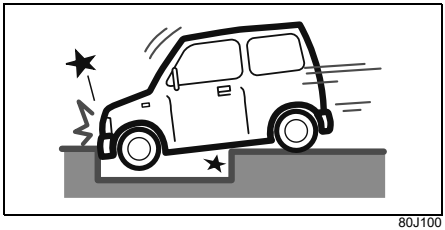
80J102

● 縁石や地面の突起物に衝突したとき



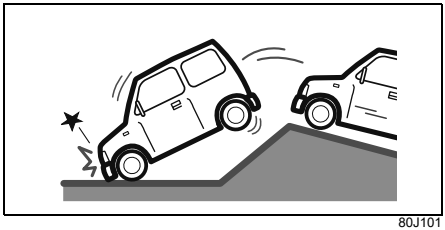
52R31330

● 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

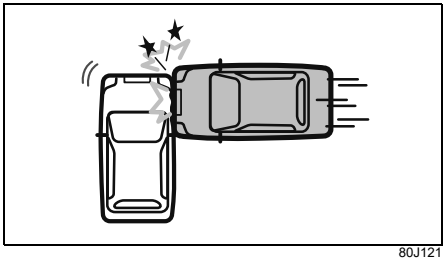
● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



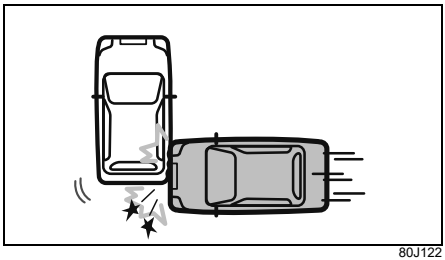
80J101

■ こんなとき作動しないことがあります

- 客室部以外（エンジンルームや荷室部）に側面から衝突されたとき

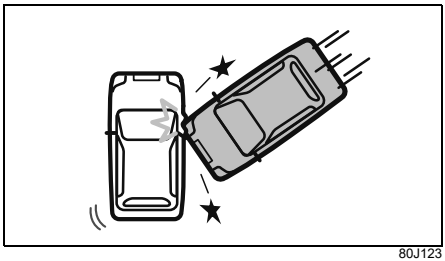


80J121



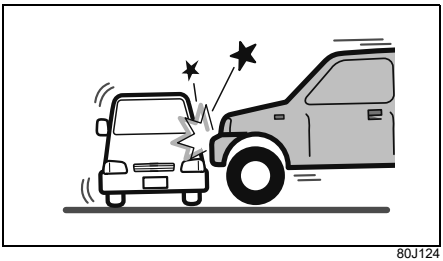
80J122

- 側面の斜め方向から衝突されたとき



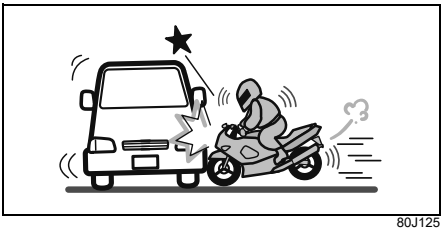
80J123

- 車高の高い車に側面から衝突されたとき



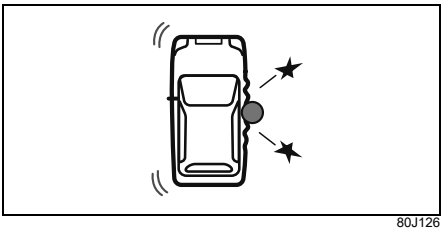
80J124

- 二輪車に側面から衝突されたとき



80J125

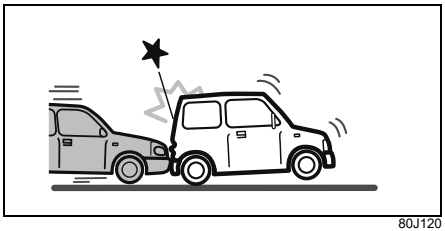
- 電柱、立ち木などに衝突したとき



80J126

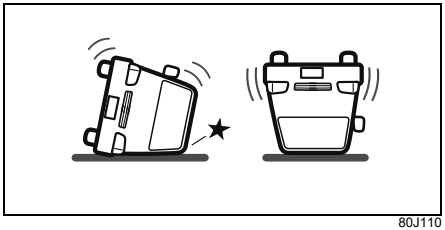
■ こんなときは作動しません

- 後方からの衝突



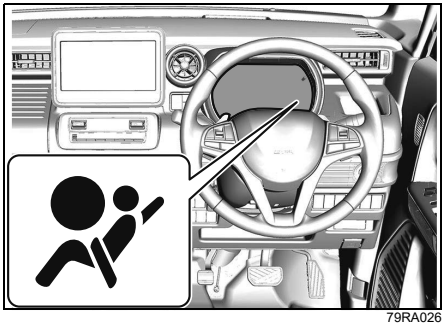
80J120

- 横転や転覆をしたとき



80J110

SRSエアバッグ警告灯



79RA026

メーターパネル内にあります。

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-16ページ（警告灯）**

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。



80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、マツダ販売店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

お子さま用シートの選択について

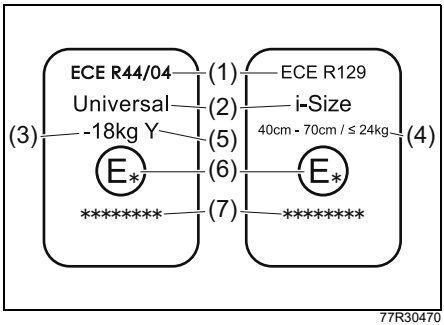
お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

- **2-6 ページ**の「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応お子さま用シート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。

→ **3-79ページ（ISOFIX対応お子さま用シートの固定）**

UN R44/129 の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

UN R44（※1）およびUN R129（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



77R30470

(1)法規番号(※2)
(2)お子さま用シートのカテゴリー(※3)
(3)対象となるお子さまの体重範囲
(4)対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重
(5)装置の仕様
(6)お子さま用シートを認可した国番号
(7)お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 UN R44およびUN R129とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 お子さま用シート本体の認証マークにECEとありますが、内容はUNと同じです。
※3 上図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

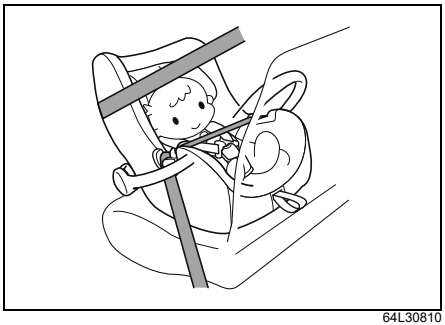
この車のマツダ純正お子さま用シートは、UN R44またはUN R129の基準に適合しています。

お子さま用シートの種類

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。



64L30810

チャイルドシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。



64L30820

ジュニアシート

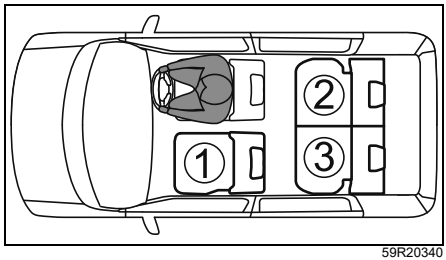
前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。



64L30830

座席位置別のお子さま用シート適合性について

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性



59R20340

シート位置番号	マーク
① (※1、※2、※3)	U
② (※2、※3)	U i-Size
③ (※2、※3)	U i-Size

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

i-Size 車両のi-Size（※4）お子さま用シートおよびISOFIX お子さま用シートに適しています。

テザーアンカーが装備されています。

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを絶対に使用しないでください。

※1 お子さま用シートを取り付けるときは、シートは一番後ろに下げてください。

※2 前向きお子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節してください。

※3 ヘッドレストとお子さま用シートが干渉するときは、ヘッドレストをお子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外してください。

※4 i-Size は、ISOFIX の使用を前提とし、乳幼児（お子さま）の頭頸部（頭や首）をしっかりと保護する構造を備えたチャイルドシートの安全基準です。従来の体重を基準としたグループ分けではなく、身長を基準にグループ分けされています。

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性の詳細情報

	着席位置		
シート位置番号	①	②	③
シートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	有 （※1）	有	有
i-Sizeお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	無	有	有
横向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：L1/L2）	無	X	X
後ろ向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：R1/R2X/R2/R3）	無	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
前向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：F2X/F2/F3）	無	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
ジュニアシートに適する着席位置（治具：B2/B3）	B2, B3 （※2）	B2, B3	B2, B3

※1　前向きお子さま用シートのみ取り付けができます。取り付けるときはシートを一番後ろに下げてください。
※2　取り付けるときはシートを一番後ろに下げてください。

＜上表に記入する文字の説明＞
有　：お子さま用シートを取り付けることができます。
無　：お子さま用シートを取り付けることができません。
X　：この治具に対応するISOFIX対応お子さま用シートの取り付けには適していません。

ISOFIX 対応お子さま用シートはいくつかの「治具」および「サイズ等級」に分けられます。上表に示す「治具」の着席位置でお子さま用シートを使用することができます。「治具」および「サイズ等級」の関係は次のページをお読みください。
お子さま用シートの「サイズ等級」を確認するために、お子さま用シートに付属の取扱説明書をお読みください。お手持ちのお子さま用シートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、お子さま用シートの「車種別適合表」を参照するか、製造元または販売店にご相談のうえ、適合性を確認してください。

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートの、サイズ等級と治具の関係について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。サイズ等級と治具の関係は次の一覧表をご覧ください。
お子さま用シートの「サイズ等級」を確認するために、お子さま用シートに付属の取扱説明書をお読みください。お手持ちのお子さま用シートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、お子さま用シートの「車種別適合表」を参照するか、製造元または販売店にご相談のうえ、適合性を確認してください。

質量グループ（体重）	サイズ等級	治具	説明
0（10kgまで）	F	L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
	G	L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
	E	R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
0+（13kgまで）	E	R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
	D	R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	—	R2X	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート(R2とは別形状)
	C	R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
I（9～18kg）	D	R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	—	R2X	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート(R2とは別形状)
	C	R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	B	F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
	B1	F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート(F2とは別形状)
	A	F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
II（15～25kg）	—	—	—
III（22～36kg）	—	—	—

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

■ ジュニアシートタイプのお子さま用シートの治具について

治具	説明
B2	幅が440 mmのジュニアシート
B3	幅が520 mmのジュニアシート

お子さま用シートのシートベルトによる固定

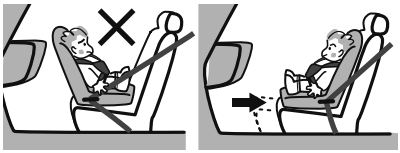
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **3-71 ページ（お子さま用シートの選択について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-79ページ**の「**ISOFIX対応お子さま用シートの固定**」をお読みください。

⚠ 警告

●助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと､お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。

●やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。

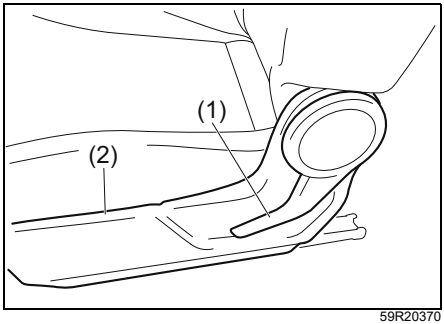


80J027

固定のしかた

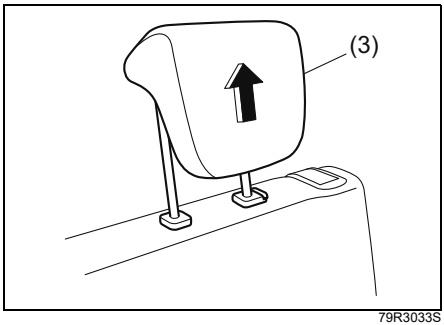
この項目では、お子さま用シートを後席に取り付ける手順を説明しています。助手席に取り付ける場合は、次のこともあわせて確認してください。

- 助手席は、一番後ろに下げてください。
- 下図のリクライニングレバー（1）とカバー（2）の間にシートベルトを通さないでください。



59R20370

1 ヘッドレスト（3）は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ **3-47ページ(ヘッドレストの操作方法と取り外し・取り付け)**



79R3033S

⚠ 警告

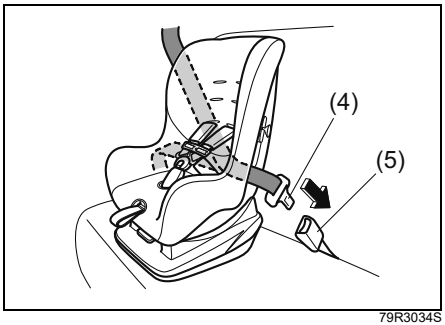
ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

2 お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節します。

3 座席が確実に固定されているか確認します。

4 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

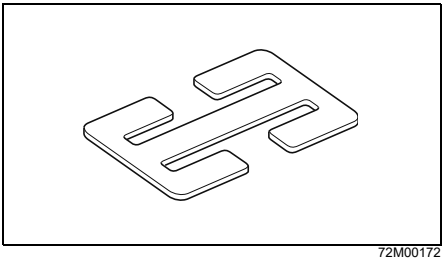
5 カチッと音がするまで、タングプレート（4）をバックル（5）にしっかりと差し込みます。



79R3034S

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

6 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップも備わっていない場合は、ロッキングクリップ（市販品）を使用してしっかりと固定します。



72M00172

- 上図のロッキングクリップ（市販品）は代表例です。

⚠警告

お子さま用シートのシートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さま用シートは、シートベルト固定機構またはロッキングクリップで確実に固定してください。

7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

⚠警告

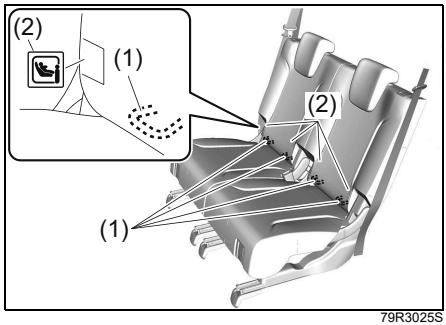
お子さま用シートが確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さま用シートは、確実に固定してください。

ISOFIX対応お子さま用シートの固定

ISOFIX お子さま用シート固定専用金具

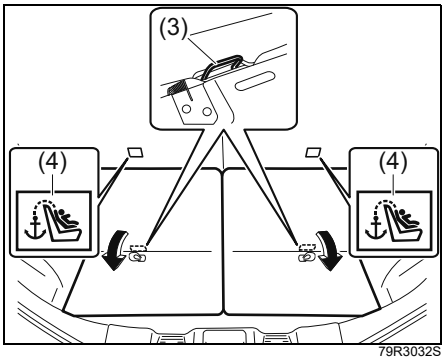
後席には、UN R44（**3-71 ページ**参照）の基準に適合したISOFIX（※1）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれのすきまにある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。



(1) ISOFIXアンカー (2)マーク

- 背もたれ裏側にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。



(3) テザーアンカー (4)マーク

アドバイス

テザーアンカーがある付近には、上図のようなマーク（4）がついています。

※1 ISOFIXとは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取り付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※2)】の規格です。

※2 ISOとは、International Organization for Standardization の略で国際標準化機構のことです。

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **3-71 ページ（お子さま用シートの選択について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-77ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

■ 固定のしかた

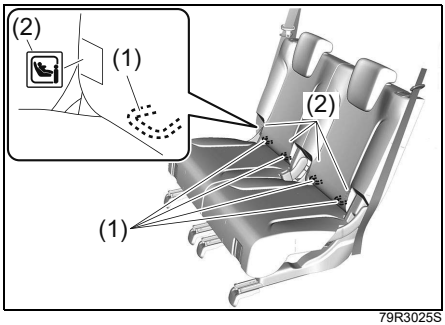
⚠警告

- **お子さま用シートが確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時にお子さま用シートが飛び出し、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  必ずお子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- **シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺に異物やシートベルトなどがないか確認してください。
- **荷物の固定をするときに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用すると、アンカーが曲がったり損傷したりして、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。

お子さま用シートの ISOFIX アンカーによる固定

1 ISOFIXアンカー（1）の位置を確認します。

- 座面と背もたれのすきまにあります。



79R3025S

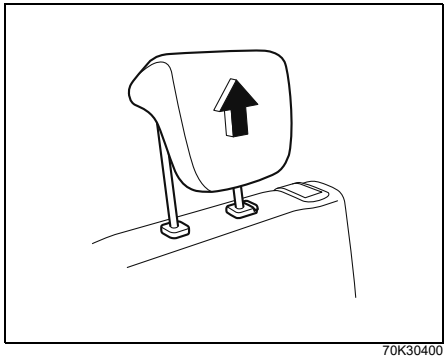
(1) ISOFIXアンカー (2)マーク

アドバイス

ISOFIX アンカーがある付近の背もたれには、上図のようなマーク（2）がついています。

2 後席のヘッドレストがお子さま用シートに当たるときは、ヘッドレストの高さを調節するか取り外します。

→ **3-47ページ(ヘッドレストの操作方法と取り外し・取り付け)**



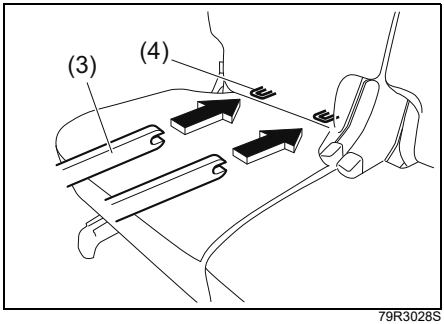
70K30400

⚠警告

- **ヘッドレストが当たった状態では、お子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取外してください。**
- **背もたれの無いジュニアシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取り付けてご使用ください。衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

3 座席が確実に固定されているか確認します。

4 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクター（3）をISOFIX アンカー（4）へ差し込みます。



79R3028S

(3) コネクター　　(4) ISOFIXアンカー

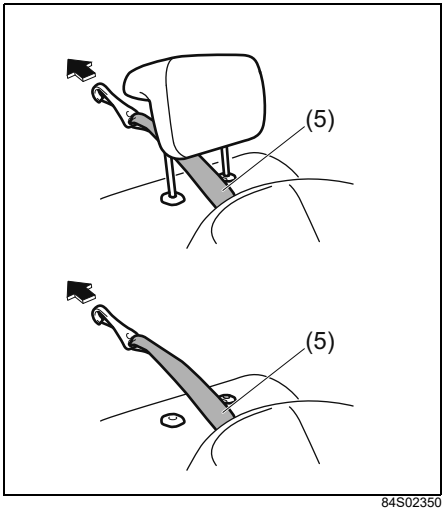
5 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

お子さま用シートのテザーアンカーによる固定

1 お子さま用シートがISOFIX アンカーで確実に取り付けられているか確認します。
→ **3-80ページ（お子さま用シートのISOFIXアンカーによる固定）**

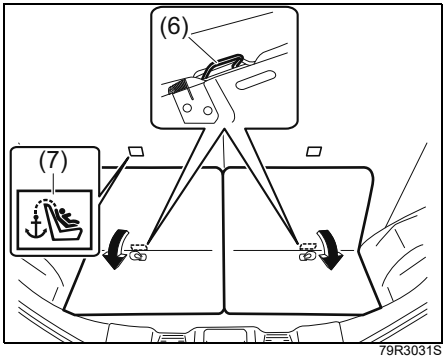
2 テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

- ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間をテザーベルト（5）がねじれないように通します。



84S02350

- 背もたれ裏側にあるテザーアンカー（6）にテザーベルトを取り付けます。



79R3031S

(6) テザーアンカー (7)マーク

アドバイス

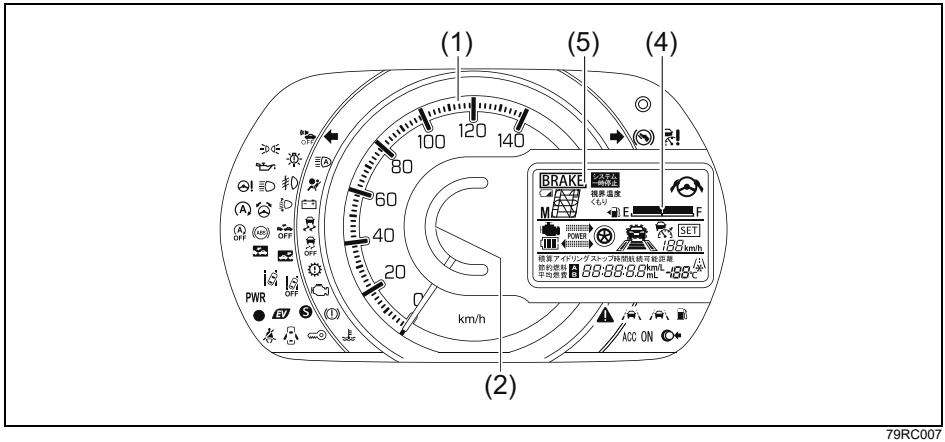
テザーアンカーがある付近には、上図のようなマーク（7）がついています。

3 テザーベルトにねじれやたるみが無く確実に取り付けられているか確認します。

メーターの見かた

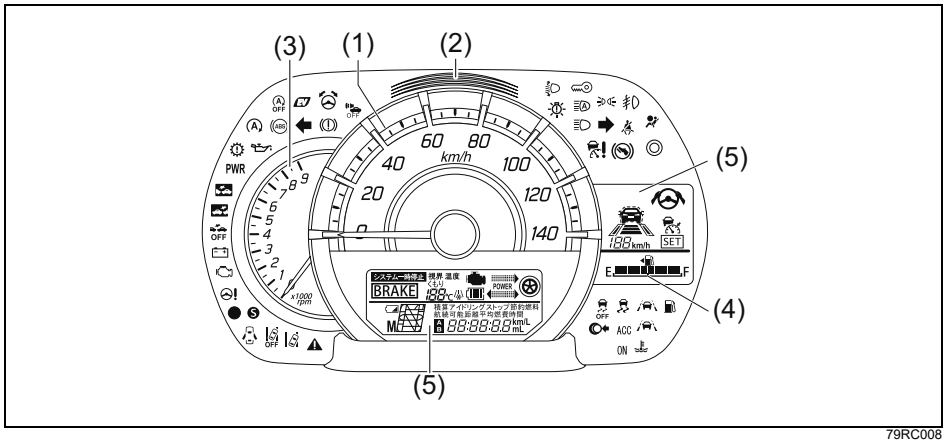
イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。

タコメーターなし車



79RC007

タコメーター装備車



79RC008

(1) スピードメーター(速度計)
(2) ステータスインフォメーションランプ
(3) タコメーター(エンジン回転計)
(4) 燃料計
(5) マルチインフォメーションディスプレイ

→ **3-105ページ（マルチインフォメーションディスプレイ（タコメーターなし車））**
→ **3-119ページ（マルチインフォメーションディスプレイ（タコメーター装備車））**

スピードメーター（速度計）

走行速度がkm/hで示されます。

ステータスインフォメーションランプ

燃費効率が良い運転をしていると判定されると、ステータスインフォメーションランプ（2）が青色から緑色に変化します。

- 減速エネルギー回生機能が作動しているときは、白色に変化します。
  → **4-133ページ（マイルドハイブリッド）**

- 次のようなときは、ステータスインフォメーションランプは緑色へ変化しません。
  - セレクトレバーが D の位置以外のとき
  - S モードスイッチ（タイプ別装備）がONのとき

アドバイス

- アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中も緑色に変化します。
  → **4-137 ページ（アイドリングストップシステム）**

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、ステータスインフォメーションランプを変化させなくすることができます。
  → **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

タコメーター（エンジン回転計）

タイプ別装備

1 分間あたりのエンジン回転速度（回転数）が示されます。

注 記

- **エンジン保護のため、指針がレッドゾーン（※）に入らないように運転してください。**
  ※エンジンの許容回転を超えていることを示す赤色表示範囲

- **シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。**

アドバイス

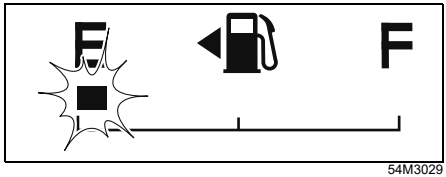
ヘッドアップディスプレイ装備車は、タコメーターをディスプレイに表示することができます。
→ **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量の目安が示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。
  → **3-88ページ（燃料残量警告灯）**

燃料残量警告灯が点灯するとともに燃料計の目盛り（一つ）が点滅したときは、燃料がほとんどありません。ただちに給油してください。



54M3029

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の左にある ◀ 印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側の車両後方にあることを示します。

メーターの照明

メーターの照明は、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、ACC または LOCK（OFF）にすると消灯します。

タコメーターなし車

→ **3-112ページ（メーターの明るさ調節）**

タコメーター装備車

→ **3-126ページ（メーターの明るさ調節）**

警告灯・表示灯の見かた

次に示す警告灯・表示灯のメーター内の位置については、**1-16ページ**、**1-20ページ**をご覧ください。

警告灯


82K170

(1) ブレーキ警告灯(赤色)

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  - ブレーキ液が不足している
  - パーキングブレーキをかけている
  - ブレーキシステムに異常がある

- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠ 警告

●次のようなときはただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。
- **パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。**
- **ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したままのとき。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。**

●パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが"ピピピッ、ピピピッ"と鳴り続けます。
→ 4-13ページ(パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー)


80J221

(2) 前席シートベルト警告灯

運転者または助手席の乗員がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときにシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- シートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- シートに水や飲み物などをこぼさないように気をつけてください。
  → **2-38ページ（飲み物などをこぼしたときは）**

アドバイス

- シートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーはシートベルトを着用しなくても、約95秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にするまで消灯しません。
- 助手席側の場合、助手席に乗員がすわっていないときは点灯しません。ただし、助手席の座面に荷物などを載せていると作動する場合があります。
- 助手席にお子さまや小柄な大人が乗車したり、クッションを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しない場合があります。


80J111

(3) SRSエアバッグ警告灯

- 次のような場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯します。
  - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
  - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

次のような場合、ただちに使用を止め、マツダ販売店にご連絡ください。万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。
●エンジンスイッチを ON にしても点灯しない
●エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない
●運転中に点灯


80J225

(4) 燃料残量警告灯

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。
  - 点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。また、そのまま給油しないでいると、エンジンスイッチを ON にするごとに警告ブザーが鳴ります。

- システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。
  → **3-108ページ、3-128ページ（燃料計）**

アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、燃料残量警告がディスプレイに表示されます。
  → **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**



80J127

(5) ABS警告灯

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。マツダ販売店で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。



65P30800

(6) 水温警告灯(赤色)

エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると赤色に点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは赤色に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間赤色に点灯したあと消灯します。（※）

  ※エンジン冷却水温が低いときは、赤色に点灯したあと青色に点灯します。

- 赤色に点滅、または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

→ **7-31ページ（オーバーヒートしたときは）**

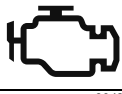

80J217

(7) オートレベリング警告灯

タイプ別装備

LEDヘッドライト装備車では、オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約２秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。
  再びエンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。
  消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。


80J222

(8) エンジン警告灯

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。
●枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する
●やむをえず走行する場合はアクセルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する


80J408

(9) パワーステアリング警告灯

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。


80J223

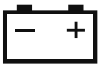
(10) 油圧警告灯

エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてマツダ販売店にご連絡ください。

注 記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



80J226

(11) 充電警告灯

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、マツダ販売店にご連絡ください。



80J219

(12) トランスミッション警告灯

CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。



80J216

(13) イモビライザー警告灯

イモビライザーシステムまたはアドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムの異常が考えられます。鉛バッテリー電圧が正常な状況での操作でこの表示がされたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯することがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。
  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**


82K274

(14) 半ドア警告灯

いずれかのドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。

⚠警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- エンジンスイッチが LOCK（OFF）の位置
- 点灯したまま15分が経過
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、半ドア警告がディスプレイに表示されます。→ **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**
- メーター内の半ドア警告灯は、ボンネットまたはフューエルリッドが完全に閉まっていなくても点灯しません。


81P30700

(15) LEDヘッドライト警告灯

タイプ別装備

LEDヘッドライトに異常があると、エンジンスイッチが ON でライトスイッチを ≡D またはAUTOの位置にしたときに点灯します。点灯した場合、ライトスイッチをOFFの位置にもどしても、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまで点灯し続けます。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約２秒間点灯したあと消灯します。
- ライトスイッチがAUTO位置であっても、日中など明るい状態ではヘッドライトが点灯しないため、警告灯は点灯しません。
- エンジン回転中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。



(16) 携帯リモコン電池消耗警告灯

70K122

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、約15秒間表示されます。電池交換のうえ、警告灯をリセットしてください。
→ **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**



(17) ハンドルロック未解除警告灯

63R30550

エンジンスイッチが ON のときに、ハンドルロックが未解除の場合に点灯します。
→ **4-3ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**



(18) ハイビームアシスト警告灯

63R30580

ハイビームアシストのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときにオレンジ色に点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。



(19) マスターウォーニング

81M10110

- ステレオカメラのシステムが一時停止したとき点滅します。
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

- 超音波センサーのシステムが一時停止したとき点滅します。
  → **4-80ページ（超音波センサーの一時停止・故障）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと約2秒間点滅してから消灯します。


82M30400

(20) ブレーキリクエストインジケーター

タイプ別装備

アダプティブクルーズコントロールの減速制御・追従制御中に、先行車が停車した場合は、自車も追従して停車します。停車してから制御が自動的に解除されるまでの間（最大約2秒間）点灯します。
制御の解除後はクリープ現象により車両が動き出すため、停車後は速やかにブレーキペダルを踏んでください。
→ **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**


54P000233

(21) アダプティブクルーズコントロール警告灯

タイプ別装備

- アダプティブクルーズコントロールシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。
  → **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。



63R30590

(22) 車両接近通報装置警告灯

- 車両接近通報装置に異常があると点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。
  → **4-27ページ（車両接近通報装置）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。


79R3026S

(23) 車線逸脱抑制機能インジケーター(オレンジ色)

タイプ別装備

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、数秒間点灯したあと消灯します。点灯しない場合、車線逸脱防止の動作を確認できません。車線逸脱抑制機能ON／OFFスイッチを使用してOFFにして、使用しないでください。また、マツダ販売店で点検を受けてください。

車線逸脱抑制機能で以下の作動状態のときに点灯します。
- 車線逸脱抑制機能がアクティブ状態です。機能が作動しています。
- 車線逸脱抑制機能の異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

→ **4-52ページ（車線逸脱抑制機能）**


79R3026S

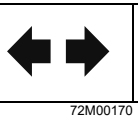
(24) 車線逸脱抑制機能インジケーター(白色)

タイプ別装備

車線逸脱抑制機能で以下の作動状態のときに点灯します。
- 車線逸脱抑制機能がスタンバイ状態です。機能は作動しません。
- 車線逸脱抑制機能がレディ状態です。機能が作動できます。

→ **4-52ページ（車線逸脱抑制機能）**

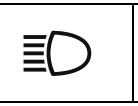
表示灯


72M00170

(25) 方向指示器表示灯

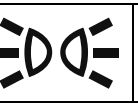
- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

→ **7-37ページ（電球を交換するときは）**


80J212

(26) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。


82K096

(27) ライト点灯表示灯

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

- お車のタイプによっては、アンサーバック機能によりLEDイルミネーションなどが点灯している間、点灯します。


52RM20600

(28) Sモード表示灯

タイプ別装備

Sモードスイッチ がONのときに点灯します。

→ **4-16ページ（Sモードスイッチ）**

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、Sモード表示がディスプレイに表示されます。

→ **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**



63R31030

(29) DSC&TCS OFF表示灯

DSC&TCS OFFスイッチを長押しすると点灯します。
→ **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**


79K019

(30) DSC&TCS作動表示灯

- TCS（トラクションコントロールシステム）または DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動すると、小刻みに点滅します。
- DSC&TCSのシステムに異常があると点灯します。
→ **4-28ページ（DSC&TCS装備車の取扱い）**


65P30800

(31) 低水温表示灯(青色)

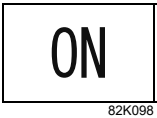
エンジンスイッチが ON のときに、エンジン冷却水温が低いと青色に点灯し、エンジンが暖まると消灯します。

- 暖機を十分にしても青色に点灯したままのときは、センサーの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。


82K174

(32) プッシュ表示灯

セレクトレバーが P 位置で、ブレーキペダルを踏んで点灯したときは、エンジンの始動が可能です。
→ **4-5ページ**
（アドバンストキーレスエントリー& キーレスプッシュボタンスタートシステム）



82K098

(33) IG ON表示灯

エンジン停止状態で、エンジンスイッチが ON 位置にあると点灯します。
→ **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**



82K097

(34) ACC表示灯

エンジンスイッチが ACC 位置にあると点灯します。
→ **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたして約60分が経過すると、自動的に消灯してエンジンスイッチが LOCK（OFF）位置にもどります。
- ブレーキペダルが踏まれていない
- セレクトレバーが P 位置
- すべてのドアが閉まっている



72M00032

(35) アイドリングストップ表示灯

走行中に、エンジンが自動停止する条件（スタンバイ条件）をみたすと点灯します。
→ **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。



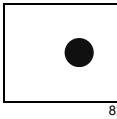
63R31040

(36) アイドリングストップシステムOFF表示灯

- アイドリングストップシステムOFFスイッチを押すと点灯します。
  → **4-145ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）**

- 次のような状況になると点滅します。
  - アイドリングストップシステムに異常があるとき
  - エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期であるとき
    → **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。


82K269

(37) セキュリティアラームインジケーター

- セキュリティアラームが<**警報モード**>のときに、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、小刻みに点滅して約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。
  セット中は、2秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを ON にしたときに約 8 秒間小刻みに点滅します。
  → **3-29ページ（セキュリティアラーム）**

- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに約15秒間、1秒間隔で点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

システムの異常によっては、エンジンスイッチが ON のときに点滅が継続する場合があります。



72M20303

(38) デュアルカメラブレーキサポート(DCBS) OFF表示灯

- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  → **4-72ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 3 秒間点灯したあと消灯します。



72M20304

(39) デュアルカメラブレーキサポート(DCBS) 作動表示灯

- デュアルカメラブレーキサポートまたは誤発進抑制機能が作動中に点滅します。
  → **4-43ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））**
  → **4-48ページ（誤発進抑制機能）**

- ステレオカメラのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。
- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS)
    → **4-43ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））**
  - 誤発進抑制機能
    → **4-48ページ（誤発進抑制機能）**
  - 先行車発進お知らせ機能
    → **4-58ページ（先行車発進お知らせ機能）**
  - 標識認識機能
    → **4-73ページ（標識認識機能）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

- エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、ほかの表示灯より長いですが異常ではありません。
- 鉛バッテリーの性能が弱っている場合、エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、一度消灯した後に再度約6秒間点灯することがあります。



79R10130

(40) 後退時ブレーキサポート作動表示灯

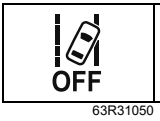
- 後退時ブレーキサポートまたは後方誤発進抑制機能が作動中に点滅します。
  → **4-82ページ（後退時ブレーキサポート）**
  → **4-85ページ（後方誤発進抑制機能）**

- 後退時ブレーキサポート、後方誤発進抑制機能、リヤパーキングセンサーのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。
  超音波センサーが一時停止のときも点灯し、マスターウォーニングも点滅します。
  → **4-79ページ（超音波センサー）**

- 超音波センサーによる電子制御システムに異常があると、点灯して次の機能が停止します。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 後退時ブレーキサポート
    → **4-82ページ（後退時ブレーキサポート）**
  - 後方誤発進抑制機能
    → **4-85ページ（後方誤発進抑制機能）**
  - リヤパーキングセンサー
    → **4-88ページ（リヤパーキングセンサー）**

  また、超音波センサーが故障のときも点灯します。
  - 超音波センサー
    → **4-79ページ（超音波センサー）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約４秒間点灯したあと消灯します。

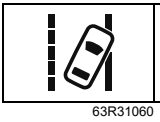


63R31050

(41) 車線逸脱警報OFF表示灯

- 車線逸脱警報OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  → **4-73ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 3 秒間点灯したあと消灯します。


63R31060

(42) 車線逸脱警報作動表示灯

- 車線逸脱警報またはふらつき警報が作動中に点滅します。
  → **4-51ページ（車線逸脱警報）**
  → **4-57ページ（ふらつき警報）**

- ステレオカメラのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。
- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 車線逸脱警報
    → **4-51ページ（車線逸脱警報）**
  - ふらつき警報
    → **4-57ページ（ふらつき警報）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。


63R30570

(43) フォグランプ点灯表示灯

タイプ別装備

フォグランプが点灯している間、点灯します。


63R30580

(44) ハイビームアシスト作動表示灯

ハイビームアシストのシステムが作動すると緑色に点灯します。


63R30600

(45) EV表示灯

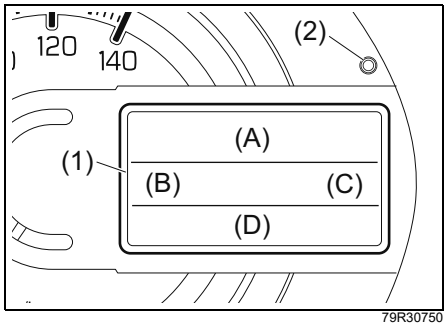
モーターによるクリープ走行時に点灯します。
→ **4-133ページ（マイルドハイブリッド）**


79R30490

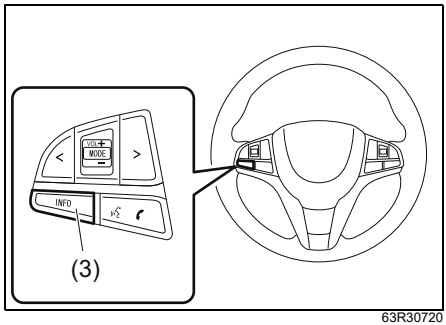
(46) パワーモード表示灯

パワーモードがONのとき点灯します。
→ **3-143ページ（パワーモードスイッチ）**

マルチインフォメーションディスプレイ（タコメーターなし車）



79R30750



63R30720

(1) マルチインフォメーションディスプレイ
(2) 表示切替えノブ
(3) インフォスイッチ（タイプ別装備）

表示位置	表示される内容
(A)	●携帯リモコン電池消耗警告灯 ●セレクトレバー位置表示 ●ギヤポジション表示 ●M（マニュアル）モード表示 → **3-107ページ** ●燃料計 → **3-108ページ** ●システム一時停止表示 → **4-38ページ** ●前方衝突警告表示 → **4-71ページ** ●手放し警告表示 → **3-114ページ**
(B)	●エネルギーフローインジケーター → **3-108ページ**
(C)	●アダプティブクルーズコントロール表示 ●SET表示 → **3-108ページ** ●先行車発進お知らせ表示 → **4-58ページ**

表示位置	表示される内容
(D)	●外気温 ●オドメーター （積算距離計） ●トリップメーター （区間距離計） → **3-109ページ** ●瞬間燃費 ●平均燃費 → **3-110ページ** ●航続可能距離 → **3-111ページ** ●アイドリングストップ情報 → **3-111ページ** ●照明コントロール表示 → **3-112ページ**

■ 表示の切替え

表示位置（D）は、メーター内の表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を押すごとに、次の番号の順に表示が切り替わります。

①オドメーター（積算距離計）
②トリップメーター（区間距離計）
③瞬間燃費
④平均燃費
⑤航続可能距離
⑥積算アイドリングストップ節約燃料
⑦積算アイドリングストップ時間
⑧照明コントロール表示（※）

※照明コントロール表示については、次の参照先をお読みください。
→ **3-112ページ**
（メーターの明るさ調節）

⚠ 警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

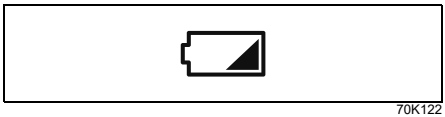
アドバイス

●表示は、ノブもしくはスイッチを離したときに切り替わります。
●走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。
→ **3-90ページ（エンジン警告灯）**

●表示される次の値は目安です。実際とは異なる場合があります。
- 瞬間燃費
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 積算アイドリングストップ節約燃料

●走行後、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にすると、1回の運転に対するエコ運転の結果が表示されます。
→ **3-113ページ**
（エコ運転表示機能）

携帯リモコン電池消耗警告灯



70K122

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、約 15 秒間点灯します。電池交換のうえ、警告灯をリセットしてください。

→ **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**

セレクトレバー位置表示



74P30540

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（A）に現在のセレクトレバーの位置が表示されます。

→ **4-14ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）**

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、セレクトレバー位置をディスプレイに表示することができます。

→ **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

ギヤポジション表示

マニュアルモード付車



63R30730

次の操作をしてマニュアルモードにすると、現在のギヤ位置を示し、上図のいずれかが表示されます。

- セレクトレバーを M に入れる
- パドルシフトスイッチを手前に引く

→ **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、ギヤポジションがディスプレイに表示されます。

→ **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

M（マニュアル）モード表示

マニュアルモード付車



63R30740

次の操作をして、マニュアルモードにすると表示されます。

- セレクトレバーを M に入れる
- パドルシフトスイッチを手前に引く

→ **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、マニュアルモード表示がディスプレイに表示されます。

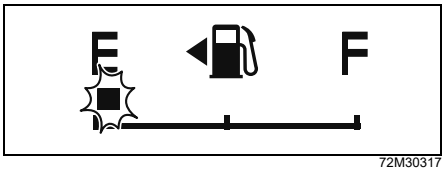
→ **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、表示位置（A）に燃料残量の目安が表示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。また、あわせて燃料計の目盛り（一つ）が点滅したときは、燃料がほとんどないことをお知らせしています。

→ **3-88ページ（燃料残量警告灯）**



72M30317

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから正しい量を示すまでに、少し時間がかかる場合があります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の左にある◀印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側の車両後部にあることを示します。

エネルギーフローインジケーター

マイルドハイブリッドが作動しているかどうかを確認できます。

→ **4-134ページ（エネルギーフローインジケーター）**

アダプティブクルーズコントロール表示

タイプ別装備



79R3015S

クルーズスイッチを押して、アダプティブクルーズコントロールシステムの目標車速が設定できる状態になると表示されます。

→ **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

SET表示

タイプ別装備

SET

81P40100

アダプティブクルーズコントロールシステムの目標車速が設定されると表示されます。

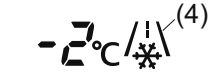
→ **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

外気温

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（D）に外気温が℃単位で表示されます。

- 外気温が氷点下近くになると、外気温の右側にフリーズマーク（雪の結晶マーク）が点灯します。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。
  → **6-18ページ**
  （雪道を走行するとき）

図の値は表示例です



79RA009

(4) フリーズマーク

⚠注意

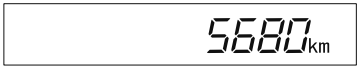
フリーズマークの点灯は目安です。気象状況によっては、フリーズマークが点灯しなくても路面が凍結している場合があります。注意して走行してください。

アドバイス

- 外気温はセンサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温と異なる場合があります。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅れたりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車時または低速走行時
  - 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）

オドメーター（積算距離計）

図の値は表示例です

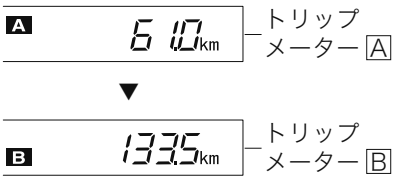


63R30630

新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

トリップメーター（区間距離計）

図の値は表示例です



79R30780

リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- **A** および **B** の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞

A：出発時にリセットして、出発後の距離を計測

B：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

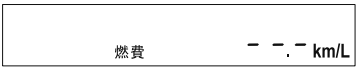
● リセットするときは、表示が「0.0」になるまで表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

瞬間燃費

図は表示例です



79R30790

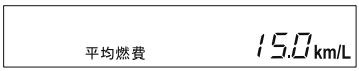
走行中の瞬間燃費が表示されます。

アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は 50.0 です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、瞬間燃費をディスプレイに表示することができます。
  → **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

平均燃費

図の値は表示例です



79R30800

表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

● リセットするときは、平均燃費の表示中に表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。

航続可能距離

図の値は表示例です



79R70810

現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

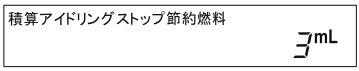
アドバイス

- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- 鉛バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  - 鉛バッテリー接続後しばらくの間
  - 燃料残量警告灯の点灯中

→ **3-88ページ（燃料残量警告灯）**

積算アイドリングストップ節約燃料

図の値は表示例です



79R30820

表示をリセットしてからのアイドリングストップによる節約燃料の累計がml単位で表示されます。

- リセットするときは、積算アイドリングストップ節約燃料の表示中に表示切替えノブ (2) もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ節約燃料の表示はリセットされます。

積算アイドリングストップ時間

図の値は表示例です



79R30830

表示をリセットしてからのアイドリングストップ時間の累計が、時、分、秒単位で表示されます。

- リセットするときは、積算アイドリングストップ時間の表示中に表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

- 積算アイドリングストップ時間の最大値は 99:59:59 で、リセットするまで固定されます。
- 鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ時間の表示はリセットされます。

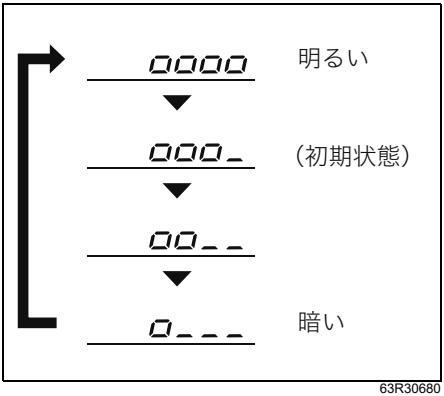
照明コントロール表示

現在設定されているメーターの明るさが表示されます。

メーターの明るさ調節

4段階に調節できます。

- ヘッドライトや車幅灯を点灯し、照明コントロール表示（**3-106ページ**参照）にしたうえで、表示切替えノブ（2）を長押しします。明るさが 1 段階ずつ変化します。



63R30680

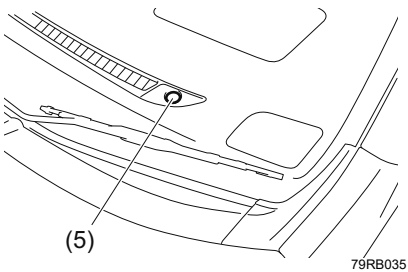
⚠警告

走行中は明るさ調節をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブを短押しするか5秒以上押さないでいると、オドメーターの表示に切り替わります。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調節をやり直す必要があります。
- オートライトセンサー（5）が車外が暗いと感知し、ヘッドライトまたは車幅灯が点灯して、メーターの照明が減光されたときに、明るさ調整ができます。
  メーターの照明が減光していないときは調整できません。

インパネ助手席側

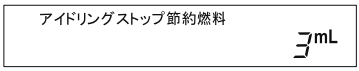


エコ運転表示機能

エンジンスイッチを LOCK（OFF）にすると、次の内容が一定時間マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

■ アイドリングストップ節約燃料

図の値は表示例です



79R30840

1 回の運転でアイドリングストップによって節約された燃料がml単位で表示されます。

■ アイドリングストップ時間

図の値は表示例です

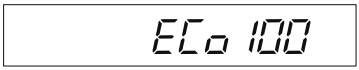


79R30850

1 回の運転でアイドリングストップの合計時間が時、分、秒単位で表示されます。

■ エコスコア

図の値は表示例です



63R30690

1 回の運転で、燃費効率が良いと判定された割合から、運転内容を採点します。

- エコドライブの目安としてお使いください。
  → **2-39 ページ（エコドライブをしましょう）**

- 前図のように表示されている間、ステータスインフォメーションランプが点灯します。ステータスインフォメーションランプの照明色は、エコスコアの点数により変化します。点数が高いほど、より緑色になります。

エコスコア	0 点□□□⇨100点
照明色	青色■■■➡緑色

→ **3-84 ページ（ステータスインフォメーションランプ）**

アドバイス

- 走行中、次のようなときは、ステータスインフォメーションランプの緑色または白色への変化がなく、エコスコアの加算がされません。
  - セレクトレバーが D の位置以外のとき
  - Sモードスイッチ（タイプ別装備）がONのとき

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、エコスコアの表示／非表示を設定できます。
  → **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**

- メーター内のステータスインフォメーションランプを緑色または白色に変化させる走行を心がけると、高得点を得られます。（100点満点）
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、エコスコアがディスプレイにも表示されます。
  → **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

手放し警告表示

タイプ別装備



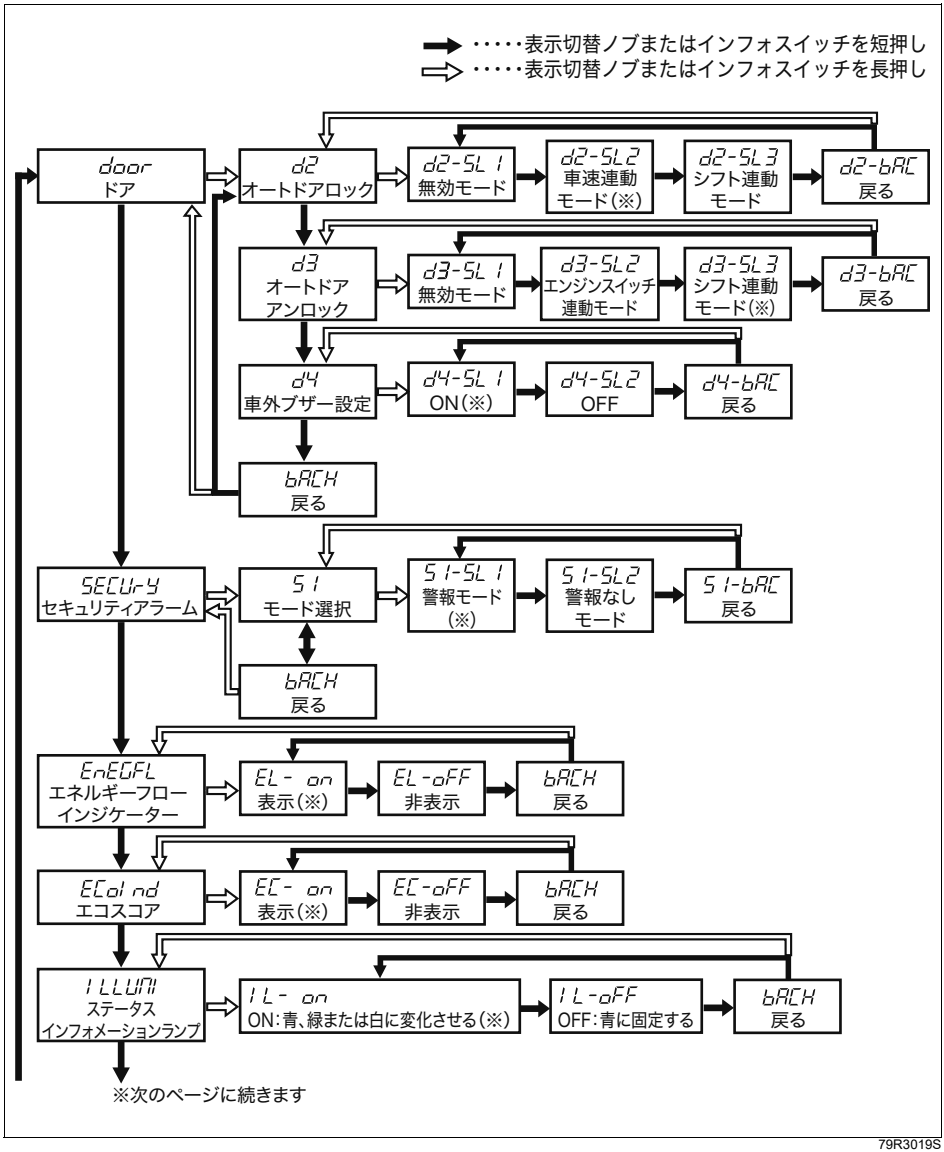
79R3029S

運転中にハンドルを持っていない、またはハンドル操作がない時に点灯します。ハンドルを持って操作してください。
→ **4-52ページ（車線逸脱抑制機能）**

セッティングモード（タコメーターなし車）

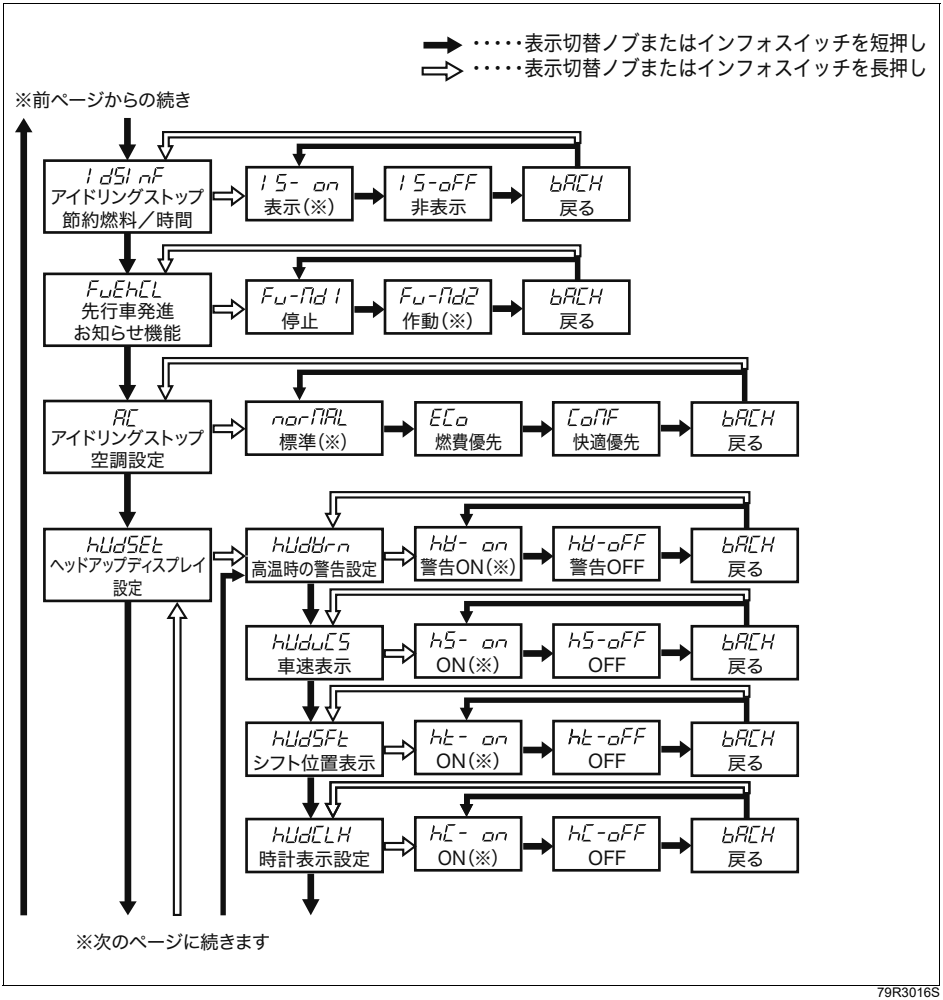
セッティングモードでは、次の設定切替え（カスタマイズ）ができます。

● お車のタイプにより、設定できる項目は異なります。



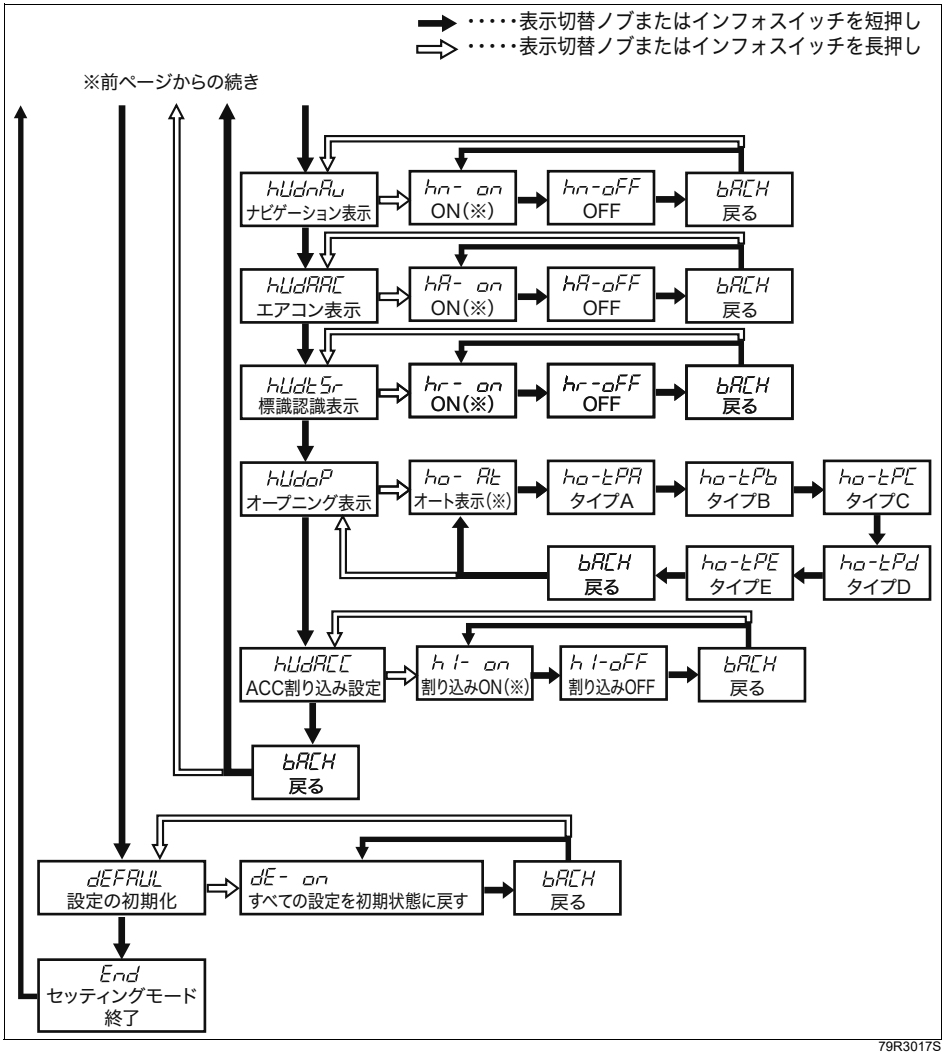
79R3019S

※初期状態（工場出荷時）



79R3016S

※初期状態（工場出荷時）



79R3017S

※初期状態（工場出荷時）

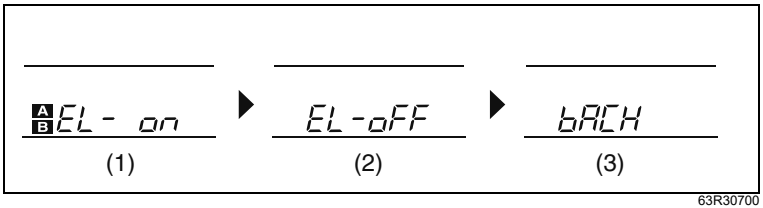
設定の切替えは、エンジンスイッチが ON で安全な場所に停車しているときに、次の手順で行ないます。

1 セッティングモードへ切り替えます。
- 表示切替えノブまたはインフォスイッチを短押ししてオドメーター表示に切り替えます。
  → **3-109ページ（オドメーター）**
- オドメーター表示中に、セッティングモードの表示に切り替わるまで、ノブまたはインフォスイッチを長押しします。

2 設定を切り替えたい表示を選択します。
- 表示切替えノブまたはインフォスイッチを短押しして表示を切り替えます。

3 設定切替え表示に移動します。
- 表示切替えノブまたはインフォスイッチを長押しします。室内ブザーが“ピッ”と鳴り、下図（表示例）のON設定表示（1）に切り替わります。

表示例（エネルギーフローインジケーターの場合）



63R30700

(1) ON設定表示(現在設定中)　(2) OFF設定表示　(3) BACK表示

アドバイス

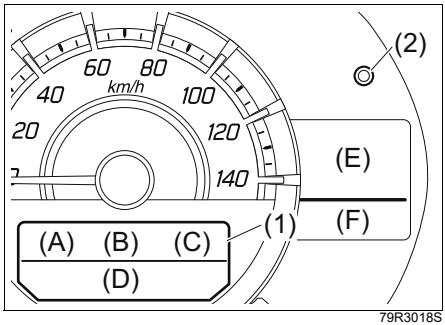
上図の（1）のように、設定表示の左に A B が表示されている状態が、現在設定中であることを示します。

4 設定を切り替えます。
- 設定を切り替えるときは、表示切替えノブまたはインフォスイッチを短押しして ONまたはOFFを選択します。そのあとノブまたはインフォスイッチを長押しします。室内ブザーが“ピッ”と鳴り、「SUCCES」と表示されると設定が切り替わり、手順 2 の表示にもどります。
- 設定切替えを行なわずに手順 2 にもどるときは、BACK 表示（3）を選択してから、室内ブザーが “ピッ”と鳴るまでノブまたはインフォスイッチを長押しします。

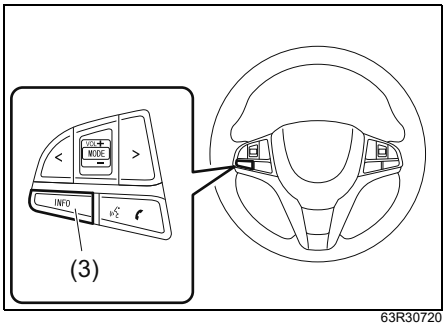
5 続けて設定の切替えをしたいときは、手順 2 ～ 4 を繰り返します。
- セッティングモードを終了する場合は、手順 6 に進みます。

6 セッティングモードを終了します。次のいずれかの操作で終了できます。
- 手順 2 の表示のときに「End」を選択してから、オドメーター表示に切り替わるまで表示切替えノブまたはインフォスイッチを長押しする
- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にする
- 走行を開始する

マルチインフォメーションディスプレイ（タコメーター装備車）



79R3018S



63R30720

(1) マルチインフォメーションディスプレイ
(2) 表示切替えノブ
(3) インフォスイッチ（タイプ別装備）

表示位置	表示される内容
(A)	●システム一時停止表示 → **4-38ページ** ●前方衝突警告表示 → **4-71ページ**
(B)	●外気温 → **3-121ページ**
(C)	●エネルギーフローインジケーター → **3-121ページ**

表示位置	表示される内容
(D)	●携帯リモコン電池消耗警告灯 → **3-121ページ** ●セレクトレバー位置表示 ●ギヤポジション表示 → **3-122ページ** ●M（マニュアル）モード表示 → **3-123ページ** ●オドメーター（積算距離計） ●トリップメーター（区間距離計） → **3-123ページ** ●瞬間燃費 ●平均燃費 → **3-124ページ** ●航続可能距離 → **3-125ページ** ●アイドリングストップ情報 → **3-125ページ** ●照明コントロール表示 → **3-126ページ**
(E)	●アダプティブクルーズコントロール表示 ●SET表示 → **3-127ページ** ●先行車発進お知らせ機能 → **4-58ページ** ●手放し警告表示 → **3-127ページ**
(F)	●燃料計 → **3-128ページ**

■ 表示の切替え

表示位置（D）は、メーター内の表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を押すごとに、次の番号の順に表示が切り替わります。

①オドメーター（積算距離計）
②トリップメーター（区間距離計）
③瞬間燃費
④平均燃費
⑤航続可能距離
⑥積算アイドリングストップ節約燃料
⑦積算アイドリングストップ時間
⑧照明コントロール表示（※）

※照明コントロール表示については、次の参照先をお読みください。
→ **3-126ページ（メーターの明るさ調節）**

⚠ 警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

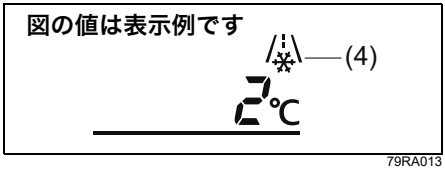
- 表示は、ノブもしくはスイッチを離したときに切り替わります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。
  → **3-90ページ（エンジン警告灯）**
- 表示される次の値は目安です。実際とは異なる場合があります。
  - 瞬間燃費
  - 平均燃費
  - 航続可能距離
  - 積算アイドリングストップ節約燃料
- 走行後、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にすると、1回の運転に対するエコ運転の結果が表示されます。
  → **3-128ページ（エコ運転表示機能）**

外気温

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（B）に外気温が℃単位で表示されます。

- 外気温が氷点下近くになると、外気温の上側にフリーズマーク（雪の結晶マーク）が点灯します。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。

→ **6-18ページ**
（雪道を走行するとき）



79RA013

(4) フリーズマーク

⚠注意

フリーズマークの点灯は目安です。気象状況によっては、フリーズマークが点灯しなくても路面が凍結している場合があります。注意して走行してください。

アドバイス

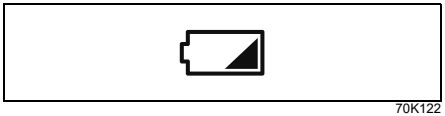
- 外気温はセンサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温と異なる場合があります。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅れたりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車時または低速走行時
  - 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）

エネルギーフローインジケーター

マイルドハイブリッドが作動しているかどうかを確認できます。

→ **4-134ページ**
（エネルギーフローインジケーター）

携帯リモコン電池消耗警告灯



70K122

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、約 15 秒間点灯します。電池交換のうえ、警告灯をリセットしてください。

→ **6-9ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

セレクトレバー位置表示



74P30540

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（D）に現在のセレクトレバーの位置が表示されます。

→ **4-14ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）**

- マニュアルモードなし車の場合、P 、R 、N 、D 、L のいずれかが表示されます。
- マニュアルモード付車の場合、P 、R 、N 、D のいずれかが表示されます。

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、セレクトレバー位置がディスプレイに表示されます。

→ **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

ギヤポジション表示

マニュアルモード付車



63R30730

次の操作をしてマニュアルモードにすると、現在のギヤ位置を示し、上図のいずれかが表示されます。

- セレクトレバーを M に入れる
- パドルシフトスイッチを手前に引く

→ **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、ギヤポジションがディスプレイに表示されます。

→ **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

M（マニュアル）モード表示

マニュアルモード付車



63R30740

次の操作をして、マニュアルモードにすると表示されます。

- セレクトレバーを M に入れる
- パドルシフトスイッチを手前に引く

→ **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

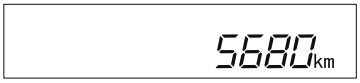
アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、マニュアルモード表示がディスプレイに表示されます。

→ **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

オドメーター（積算距離計）

図の値は表示例です

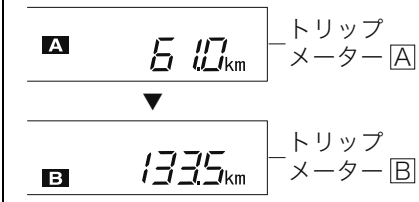


63R30770

新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

トリップメーター（区間距離計）

図の値は表示例です



63R30780

リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- **A** および **B** の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞

A：出発時にリセットして、出発後の距離を計測

B：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまで表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

瞬間燃費

図は表示例です



79R30860

走行中の瞬間燃費が表示されます。

アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は 50.0 です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。
- 燃料カットや、モーターによるクリープ走行など、燃料が大きく変化する走行をすると、実際の燃費値が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、瞬間燃費をディスプレイに表示することができます。
  → **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

平均燃費

図の値は表示例です



79R30870

表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

- リセットするときは、平均燃費の表示中に表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。

航続可能距離

図の値は表示例です



79R30880

現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

アドバイス

- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- 鉛バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  - 鉛バッテリー接続後しばらくの間
  - 燃料残量警告灯の点灯中

→ **3-88ページ（燃料残量警告灯）**

積算アイドリングストップ節約燃料

図の値は表示例です



79R30890

表示をリセットしてからのアイドリングストップによる節約燃料の累計がml単位で表示されます。

- リセットするときは、積算アイドリングストップ節約燃料の表示中に表示切替えノブ (2) もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ節約燃料の表示はリセットされます。

積算アイドリングストップ時間

図の値は表示例です



79R30900

表示をリセットしてからのアイドリングストップ時間の累計が、時、分、秒単位で表示されます。

- リセットするときは、積算アイドリングストップ時間の表示中に表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。

アドバイス

- 積算アイドリングストップ時間の最大値は 99:59:59 で、リセットするまで固定されます。
- 鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ時間の表示はリセットされます。

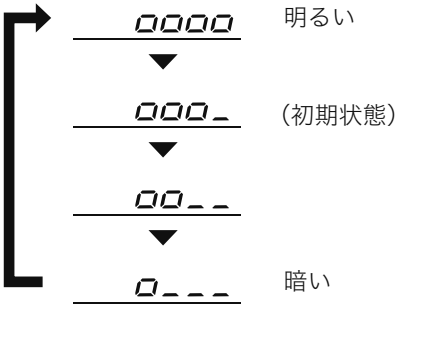
照明コントロール表示

現在設定されているメーターの明るさが表示されます。

メーターの明るさ調節

4段階に調節できます。

- ヘッドライトや車幅灯を点灯し、照明コントロール表示（**3-119ページ**参照）にしたうえで、表示切替えノブ（2）もしくはインフォスイッチ（3）を長押しします。明るさが 1 段階ずつ変化します。



63R30680

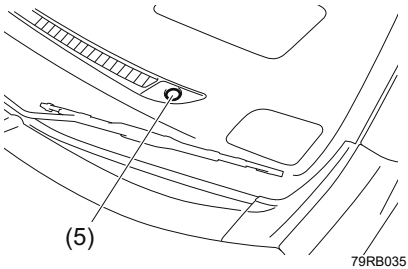
警告

走行中は明るさ調節をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブもしくはインフォスイッチを短押しするか5秒以上押さないでいると、オドメーターの表示に切り替わります。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調節をやり直す必要があります。
- オートライトセンサー（5）が車外が暗いと感知し、ヘッドライトまたは車幅灯が点灯して、メーターの照明が減光されたときに、明るさ調整ができます。
  メーターの照明が減光していないときは調整できません。

インパネ助手席側



79RB035

手放し警告表示

タイプ別装備



79R3029S

運転中にハンドルを持っていない、またはハンドル操作がない時に点灯します。ハンドルを持って操作してください。

→ **4-52ページ（車線逸脱抑制機能）**

アダプティブクルーズコントロール表示

タイプ別装備



79R3015S

クルーズスイッチを押して、アダプティブクルーズコントロールシステムの目標車速が設定できる状態になると表示されます。

→ **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

SET表示

タイプ別装備

SET

81P40100

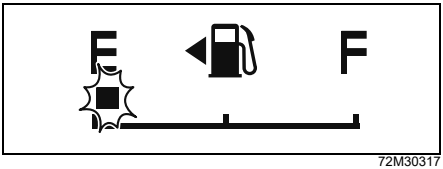
アダプティブクルーズコントロールシステムの目標車速が設定されると表示されます。

→ **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量の目安が表示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。また、あわせて燃料計の目盛り（一つ）が点滅したときは、燃料がほとんどないことをお知らせしています。
  → **3-88 ページ（燃料残量警告灯）**



72M30317

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから正しい量を示すまでに、少し時間がかかる場合があります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の左にある◀印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側の車両後部にあることを示します。

エコ運転表示機能

エンジンスイッチを LOCK（OFF）にすると、次の内容が一定時間マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

■ アイドリングストップ節約燃料

図の値は表示例です



79R30910

1 回の運転でアイドリングストップによって節約された燃料がml単位で表示されます。

■ アイドリングストップ時間

図の値は表示例です

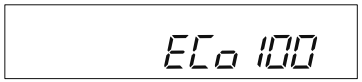


79R30920

1 回の運転でアイドリングストップの合計時間が時、分、秒単位で表示されます。

■ エコスコア

図の値は表示例です



63R30860

1 回の運転で、燃費効率が良いと判定された割合から、運転内容を採点します。

- エコドライブの目安としてお使いください。
  → **2-39ページ（エコドライブをしましょう）**

- 前図のように表示されている間、ステータスインフォメーションランプが点灯します。ステータスインフォメーションランプの照明色は、エコスコアの点数により変化します。点数が高いほど、より緑色になります。

エコスコア	0 点□□□□⇨100点
照明色	青色■■■■➡ 緑色

→ **3-84 ページ（ステータスインフォメーションランプ）**

アドバイス

- 走行中、次のようなときは、ステータスインフォメーションランプの緑色または白色への変化がなく、エコスコアの加算がされません。
  - セレクトレバーが D の位置以外のとき
  - Sモードスイッチ（タイプ別装備）がONのとき

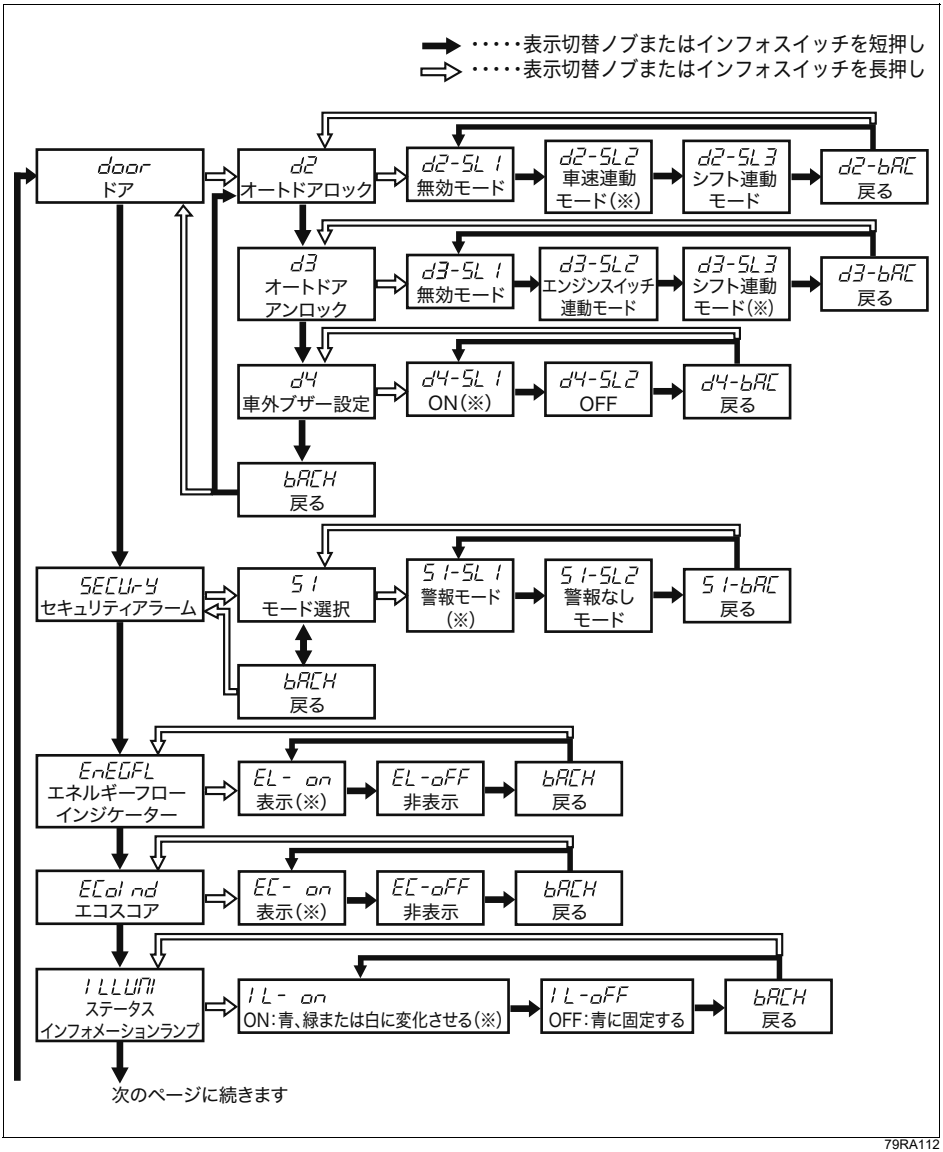
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、エコスコアの表示／非表示を設定できます
  → **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

- メーター内のステータスインフォメーションランプを緑色または白色に変化させる走行を心がけると、高得点を得られます。（100点満点）
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、エコスコアがディスプレイにも表示されます。
  → **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

セッティングモード（タコメーター装備車）

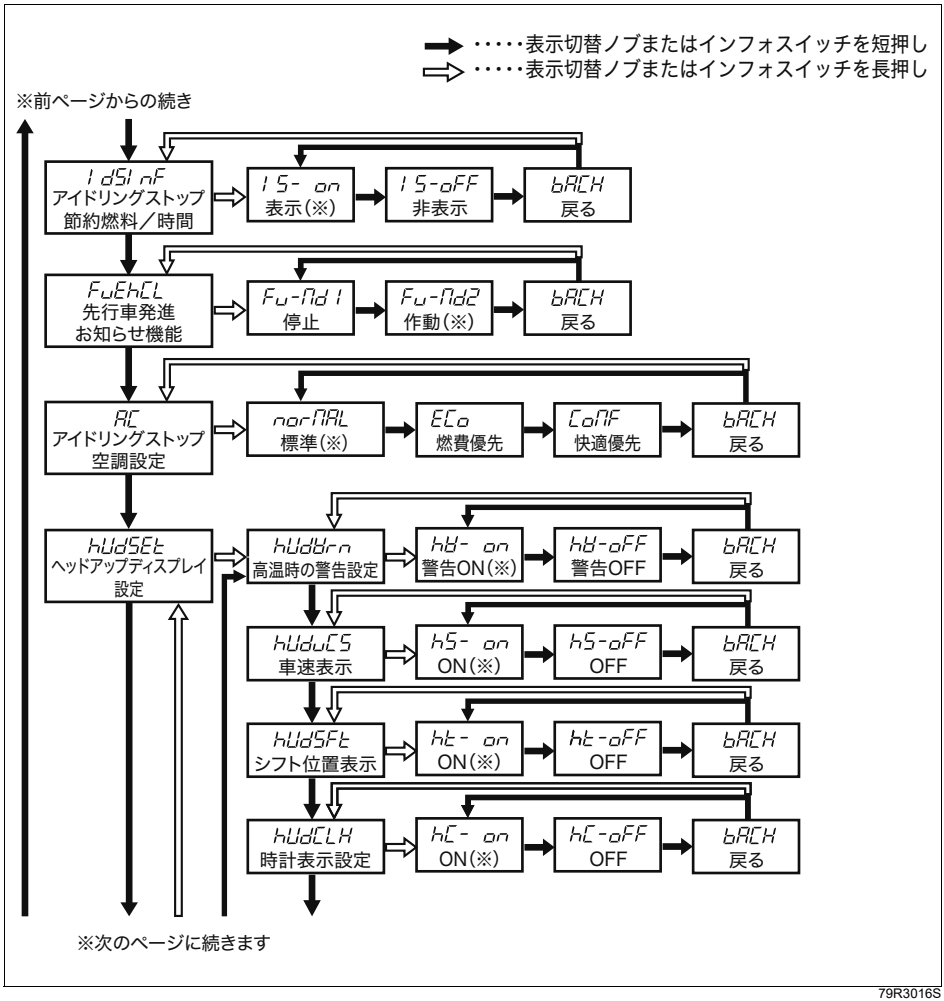
セッティングモードでは、次の設定切替え（カスタマイズ）ができます。

● お車のタイプにより、設定できる項目は異なります。



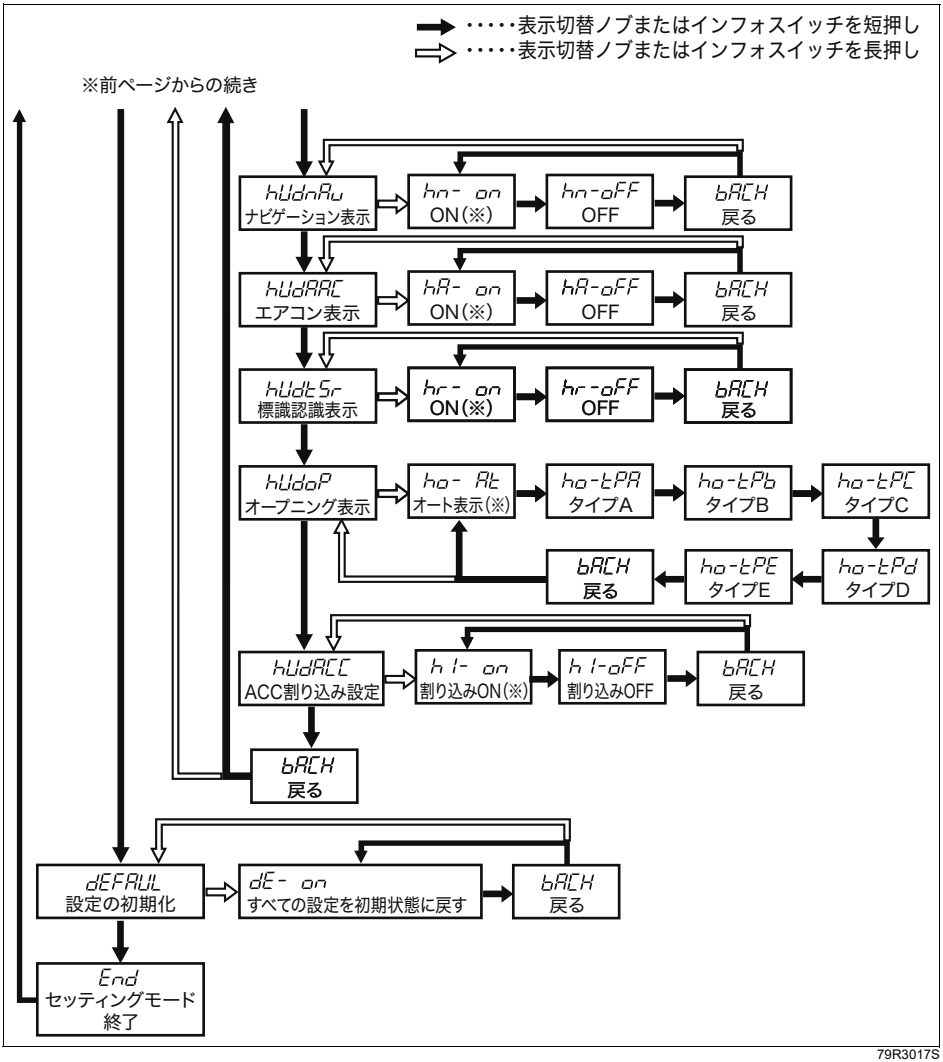
79RA112

※初期状態（工場出荷時）



79R3016S

※初期状態（工場出荷時）



79R3017S

※初期状態（工場出荷時）

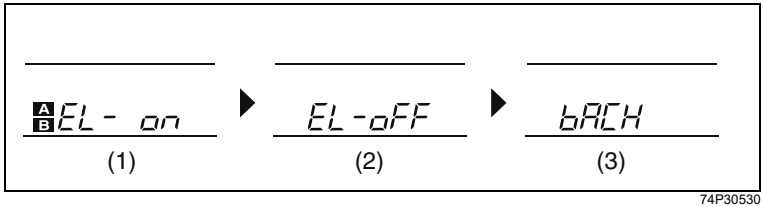
設定の切替えは、エンジンスイッチが ON で安全な場所に停車しているときに、次の手順で行ないます。

1 セッティングモードへ切り替えます。
- 表示切替えノブまたはインフォスイッチを短押ししてオドメーター表示に切り替えます。
  → **3-123ページ（オドメーター）**
- オドメーター表示中に、セッティングモードの表示に切り替わるまで、ノブまたはインフォスイッチを長押しします。

2 設定を切り替えたい表示を選択します。
- 表示切替えノブまたはインフォスイッチを短押しして表示を切り替えます。

3 設定切替え表示に移動します。
- 表示切替えノブまたはインフォスイッチを長押しします。室内ブザーが“ピッ”と鳴り、下図（表示例）のON設定表示（1）に切り替わります。

表示例（エネルギーフローインジケーターの場合）



74P30530

(1) ON設定表示(現在設定中)　(2) OFF設定表示　(3) BACK表示

アドバイス

上図の（1）のように、設定表示の左に A B が表示されている状態が、現在設定中であることを示します。

4 設定を切り替えます。
- 設定を切り替えるときは、表示切替えノブまたはインフォスイッチを短押しして ONまたはOFFを選択します。そのあとノブまたはインフォスイッチを長押しします。室内ブザーが “ピッ ”と鳴り、「SUCCES」と表示されると設定が切り替わり、手順 2 の表示にもどります。
- 設定切替えを行なわずに手順 2 にもどるときは、BACK 表示（3）を選択してから、室内ブザーが “ピッ”と鳴るまでノブまたはインフォスイッチを長押しします。

5 続けて設定の切替えをしたいときは、手順 2 ～ 4 を繰り返します。
- セッティングモードを終了する場合は、手順 6 に進みます。

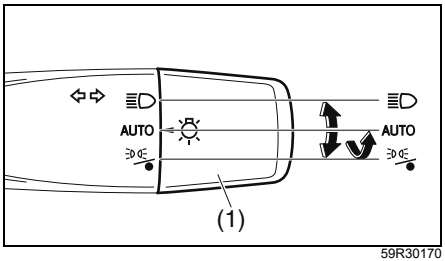
6 セッティングモードを終了します。次のいずれかの操作で終了できます。
- 手順 2 の表示のときに「End」を選択してから、オドメーター表示に切り替わるまで表示切替えノブまたはインフォスイッチを長押しする
- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にする
- 走行を開始する

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

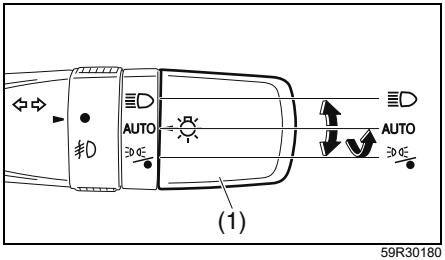
ヘッドライトなどを自動で点灯・消灯できます。自動で点灯または消灯しているとき手動で消灯または点灯できます。

フォグランプ非装備車



59R30170

フォグランプ装備車



59R30180

≡D
ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を点灯できます。

AUTO
オートライトシステムによりヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を自動で点灯・消灯します。

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を消灯します。車幅灯、尾灯、番号灯を点灯します。ライトスイッチのツマミ（1）から手を離すとAUTOの位置に戻ります。

注 記

●エンジン停止中に長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
エンジン停止中は、ライトを長時間点灯させないでください。
●AUTO 位置のままエンジンスイッチを ON にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯するため、そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
AUTO 位置で、エンジンスイッチを ON にしたままにしないでください。

アドバイス

●ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。
→ **3-97ページ**
（ライト点灯表示灯）

●衝突被害軽減ブレーキ他装備車の場合、ハイビームアシストによりヘッドライトの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を自動的に切替えることができます。
→ **4-59ページ**
（ハイビームアシスト）

■ ≡D の位置

ライトスイッチのツマミ（1）を ≡D にするとヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

- エンジンスイッチが ON から ACC または LOCK（OFF）にしても点灯したままです。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）でも点灯します。

■ AUTOの位置（オートライトシステム）

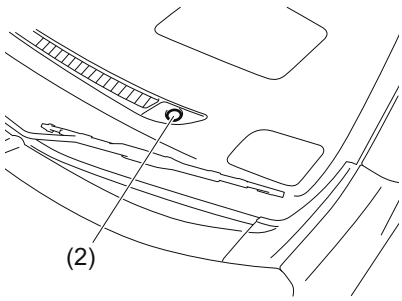
オートライトシステムにより車外の明るさに応じて自動的に点灯・消灯します。

- ライトスイッチのツマミ（1）がAUTOの位置でエンジンスイッチが ON のときに機能します。
- ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が同時に点灯・消灯します。
- 薄暗くなったときやトンネルなど急に暗くなったときに自動で点灯します。
- 自動で点灯しているとき
  - 走行時は消灯できません。
  - エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）にすると消灯します。

アドバイス

オートライトセンサー（2）の上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ助手席側



■ の位置

ライトスイッチのツマミ（1）を まであわす、またはまわして保持すると点灯・消灯します。

- 自動でヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯していて、停車しているとき

の操作	ヘッドライト	車幅灯、尾灯、番号灯
まわす	消灯	点灯
まわして保持※	消灯（先に消灯）	消灯（後に消灯）

※ヘッドライト点灯時

- ヘッドライトが消灯しているとき まで操作するたびに点灯、消灯が切り替わります。

の操作	車幅灯、尾灯、番号灯
まわす	消灯 ⇔ 点灯
まわして保持	消灯 ⇔ 点灯

  - エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）でも点灯・消灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯していたとき、エンジンスイッチを ON から ACC または LOCK（OFF）にしても点灯したままになります。
- 車外がヘッドライトなどが自動で点灯する明るさの場合、走行をはじめると停車中に消灯させた全てのライトが再び点灯します。

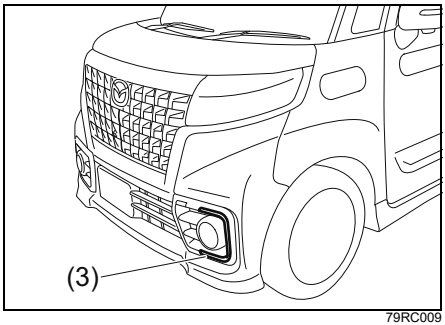
■ LEDイルミネーション

タイプ別装備

下図のフロントバンパー内にあります。

- 車幅灯が点灯している間、点灯します。
- お車のタイプによっては、アンサーバック機能により、携帯リモコンなどによる解錠時にも点灯します。

→ 3-11ページ（アンサーバック機能）



79RC009

(3) LEDイルミネーション

ライト自動消灯システム

鉛バッテリあがりを防ぐため、次の場合点灯しているライトは自動で消灯します。

- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）したときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるまたは約10分経過すると、ライトは自動で消灯します。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯を点灯した場合、約10分経過すると、ライトは自動で消灯します。
  ヘッドライトが自動消灯した後、ライトスイッチのツマミ（1）が ≡D のままで運転席ドアを開けるとヘッドライトなどが再点灯します。

自動で消灯したあと再びライトを点灯させる場合は、ライトスイッチのツマミ（1）を AUTO の位置にしてから、 または ≡D へ操作してください。

→ 3-134ページ（≡D の位置）
→ 3-135ページ（ の位置）

ライト自動消灯システムは、エンジンスイッチを ON にすると停止し、自動または手動で点灯・消灯します。

ライト消し忘れ警告ブザー

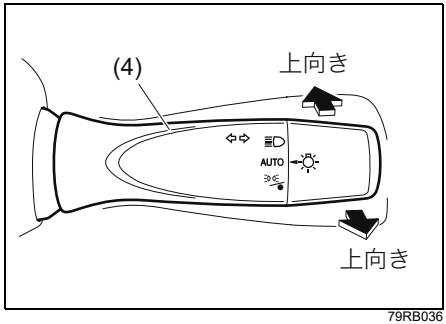
ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあとに、ヘッドライトや車幅灯を点灯したまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

ヘッドライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（4）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。衝突被害軽減ブレーキ他装備車は、ライトスイッチのツマミがAUTOの位置でレバーを前方向に押すと、ハイビームアシストが作動します。
  → **4-59ページ（ハイビームアシスト）**
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。
  → **3-97ページ（ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯）**



79RB036

- 上図のライトスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

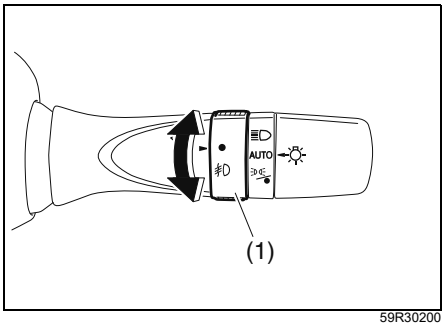
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- フォグランプはヘッドライトや車幅灯が点灯しているときに使用できます。ライトスイッチのリング（1）を 位置にまわすとフォグランプが点灯し、メーター内のフォグランプ点灯表示灯が点灯します。もとの位置にもどすと消灯します。
  → **3-104ページ（フォグランプ点灯表示灯）**



59R30200

注記

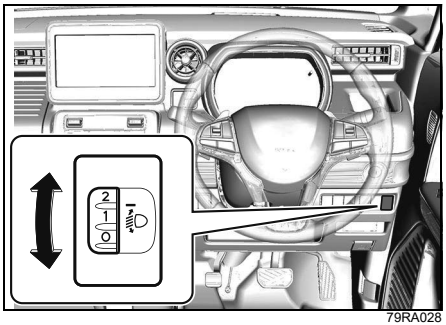
鉛バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

光軸調整ダイヤル

タイプ別装備

ハロゲンヘッドライト装備車は、ライトを点灯して光軸調整ダイヤルをまわすと、ライトの光軸が調整できます。
荷物や同乗者を乗せてライトの光軸が上向きになると、対向車や先行車の迷惑となります。ダイヤルを操作して、光軸を下向きに調整してください。

- ダイヤル操作は、ライトが下向き（ロービーム）に点灯しているときに行なってください。ライトが上向き（ハイビーム）に点灯している、または点灯していないときは、光軸が適切に調整できているか判断できません。
- ダイヤルの目盛りは **0** ～ **5** まであり、光軸が11段階（0.5きざみ）に調整できます。
- ダイヤルの目盛りを大きくすると、光軸が下向きになります。



79RA028

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 荷物や同乗者の乗せかたによって変わりますが、次表の数値を参考に適切な位置に調整してください。

〈ダイヤル位置の目安〉

条件	ダイヤル位置
運転席のみ乗車	0
運転席および助手席に乗車	
4名乗車	1～2
4名乗車で荷室満載	2～2.5
運転席のみ乗車で荷室満載	2.5～3

⚠警告

走行中はダイヤル操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

車検などで基本の光軸を調整するときは、ダイヤルを0の位置にしてください。0以外の位置で基本光軸を調整すると、ライトの光軸が基準より上向きになるなど、安全上問題となるおそれがあります。

アドバイス

- ダイヤルを操作すると、ライトの下向き（ロービーム）と上向き（ハイビーム）の光軸が同時に調整されます。
- LEDヘッドライト装備車の場合、光軸が自動調整されます。

→ **3-90ページ**
（オートレベリング警告灯）

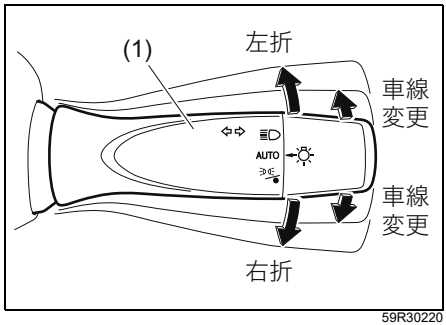
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



59R30220

- 上図のライトスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

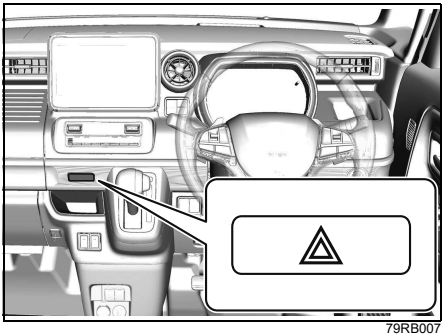
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



79RB007

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。
→ 5-27ページ（デフロスター）

注 記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

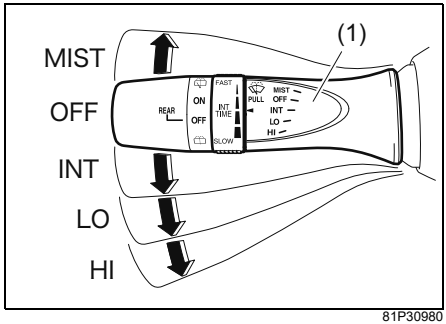
■ ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にします。
2. ワイパースイッチをOFFにします。
3. ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
4. モーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。
   - しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

フロントワイパースイッチ

レバー（1）を上下に操作すると、フロントワイパーが次表のように作動します。



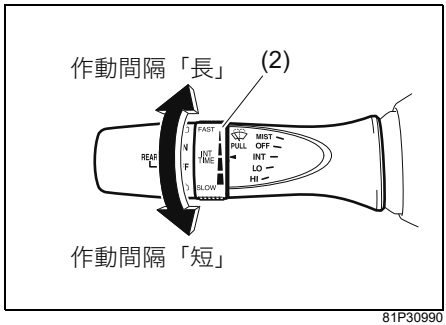
81P30980

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

■ 間欠ワイパーの時間調節のしかた

タイプ別装備

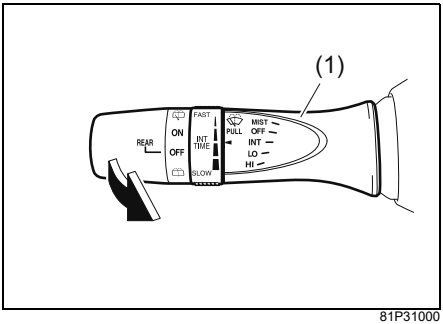
INT のときにリング（2）をまわすと、作動間隔を調節できます。



81P30990

フロントウォッシャースイッチ

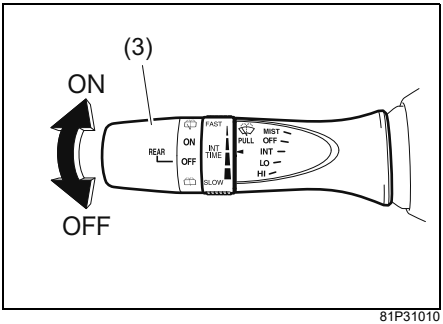
レバー（1）を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



81P31000

リヤワイパースイッチ

ツマミ（3）をまわします。

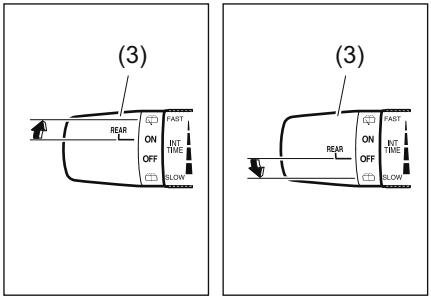


81P31010

ON	作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

- 図の ⬆ 方向にツマミ（3）をまわし、ONの上にある （ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。
  ツマミから手を離すと ON にもどります。
- 図の ⬇ 方向にツマミ（3）をまわし、OFF の下にある （ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射します。
  ツマミから手を離すとOFFにもどります。



81P31020

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。



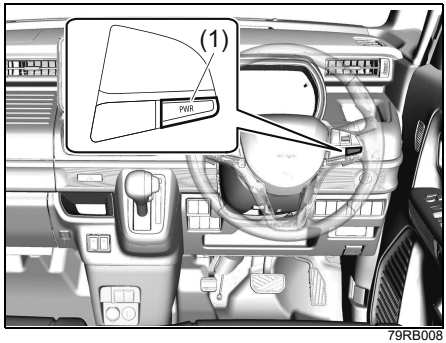
70K188

パワーモードスイッチ

パワーモードにすると、エンジン、CVT、ISG の制御が切り替わり、上り坂や山間路などで力強い走行をすることができます。

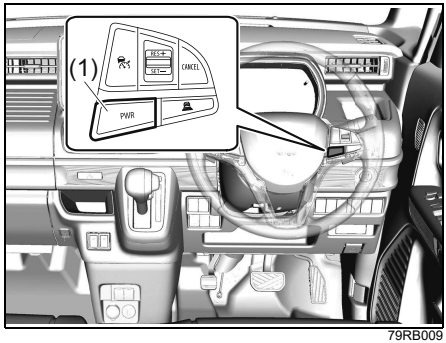
- パワーモードスイッチ（1）を押すと、パワーモードになります。

アダプティブクルーズコントロール非装備車



79RB008

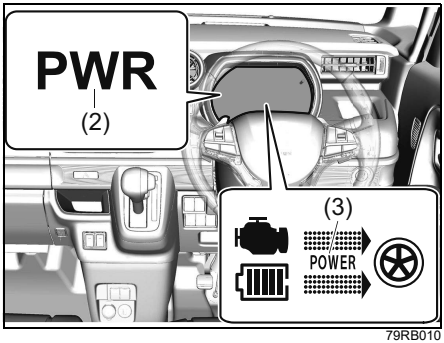
アダプティブクルーズコントロール装備車



79RB009

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- スイッチを押すと、メーター内のパワーモード表示灯（2）が点灯し、走行中にパワーモードでモーターアシスト機能が作動すると、マルチインフォメーションディスプレイのエネルギーフローインジケーターに POWER（3）と表示されます。スイッチをもう一度押すと、パワーモードが解除されます。



79RB010

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- パワーモードになっている状態でエンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、パワーモードは解除されます。
- パワーモードで走行すると燃費が悪くなります。必要のないときはパワーモードを解除してください。

4. 運転するときは

● **エンジン始動・停止**
エンジンスイッチの各位置のはたらき ····· 4-2
イモビライザーシステム ····· 4-4
アドバンストキーレスエントリー＆
キーレスプッシュボタンスタートシステム ··· 4-5
エンジンのかけかた ····· 4-8
エンジンの止めかた ····· 4-10

● **パーキングブレーキ**
パーキングブレーキの操作 ····· 4-12

● **オートマチック車**
セレクトレバーの操作 ····· 4-14
オートマチック車の特性 ····· 4-19
オートマチック車を運転するとき ····· 4-20
オートマチック車の運転のしかた ····· 4-22

● **車両接近通報装置**
車両接近通報装置 ····· 4-27

● **DSC&TCS**
DSC&TCS装備車の取扱い ····· 4-28
ABS装備車の取扱い ····· 4-32

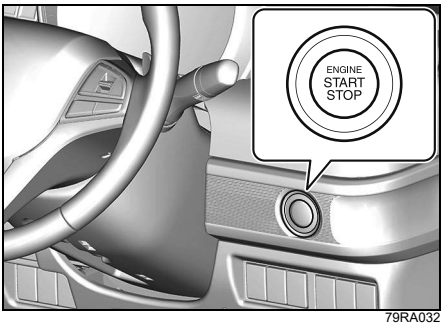
● **衝突被害軽減ブレーキ他**
衝突被害軽減ブレーキ他 ····· 4-36
前方 ····· 4-36
ステレオカメラ ····· 4-36
デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）·· 4-43
誤発進抑制機能 ····· 4-48
車線逸脱警報 ····· 4-51
車線逸脱抑制機能 ····· 4-52
ふらつき警報 ····· 4-57
先行車発進お知らせ機能 ····· 4-58

ハイビームアシスト ····· 4-59
アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）····· 4-62
デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチ ····· 4-72
車線逸脱警報 OFF スイッチ ····· 4-73
標識認識機能 ····· 4-73
後方 ····· 4-79
超音波センサー ····· 4-79
後退時ブレーキサポート ····· 4-82
後方誤発進抑制機能 ····· 4-85
リヤパーキングセンサー ····· 4-88
リヤパーキングセンサー OFF スイッチ ····· 4-92
全方位モニター ····· 4-93
左右確認サポート機能 ····· 4-99
カメラの取扱い ····· 4-121
故障かなと思ったら ····· 4-121
本製品のライセンスについて ····· 4-122
ヘッドアップディスプレイ ····· 4-123
ヘッドアップディスプレイの表示 ····· 4-125
ヘッドアップディスプレイの操作 ····· 4-131

● マイルドハイブリッド
マイルドハイブリッド ····· 4-133

● アイドリングストップシステム
アイドリングストップシステム ····· 4-137
エコクール（蓄冷エバポレーター）····· 4-146
アイドリングストップ空調設定 ····· 4-146
ヒルホールドコントロール ····· 4-147

エンジンスイッチの各位置のはたらき



79RA032

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
- エンジンを始動する場合は、**4-8ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

エンジンスイッチの位置（※）	エンジンの状態	はたらき
LOCK (OFF)	停止	駐車するときの位置です。エンジンスイッチをLOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、アクセサリーソケットなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーターが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	携帯リモコンを所持してセレクトレバーをPに入れ、ブレーキペダルを踏んでエンジンスイッチを押すと、自動的に始動します。

※エンジンスイッチ位置の切替えについては、**4-5 ページ**の「**アドバンストキーレスエントリー& キーレスプッシュボタンスタートシステム**」をお読みください。

注 記

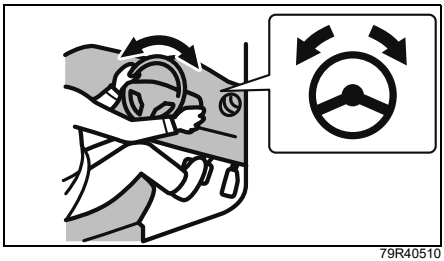
エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを LOCK（OFF）から ACC または ON にしたときに解除されます。
- 強い電波やノイズの影響を受けると、メーター内のプッシュ表示灯 が点滅して、電源の切替えやエンジンの始動ができない場合があります。

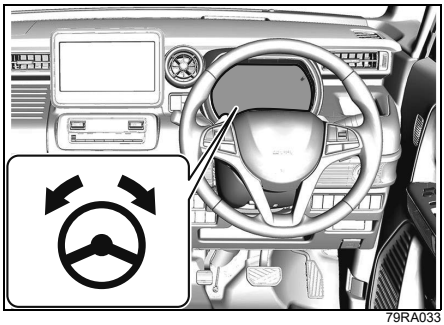
ハンドルロックが解除できないときは

ハンドルロック未解除警告灯が点灯し、エンジンの始動ができません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。



79R40510

■ ハンドルロック未解除警告灯



79RA033

メーターパネル内にあります。

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- エンジンスイッチが ON のときに、ハンドルロックが未解除の場合、点灯します。
  → **1-16ページ（警告灯）**

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたキーまたは携帯リモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

- エンジンの始動が可能な場合は、携帯リモコンを所持してエンジンスイッチを ON にすると、イモビライザーシステムが解除され、メーター内のイモビライザー警告灯が約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にすると、イモビライザーシステムが作動します。

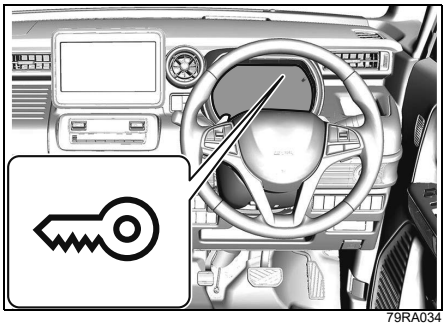
注記

イモビライザーシステムを改造したり取り外したりすると、システムが正常に作動しないおそれがあります。イモビライザーシステムの改造や取り外しをしないでください。

アドバイス

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

イモビライザー警告灯



79RA034

メーターパネル内にあります。

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- イモビライザーシステムまたはアドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-16ページ（警告灯）**

- 点滅または約 5 秒間点灯すると、エンジンがかからない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしてから、操作をやり直してください。
  → **4-9ページ（プッシュ表示灯 が点滅してエンジンがかからないときは）**

- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。
  → **4-7ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**

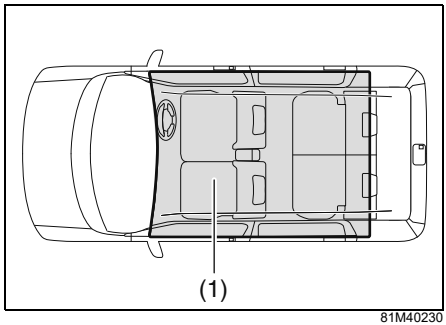
アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム

所持している携帯リモコンが、インパネの上や荷室などを除く車内の作動範囲に入っていると、エンジンスイッチによる始動（**4-8 ページ**参照）および電源の切替え（次ページ参照）が可能となります。また、そのほかに次の機能があります。

- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠
  → **3-12ページ（携帯リモコン）**

- キーレスエントリー
  → **3-10ページ（キーレスエントリー）**

- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**



81M40230

(1) 車内の作動範囲

アドバイス

- 車内の作動範囲に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
    → **5-10ページ（インパネ収納スペース）**
    → **5-13ページ（ドリンクホルダー）**
    → **5-16ページ（そのほかの装備）**
  - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある

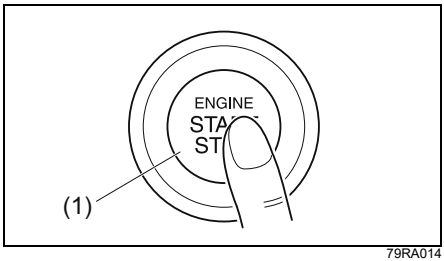
- 車内の作動範囲に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジン始動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近いとき
  - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

電源の切替えのしかた

エンジンをかけずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切り替えます。
なお、この切替えのことを「**電源の切替え**」といいます。

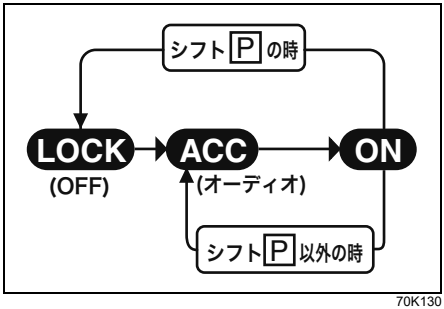
1 携帯リモコンを所持して運転席にすわります。

2 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。



79RA014

- 押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切り替わります。



70K130

アドバイス

- セレクトレバーが P 以外に入っていると、LOCK（OFF）にはもどせません。
- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。
  → **4-11 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

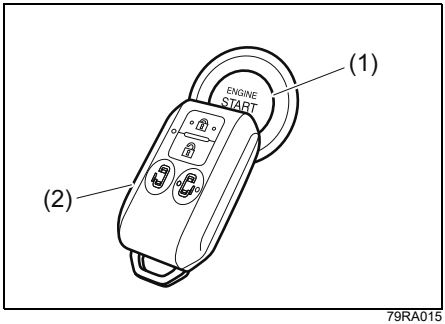
■ プッシュ表示灯 が点滅して電源が切り替わらないときは

携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5 ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでも切り替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切り替えてください。

1 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。

2 メーター内のプッシュ表示灯 が点滅している約10秒以内に、携帯リモコン(2)の先端(ロックスイッチ側)をエンジンスイッチに約２秒間当てます。

- プッシュ表示灯 の点滅中に、イモビライザー警告灯が約５秒間点灯します。



79RA015

● 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。

※前記の手順を行なっても切り替わらないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

アドバイス

●設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

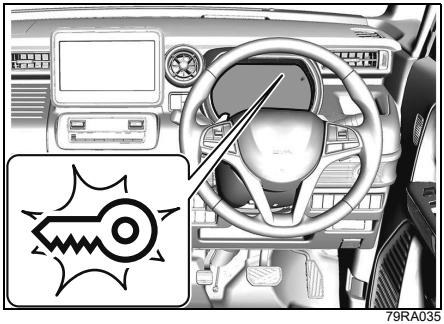
●携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内の携帯リモコン電池消耗警告灯が約15秒間表示されます。

→ **3-15ページ**
（携帯リモコン電池消耗警告灯）
→ **6-9ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

携帯リモコン車外持ち出し警告

次のような場合、室内／車外ブザーが約2秒間断続的に鳴るとともに、メーター内のイモビライザー警告灯が点滅し、携帯リモコンの車外持ち出しを警告します。

- エンジン回転中、またはエンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、いずれかのドアを開け、そのあとすべてのドアを閉めたときに携帯リモコンが車内の作動範囲にない場合
- エンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、エンジンを始動しようとしたときに携帯リモコンが車内の作動範囲にない場合


79RA035

● 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

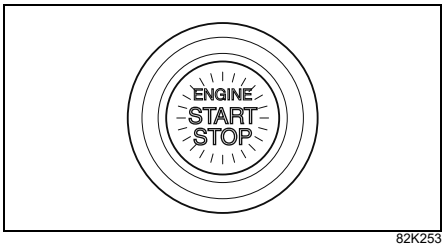
- 警告の作動中は、エンジンの再始動ができません。
- イモビライザー警告灯の点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしてから再操作してください。

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジンスイッチ照明

- 運転席ドアを開けると点灯します。運転席ドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。



82K253

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 運転席ドアを開けたまま約15分が経過

エンジンのかけかた

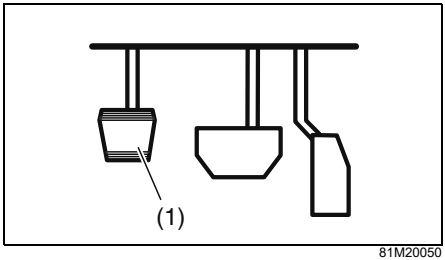
2-15 ページの「**エンジンをかけるときは**」もあわせてお読みください。

アドバイス

- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。

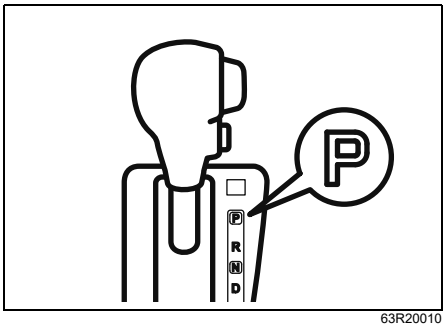
→ **4-3 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**

1 パーキングブレーキ（1）がしっかりかかっていることを確認します。



81M20050

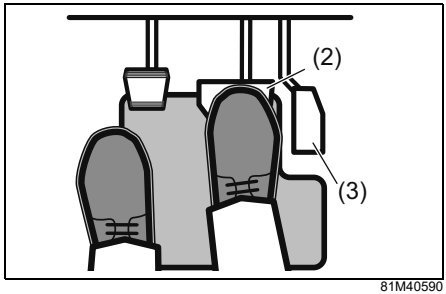
2 セレクトレバーが P に入っていることを確認します。



63R20010

3 右足でブレーキペダル（2）をしっかり踏み続けます。

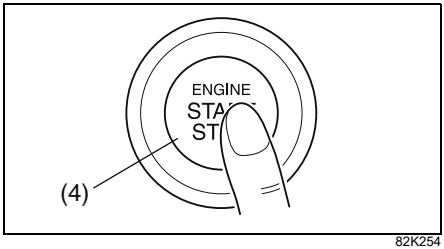
- アクセルペダル（3）は踏まないでください。



81M40590

4 メーター内のプッシュ表示灯 が点灯したら、エンジンスイッチ（4）を押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。

- エンジンがかからなくても、スターターは約 12 秒で自動的に停止します。この場合は、一度エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどし、再度エンジンをかけてください。
- システムに異常があると、エンジンスイッチを押しても自動でエンジンがかからない場合があります。スターターがまわらない、またはすぐに停止してエンジンがかからない場合は、次の手順でエンジンをかけてください。
  a. エンジンスイッチを ON の状態にします。
  b. **4-8ページ**の「**エンジンのかけかた**」の手順 1 ～ 3 を行います。
  c. エンジンがかかるまでエンジンスイッチを押し続けます。エンジンがかかったら、すみやかにエンジンスイッチから指を離します。



82K254

注 記

鉛バッテリーおよびスターター保護のため、エンジンがかからないときは、一度 LOCK（OFF）にもどし、30秒以上待ってから再びかけてください。前記の手順を数回繰り返してもエンジンが始動しない場合は、マツダ販売店にご連絡ください。

■ プッシュ表示灯 が点滅してエンジンがかからないときは

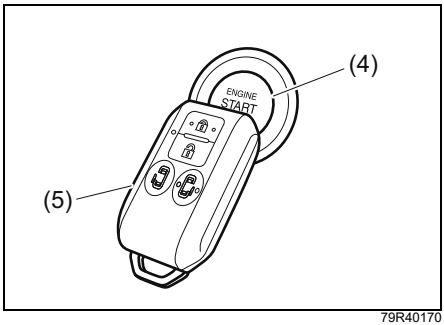
携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

1 セレクトレバーが P に入っていることを再確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

2 メーター内のプッシュ表示灯 が点灯したら、エンジンスイッチ（4）を押します。

3 メーター内のプッシュ表示灯 が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコン（5）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- プッシュ表示灯 の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。



79R40170

- 上図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。

※前記の手順を行なってもエンジンがかからないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内の携帯リモコン電池消耗警告灯が約15秒間表示されます。

→ **3-15ページ（携帯リモコン電池消耗警告灯）**
→ **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**

エンジンの止めかた

エンジンを止めるときは

⚠警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。

- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **次の機能が作動しません。**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **DSC&TCS**
  - **デュアルカメラブレーキサポート**
  - **誤発進抑制機能**
  - **後退時ブレーキサポート**
  - **後方誤発進抑制機能**
  - **リヤパーキングセンサー**

注 記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

車両の状態	エンジン停止方法
停車中	エンジンスイッチを押す
走行中（緊急時）	エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押しする

- 停車中にエンジンを停止できないときは、エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

エンジンスイッチをもどすときは

1 セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。
→ **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

2 エンジンスイッチを押して LOCK（OFF）にもどします。

- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
- 誤操作防止のため、次のようなときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせません。
  - セレクトレバーの位置が P 以外
  - セレクトレバーの位置が P に入っていても、セレクトレバーのボタンを押しているとき

→ **4-25ページ（駐車）**

- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
  - 盗難を防ぐため、キー操作にてドアを施錠してください。（リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません）
  - 鉛バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。（10 mmスパナなどの市販工具が必要です）

■ エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

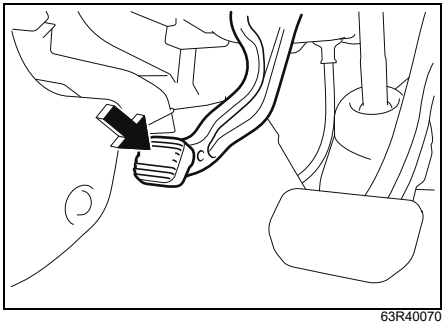
- エンジンスイッチを ACC にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。エンジンスイッチを2回押して LOCK（OFF）にもどすと、室内ブザーが止まります。
- LOCK（OFF）にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

■ ハンドルロック未作動警告ブザー

故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。マツダ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。



63R40070

⚠警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

→ 3-86ページ（ブレーキ警告灯）

⚠注意

パーキングブレーキをかけると、ヒルホールドコントロールが作動しません。

→ 4-147ページ（ヒルホールドコントロール）

駐車するときは

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

- パーキングブレーキをかけるときは、確実にブレーキが効くまで一気に踏み込んでください。
- 一気に踏み込まないで途中でペダルから足を離してしまったときは、一度解除してから、同じ手順で再度踏み込んでください。

⚠警告

- **走行中は、パーキングブレーキペダルを踏まないでください。急ブレーキをかけた状態になり、事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中は、パーキングブレーキペダルに足を乗せないでください。カーブを曲がるときなどに足に力がかかり、踏み込んでしまうおそれがあります。**

⚠注意

- **パーキングブレーキの効きを強くしようとして、2 度踏みをしないでください。2 度踏みをすると、ペダルがもどってパーキングブレーキが解除されます。**
- **パーキングブレーキを解除するときは、右足でブレーキペダルを踏んでください。**

パーキングブレーキをさらに強く効かせたいときは

1 右足でブレーキペダルを強く踏んだままにします。

2 左足でパーキングブレーキペダルを踏んで解除してから、再度踏み込みます。

解除するときは

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏み、ゆっくりと離します。
- 坂道発進するときは、左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏んでおき、右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキペダルをゆっくりともどしてください。

パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

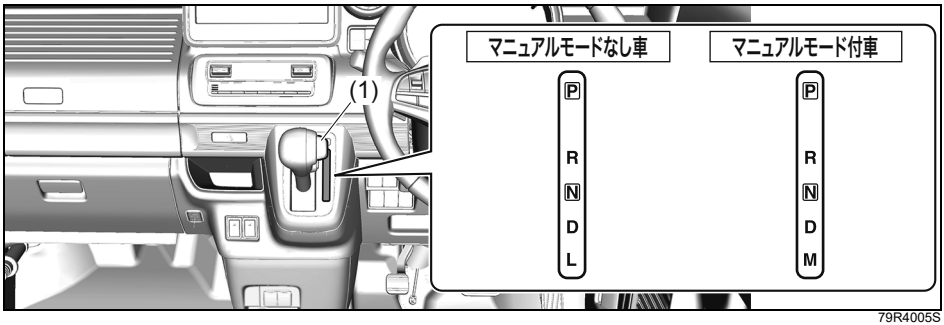
⚠ 警告

警告ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキを解除してください。走行中の解除は、操作に気を取られて思わぬ事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの操作

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

セレクトレバーの各位置のはたらき

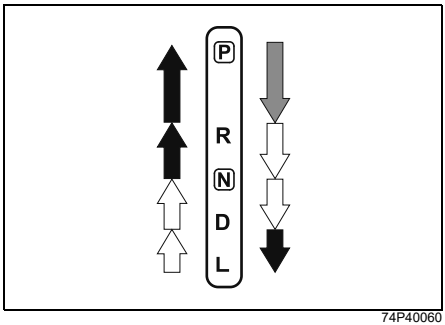


(1) ボタン

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するときの位置 ●駆動輪（前輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため P 位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
L ロー （マニュアルモードなし車）	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な下り坂を走行するときなどに使用します。
M マニュアル （マニュアルモード付車）	マニュアルモードで走行するときの位置 ●マニュアル感覚で走行したいとき、坂道や山間路を走行するときなどに使用します。 → **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

セレクトレバーの動かしかた



74P40060

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⇩	ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

注 記

完全に停車させてから、セレクトレバーを R に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約10 km/h以上のときは変速されません。（ニュートラルのまま）

アドバイス

⇧⇩の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣をつけてください。常にボタンを押して操作していると、間違って P R および L または M へ入れてしまうおそれがあります。

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせません。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせない場合は、次のページの手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

⚠注意

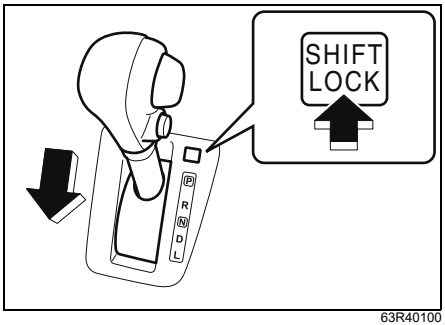
発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障や鉛バッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、エンジンスイッチを ACC にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。

2 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。



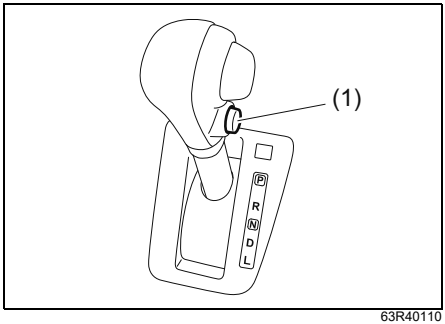
63R40100

- 上図のセレクトレバーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

Sモードスイッチ

マニュアルモードなし車

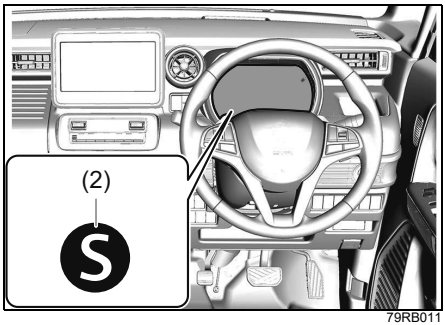
- スイッチを押すごとに、ON と OFF が切り替わります。



63R40110

(1) Sモードスイッチ

- ONのとき、メーター内のSモード表示灯（2）が点灯します。



79RB011

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- S モードスイッチは、エンジン始動時にはOFF状態にもどります。

■ スイッチがONのとき

坂道や山間路の走行に適しています。

- 下り坂ではエンジンブレーキがかかります。

■ スイッチがOFFのとき

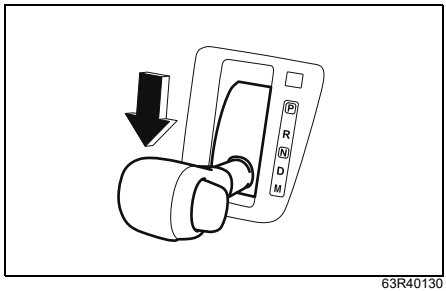
通常走行に適しています。

- 燃費性能と静粛性の高い走行ができます。

マニュアルモードの使いかた

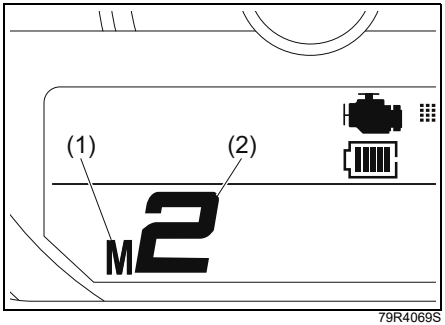
マニュアルモード付車

CVT 車は自動的に無段階に変速しますが、マニュアルモード（手動変速モード）にすると、任意に変速することができます。マニュアルモードにするときは、セレクトレバーを D から M に動かします。



63R40130

- メーター内の M（マニュアル）モード表示が点灯するとともに、現在のギヤポジションがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- セレクトレバーを D から M に動かした直後のギヤポジションは、D のときに自動的に選択されていたギヤポジションです。



79R4069S

(1) Mモード表示
(2) ギヤポジション表示

- 上図のイラストは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- セレクトレバーを M に動かさなくても、走行中 D のままパドルシフトスイッチを手前に引くと、一時的にマニュアルモードにすることができます。
  → **4-18 ページ（一時的にマニュアルモードにするときは）**

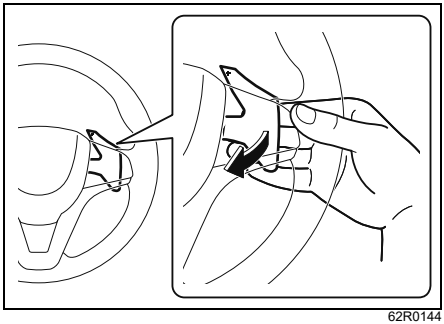
■ マニュアルモード時のシフト操作

ギヤポジションを走行速度に応じて 1 速から7速まで選択できます。

- エンジンおよびトランスミッション保護のため、シフト操作をしなくてもエンジンが高回転になると、自動的にシフトアップします。また、上り坂走行などでCVT油温が高くなると、エンジン回転が通常より低くても自動的にシフトアップすることがあります。
- シフト操作をしなくても車速が低下すると、自動的にシフトダウンし、停車するとギヤポジションは **1** になります。
- アクセルペダルを大きく踏み込むと、マニュアルモード時でもキックダウンすることがあります。
  → **4-19ページ（キックダウン）**

シフトアップしたいときは

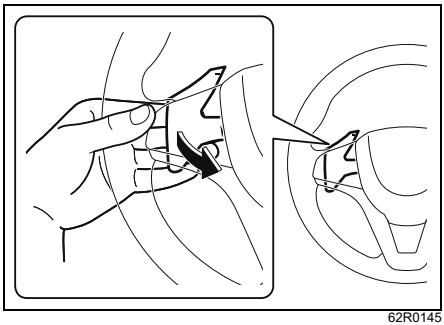
ハンドルの右側にあるパドルシフトスイッチ（**+**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



62R0144

シフトダウンしたいときは

ハンドルの左側にあるパドルシフトスイッチ（**ー**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



62R0145

アドバイス

- 連続して変速したいときは、パドルシフトスイッチから指を離してから、スイッチを引き直す必要があります。スイッチを引いた状態のままでは、連続して変速できません。
- 左右のパドルシフトスイッチを同時に操作すると、変速しないことがあります。

■ マニュアルモードシフト警告

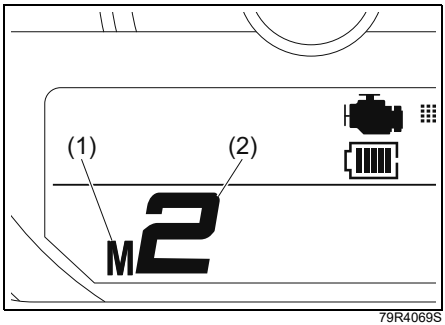
走行性能を確保するため、またはトランスミッション保護のため、シフト操作をしても希望するギヤポジションに変速されない場合があります。
このようなときは、警告ブザーが“ピッピッ”と鳴ります。

■ マニュアルモードを解除するときは

セレクトレバーを M から D にもどすと、マニュアルモードが解除されます。

■ 一時的にマニュアルモードにするときは

D で走行中（低車速時を除く）に、パドルシフトスイッチを手前に引きます。メーター内のM（マニュアル）モード表示（1）が点灯されるとともに、現在のギヤポジションが表示されます。



79R4069S

(1) Mモード表示
(2) ギヤポジション表示

- 上図のイラストは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 次のような操作または状況になると、マニュアルモードが自動的に解除され、もとの制御にもどります。
  - 変速しないで、一定時間アクセルペダルを踏み続けたとき
  - 低車速になったとき

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

●セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
●エンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルの踏み込みが大きいと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどで急加速したいときは、アクセルペダルを大きく踏み込むと、キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速をするおそれがあります。

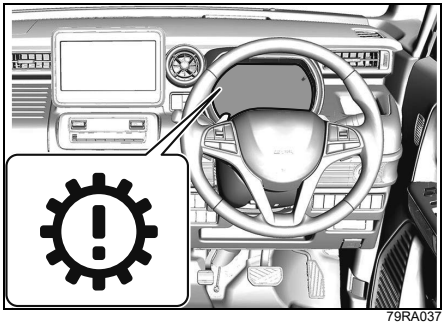
登降坂変速制御

セレクトレバーが D 位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。
- 降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯



79RA037

メーターパネル内にあります。

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- CVT のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-16ページ（警告灯）**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R(リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

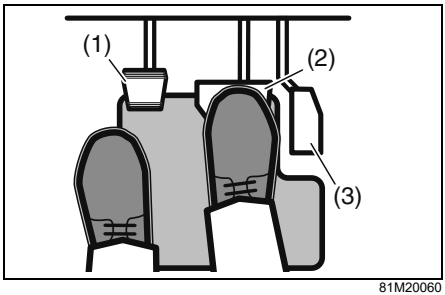
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



81M20060

(1) パーキングブレーキペダル
(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

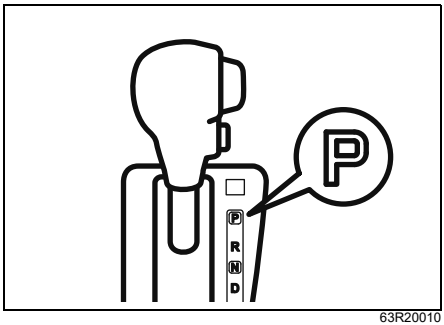
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



63R20010

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

オートマチック車の運転のしかた

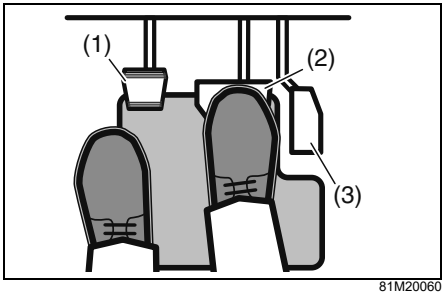
4-14ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節し、ハンドルを調節（タイプ別装備）します。
→ **3-42ページ（前席シート）**
→ **3-42ページ（チルトステアリング）**

2 アクセルペダル（3）とブレーキペダル（2）の位置を右足で確認します。

3 パーキングブレーキペダル（1）の位置を左足で確認します。



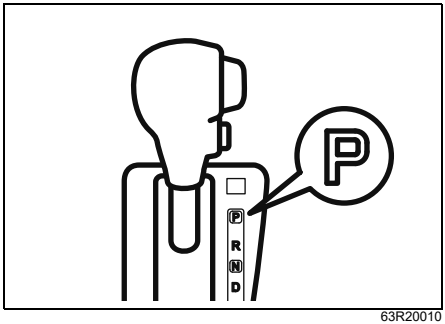
81M20060

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は**4-8ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



63R20010

アドバイス

セレクトレバーが N 位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

⚠注意

アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車は、エンジンスイッチを確実に押せていない場合、エンジンがかかっていないことがあります。エンジンがかかっていない状態でセレクトレバーを R または D に入れても車は動きません。この状態で発進しようとすると、坂道などで意図しない方向に車が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
エンジンを始動するときは、エンジンスイッチを確実に押し、エンジン音や警告灯などで、エンジンがかかっていることを確認してください。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

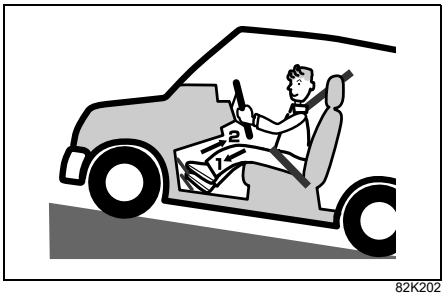
■ 急な上り坂での発進

1 、 2 は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3 左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏みます。

4 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

5 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキペダルをもどして発進します。



82K202

アドバイス

ヒルホールドコントロール装備車の場合、上り坂での発進時に車が後退することを一定時間防ぐ機能があります。
→ **4-147ページ**
（ヒルホールドコントロール）

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思いがけない事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を D で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

マニュアルモードなし車

坂の勾配に応じて、あらかじめパワーモードスイッチを ON にしておくと、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ 下り坂走行

下り坂を D のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

マニュアルモードなし車

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S モードスイッチを ON にしてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

マニュアルモード付車

坂の勾配に応じて、あらかじめパドルシフトスイッチ（ー側）を操作して適切なギヤポジションにして、エンジンブレーキを併用します。

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。トランスミッションフルードが過熱し、故障の原因となります。

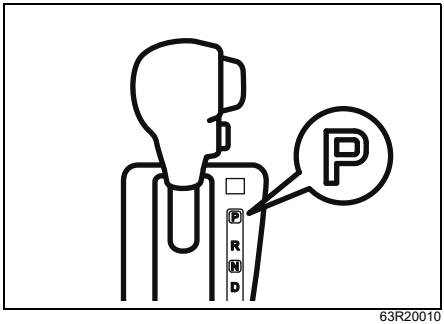
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- セレクトレバーが P 位置になっているか目で確かめます。



63R20010

⚠警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

パーキングブレーキをかける前にセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めた場合、エンジンを再始動後にレバーを P 以外の位置へ操作しようとすると、レバー操作が重い、あるいはいつもと違う音やショックが発生することがありますが、異常ではありません。

4 エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどします。

→ **4-11 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進または後退の操作を行なってください。

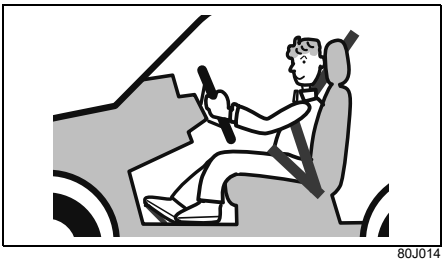
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（※）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。
※マニュアルモードなし車の
D 、L
マニュアルモード付車の
D 、M

■ 停車するとき

注 記

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

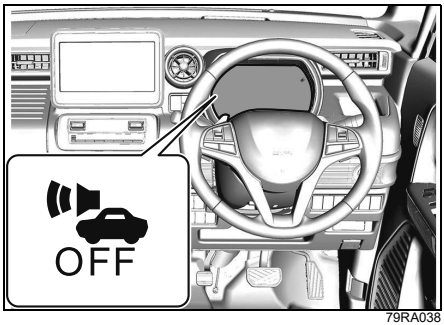
車両接近通報装置

モーターによるクリープ走行時などにおいて、車両の接近を周囲の人に知らせるために通報音を鳴らします。
周囲の騒音が大きいときや、大雨や強風のときは通報音が周囲の人に聞こえにくい場合があります。また、車両接近通報装置は車両の前方に装着されているため、車両後方は車両前方に比べ聞こえにくい場合があります。なお、走行中に車内でも通報音が聞こえることがありますが、車両接近を周囲の人に知らせるための音なので異常ではありません。

⚠警告

通報音が鳴っていても、周囲の騒音などが大きい場合には車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

■ 車両接近通報装置の異常のとき



79RA038

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 車両接近通報装置に異常があると、上図の警告灯が点滅します。
  → **1-16ページ（警告灯）**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

DSC&TCS装備車の取扱い

DSC&TCSは、ABS、ブレーキアシスト、TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-32ページをお読みください。

■ ブレーキアシスト

ABSのブレーキアシストと同様です。

■ TCS（トラクションコントロールシステム）

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。DSC&TCS による制御には限界があります。

⚠ 注意

●次のことをお守りください。
守らないとDSC&TCSが正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。

- **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  → 8-4ページ（タイヤの空気圧）
- **タイヤ交換時は指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
- **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
- **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
- **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
- **LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**

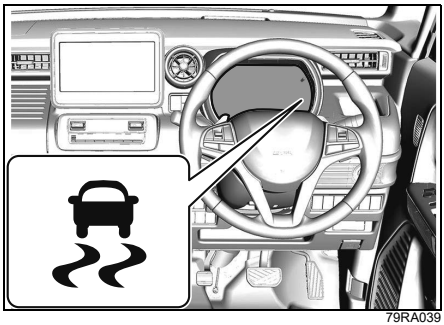
●タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、DSC&TCSが正常に作動しない場合があります。

アドバイス

●次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
- エンジンをかけたとき
- エンジンをかけ、最初の発進時

●エンジン回転が高いときにDSC&TCSが作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

DSC&TCS作動表示灯


79RA039

メーターパネル内にあります。
→ **1-20ページ（表示灯）**

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

- DSC&TCS の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 次の機能が作動しません。
    - ・TCS（トラクションコントロールシステム）
    - ・DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）
    - ・衝突被害軽減ブレーキ他
      → **4-36ページ（衝突被害軽減ブレーキ他）**
    - ・アイドリングストップシステム
      → **4-137 ページ（アイドリングストップシステム）**
  - ヒルホールドコントロールも作動しない場合があります。
    → **4-147ページ（ヒルホールドコントロール）**
  - ABSは作動します。
  - ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。

- 次のような状況になると、0.2秒間隔で小刻みに点滅します。
  - 発進時や加速時にTCS（トラクションコントロールシステム）が作動している
  - 急ハンドル時や旋回時にDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動している

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

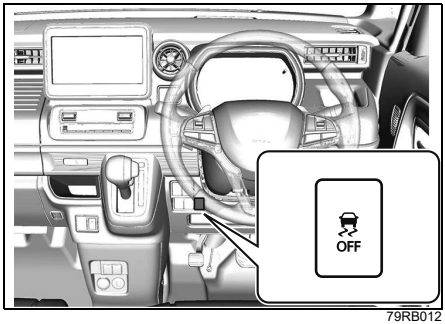
アドバイス

点灯中はTCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）は作動しませんが、ABSは使用することができます。

DSC&TCS OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内のDSC&TCS OFF表示灯が点灯するまでDSC&TCS OFFスイッチを押し続けてください。TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動しなくなります。
  - 車検を受けるときなどテスターに載せる場合。TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）を作動停止の状態にする必要があります。
  - スタックからの脱出などの場合。TCS（トラクションコントロールシステム）が脱出に適さないときがあります。

- 次のような操作をすると、DSC&TCS OFF 表示灯が消灯し、TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動可能な状態にもどります。
  - もう一度DSC&TCS OFFスイッチを押す
  - 一度エンジンを止め、再始動する



79RB012

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

● スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、DSC&TCS OFF スイッチを再度押してDSC&TCS OFF表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）は自動復帰しません。（一度エンジンを止め、再始動したときを除く）

アドバイス

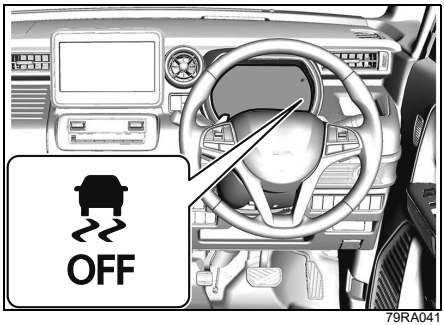
●安全のため、DSC&TCS OFF スイッチを操作しても、ABSおよびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。

●DSC&TCSを作動停止（OFF）にすると、デュアルカメラブレーキサポートOFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯し、衝突被害軽減ブレーキ他が停止します。

→ **3-101 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF表示灯）**

→ **3-103ページ（車線逸脱警報OFF表示灯）**

DSC&TCS OFF表示灯



79RA041

メーターパネル内にあります。

→ **1-20ページ（表示灯）**

● 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

● エンジンスイッチが ON のときに、DSC&TCS OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  • 点灯中は、TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）は作動しません。

● システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ABS とは Antilock Brake System （アンチロックブレーキシステム）の略です。ABSはブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠警告

●常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABS による制御には限界があります。
●ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。
※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

●急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。
●次のようなときは、ABSのついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。
- **凸凹道や石だたみなどの悪路**
- **じゃり道、新雪路**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**
- **マンホールなど鉄板の上を通過するとき**
- **タイヤチェーンの装着時**

●急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。
※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた

●路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

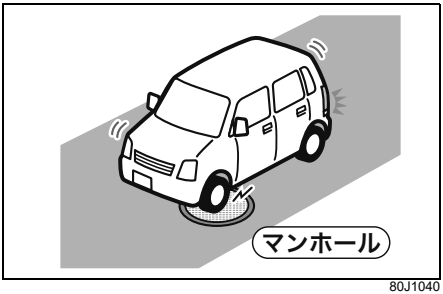
タイヤについて

⚠ 警告

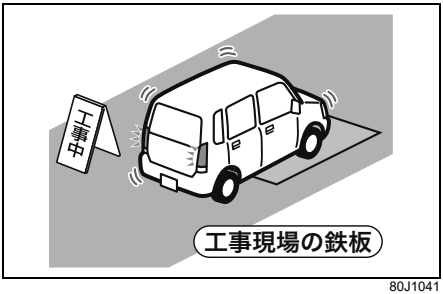
ABSは、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、指定のサイズで、4輪ともサイズ、メーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSは、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

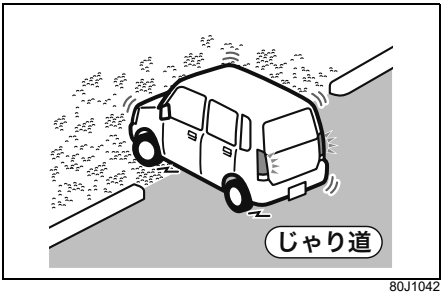
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040



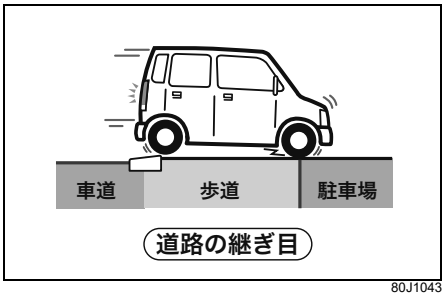
80J1041



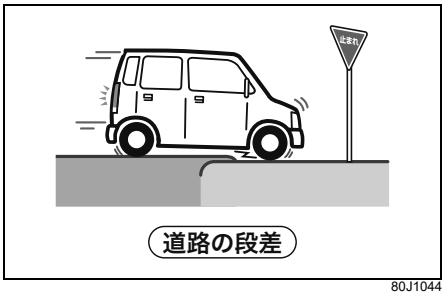
80J1042

4

● 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

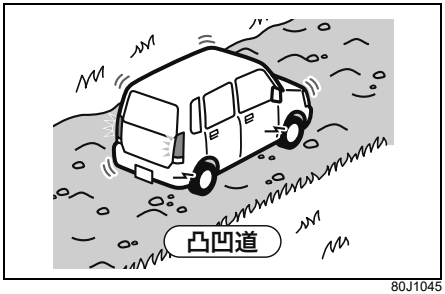


80J1043

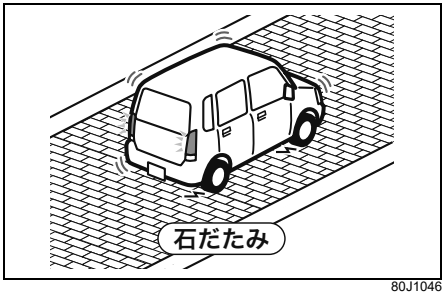


80J1044

● 悪路を走行しているとき

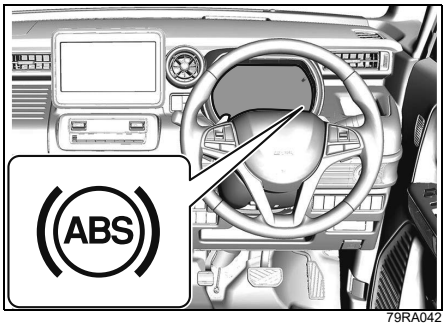


80J1045



80J1046

ABS警告灯



79RA042

メーターパネル内にあります。

● 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

● ABS の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
→ **1-16ページ（警告灯）**

ブレーキアシスト

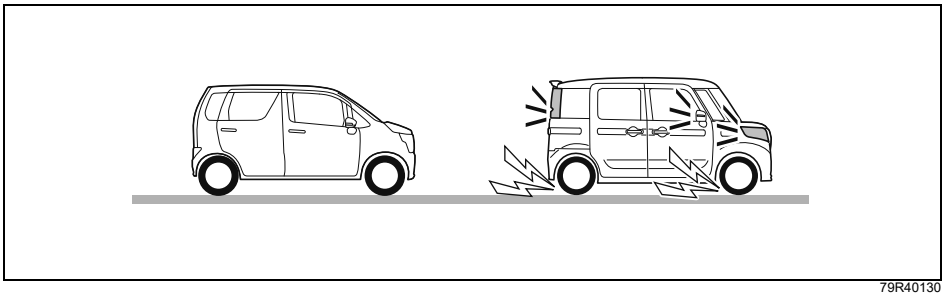
ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABS の効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

● しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
● ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

エマージェンシーストップシグナル（ESS）

ESS とは Emergency Stop Signal（エマージェンシーストップシグナル）の略です。ESSは次の条件をすべてみたしているときに、非常点滅表示灯を通常よりも速く点滅させることで、後続車へ注意を促す機能です。またその際、メーター内の方向指示器表示灯もあわせて点滅します。

- ブレーキペダルを勢いよく踏み込んだときの車速が約55 km/h以上のとき
- ABSが作動しているとき、またはABSが作動するような急ブレーキのとき



79R40130

ESSは次の状態になると機能が停止します。

- 車速が十分に低下したとき
- ブレーキペダルを離したとき
- ABSの作動が終了したとき
- 非常点滅表示灯スイッチの位置を ON にしたとき

⚠警告

ESS は走行中の急ブレーキ時に、後続車に注意を促すことで追突を軽減する機能で、すべての追突を防ぐものではありません。減速や停車するときは不要な急ブレーキはさけ、常に安全運転に努めてください。

アドバイス

- ESSの機能を停止させることはできません。
- ESSの機能よりも、非常点滅表示灯スイッチの操作が優先されます。
- 次のような路面を走行中に、一瞬しかABSが作動しなかったときは、ESS は作動しないことがあります。
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

衝突被害軽減ブレーキ他

衝突被害軽減ブレーキ他の各機能により事故の予防、回避、または被害の軽減を図ります。

衝突被害軽減ブレーキ他には次の機能があります。

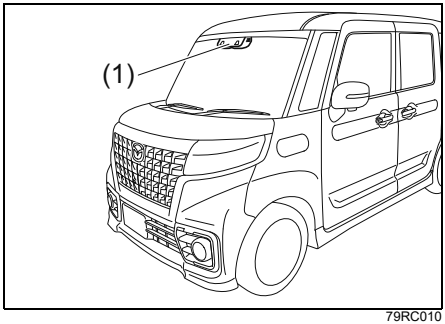
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）
  → **4-43ページ**
- 誤発進抑制機能
  → **4-48ページ**
- 車線逸脱警報
  → **4-51ページ**
- 車線逸脱抑制警報
  → **4-52ページ**
- ふらつき警報
  → **4-57ページ**
- 先行車発進お知らせ機能
  → **4-58ページ**
- ハイビームアシスト
  → **4-59ページ**
- アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）
  → **4-62ページ**
- 標識認識機能
  → **4-73ページ**
- 後退時ブレーキサポート
  → **4-82ページ**
- 後方誤発進抑制機能
  → **4-85ページ**
- リヤパーキングセンサー
  → **4-88ページ**
- 全方位モニター
  → **4-93ページ**

次の項目もあわせてお読みください。

→ **4-36ページ（ステレオカメラ）**
→ **4-79ページ（超音波センサー）**
→ **2-36ページ（車検を受けるときの注意）**
→ **7-3ページ（けん引してもらうときは）**

前方

ステレオカメラ



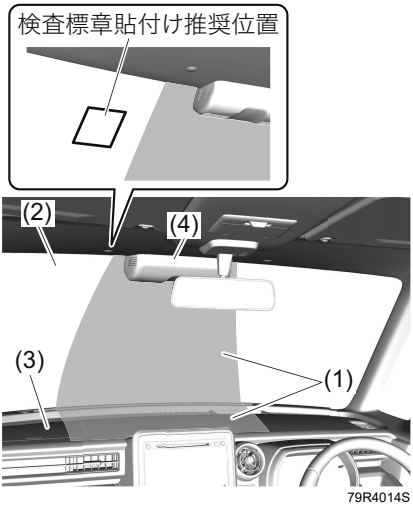
(1) ステレオカメラ

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

ステレオカメラによる検知機能には限界があり、すべての車両や障害物、区画線、道路標識を検知できるわけではありません。走行中は常に周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルなどを操作して安全運転に努めてください。

- **ステレオカメラを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、前方障害物や区画線、道路標識を正しく検知できなくなり、誤作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **ステレオカメラのレンズ部には触れない**
  - **ステレオカメラのレンズ部は清掃しない**
  - **ステレオカメラ本体、およびその周辺部に強い衝撃や力を加えない**
  - **ステレオカメラを取り外したり、分解したりしない**
  - **ステレオカメラのレンズ部にフィルムやステッカーなどを貼らない（透明なものを含む）**
  - **煙タイプの消臭剤等は使用しない**
- **接触事故などでステレオカメラ周辺部が変形・損傷した場合や、ステレオカメラ前面のフロントガラスにひび割れなどの傷がある状態で走行すると、ステレオカメラが前方障害物や区画線、道路標識を正しく検知できなくなり、誤作動して思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチを操作して、DCBS および誤発進抑制機能を停止させ、マツダ販売店で点検を受けてください。
- **次の場所にアクセサリー（マツダ純正用品を除く）などの取り付けや設置、フィルムやステッカーなどの貼付けをしないでください。ステレオカメラの視野に影響したり、安定した検知ができなかったりして、システムが正常に作動しない場合があります。また、禁止エリア（1）以外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映りこみなどにより、ステレオカメラの動作に異常があるときは移動させてください。**
  - **フロントガラス（2）**
  - **インパネ上面（3）**
  - **ボンネット**



(4)ステレオカメラ

※検査標章（ステッカー）は、前図を参考に貼り付けてください。また、ETCアンテナや無線機などを取り付けるときはマツダ販売店に相談ください。ステレオカメラに悪影響をあたえるおそれがあります。

⚠注意

次のとき、ステレオカメラが安定して検知できず、システムが正常に作動しない場合があります。
- **ワイパーのふき残しが発生したとき**
- **マツダ純正品以外のフロントガラスを使用したとき**
- **マツダ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき**

注 記

レンズ部が汚れてカメラの交換が必要になるおそれがあるため、次のことをお守りください。
- **ステレオカメラのレンズ部には触れない**
- **ステレオカメラのレンズ部は清掃しない**

アドバイス

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っているため、霧や大雨などで前方の視界が悪いときには、ステレオカメラも同様に前方車両や障害物、区画線、道路標識を検知しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や障害物、区画線、道路標識の検知は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御、警報の対象となるまでには数秒間かかります。

■ ステレオカメラの一時停止・故障

次の表のようになったとき、ステレオカメラが一時停止または故障しています。

		ステレオカメラ	
		システム一時停止	故障
(1)		点灯	
(2)		点灯	
(3)		点灯	
(4)	システム一時停止 (※)	点灯	消灯
(5)		点滅	消灯

(1) デュアルカメラブレーキサポート(DCBS)作動表示灯
(2) 車線逸脱警報作動表示灯
(3) ハイビームアシスト警告灯
(4) マルチインフォメーションディスプレイの表示
(5) マスターウォーニング

※一時停止の原因により、以下も同時に表示される場合があります。
- 一時停止時
  - ・システム一時停止（視界）
  - ・システム一時停止（温度）
  - ・システム一時停止（くもり）

以下のような場合にも表示することがあります。
- ステレオカメラの前部のフロントガラスが汚れているとき
- ステレオカメラの前部のフロントガラスに雨滴が付着しているとき
- ステレオカメラの前部のフロントガラスの外が曇っているときや凍り付いているとき
- 吹雪の場合や霧が発生しているとき
- 街灯のない暗い道路を走行しているとき
- 勾配の変化がきつい坂を走行しているとき
- ガレージの中で停車しようとしているとき
- 単色の壁に前向きにゆっくり接近しているとき
- シャッターや横縞の壁に前向きにゆっくり接近しているとき

アドバイス

- 車室内の湿度が高いときや車室内と外気の温度差が大きいときなどはフロントガラスがくもりやすくなります。
  くもりを検知したときは「システム一時停止（くもり）」が表示されます。フロントデフロスターを使用してくもりなどを取り除いてください。状況が改善されれば、マルチインフォメーションディスプレイの表示およびシステムの一時停止は解除されます。
- システム一時停止または故障のときは次の機能が停止します。
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）
  - 誤発進抑制機能
  - 車線逸脱警報
  - 車線逸脱抑制機能（タイプ別装備）
  - ふらつき警報
  - 先行車発進お知らせ機能
  - アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）（タイプ別装備）
  - ハイビームアシスト
  - 標識認識機能（タイプ別装備）
  - 後退時ブレーキサポート
  - 後方誤発進抑制機能
  - リヤパーキングセンサー

ステレオカメラのシステム一時停止
次のようなときステレオカメラが一時停止します。
状況が改善されれば、システムの一時停止は解除されます。

- カメラの視界不良のとき
  → **4-41ページ（こんな場合検知できないことがあります）**
- ステレオカメラ本体が低温または高温のとき
- 衝突被害軽減ブレーキ他に関連するシステムが一時停止のとき
- 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になったとき
- カメラの自動調整が不十分なとき

ステレオカメラの故障
故障したときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまでシステムが停止します。
安全な場所に停車して、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを止めてください。再度、エンジンを始動したとき、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびハイビームアシスト警告灯が消灯していることを確認します。

- エンジンを再始動しても表示灯が点灯している場合、ステレオカメラの故障が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

故障の原因として次のようなことが考えられます。

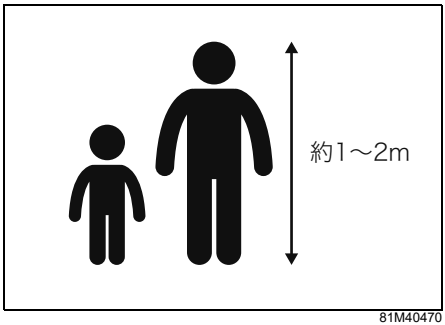
- ステレオカメラが異常のとき
- ステレオカメラ本体の温度が異常に低い、または異常に高いとき
- ステレオカメラの取り付けが大きくずれたとき
- エンジン、トランスミッション、ブレーキのコントローラおよびコントローラ間の通信が異常になったとき
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチが異常のとき
- 車線逸脱警報OFFスイッチが異常のとき
- ハンドルの舵角センサが異常のとき
- ステレオカメラの電源が遮断された

アドバイス

- エンジンを始動したあと、次のようなときにもデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびハイビームアシスト警告灯が点灯しますが、これは故障ではありません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを再始動すれば表示灯が消灯します。
  - 自動ブレーキが3回作動したとき
  - 自動ブレーキが長時間作動したとき
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびハイビームアシスト警告灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

■ 歩行者の検知

対象物の大きさや形状、動きから歩行者の検知を行なっています。



81M40470

⚠警告

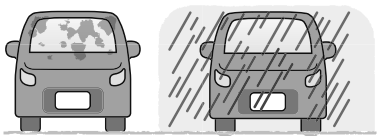
検知条件を満たしていても、必ず歩行者を検知できるわけではありません。次のような状況では､検知ができない､または検知が遅れる可能性が高くなります｡常に安全運転に努めてください。

- **集団で歩いている**
- **壁際や別の障害物のそばにいる**
- **傘をさしている**
- **背景と似た色合いで風景に溶け込んでいる**
- **大きな荷物をもっている**
- **前かがみやしゃがんだ姿勢でいる**
- **横たわっている**
- **横から急に、目の前に飛び出してきた**
- **背景、周囲の明るさが一様ではない（薄暮、街灯、対向車のヘッドライトの光など）**

■ こんな場合検知できないことがあります

- 次のようなとき、ステレオカメラが前方の障害物、区画線、道路標識を検知できない可能性が高くなります。
  また、衝突被害軽減ブレーキ他が一時停止になる場合があります。状況が改善されると再び機能は作動します。
  - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候のとき
  - 前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
  - 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
  - 真っ暗で周囲にものがないとき
  - 前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、屋内駐車場などの暗い場所で対象物に接近するとき
  - フロントガラスにくもり、雪、氷、土埃などが付着して汚れているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分にふき取れてないとき
  - フロントウォッシャーの使用中
  - マツダ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

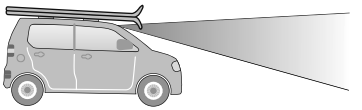
例



81M40380

- マツダ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- インパネ上面をケミカル剤などで光沢をもたせたとき
- フロントガラスへの映り込みがあるとき
- レンズ前を手などでふさいだとき
- レンズを汚したり傷をつけたりしたとき
- 次のように、ステレオカメラの視界をさまたげたとき
  - ・フロントガラスにステッカーやフィルムを貼った
  - ・フロントガラスに傷、ひびなどが生じた
  - ・ルーフキャリアやスキー板などの長尺物を搭載した

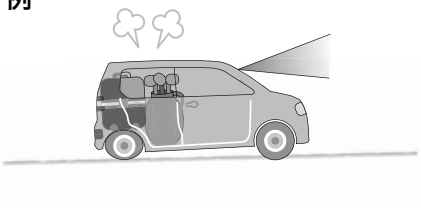
例



72M20423

- 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

例

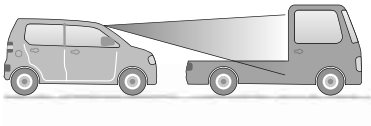


72M20405

- タイヤの空気圧が適正でない、または摩耗したタイヤのとき
- タイヤチェーンを装着したり、指定サイズ以外のタイヤを装着したりしたとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- パンクを応急修理したとき
- サスペンションを改造したとき
- トンネルの出入り口を通過するなど、明るさが極端に変化するとき
- 夜間やトンネル内でヘッドライトを点灯せずに走行しているとき
- 急な坂道や急なカーブ、道路の継ぎ目を走行しているとき
- ヘッドライトの光軸がずれているとき
- ヘッドライトやフォグランプを改造したとき
- ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき

- 次のような車両や障害物、状況は、ステレオカメラが前方の障害物を検知できなかったり、検知に時間がかかったりする場合があります。
  - 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸がある
    - ・荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなど
    - ・後端から積荷が飛び出している車両など
    - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
    - ・車高の低い車両など

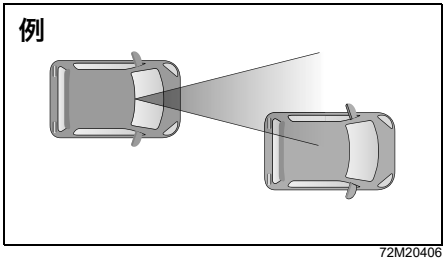
例



72M20407

- ふらつき運転をしているとき
- 先行車が太陽光などを強く反射しているとき
- 対向車両やバックしてくる車両
- 横向きの車両

- 夜間またはトンネル内で、テールランプが点灯していない先行車
- 停車している車両の前に壁などがある
- 車両の近くに別の障害物がある
- フェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様のまったくない壁、シャッターなどのとき
- 標識や街灯、電柱、木などポール状のもの
- 高さの低い障害物
- 鏡の壁や扉、ガラスなどのとき
- 小動物や幼児などの高さの低い対象物
- ガードレール
- 自車バンパーの近い位置に対象物が存在する
- 前方車両の一部しかステレオカメラの検知範囲内に入っていないとき



72M20406

- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間
- 前方車両との速度差が大きい場合
- 前方車両と近距離の場合
- 前方車両が急ハンドル、急加速、急減速した
- ヘッドライト照射範囲外に対象物がある場合
- 横からすぐ目の前に飛び出してきた
- 自車が車線変更を行ない、先行車のすぐ後ろに接近した

- 次のような区画線や状況は、ステレオカメラが区画線を検知できなかったり、検知に時間がかかったりする場合があります。
  - 車線の幅が狭いとき
  - 車線が検知しづらいとき
    - ・区画線がない、または消えている
    - ・区画線の色が路面の色と似ている
    - ・区画線の幅が狭い
    - ・区画線がかすれている、または道路鋲や置き石などがある
    - ・区画線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっている
    - ・雨天、雨上がり、水たまりなどぬれた路面を走行している
    - ・区画線が縁石等の上に引かれている
    - ・照り返しなどにより明るくなった路面を走行している
  - 前方車両と近距離の場合
  - 車線変更した直後、または交差点を通過した直後

デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）

DCBSとはDual Camera Brake Support（デュアル　カメラ　ブレーキ　サポート）の略です。DCBS は走行中、ステレオカメラにより前方車両や障害物、歩行者などを検知し、警報によって衝突の回避をうながしたり、ブレーキ制御によって衝突時の被害軽減を図ったりします。

- DCBS が作動したとき、アクセルペダルの操作をしても作動を継続します。ただし、アクセルペダルを強く踏み込むと作動を解除します。

- ブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドル操作をしていたりすると、操作状態によっては回避操作と判断され、DCBSが作動しない場合があります。
- DCBS は、主に車両や歩行者への衝突の回避、または衝突の被害を軽減することを目的としていますが、すべての状況において車両や歩行者を検知できるわけではありません。
- DCBS は作動停止状態にすることができます。
  → **4-72ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

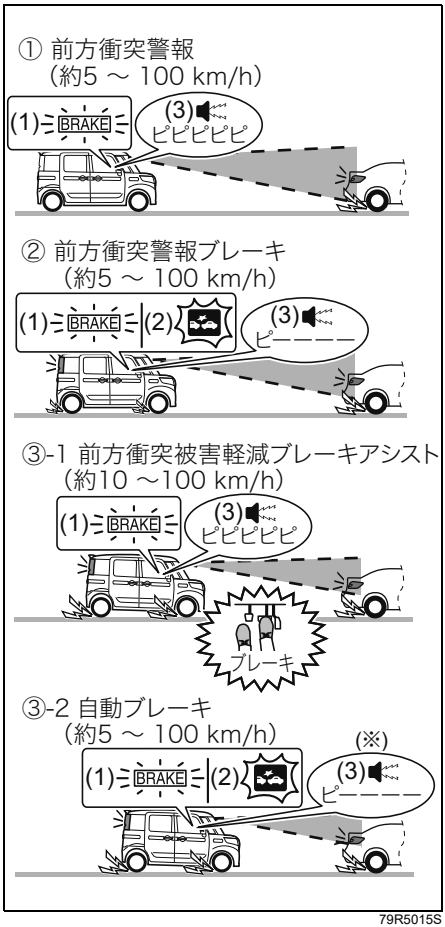
⚠警告

●DCBSの検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。DCBSにたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で DCBS の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては DCBS が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●自動ブレーキ機能作動時は、強いブレーキがかかりますので、運転前にすべての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。

アドバイス

- DCBS作動中に、前方障害物が検知範囲外に移動するなど、検知できなくなったときは、途中で作動が解除されることがあります。
- DCBS作動中にブレーキペダルを踏んでいなくてもブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 作動イメージ



79R5015S

(1) 前方衝突警告表示
(2) デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯
(3) 室内ブザー

※自動ブレーキによる車両停止後、自動ブレーキが解除されるまでの間、ブザー音は継続されます。また、前方衝突警告表示およびデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯は、ブレーキ制御終了後、約 3 秒後に消灯します。

⚠警告

オートマチック車は自動ブレーキが解除されるとクリープ現象により車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
自動ブレーキによる車両停止後は、すみやかにブレーキをかけてください。

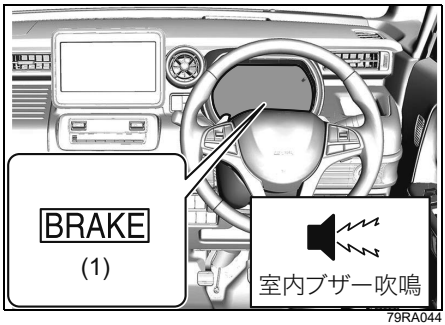
アドバイス

前方衝突警報ブレーキ、前方衝突被害軽減ブレーキアシスト、自動ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

①前方衝突警報

約5～100 km/hで走行中に、前方車両などに衝突する可能性があると、室内ブザーとメーター内の表示で運転者に警報を発します。

- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ内の前方衝突警告表示（1）が点灯します。



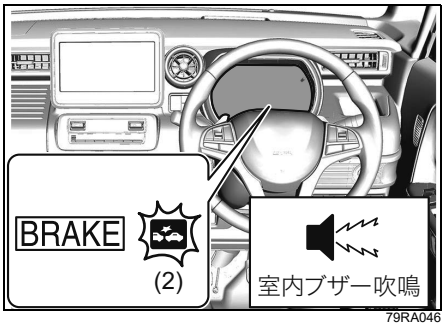
79RA044

- 前方衝突警報が鳴ったときは、前方や周囲の状況に応じて、ブレーキ、ハンドル操作などの回避行動をしてください。

②前方衝突警報ブレーキ

約5～100 km/hで走行中に、前方車両などに衝突する可能性が高いと、自動的に弱いブレーキをかけることによって運転者に回避操作をうながします。前方衝突警報ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

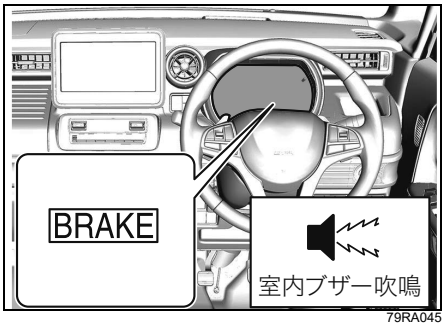
- 前方衝突警報ブレーキの作動中は、室内ブザーが“ピーーーー”と鳴り、メーター内のデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯（2）が点滅し、制動灯が点灯します。
- この機能が作動した場合は、前方や周囲を確認の上、ブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。



79RA046

③-1 前方衝突被害軽減ブレーキアシスト

約10～100 km/hで走行中に、前方車両などに衝突する可能性が高いときにブレーキペダルを強く踏むと、制動力を増強します。前方衝突被害軽減ブレーキアシストが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

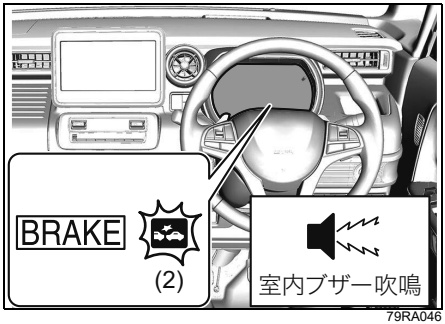


79RA045

③-2 自動ブレーキ

前方車両などとの衝突を避けられないとシステムが判断した場合、自動的に強いブレーキがかかります。自動ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

- 自動ブレーキの作動中は、室内ブザーが“ピーーーー”と鳴り、メーター内のデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯（2）が点滅し、制動灯が点灯します。



79RA046

アドバイス

前方衝突警告表示の点灯およびデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯の点滅は、機能が解除してから約3秒後に消灯します。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、DCBSは作動しません。

- エンジン停止中のとき（アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**

- セレクトレバーの位置が P R のとき
- DSC&TCS が作動しているとき（前方衝突警報を除く）
- 次のスイッチを操作して、DCBS を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-72ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
  - DSC&TCS OFFスイッチ
    → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**

- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなとき、DCBS が作動しない場合があります。

- 前方障害物を正しく検知できないとき
  → **4-41ページ（歩行者の検知）**
  → **4-41ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

- アクセルペダルやハンドルの操作などから、回避操作をしたと判断したとき

■ こんな場合は作動しても十分に減速できないことがあります

次のようなとき、DCBS が作動しても十分に減速できない場合があります。

- 外気温が低いときや走行開始直後でブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱され、ブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- 次のような路面を走行しているとき
  - 急カーブや、凸凹の激しい路面
  - 急な勾配

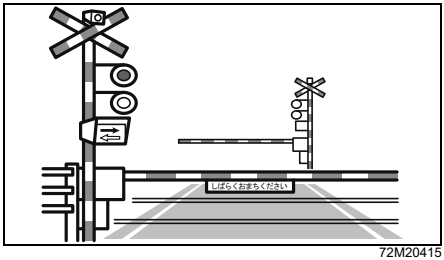
- 次のような滑りやすい路面を走行しているとき
  - 凍結路や積雪路
  - マンホールや工事用の鉄板の上
  - 砂利道

- 降雨時に走行しているとき

■ こんな場合にも作動することがあります

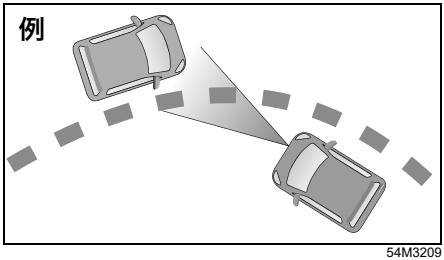
次のようなとき、ステレオカメラが前方障害物と判断してDCBSが作動する場合があります。あわてず注意して走行してください。

- 規定速度を超えてETCゲートを通過するとき
- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき



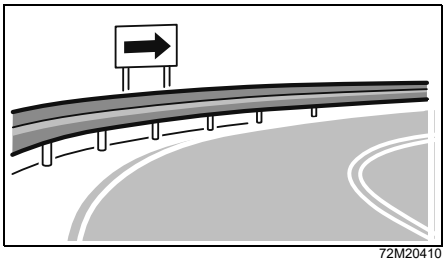
72M20415

- 路面の勾配が急に変化するような坂道を走行するとき
- 前方車両や隣車線の先行車に急接近したとき
- 前方および対向車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき
- 車両や障害物のすぐ横を通過するとき
- カーブ路で対向車とすれ違うとき



54M3209

- カーブ入口にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき


72M20410

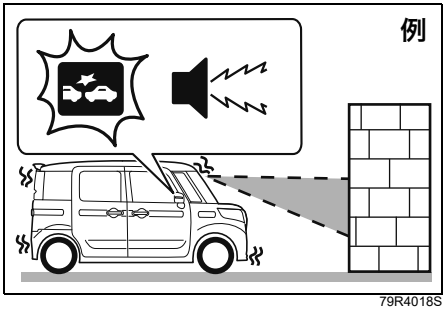
誤発進抑制機能

誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）中に、車体前端から前方約4 m以内に車両や障害物を検知すると、アクセルペダルの急激な踏み込みによるエンジン出力の上昇を自動的に最大約５秒間抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々に戻ります。
作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内のデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯が点滅
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**

- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る

デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯の点滅は、機能が解除されてから約3秒後に消灯します。



⚠警告

- **誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突時の被害軽減を図ることを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。**
- **お客様自身で誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などで機能が作動すると、自重により後退し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

- 前輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、誤発進抑制警告がディスプレイにも表示されます。
  → **4-125 ページ（ヘッドアップディスプレイの表示）**

■ こんな場合は作動しません

- エンジンがかかっていないとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が P R N のとき
- ハンドルを操作しているとき
- 次のスイッチを操作して、誤発進抑制機能を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-72ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
  - DSC&TCS OFFスイッチ
    → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

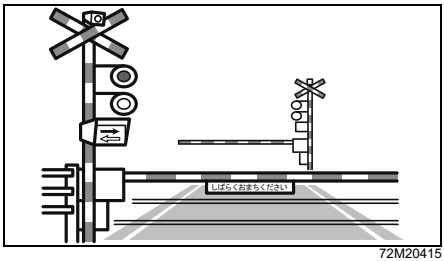
前方障害物を正しく検知できないとき、誤発進抑制機能が作動しない場合があります。

→ **4-41ページ（歩行者の検知）**
→ **4-41 ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

■ こんな場合にも作動することがあります

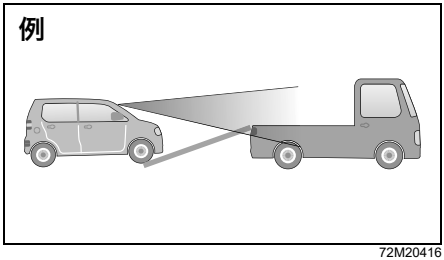
次のようなとき、ステレオカメラが前方障害物と判断して誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき



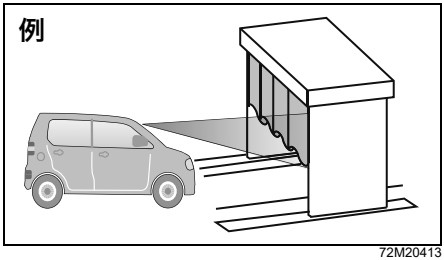
72M20415

- キャリアカーに積載するとき



72M20416

- ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



72M20413

- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 路面の勾配が急に変化するような坂道を走行するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などを通過するとき
- カーブ入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- 車両や障害物のすぐ横を通過するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき

■ 踏切内などで作動した場合は

誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- アクセルペダルを5秒以上踏み続ける
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- ハンドルを大きくまわす
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチを長押しする

→ **4-72 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

⚠警告

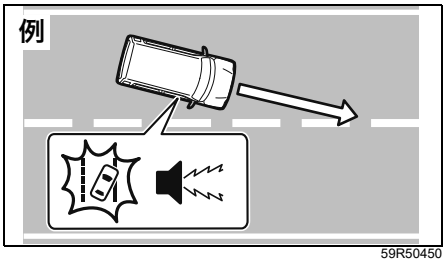
遮断機が下がる直前に無理に踏切内に進入しないでください。踏切内でDCBS や誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ **7-2 ページ（踏切内で動けなくなったときは）**

車線逸脱警報

走行時（約60 km/h以上）、ステレオカメラが車線の左右区画線を検知し、車線を逸脱すると判断した場合、次の方法により注意をうながします。

- メーター内の車線逸脱警報作動表示灯が点滅
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



59R50450

⚠警告

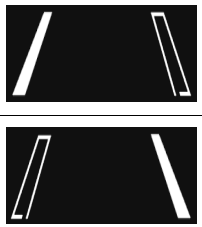
●車線逸脱警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものではありません。車線逸脱警報にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で車線逸脱警報の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては車線逸脱警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、車線逸脱警報がディスプレイにも表示されます。
→ **4-125 ページ（ヘッドアップディスプレイの表示）**

■ 車線逸脱警報表示

スピードメーター内の車線逸脱警報表示が次の表のようになったとき、以下の作動状態を表します。

	左右のいずれかの車線を逸脱したときに、 逸脱した側の車線が点滅します。

■ こんな場合は作動しません

次のときは、車線逸脱警報が作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 次のスイッチを操作して、車線逸脱警報を停止させているとき
  - 車線逸脱警報OFFスイッチ
    → **4-73ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
  - DSC&TCS OFFスイッチ
    → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**
- 方向指示器作動中および作動後などの意図的な車線変更と判断したとき

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、車線逸脱警報が作動しない場合があります。

- ハンドルを大きく、または早くまわしたとき
- 区画線に急に接近する場合
- 急なカーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んで加速しているとき
- 車線逸脱警報が作動したあと、車線の内側にもどっていないとき

※上記以外にもステレオカメラが区画線を検知できないとき、作動しない場合があります。

→ **4-41ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

■ こんな場合は作動することがあります

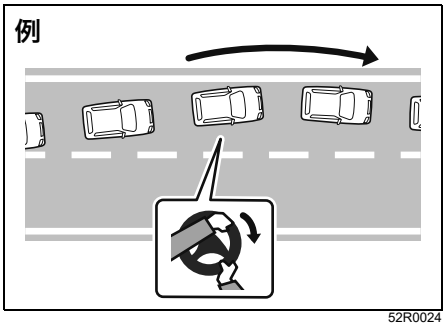
次のときは、車線逸脱警報が作動する場合があります。

- ガードレールの影のような区画線に並行する影があるときや区画線が影の中にあるとき
- 区画線が2重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- 積雪路や濡れた路面で、タイヤの跡などがあるとき
- 車線内に複数の線が引かれているとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など白線または黄線がない場所を走行するとき
- 分岐路または合流路などを走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

車線逸脱抑制機能

タイプ別装備

高速道路や自動車専用道路などで、車線が整備された道路を走行中、ステレオカメラが車線の左右区画線を検知し、車線を逸脱すると判断した場合、逸脱を防ぐ方向にハンドル操作をアシストします。



52R0024

⚠警告

●車線逸脱抑制機能はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。車線逸脱抑制機能にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。

●お客様自身で車線逸脱抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては車線逸脱抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- しばらくの間、手放し運転をつづけると短い室内ブザーが鳴り注意をうながします。さらに手放し運転を続けると同じ間隔で室内ブザーが繰り返し鳴り、繰り返すごとに1回の室内ブザーが長くなっていきます。ブザーが鳴り始めると、ハンドルを握ったり機能をOFFにしても、ブザーを中断させることができません。
- 車線逸脱抑制機能が約9秒作動すると機能が停止するまで断続的に室内ブザーが鳴ります。

■ 車線逸脱抑制機能の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動できます。

- 車線逸脱抑制機能を ON にしているとき
- 車速が約65 km/h以上のとき
- システムが左右区画線を認識しているとき
- 車線の幅が約3 m～約4 mのとき

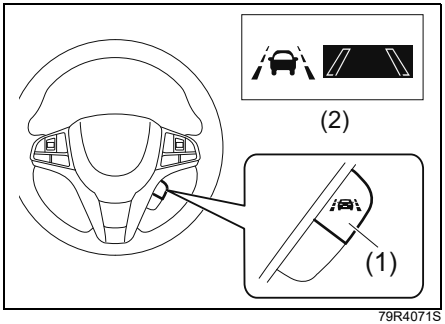
車線を逸脱しそうになると作動しハンドル操作をアシストします。

アドバイス

ハンドル操作がアシストされているときでも運転者がハンドルを操作できます。

■ 車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチ

車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチはハンドルの右側下方にあります。



79R4071S

(1) 車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチ
(2) 車線逸脱抑制機能表示

- 車線逸脱抑制機能を ON（スタンバイ状態）にするときは、車線逸脱抑制機能 ON/OFF スイッチ（1）を手前に引きます。スピードメーター内の車線逸脱抑制機能表示（2）が表示されます。
- 機能を停止させるときは、もう一度車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチを手前に引きます。車線逸脱抑制機能表示が消えます。

アドバイス

- エンジンを停止させても ON/OFF の設定は記憶されます。
- 次のような状況では、システムの初期学習が完了していないため、車線逸脱抑制機能を ON（スタンバイ状態）にしても、作動するまでに時間がかかる場合があります。
  - 納車直後で走行距離が少ない
  - お車の点検、整備を行なった直後

■ 車線逸脱抑制機能表示

スピードメーター内の車線逸脱抑制機能表示が次の表のようになったとき、以下の作動状態を表します。

	表示	表示色
(1)		白色
(2)		
(3)		オレンジ色
(4)		
(5)		内側が黒色
(6)		内側が白色
(7)		左内側が白色 (逸脱側が点滅)
		右内側が白色 (逸脱側が点滅)

(1) 車線逸脱抑制機能がスタンバイ状態です。機能は作動しません。
(2) 車線逸脱抑制機能がレディ状態です。機能が作動できます。
(3) 車線逸脱抑制機能がアクティブ状態です。機能が作動しています。
(4) 車線逸脱抑制機能の異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
(5) 車線逸脱抑制機能がスタンバイ状態です。機能は作動しません。
(6) 車線逸脱抑制機能がレディ状態です。機能が作動できます。
内側が左右で白色と黒色の場合があります。
(7) 車線逸脱抑制機能がアクティブ状態です。機能が作動しています。
内側が左側・右側で白色と黒色の場合があります。

■ 手放し警告表示



79R3029S

運転中にハンドルを持っていない、またはハンドル操作がない時にマルチインフォメーションディスプレイに警告表示が点灯します。ハンドルを持って操作してください。

→ **3-114ページ（手放し警告表示）**
→ **3-127ページ（手放し警告表示）**

■ こんな場合は機能が停止します

次のときは、車線逸脱抑制機能が停止します。

- 車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチを操作して、車線逸脱抑制機能を停止させているとき
  → **4-73 ページ（車線逸脱警報 OFF スイッチ）**
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-40ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）**
- パワーステアリング警告灯が点灯しているとき
  → **3-91ページ（パワーステアリング警告灯）**
- DSC&TCS 作動表示灯が点灯しているとき作動しない場合があります。

- 手放し運転に関する警告灯が表示されたあと、ハンドル操作を行わなかったとき
  → **3-105 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ（タコメーターなし車））**
  → **3-119 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ（タコメーター装備車））**

■ こんな場合は十分に性能を発揮できないことがあります

次のようなときは、車線逸脱抑制機能が十分に性能を発揮できないことがあります。

- 横風を受けているとき
- 急なカーブ、またはカーブの形状が急激に変化しているとき
- 次のような路面を走行しているとき
  - 凸凹、うねり、つなぎ目がある
  - 勾配が大きい、または急激に変化している
  - 積雪路や濡れた路面で、タイヤの跡などがある
  - 一般道（自動車専用道路以外）
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールを装着したとき
- スタッドレスタイヤやマツダ純正品以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤが著しく摩耗しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ホイールバランスが異常なとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- パンクを応急修理したとき
- サスペンションを改造したとき
- サスペンションやパワーステアリング装置を修理、交換したとき
- ハンドルに異常な振動を感じる、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- 事故や故障によって、まっすぐ走行できないとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 急な加速、または減速を行なっているとき
- 高速でカーブを曲がっているとき
- 区画線に急に接近するとき
- 牽引しているとき、または牽引されているとき

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のときは、車線逸脱抑制機能が正常に作動しないときがあります。

- 雨天や、降雪のとき
- 夕方、朝方の薄暗いときや道路に十分な照明がないとき
- トンネルの出入り口、高架下など明るさが極端に変化するとき
- 次のような路面を走行しているとき
  - 雪や凍結防止剤が残っている
  - ひび割れや補修の跡がある
  - 舗装されていない、荒れている
  - コンクリート路や照り返しなどにより明るくなっている
  - 雨天、雨上がり、水たまりなどによりぬれている
- 料金所や検札所の手前や交差点など区画線がない場所を走行するとき
- 分岐路または合流路などを走行しているとき
- 様々な路面標示や形状のレーンマーカーがあるとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
- ガードレールの影のような区画線に並行する影があるときや区画線が影の中にあるとき

- 路面の凹凸やつなぎ目などで車両が上下に大きく揺れているとき
- 前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
- 車間距離が短く、区画線が見えにくくなっているとき
- 前方車両や隣車線の先行車が車線変更したとき
- 区画線がない、または消えかかっているとき
- 区画線が二重に引かれているとき
- 車線内に複数の線が引かれているとき
- 区画線の幅が狭いとき
- 区画線の色が路面の色と似ているとき
- 区画線の形状が急激に変化しているとき
- 路肩に縁石や側壁があるとき
- 区画線が壁やポールに隣接して引かれているとき
- 区画線が縁石等の上に引かれているとき
- ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき
- 夜間やトンネル内でヘッドライトを点灯せずに走行しているとき
- ヘッドライトの光軸がずれているとき
- ヘッドライトやフォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 表示灯、警告灯が正常に点灯消灯しない、ブザーが鳴らない等、通常と異なるなど、何らかの異常があるとき
- ステレオカメラ付近のフロントガラスがくもったり、遮蔽物があったりしてカメラの視界がさまたげられたとき
- ステレオカメラの調整・修理または交換をした直後

■ こんな場合は一時的に作動が停止します

次のようなときは、車線逸脱抑制機能が一時的に作動が停止します。再び作動条件が満たされると作動します。

- 回避行動などのために、運転者自身がハンドル操作をしたとき
- 方向指示器作動中および作動後などの意図的な車線変更があったとき
- DSC&TCSが作動したとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 両側、または片側の車線を認識できなくなったとき

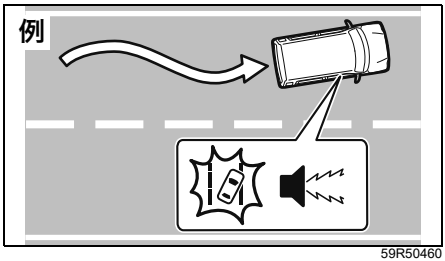
アドバイス

車線逸脱警報作動表示灯が点灯した場合、車線逸脱抑制機能は停止しますが、通常の走行に支障ありません。

ふらつき警報

走行時（約60 km/h以上）、システムが車線内での車両の蛇行パターンまたは短時間に連続で車線逸脱警報が作動したことにより、ふらつきと判断した場合、次の方法により注意をうながします。

- メーター内の車線逸脱警報作動表示灯が点滅
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



59R50460

⚠警告

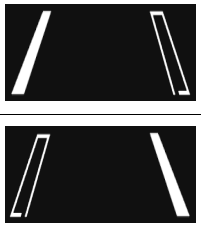
●ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものでありません。また、運転者に注意をうながす機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。ふらつき警報にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。
●お客様自身でふらつき警報の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によってはふらつき警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 車線内でのお車の蛇行パターンによるふらつき警報は、過去数十分程度の走行データをもとにふらつきと判断しています。ふらつきはじめてもすぐに判断されません。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、ふらつき警報がディスプレイにも表示されます。
  → **4-125 ページ（ヘッドアップディスプレイの表示）**

■ ふらつき警報表示

スピードメーター内のふらつき警報表示が次の表のようになったとき、以下の作動状態を表します。

	ふらつきのときは左右の車線が交互に点滅します。

4

■ こんな場合は作動しません

次のときは、ふらつき警報が作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**

- 次のスイッチを操作して、ふらつき警報を停止させているとき
  - 車線逸脱警報OFFスイッチ
    → **4-73ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
  - DSC&TCS OFFスイッチ
    → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**

- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、ふらつき警報が作動しない場合あります。

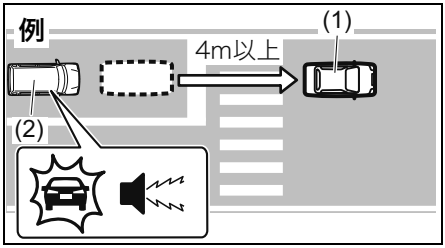
- 連続するカーブを走行しているとき
- 車速が大きく変化したとき
- 車線変更をした直後のとき

※上記以外にもステレオカメラが区画線を検知できないとき、作動しない場合があります。
→ **4-41ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

先行車発進お知らせ機能

先行車（1）から約10 m以内に停車し、そのあと先行車が発進して約4 m以上離れても、自車（2）が停止し続けた場合、次の方法により先行車が発進したことをお知らせします。

- マルチインフォメーションディスプレイ内に先行車お知らせ表示が点滅
- 室内ブザーが“ピピ”と鳴る



59R50490

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、先行車発進お知らせ機能を停止することができます。
  → **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

- ヘッドアップディスプレイ装備車は、先行車お知らせ機能がディスプレイにも表示されます。
  → **4-125 ページ（ヘッドアップディスプレイの表示）**

■ こんな場合は作動しません

次のときは、先行車発進お知らせ機能が作動しません。

- エンジンがかかっていないとき（アイドリングストップシステムによるエンジン自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が P R のとき
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**
- DSC&TCS OFF スイッチを操作して、DSC&TCSを停止させているとき
  → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**
- 設定の切替え（カスタマイズ）により先行車発進お知らせ機能を停止させているとき
  → **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**
- パーキングブレーキが解除され、ブレーキペダルを踏んでいないとき

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、先行車発進お知らせ機能が作動しない場合があります。

- 先行車が検知範囲外に移動したとき
- 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき

ハイビームアシスト

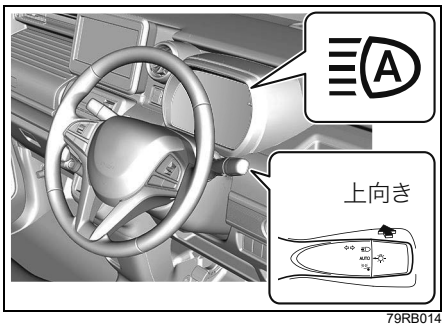
ステレオカメラにより先行車のライト、街路灯の明るさなど車両前方の状況を判断しヘッドライトの上向き（ハイビーム）、下向き（ロービーム）を自動的に切替えることができます。

⚠ 警告

ハイビームアシストのシステムを過信せず常に周囲の状況を把握して注意を払い安全運転に心がけてください。必要に応じて手動でハイビームとロービームに切替えてください。

- エンジンスイッチが ON のときに、ライトスイッチをAUTOの位置にし、ヘッドライトが点灯した状態でレバーを車の前方向に押すと、メーター内のハイビームアシスト作動表示灯（緑色）が点灯します。もとの位置にもどすとオートライトの状態でヘッドライトが下向きにもどります。オートライトセンサーの感度でヘッドライトが点灯する条件のときに作動します。
  → **3-134ページ（ライトスイッチ）**

- 約30 km/h以上で走行時、前方に先行車や対向車がいないときはヘッドライトが自動的に上向きに切り替わります。



79RB014

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25 km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

次の条件をすべてみたすと、ハイビームを点灯します。

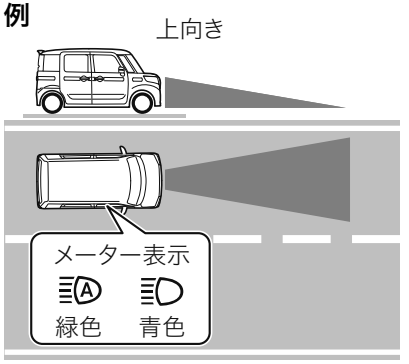
- 車速が約30 km/h以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 作動イメージ

①先行車や対向車がいないとき

ヘッドライトがハイビームになります。メーター内のハイビームアシスト作動表示灯とヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

例



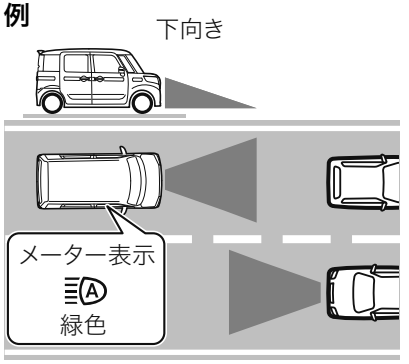
79R4025S

②先行車や対向車がいるとき

ヘッドライトがロービーム（下向き）になります。

メーター内のハイビームアシスト作動表示灯のみ点灯します。

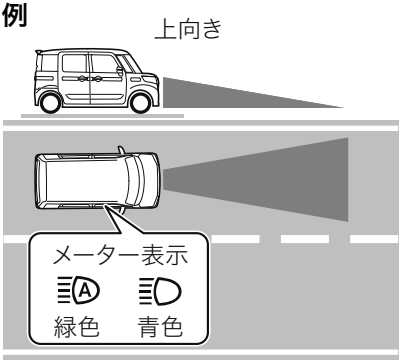
例



79R4026S

③先行車や対向車がいなくなったとき
再びヘッドライトが自動でハイビームになります。メーター内のハイビームアシスト作動表示灯とヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

例



- 次の状況ではハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と急にすれ違ったとき
  - 他車が自車の前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
  - 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
  - 前方車両が無灯火のとき

- 次の状況によりハイビームとロービームの切替えタイミングが変化する場合があります。
  - 前方車両のランプの明るさ
  - 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 前方車両の動きや向き
  - 前方車両が二輪車のとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や先行車などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切替えてください。
  - 周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
  - 前方車両のランプが無灯火のとき
  - 前方車両のランプに汚れや変色があるとき
  - 対向車のヘッドライトの光軸がずれているとき
  - 急激な明るさの変化が連続するとき
  - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
  - コンテナなど前方車両の後部が光を強く反射するとき
  - 自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
  - パンクやけん引などにより自車が傾いているとき

上記以外でもステレオカメラが前方車両や光源を認識できず、ハイビームアシスト機能が正しく作動しない場合があります。

→ **4-36ページ（ステレオカメラ）**

- 以下のような場合は、ハイビームアシストを使用せず、手動でハイビームとロービームを切替えてください。
  - ハイビームとロービームが頻繁に切り替わってしまうとき
  - ハイビームの使用に問題があるとき
  - ほかの運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

- 車両前方のフォグランプなどにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります。
- 街路灯や信号や広告などの照明または標識や看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

⚠警告

●お車の改造やステレオカメラの取り外しを行なうと、ハイビームアシストが正常に作動しないおそれがあります。
サスペンションやヘッドライトの改造、ステレオカメラの取り外しを行なわないでください。

アドバイス

- ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）が点灯し続けたときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 急加速時には、車速が約 30 km/h を超えても数秒間ハイビームアシスト機能が作動しない場合があります。
- ハイビームとロービームが運転者の感覚にあわず切り替わる場合があります。
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、ハイビームアシスト機能を停止することができます。
  → **8-6 ページ（こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます）**

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）

タイプ別装備

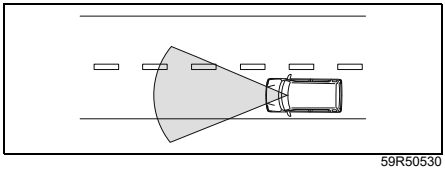
アクセルペダルから足を離しても、設定した車速で走行できます。また、先行車が現れたときは、車速に応じて設定した車間距離を保ち、追従できます。
高速道路や自動車専用道路でご使用ください。

⚠警告

システムを過信しない

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）は操作負担を軽減するためのシステムで、あらゆる状況で追突を防止するシステムではありません。
運転中は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルやアクセルペダルを操作して安全運転に努めてください。

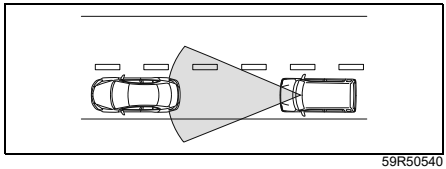
①定速制御（先行車がいないとき）
セットした目標車速で定速走行します。


59R50530

- 目標車速は、約 40 km/h 以上でセットできます。

②減速制御（セット車速より遅い先行車が現れたとき）

ステレオカメラが先行車を検知すると、先行車の車速に応じて、設定した車間距離を保ちながら自動で減速し、先行車に追従します。

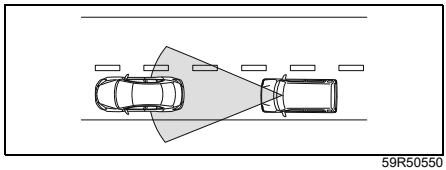


59R50540

- ステレオカメラが検知可能な先行車との車間距離は、前方約 100m 以内です。

③追従制御（セット車速より遅い先行車がいるとき）

- 先行車の車速に応じて、設定した車間を保ちながら自動減速・自動加速し、先行車に追従します。
- 0 km/hまで追従し、停止2秒後にシステムが一時的に解除されます。解除される前に前車が発進すれば、追従を継続します。



59R50550

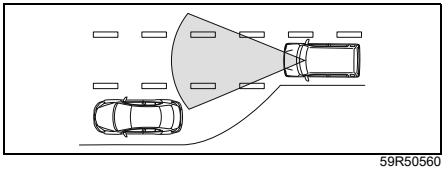
アドバイス

減速・追従制御時に、先行車に接近した場合は、前方衝突警報が作動します。

→ **4-71ページ（前方衝突警報）**

④加速制御（セット車速より遅い先行車がいなくなったとき）

セット車速までゆっくり加速し、定速走行します。



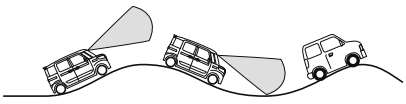
59R50560

⚠警告

次のような状況では使用しない

適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります

- **交通量の多い道。交通状況にあった速度で走行できないおそれがあります。**
- **急カーブのある道。道路状況にあった速度で走行できないおそれがあります。**
- **凍結や積雪などで滑りやすい道。タイヤが空転し、コントロールを失うおそれがあります。**
- **急な下り坂。設定した車速を超えるおそれがあります。また、追従制御時は十分に減速できず、先行車に接近するおそれがあります。**
- **急な上り坂、下り坂が繰り返される道。ステレオカメラが先行車を検知できず、先行車に接近するおそれがあります。**

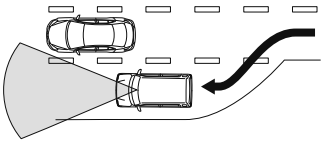


79R4028S

4

⚠ 警告

- けん引されているとき
- 高速道路の出口など。本線でセット車速より遅い車に追従している場合、出口に向けて本線を外れて先行車がいない状態になると、セット車速まで加速をはじめます。



59R50580

- 事故や故障によって、まっすぐ走行できないとき
- 右折専用車線や左折専用車線を走行しているとき
- 前方衝突警報が頻繁に作動するとき

→ 4-71ページ（前方衝突警報）

- 雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候時や、フロントガラス周辺に水滴や雪、汚れなどが付着しているとき。ステレオカメラが先行車との車間距離を正確に測定できないおそれがあります。

→ 4-36ページ（ステレオカメラ）

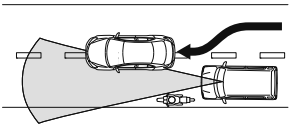
- トンネルの出入り口、高架下など明暗が急激に変化する状況では、先行車を正しく認識できずに、先行車に急接近して、衝突するおそれがあります。

⚠ 警告

次のような状況に注意してください

- 料金所や渋滞の最後尾などで先行車が停車中または低速走行中のときは、ステレオカメラが先行車を検知できず、前方衝突警報も作動しません。ブレーキで減速してください。
- 次のようなときは、ステレオカメラが先行車を正しく検知できないおそれがあります。また、前方衝突警報が作動しないおそれもあります。必要に応じてブレーキで減速してください。
  - 先行車などが路上の水や雪を巻き上げて走行しているとき。
  - 先行車が空荷のトレーラーなど車両の後部が小さすぎるとき
  - 荷室や後席に重い荷物を積むなどして、自車が傾いているとき
- 次のようなときは、ステレオカメラが隣車線の車両や路側などを検知して、前方衝突警報が作動するおそれがあります。
  - カーブ路や、車線幅が狭いとき
  - ハンドル操作などにより、自車の車線内の位置が不安定なとき

- **近距離ではステレオカメラの検知範囲が狭いため、次のようなときは、先行車の検知が遅れたり検知できなかったりするおそれがあります。必要に応じてブレーキで減速してください。**
  - **先行車が急に割り込んできたとき**
  - **自車または前方の車両が、車線の片側に偏って走行しているとき**
  - **前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき**



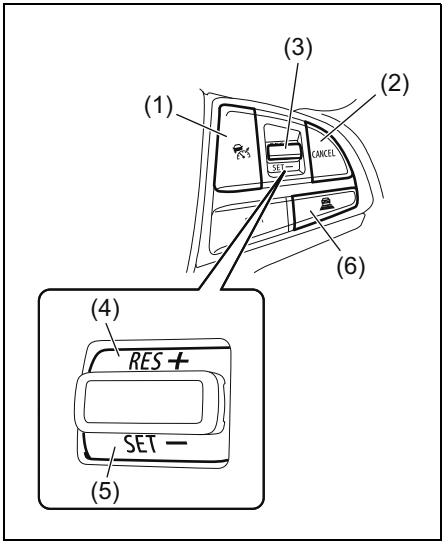
59R50590

アドバイス

先行車が停車したときは、自車も追従して停車します。
ただし停車状態を保持する機能はありませんので、停車したら速やかにブレーキを踏んでください。

■ アダプティブクルーズコントロールスイッチ

アダプティブクルーズコントロールスイッチはステアリングホイールの右側にあります。



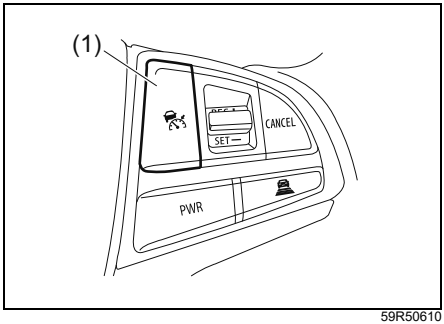
59R50600

(1) クルーズスイッチ
(2) キャンセルスイッチ
(3) RES / SET ノブ
(4) RES ＋位置
(5) SET －位置
(6) 車間距離設定スイッチ

■ 車速設定のしかた

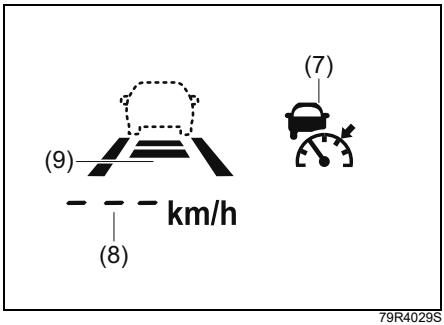
定速走行時の車速を設定します。

1 クルーズスイッチ（1）を押して、システムをON（待機状態）にします。



59R50610

マルチインフォメーションディスプレイにアダプティブクルーズコントロール表示灯（7）が点灯し、「- - - km/h」（8）が表示され、車間距離設定表示（9）が表示されます。



79R4029S

2 アクセルペダルで加速／減速しながら、希望の車速に調節します。

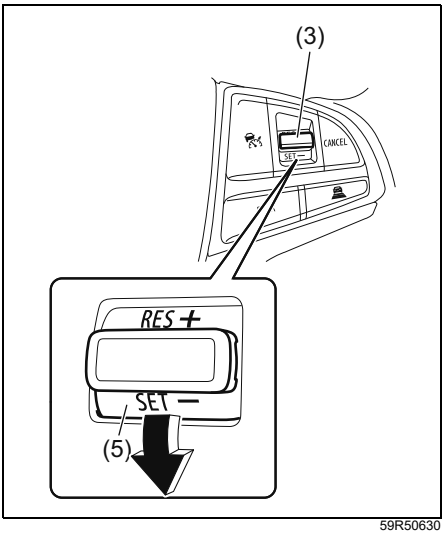
- 先行車を検知していない場合、約 40 km/h 以上の車速で走行していることにより設定可能です。
- 先行車を検知している場合、約 1 km/h 以上の車速で走行していることにより設定可能です。

3 RES/SET ノブ（3）を **SET-** 位置（5）に動かします。

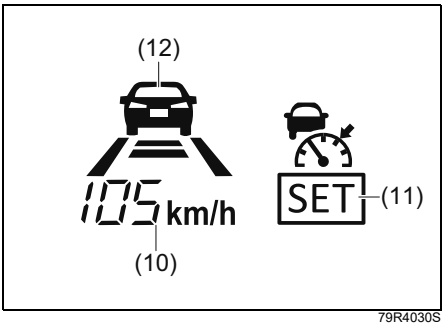
マルチインフォメーションディスプレイに設定車速（10）と SET 表示灯（11）が表示されると、設定した車速または先行車に追従して走行できます。

約 40 km/h 以上で走行している場合は、走行している車速で設定されます。先行車を検知していて約 40 km/h 以下で走行している場合は約 40 km/hで車速が設定されます。

- 先行車検知表示（12）は先行車が検知されている場合と検知されていない場合の表示があります。

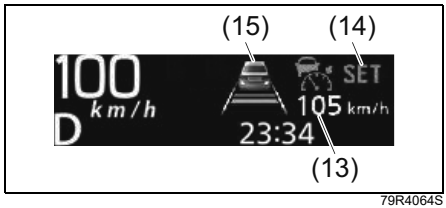


59R50630



79R4030S

●ヘッドアップディスプレイ装備車は、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）をセットすると自動的に、設定車速（13）、SET 表示灯（14）および先行車検知表示（15）がディスプレイにも表示されます。



79R4064S

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用しないときは、必ずクルーズスイッチ（1）を押してシステムを解除してください。誤ってアダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 標識や標示で指定された最高速度を超えないように車速を設定してください。

→ **4-69ページ（設定車速の変えかた）**

● 次のいずれかのときは、設定できません。
- 車速が約1 km/h 以下のとき
- 車速が約40 km/h 以下で、先行車を検知していないとき
- セレクトレバーが P R および N のとき
- ステレオカメラが故障または一時停止したとき
- DSC&TCS OFF スイッチが押されているとき
- 運転席のシートベルトを外しているとき
- 運転席のドアを開けているとき
- パーキングブレーキが解除されていないとき
- ブレーキパッドが高温のとき
- 急勾配を走行しているとき

● エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、自動的にシステムが解除されます。

● ヘッドアップディスプレイ装備車は、マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）セット時の設定車速（13）、SET 表示灯（14）および先行車検知表示（15）への自動遷移を OFF にすることができます。

→ **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

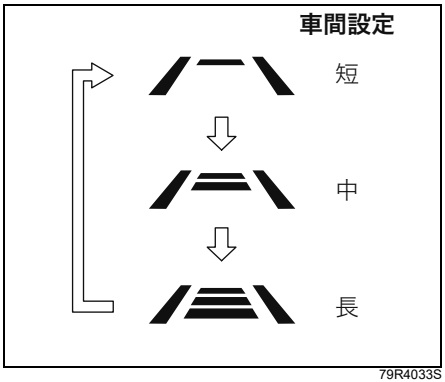
先行車検知表示の見かた

表示	状況
 79R4031S	先行車が検知されていないとき（定速制御になります）
 79R4032S	先行車が検知されているとき（減速・追従制御になります）

■ 車間距離設定の切替えかた

先行車の車間距離は、交通状況に応じて「短」、「中」、「長」の３段階から選択できます。

- アダプティブクルーズコントロール表示灯（7）が点灯中に、車間距離設定スイッチ（6）を押すと、車間距離設定表示（9）が次のように切り替わります。



79R4033S

アドバイス

- エンジンを切ると記憶が消去され、初期状態にもどります。
- 車速や道路状況に応じて適切な車間距離は増減しますが、次の表を参考に設定してください。

＜車速80 km/h走行時の目安＞

車間設定	車間距離
「短」	約35 m
「中」	約45 m
「長」	約55 m

■ 一時的に加減速したいときは

加速したいとき

アクセルペダルを踏んでください。制御が一時的に解除され、通常走行と同様に加速できます。

- アクセルペダルを踏み込むと制御が一時的に解除され車速が上がります。このとき、アダプティブクルーズコントロールの警告範囲内に先行車がいても前方衝突警報は作動しません。
- アクセルペダルから足を離すと、自動的にもとの制御にもどります。

減速したいとき

ブレーキペダルを踏んでください。制御が一時的に解除され、マルチインフォメーションディスプレイの SET 表示灯（11）が消えて、待機状態になります。

一時的に解除した制御を復帰できます。

→ **4-70ページ（一時的な解除の復帰）**

アドバイス

- Mモードで走行中、減速するときは車速に応じてシフトダウンしますが、加速時に自動シフトアップしないので、手動で行なう必要があります。
- アダプティブクルーズコントロールシステム制御中に DSC&TCS システムの作動音が聞こえる場合がありますが、これはブレーキを昇圧している音であり異常ではありません。

■ 設定車速の変えかた

現在車速にあわせる

- 速度を上げるとき
  アクセルペダルで目標の車速まで加速し、RES/SET ノブ（3）を **SET-** 位置（5）に動かします。
- 速度を下げるとき
  ブレーキペダルで目標の車速まで減速し、RES/SET ノブ（3）を **SET-** 位置（5）に動かします。

アドバイス

ブレーキペダルを踏むと制御がキャンセルされ、SET 表示灯（11）が消灯します。（待機状態）

RES / SET ノブを使って

- 速度を上げるとき
  RES/SET ノブ（3）を **RES +** 位置（4）に動かします。
  微調整（1 km/h ずつ）：小刻みに動かします。
  大幅調整（5 km/h ずつ）：動かしたままにし、希望の速度になったら手を離します。
- 速度を下げるとき
  RES/SET ノブ（3）を **SET -** 位置（5）に動かします。
  微調整（1 km/h ずつ）：小刻みに動かします。
  大幅調整（5 km/h ずつ）：動かしたままにし、希望の速度になったら手を離します。

アドバイス

先行車を検知している減速・追従制御時は、RES /SET ノブ（3）を **RES+** 位置（4）に動かしたままセット車速を上げても加速しません。ただし、先行車がいなくなると、自動的にセット車速まで加速しますので気をつけてください。

■ 一時的な解除のしかた

操作による解除

- キャンセルスイッチ（2）を押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ステレオカメラが一時停止したとき

同時にマルチインフォメーションディスプレイのSET表示灯（11）が消えて、待機状態になります。

一時的に解除した制御を復帰できます。
→ **4-70ページ（一時的な解除の復帰）**

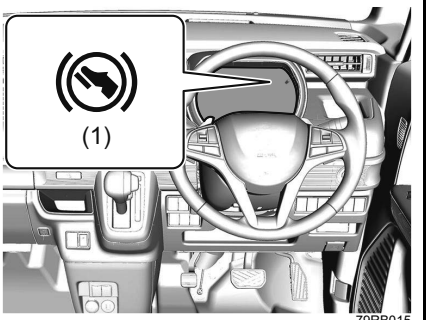
制御の自動解除

- 車速が0 km/hになるまで追従し、2秒間以上停止したとき

⚠警告

減速・追従制御中に先行車が停車した場合は、自車も追従して停車します。停止して約2秒後に、制御が自動的に解除されます。制御の解除後はクリープ現象により車両が動き出すため、停車後は速やかにブレーキペダルを踏んでください。

停車後は、室内ブザーが“ピッピッピッ”と鳴り、ブレーキリクエストインジケーター（1）が点灯します。



- 車が横滑りしそうになったとき（DSC&TCS作動時を含む）
- セレクトレバーが P R および N のとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 運転席のドアを開けたとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- ブレーキパッドが高温のとき
- 制御による停車時に急坂路を検知したとき

解除された制御を復帰できます。制御が解除されたときの状況が改善されるなどしてから、行ってください。

→ **4-70ページ（一時的な解除の復帰）**

■ 一時的な解除の復帰

RES/SET ノブ（3）を **RES+** 位置（4）に動かします。マルチインフォメーションディスプレイのSET表示灯（11）が表示され、制御が復帰します。

ただし以下のときは復帰しません。

- 車速が約 40 km/h 以下で、先行車を検知していないとき
- 先行車を検知しているが、車速が約1 km/h 以下のとき

■ システムの解除

- クルーズスイッチ（1）を押したとき

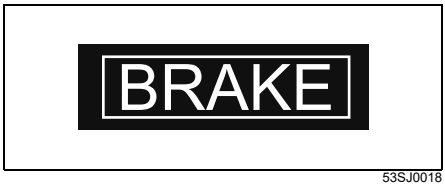
アドバイス

システム異常があると自動的に解除され、同時にアダプティブクルーズコントロール警告灯が点灯します。

→ **4-71 ページ（アダプティブクルーズコントロール警告灯）**

■ 前方衝突警報

減速・追従制御中に先行車が急減速したり、他車が割り込んできたりして、十分に自動減速ができず先行車に接近すると、前方衝突警報が作動して注意を促します。
室内ブザーが、“ピピピピッ”と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。



53SJ0018

- 前方衝突警報が作動したときは、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

⚠警告

- **前方衝突警報が頻繁に作動するような状況では、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用しないでください。**
- **次のようなときは、短い車間距離でも前方衝突警報が作動しない場合があります。**
  - **先行車とほぼ同じ速度で走行してるとき**
  - **先行車の方が速く、次第に離れていくとき**
  - **目標車速をセットした直後**
  - **アクセルペダルを踏んでいるときや離した直後**
- **4-64ページの 次のような状況に注意してください もあわせてお読みください。**
- **衝突のおそれがあると判断されると、前方衝突警報ブレーキが作動します。**
  → 4-43ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））

■ アダプティブクルーズコントロール警告灯



54P000233

メーター内にあります。

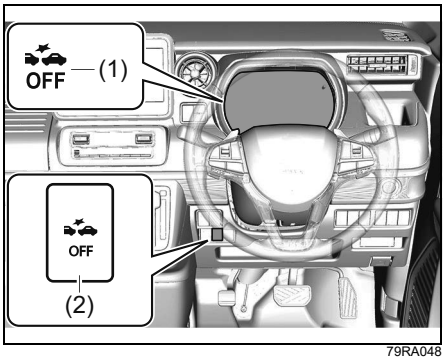
→ 1-16ページ（警告灯）

- アダプティブクルーズコントロールのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときにオレンジ色に点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約6秒間点灯したあと消灯します。
- DSC&TCS を作動停止（OFF）にすると、DSC&TCS OFF 表示灯、デュアルカメラブレーキサポート OFF 表示灯および車線逸脱OFF 表示灯が点灯し、アダプティブクルーズコントロールの機能が作動停止します。
  → 4-43 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））

デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ

DCBS、誤発進抑制機能、後退時ブレーキサポート、および後方誤発進抑制機能を停止できます。

- 機能を停止させるときは、メーター内のDCBS OFF表示灯（1）が点灯するまでDCBS OFFスイッチ（2）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度DCBS OFFスイッチを長押しして DCBS OFF表示灯を消灯させます。
- 手動でエンジンを停止するたびに機能は復帰し、DCBS OFF表示灯は消灯します。
- DCBS OFFスイッチを押すたびに、室内のブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



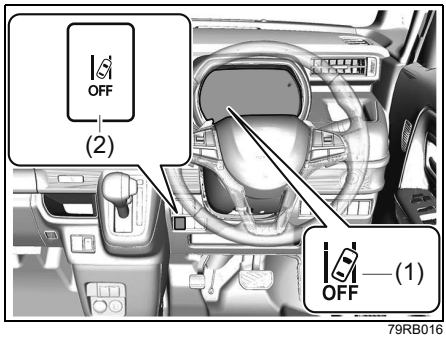
79RA048

- 次のような状況では、DCBSおよび誤発進抑制機能が予期せず作動するおそれがあるため、事前にDCBS OFFスイッチを操作して作動停止の状態にしてください。
  - 車検などでテスターに載せるとき
  - 車をリフトで上げて、タイヤを空転させるとき
  - けん引されるとき
  - キャリアカーなどに積載するとき
  - サーキット場などでスポーツ走行するとき
  - ビニールカーテンや垂れ下がった枝があるとき
  - 生い茂った草むらなどを走行するとき
  - 洗車機を使用するとき
  - スペアタイヤ（市販品）やタイヤチェーンを装着したとき
  - パンクを応急修理したとき
  - 事故にあったときや、故障などで走行が不安定なとき
  - 自動ブレーキが何回も予期せず作動したとき
  - タイヤの空気圧が適正でないとき
  - タイヤが著しく摩耗しているとき
  - 指定サイズ以外のタイヤやホイールを装着したとき
  - サスペンションを改造したとき
  - ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを取り付けたとき
  - ヘッドライトの汚れなどで、前方を正しく照射できないとき
  - ヘッドライトの光軸がずれているとき
  - ヘッドライトやフォグランプを改造したとき
  - 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

車線逸脱警報OFFスイッチ

車線逸脱警報およびふらつき警報を停止できます。

- 機能を停止させるときは、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯（1）が点灯するまで車線逸脱警報 OFF スイッチ（2）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度車線逸脱警報 OFF スイッチを長押しして車線逸脱警報OFF表示灯を消灯させます。
- 車線逸脱警報 OFF スイッチを押すたびに、室内にブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



79RB016

アドバイス

一度エンジンを止め、再始動しても作動可能な状態にもどりません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にする前の作動状態を維持します。

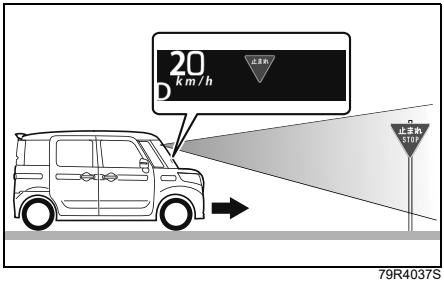
標識認識機能

タイプ別装備

ステレオカメラが走行中に認識した標識を、ヘッドアップディスプレイへ表示し、運転者へお知らせします。

■ 一時停止標識を認識したときは

- 走行時（約40 km/h以下）、一時停止標識を認識すると、ヘッドアップディスプレイへ表示して運転者へお知らせします。

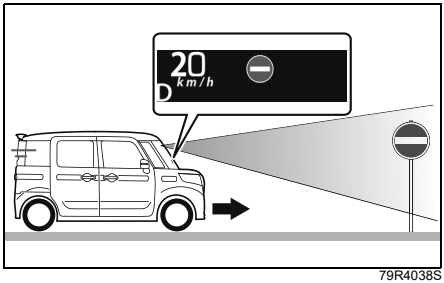


79R4037S

4

■ 車両進入禁止標識を認識したときは

- 走行時（約60 km/h以下）、車両進入禁止標識を認識すると、ヘッドアップディスプレイへ表示して運転者へお知らせします。

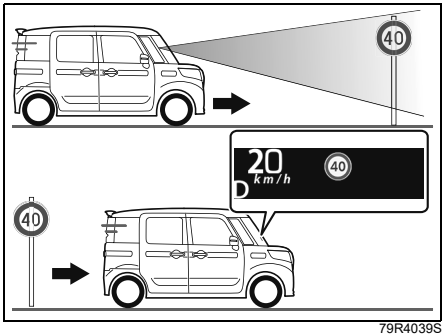


79R4038S

- ステレオカメラが車両進入禁止標識を認識し、自車が一方通行の道路へ進入したと判断した場合、ヘッドアップディスプレイの表示を点滅させ、運転者へ注意を促します。

■ 最高速度またははみ出し通行禁止標識を認識したときは

標識を通過すると、ヘッドアップディスプレイへ表示し、運転者へお知らせします。



79R4039S

⚠ 警告

標識認識機能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。標識認識機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。

アドバイス

- 周囲の状況や車両の状態などにより、ヘッドアップディスプレイへの表示が遅れる場合があります。
- 標識認識機能は、最大２つまでヘッドアップディスプレイに表示されます。
- 次の状況になると、ヘッドアップディスプレイの表示は消えます。
  - 最高速度またははみ出し通行禁止標識が表示されたあと、一定の距離を走行したとき
  - 方向指示器を点滅させて、右折または左折するとき
  - セレクトレバーの位置が P R のとき（最高速度または一時停止標識が表示されているときを除く）
  - 最高速度やはみ出し通行禁止標識の上にある規制区間の終わりを示す標識を通過したとき
- 最高速度標識が表示された状態でエンジンスイッチを OFF したとき、再度エンジンを始動させると、前回と同じ標識が表示されます。

●最高速度標識は、実際よりも高い速度を表示したり、低い速度を表示したりすることがあります。
●マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、標識認識機能を停止することができます。
→ **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

●ヘッドアップディスプレイの基本表示が、瞬間燃費表示、エネルギーフロー表示、タコメーター表示のときは、認識された標識が以下の位置（車速表示の下）に表示されます。
→ **4-125 ページ（ヘッドアップディスプレイの表示）**



79R4067S

■ 認識する標識の種類

ヘッドアップディスプレイの表示	表示条件
 59R50840	最高速度標識を認識し、標識を通過すると表示
 59R50850	はみ出し通行禁止標識を認識し、標識を通過すると表示
 59R50860	車両進入禁止標識を認識すると同時に表示
 59R50870	一時停止標識を認識すると同時に表示

■ こんな場合は作動しません

次のときは、標識認識機能が作動しません。

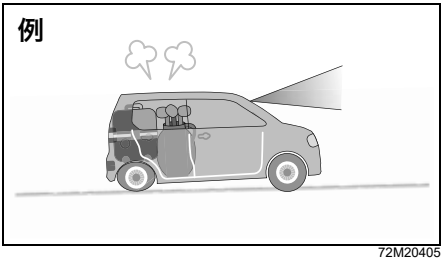
- エンジンがかかっていないとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルカメラブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-101ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-103ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が P R N のとき
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-38ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**
- DSC&TCS OFF スイッチを操作して、DSC&TCSを停止させているとき
  → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、標識認識機能を停止させているとき
  → **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**
- 最高速度標識はないが、最高速度が定められた区間を走行するとき

■ こんな場合は正しく認識できないことがあります

- 次のようなとき、ステレオカメラが標識を正しく認識できない可能性が高くなります。
  また、ステレオカメラが一時停止になる場合があります。状況が改善されると再び機能は作動します。
  - 車速約 60 km/h 以上で車両進入禁止標識に接近するとき
  - 車速約 40 km/h 以上で一時停止標識に接近するとき
  - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候時
  - 前方から強い光（太陽光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
  - 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
  - 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
  - 真っ暗で周囲に街灯などの照明がないとき
  - 前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
  - 夕方、朝方、夜間など暗くて見えづらい時間帯や、屋内駐車場などの暗い場所にいるとき
  - 標識の手前で減速もしくは加速するときや、車線変更や右折または左折をした場合など、車両進行方向または車両位置が大きく変化したとき
  - フロントガラスにくもり、雪、氷、土埃などが付着して汚れているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分にふき取れてないとき
  - フロントウォッシャーの使用中
  - マツダ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着したときやタイヤの空気圧が適正ではないとき

- 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

例



72M20405

- ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき
- ヘッドライトの光軸がずれているとき
- トンネルの出入り口を通過するなど、明るさが極端に変化するとき
- 凸凹道や石だたみなどの悪路で車両が揺れ、ステレオカメラの視界が安定しないとき

- 次のようなとき、標識認識が正しく作動せず、自車に関係の無い標識を表示したり、その場に存在しない標識を表示したりすることがあります。
  - 自車が進行する道路に対して隣接する側道や、分岐地点、合流地点に標識があるとき（高速道路の分岐地点や合流地点に設置された最高速度標識、側道が本線に合流する地点の一時停止標識など）
  - 標識の色や形に似たものがあるとき（類似の標識、看板、構造物など）
  - ロータリーや環状交差点（ラウンドアバウト）を走行中、前方に標識があるとき
  - 標識のステッカーが貼られている車両が前方にある、もしくはそれらの車両を追い越すとき
  - 標識に影が映りこんでいるとき

アドバイス

- 次のような場合は、ヘッドアップディスプレイに表示されている標識が実際の規制速度と異なる場合があります。実際の交通規則に従って運転してください。
  - 規制速度が変化する道路において、新たな規制速度の最高速度標識が設置されていないとき
  - 車線や文字などの道路（路面）標示、規制区間の終わりや条件(曜日や時間帯）を示す矢印の補助標識などがあるエリアを走行するとき

■ 標識の位置や状態により正しく認識できないことがあります

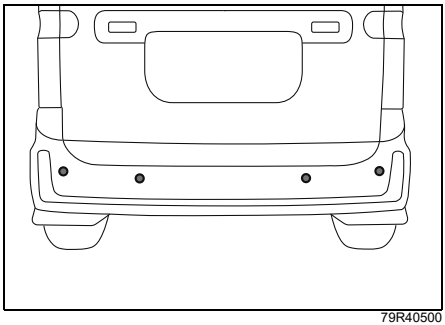
- 次のようなときは、標識の認識が遅れたり、正しく認識しないまたは誤って認識したりすることがあります。
  - 標識の一部が汚れていたり、樹木や前方の車両などによって隠れていたりして不明瞭なとき
  - 標識の周りがごみ入って見つけにくいとき
  - 標識が遠く離れた位置にあるとき
  - 標識が折れ曲がっているときなど形状が変わってしまっているとき
  - 標識が色あせているとき
  - 標識の向きが変わっていたり、破損したりしているとき
  - 数字の一部が隠れていたり、かすれていたりして数字の判別がつきにくいとき
  - 強い光（太陽光やヘッドライトの光など）が標識に反射して、正しく認識できないとき
  - 標識の上や下に、看板、ポスター、案内板などが設置されているとき
  - 標識に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき
  - 標識が曲がり角やカーブ路にあるとき

- 異なる最高速度標識が複数設置されているとき
- ヘッドライトの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
- 小さいサイズの標識のとき
- 標識が電光式のとき
- 背景の建物などに同化して、標識を判別しにくいとき
- 自発光式の一時停止標識が点滅しているとき

後方

超音波センサー

超音波センサーは、送信した超音波が障害物に当たって反射してきたものを再度受信し、その送受信に要した時間から障害物の位置を検出します。



79R40500

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

●センサーおよびその周辺に強い衝撃を受けたとき、またはセンサーの故障や衝突などにより取り付け方向がずれているときは、システムが正常に作動しない場合があります。マツダ販売店にご相談ください。
●高圧洗浄機を使うときは、センサーに直接ノズルを向けないでください。センサーが正常に作動しなくなったり、破損したりするおそれがあります。
●スチームを使用した洗浄機を使うときは、センサーにスチームを近づけすぎないようにしてください。センサーが正常に作動しなくなったり、破損したりするおそれがあります。
●センサーの分解、改造、塗装などをしないでください。
●マツダ純正品以外のセンサーを使用しないでください。
●センサーに傷などをつけないようにして、常にきれいな状態にしてください。

■ 超音波センサーの一時停止・故障

次の表のようになったとき、センサーが一時停止または故障しています。

		超音波センサー		
		(4)	(5)	(6)
(1)	 79R10130	点灯		
(2)	システム一時停止 79RB037	点灯		消灯
(3)	 80P0382	点滅		消灯

(1) 後退時ブレーキサポート作動表示灯
(2) システム一時停止表示
(3) マスターウォーニング
(4) 超音波センサーの一時停止
(5) 超音波センサーシステムの一時停止
(6) 超音波センサーの故障

アドバイス

超音波センサー一時停止、超音波センサーシステム一時停止、または超音波センサー故障のときは下記の機能が停止します。

- 後退時ブレーキサポート
- 後方誤発進抑制機能
- リヤパーキングセンサー

超音波センサーの一時停止

次のようなときセンサーが一時停止します。

状況が改善されれば、センサーの一時停止は解除されます。

- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が一時停止したとき
- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき
- バッテリーの電圧が一時的に異常になったとき

超音波センサーの故障

故障したときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまでシステムが停止します。

安全な場所に停車して、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを止めてください。再度、エンジンを始動したとき、後退時ブレーキサポート作動表示灯が消灯していることを確認します。

- エンジンを再始動しても後退時ブレーキサポート表示灯が点灯している場合、センサーの故障が考えられます。マツダ販売店にご相談ください。

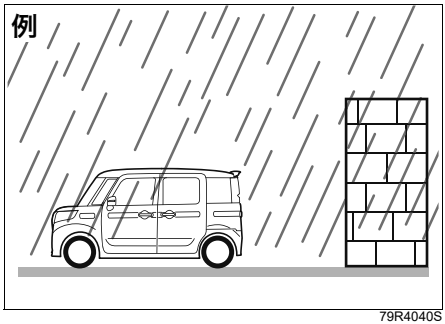
アドバイス

- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が故障すると、超音波センサーも故障の状態になります。
- 後退時ブレーキサポート作動表示灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

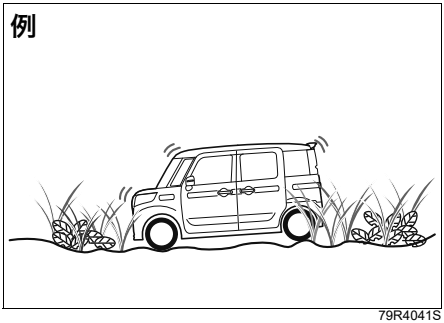
次のようなとき、超音波センサーが正常に作動しない場合があります。

- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 大雨、濃霧、吹雪などの悪天候時



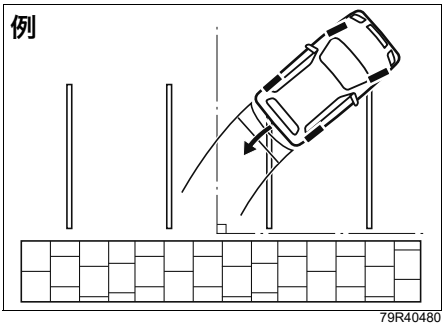
79R4040S

- 車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで後方の視界が悪いとき
- センサーをステッカー、アクセサリーなどで覆ったとき
- けん引フック、字光式ナンバープレート、フォグランプ、コーナーポール、または無線機アンテナなどの市販の電装品を装着したとき
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 衝突などによりリヤパーキングセンサーの取り付け方向がずれているとき
- タイヤチェーンまたは指定サイズ以外のタイヤを装着したとき
- 段差を乗り越えるなどで車両が傾いているとき
- 炎天下や寒冷時にセンサー付近が熱いときや冷たいとき
- 湿度が極端に高いまたは低いとき
- 凸凹道、坂道、じゃり道、草むらを走行中のとき
- 車が大きく傾いたとき



79R4041S

- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- センサーに障害物が近づきすぎたとき
- 障害物に対して斜め方向や壁などの端（角）に向かったとき（反射波がもどってこない）
- 車両に対して壁などの障害物が垂直の位置にないとき



79R40480

- 地面に対して垂直でない壁、凸凹な壁、波状のような連続模様のある壁やシャッター
- 壁から飛び出している柱やパイプなどの配管
- 人、スポンジ状のもの、雪壁などの音波を吸収しやすいもの

例



79R40470

- 歩行者、自転車、動物などの動いているもの
- 突然進行方向に出てきた障害物（旋回中、または旋回直後に、車両左右後端付近に突然出てきた障害物）
- 次のような障害物はセンサーが検知できない場合があります。
  - 標識や街灯などポール状の障害物
  - ガードレールなど高さの低い障害物
  - 小さい障害物またはチェーンやロープなどの細い障害物
  - 細い網目状のフェンス

後退時ブレーキサポート

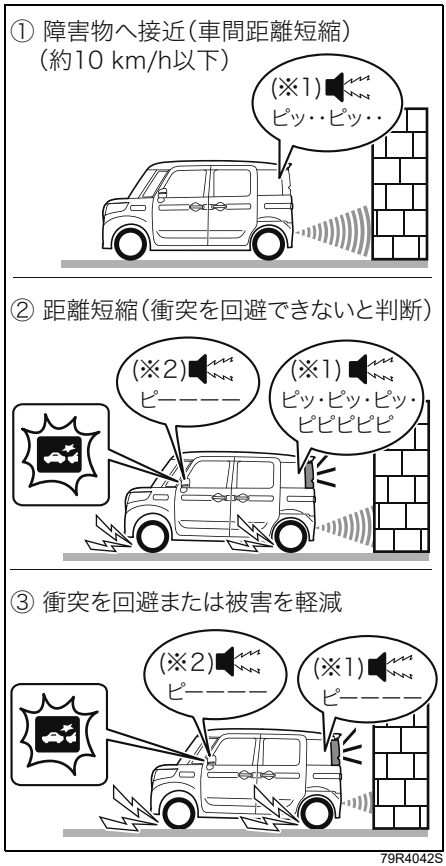
後退時ブレーキサポートは、セレクトレバーが R で徐行（車速約 10 km/h 以下）で後退中、超音波センサーにより車両後方の壁などの障害物との衝突を回避できないと判断したときに、自動で強いブレーキをかけて衝突の回避または、衝突時の被害軽減を図る機能です。
作動中は次の方法でお知らせします。

- メーター内の後退時ブレーキサポート作動表示灯が点滅
  → **3-102ページ（後退時ブレーキサポート作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ ピーーー” と連続して鳴る

⚠警告

●後退時ブレーキサポートの検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。後退時ブレーキサポートにたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で後退時ブレーキサポートの作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては後退時ブレーキサポートが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●自動ブレーキ機能作動時は、強いブレーキがかかります。運転前にすべての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。

■ 作動イメージ



※1 リヤパーキングセンサーのブザー
後退時の速度によっては、リヤパーキングセンサーが作動する（ブザーが鳴る）前に、後退時ブレーキサポートが作動する場合があります。

※2 自動ブレーキによる車両停止後、自動ブレーキが解除されるまでの間、後退時ブレーキサポートのブザー音は継続されます。また、後退時ブレーキサポート作動表示灯は、ブレーキ制御終了後、約３秒後に消灯します。

⚠ 警告

オートマチック車は自動ブレーキが解除されるとクリープ現象により車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
自動ブレーキによる車両停止後は、すみやかにブレーキをかけてください。

アドバイス

- 後退時ブレーキサポート作動中に、障害物がセンサーの検知範囲外に移動したり、運転者が回避行動（ステアリング操作）を行なったりしたときには、途中で後退時ブレーキサポートの作動が解除されることがあります。
- 後退時ブレーキサポート作動中にセレクトレバーを R 以外に操作すると、後退時ブレーキサポート機能は停止します。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、後退時ブレーキサポートは作動しません。

- エンジン停止中のとき（アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、後退時ブレーキサポート作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-102ページ（後退時ブレーキサポート作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が以下のとき
  - **マニュアルモードなし車**
    P N D L
  - **マニュアルモード付車**
    P N D M

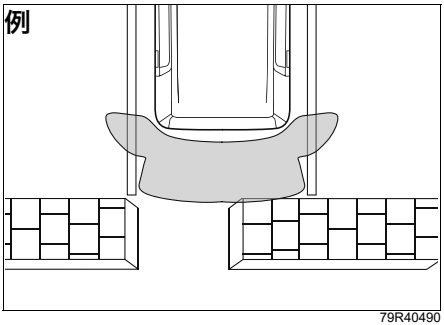
- 次のスイッチを操作して、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-72 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
  - DSC&TCS OFFスイッチ
    → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**
- 後方の障害物を検知できないとき
- センサーが一時停止または故障しているとき
  → **4-80ページ（超音波センサーの一時停止）**
  → **4-80ページ（超音波センサーの故障）**

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、後退時ブレーキサポートが正常に作動しない場合があります。

超音波センサーが正常に作動しないとき
→ **4-81 ページ（こんな場合は正常に作動しないことがあります）**

- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- ブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドル操作をしていたりするとき
- 地面が傾斜している場所に駐車している、または走行中のとき
- 進行方向に複数の障害物が重なってあるとき
- 壁などの障害物の一部しかセンサーの検知範囲内に入っていないとき

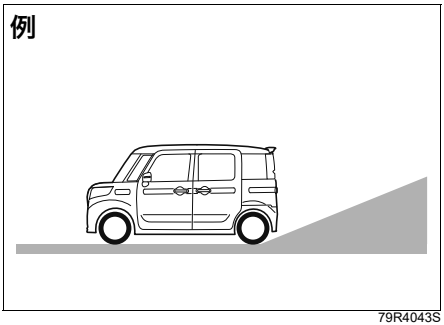


79R40490

■ こんな場合にも作動することがあります

次のようなとき、センサーが衝突の可能性のある障害物と判断して後退時ブレーキサポートが作動する場合があります。

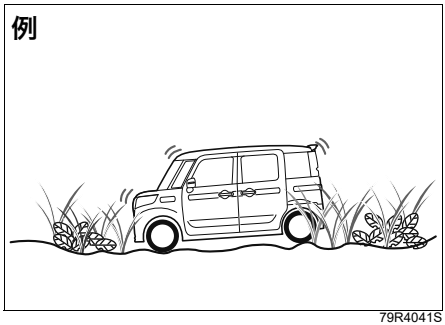
- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



79R4043S

- 進行方向に駐車場のバーや遮断機、看板などがあるとき
- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物

- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき



79R4041S

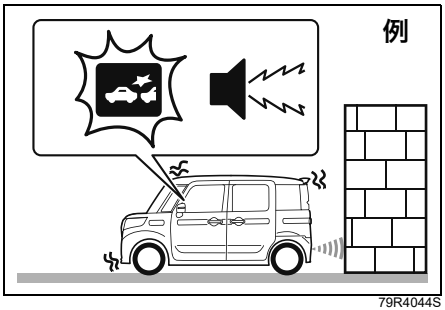
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- 後方障害物のすぐ近くに停車するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両後方が著しく傾いているとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 車両後方に障害物がある状態で、起伏や段差などを乗り越えるとき
- 路面に段差、縁石、車止め、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき

後方誤発進抑制機能

後方誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）で後退中に、車体後端から後方約3 m以内に壁などの障害物を検知すると、アクセルペダルの急激で強い踏み込みによるエンジン出力の上昇を自動的に最大約５秒間抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々にもどります。
作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内の後退時ブレーキサポート作動表示灯が点滅
  → **3-102ページ（後退時ブレーキサポート作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ ピピピピピ” と断続的に鳴る

後退時ブレーキサポート作動表示灯の点滅は、機能が解除されてから約３秒後に消灯します。



79R4044S

⚠警告

●後方誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突時の被害を軽減することを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。後方誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。

●お客様自身で後方誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては後方誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●後方誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などを後退で上がっている場合に機能が作動すると、自重により坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

●後輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。

●後方誤発進抑制機能作動中にセレクトレバーを R 以外に操作すると、後方誤発進抑制機能は停止します。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、後方誤発進抑制機能は作動しません。

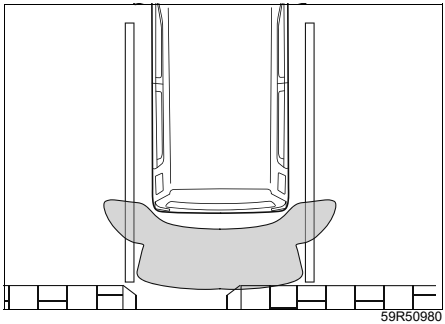
- エンジン停止中のとき（アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、後退時ブレーキサポート作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-102ページ（後退時ブレーキサポート作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が以下のとき
  - **マニュアルモードなし車**
    P N D L
  - **マニュアルモード付車**
    P N D M
- 次のスイッチを操作して、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-72 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
  - DSC&TCS OFFスイッチ
    → **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**
- 急な坂道のとき
- 後方の障害物を検知できないとき
- センサーが一時停止または故障しているとき
  → **4-80ページ（超音波センサーの一時停止）**
  → **4-80ページ（超音波センサーの故障）**

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

超音波センサーが正常に作動しないとき
→ **4-81ページ（こんな場合は正常に作動しないことがあります）**

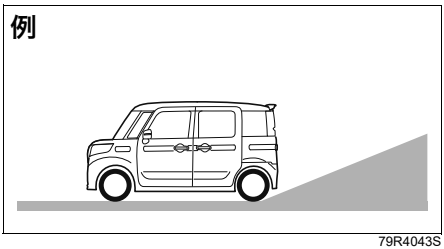
- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- ハンドル操作をしているとき
- 標識などの背が高く上部が張り出している障害物
- 縁石などの背が低い障害物
- 地面が傾斜している場所に駐車している、または走行中のとき
- 壁などの障害物の一部しかセンサーの検知範囲内に入っていないとき


59R50980

■ こんな場合にも作動することがあります

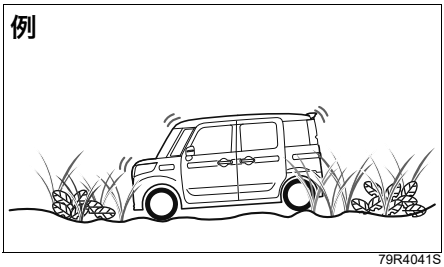
次のようなとき、センサーが衝突の可能性のある障害物と判断して後方誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



79R4043S

- 進行方向に駐車場のバーや遮断機、看板などがあるとき
- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき



79R4041S

- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- 後方障害物のすぐ近くに停車するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両後方が著しく傾いているとき

- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 車両後方に障害物がある状態で、起伏や段差などを乗り越えるとき
- 路面に段差、縁石、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき

■ 踏切内などで作動した場合は

後方誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- アクセルペダルを５秒以上踏み続ける
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- セレクトレバーの位置を以下にする
  - **マニュアルモードなし車**
    P N D L
  - **マニュアルモード付車**
    P N D M
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチを長押しする

→ **4-72ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

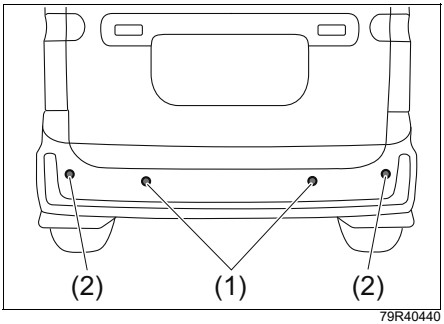
⚠警告

遮断機が下がる直前に無理に踏切内に侵入しないでください。踏切内で後退時ブレーキサポートや後方誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ **7-2 ページ（踏切内で動けなくなったときは）**

リヤパーキングセンサー

リヤバンパーに装着された超音波センサーにより、車両後方の障害物を検知します。

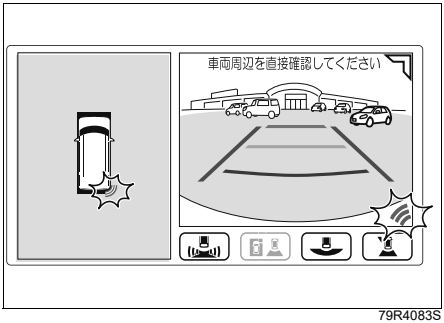


79R40440

(1)中央センサー
(2)コーナーセンサー

セレクトレバーが R の位置で停車中、または徐行で後退中に壁などの障害物を検知すると、室内後方のブザーが障害物までの距離に応じて鳴ります。
全方位モニターには、センサーの検知情報が画面に表示されます。

全方位モニター用カメラ装備車



79R4083S

表示色	距離（目安）	ブザー音
緑（点滅）	60～150 cm（中央のみ）	ピッ・・ピッ・・ピッ・・
黄（点滅）	45～60 cm	ピッ・ピッ・ピッ
赤（点滅）	35～45 cm	ピピピピピピ
赤（点灯）	35 cm以内	ピー（連続）

全方位モニター用カメラ非装備車

距離（目安）	ブザー音
60～150 cm（中央のみ）	ピッ・・ピッ・・ピッ・・
45～60 cm	ピッ・ピッ・ピッ
35～45 cm	ピピピピピピ
35 cm以内	ピー（連続）

⚠警告

- **リヤパーキングセンサーは運転者の注意義務を軽減するものではありません。運転の補助としてご使用ください。**
- **センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。周囲の安全は必ず直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと運転してください。リヤパーキングセンサーだけを頼りに運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠注意

- **表内のブザー音以外が鳴ったときは、センサーの故障が考えられます。マツダ販売店にご相談ください。**
- **リヤパーキングセンサーのブザーが故障すると、リヤパーキングセンサーOFF スイッチの表示灯が点灯しません。表示灯が点灯しないときは、マツダ販売店にご相談ください。**

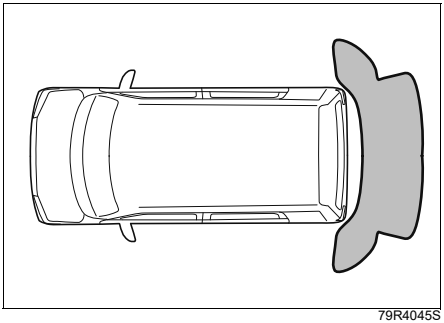
→ **4-92ページ（リヤパーキングセンサー OFFスイッチ）**

アドバイス

- 障害物を検知してから表示されるまでには、多少時間がかかります。
- いくつかの障害物を同時に検知した場合は、距離の近い障害物を優先して室内ブザーが鳴ります。
- いつも障害物を検知してブザーが鳴っている場所でも、状況によりブザーが鳴らない場合があります。
- リヤパーキングセンサーの表示は、設定の切替え（カスタマイズ）をすると表示させなくすることもできます。

→ **8-6 ページ（こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます）**

■ 検知範囲の目安



79R4045S

- センサーの直近や真下は検知できません。
- 超音波センサー（コーナー）の検知距離は、約60 cm以内です。
- 超音波センサー（中央）の検知距離は、約150 cm以内です。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、リヤパーキングセンサーは作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の数秒間
- セレクトレバーの位置が以下のとき
  - **マニュアルモードなし車**
    P N D L
  - **マニュアルモード付車**
    P N D M
- 次のスイッチを操作して、リヤパーキングセンサーを停止させているとき
  - リヤパーキングセンサーOFF スイッチ
- 後方の障害物を検知できないとき
- センサーが一時停止または故障しているとき

→ **4-80ページ（超音波センサーの一時停止）**
→ **4-80ページ（超音波センサーの故障）**

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、リヤパーキングセンサーが正常に作動しない場合があります。

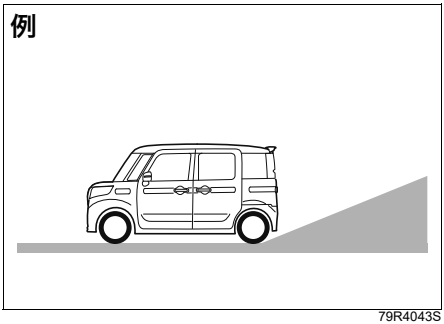
超音波センサーが正常に作動しないとき
→ **4-81 ページ（こんな場合は正常に作動しないことがあります）**

- 地面が傾斜している場所に駐車しようとしているとき

■ こんな場合にも作動することがあります

次のようなとき、リヤパーキングセンサーが作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



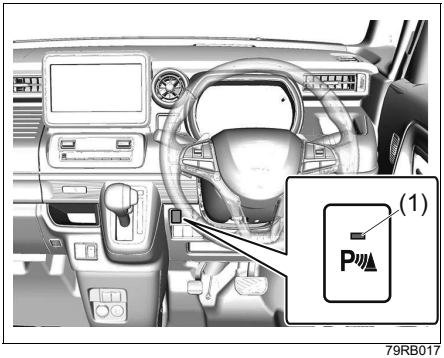
79R4043S

- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両後方が著しく傾いているとき
- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 路面に段差、縁石、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき

リヤパーキングセンサー OFFスイッチ

リヤパーキングセンサーOFF スイッチの表示灯（1）が点灯しているとき、セレクトレバーを R に入れると、リヤパーキングセンサーが作動します。
スイッチを押すと、表示灯（1）が消灯し、リヤパーキングセンサーは停止します。

- リヤパーキングセンサー停止中（表示灯が消灯中）にエンジンスイッチを LOCK（OFF）にした場合、再びエンジンスイッチを ON にするとリヤパーキングセンサーは自動的に復帰（表示灯は点灯）します。



79RB017

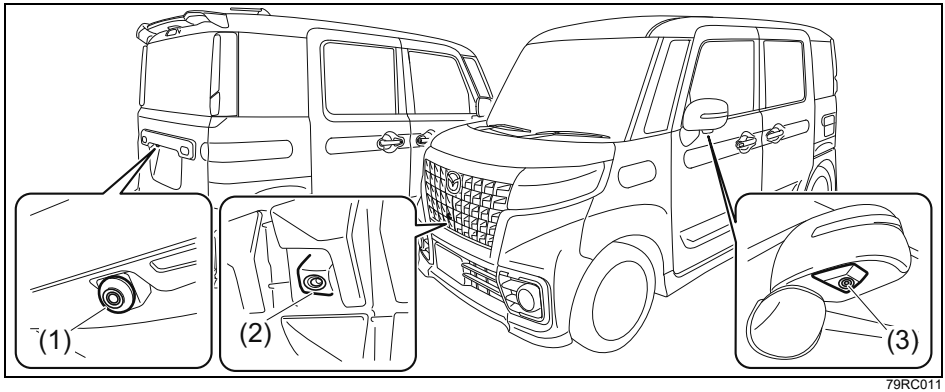
全方位モニター

全方位モニター用カメラ装備車

全方位モニターはフロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラを使用して、車両周辺の映像をナビゲーションの画面に表示する機能です。駐車時や狭い道でのすれ違い、左右の見通しが悪い場所からの発進時などに運転者を補助します。

- ナビゲーション本体の機能や操作方法については、付属の取扱説明書をお読みください。

■ カメラの位置



(1) バックカメラ
(2) フロントカメラ
(3) サイドカメラ(左右ドアミラー下部)

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

- **全方位モニターは、運転者の注意義務を軽減するものではありません。運転の補助としてご使用ください。**
- **画面に表示される範囲には限界があり、人や障害物が映らないことがあります。後方および周囲の安全は、直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと運転してください。画面だけを見て運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **カメラは精密機械ですので、強い衝撃をあたえたり、分解や改造をしたりしないでください。また、カメラに付着して固まった泥や凍り付いた雪などをお湯をかけたり、棒などついたりして落とさないでください。破損して火災や故障の原因となります。**
- **ドアミラーが格納された状態、および前席ドア、バックドアが確実に閉まっていない状態で全方位モニターを使用しないでください。周囲の映像が正しく映し出されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

→ **3-37ページ（格納）**

注記

エンジン停止中に、長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

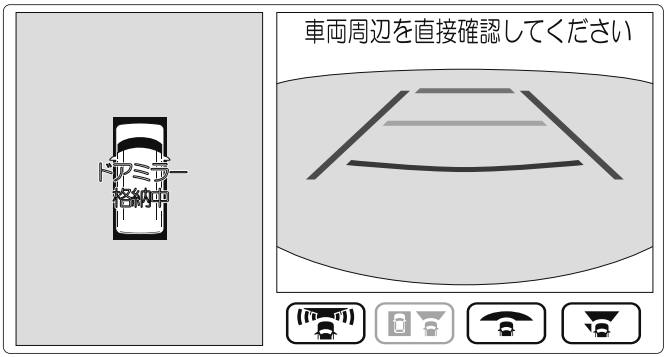
アドバイス

- 車幅目安線は実際の車幅より広く表示されます。運転するときは必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

→ **4-107ページ（画面の見かた）**

- ドアミラーが格納された状態でカメラの映像を表示すると、画面上に“ドアミラー格納中”と表示されます。

例



79RC020

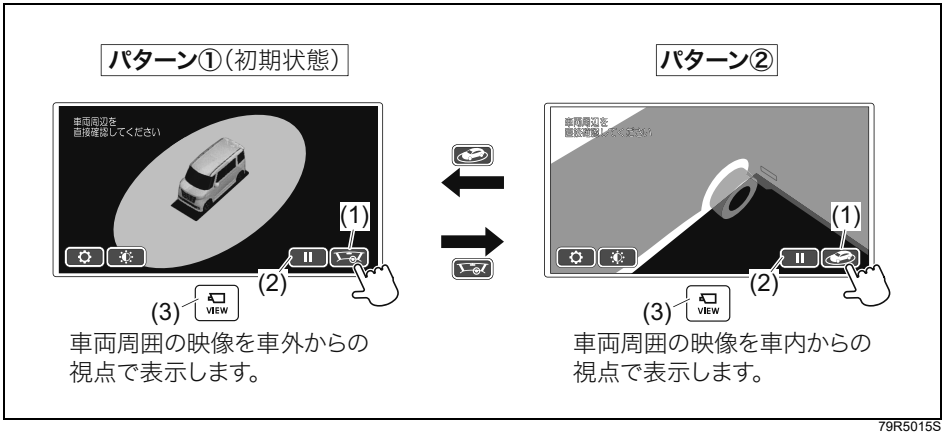
■ 3Dビュー

車両周辺の映像を車外または車内からの視点で表示します。

1 エンジンスイッチを ON にします。
→ **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

2 起動画面が表示されたあと、3Dビューが画面に映し出されます。

3 画面上の映像切り替えボタン（1）をタッチすると、視点画面が切り替わります。
一時停止/再生ボタン（2）をタッチすると、3Dビューの回転を一時停止します。
もう一度タッチすると再び回転します。



79R5015S

アドバイス

- セレクトレバーが P のときにカメラスイッチ (3) を押すと、3D ビューを表示できます。
- 3Dビューの表示画面は、設定で変更が可能です。
→ **4-115ページ（設定の変更）**
- 起動画面表示中でもカメラスイッチを押すと、3Dビューが画面に映し出されます。
- エンジンスイッチが ACC のときは、3Dビューは表示されません。

■ 前方を確認するときは

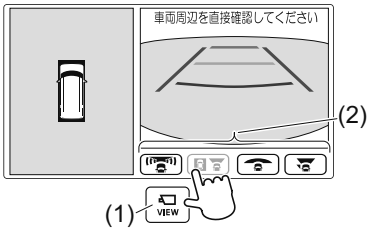
1 エンジンスイッチを ON にします。
→ **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

2 セレクトレバーを N 、D または L に入れます。（マニュアルモードなし車）
セレクトレバーを N 、D または M に入れます。（マニュアルモード付車）
→ **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

3 カメラスイッチ（1）を押します。
「トップ映像＋前方映像」（初期状態）が画面に映し出されます。

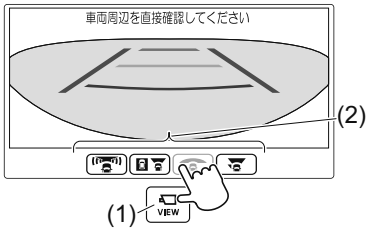
4 映像切り替えボタン（2）をタッチするたびに、次のように画面が切り替わります。

トップ映像 ＋ 前方映像（初期状態）



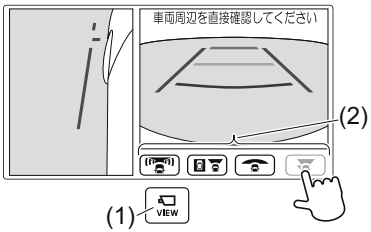
車両周囲および前方の映像を
表示します。

前方ワイド映像



車両前方の映像を広範囲に
表示します。

サイド映像 ＋ 前方映像



車両助手席側下方、および
前方の映像を表示します。

79R4094S

- カメラスイッチを押すと、もとの表示画面に戻ります。
- カメラスイッチを押す以外にも次のようなときに、もとの表示画面にもどります。
  - カメラスイッチを押してから3分経過したとき
  - ナビゲーションの操作を行なったとき
  - 車速が約10 km/h以上になったとき
- 車速が約 10 km/h 以上のときにカメラスイッチを押すと左側画面にサイド映像のみ表示させることができます。約10 km/h以下となると前方映像が表示されます。

アドバイス

- カメラ映像の画質調整および初期表示の画面設定は、セレクトレバーを P に入れると変更ができます。
  → **4-115ページ（設定の変更）**
- エンジンスイッチが ACC のときは、カメラ映像は表示されません。

■ 後方を確認するときは

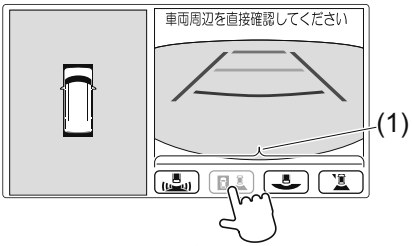
1 エンジンスイッチを ON にします。
→ **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

2 セレクトレバーを R に入れます。
→ **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

- 自動的に、「トップ映像＋後方映像」（初期状態）が画面に映し出されます。

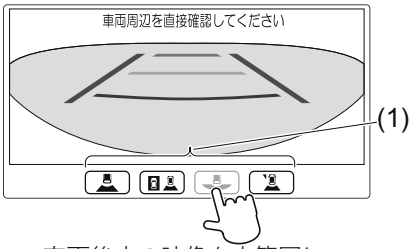
3 映像切り替えボタン（1）をタッチするたびに、次のように画面が切り替わります。

トップ映像 ＋ 後方映像（初期状態）



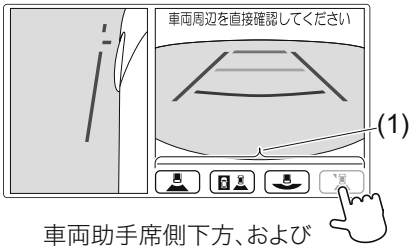
車両周囲および後方の映像を表示します。

後方ワイド映像



車両後方の映像を広範囲に表示します。

サイド映像 ＋ 後方映像



車両助手席側下方、および後方の映像を表示します。

79R5019S

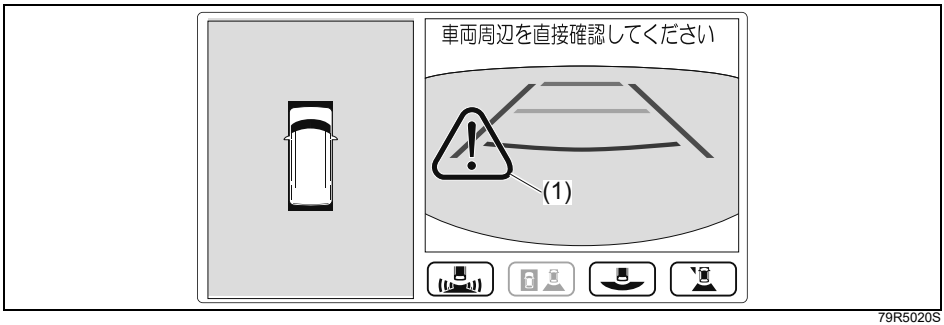
- セレクトレバーを R から P 以外にすると、カメラ映像が自動で表示されます。
- セレクトレバーを R から P にすると、ナビゲーション画面に戻ります。

アドバイス

- 全方位モニター後方の映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。ただし、ナビゲーション本体の起動中は映し出されません。
- カメラ映像の画質調整および初期表示の画面設定は、セレクトレバーを P に入れると変更ができます。
  → **4-115ページ（設定の変更）**
- エンジンスイッチが ACC のときは、カメラ映像は表示されません。

■ 画面のエラー表示について

カメラのシステムに異常がある場合は、画面に次のように表示されます。
→ **4-121ページ（故障かなと思ったら）**



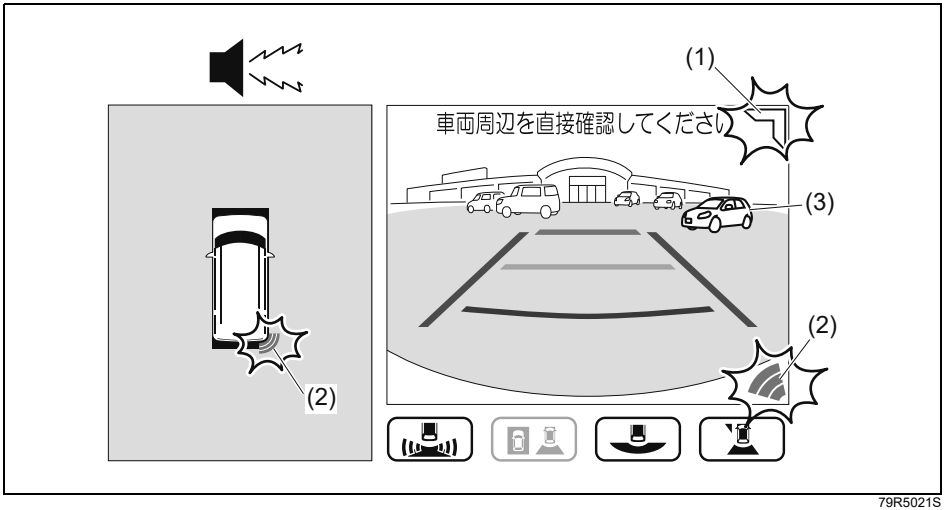
79R5020S

(1) カメラシステムエラーマーク

左右確認サポート機能

タイプ別装備

駐車場での停車中または微低速走行時に、全方位モニターの検知範囲内を人や車両などが外側から中央方向へ移動すると、スピーカーから通知音が鳴るとともに、検知した方向の左右確認サポート表示（1）が点灯して、安全確認および回避行動（ブレーキ操作など）の必要性を運転者にお知らせする機能です。
後退時には、室内ブザーおよび左右確認サポート表示とともに、リヤパーキングセンサーの検知情報（2）も表示されます。
→ **4-88ページ（リヤパーキングセンサー）**



79R5021S

(3) 検知した車両

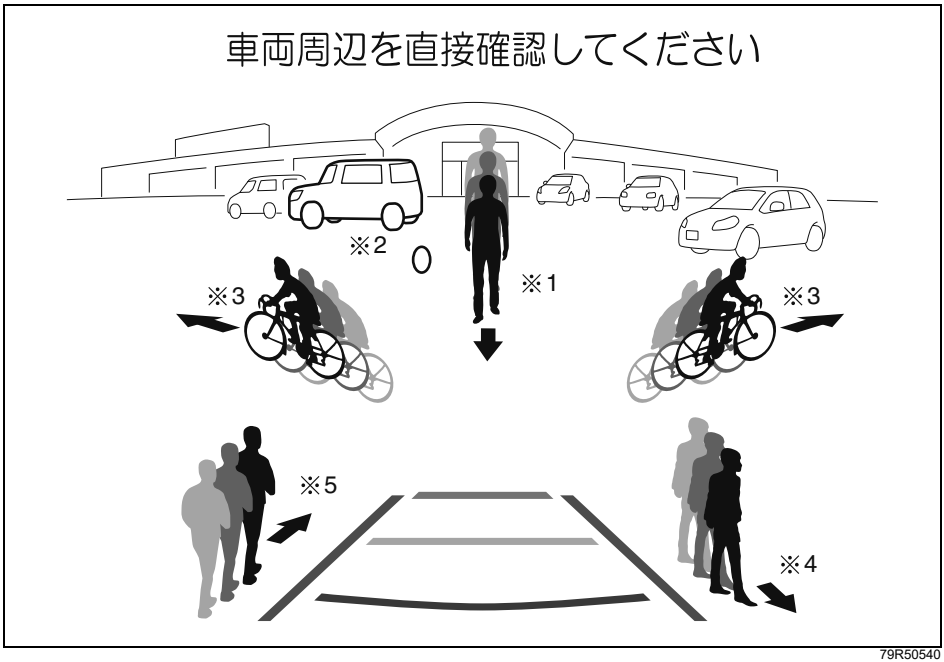
⚠警告

左右確認サポート機能は、すべての移動物を検知できるわけではありません。周囲の安全を直接確認してください。

アドバイス

左右確認サポート機能は、設定で変更が可能です。
→ **4-115ページ（設定の変更）**

■ 作動しない例



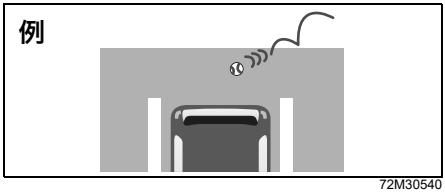
79R50540

■ こんな場合は作動しません

- 人や車両などが自車の正面または真後ろから近づいてくるとき（※1）
- 人や車両などが動いていないとき（※2）
- 人や車両などが画面中央から外側へ移動しているとき（※3）
- 自車が停車中または微低速走行時以外のとき
- 人や車両などが自車から遠い距離にあるとき
- カメラに映し出されていない移動物
- 検知した対象物が、太陽の強い反射光やヘッドライトの強い光などと重なったとき
- 画面に表示されるカメラ映像の中で、明るい場所と暗い場所の差が大きいとき

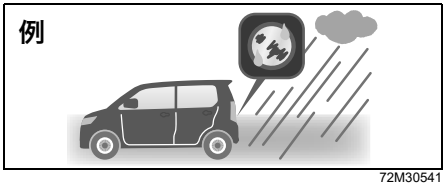
■ こんな場合は作動しないことがあります

- 自車と平行に人や車両などが近づいてくるとき（※4）
- ボールなどの小さいもののとき



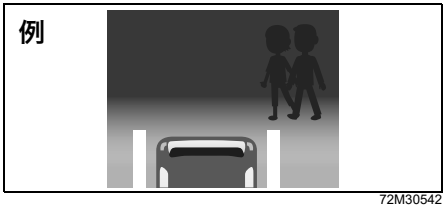
72M30540

- 自転車などの移動物が速い速度で横切るとき
- カメラのレンズが、クモの巣や泥などがついて汚れているとき
- カメラのレンズがくもったとき
- 降雪、雨、霧などで視界が悪いとき



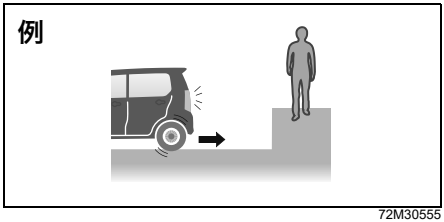
72M30541

- 太陽やヘッドライトの光が、カメラのレンズに直接当たったとき
- 夜間に街灯などの照明がないところで、横切る人や車両などを検知しづらいとき



72M30542

- 車両の色や横切る人の服装が背景と同系色のとき
- 自車が駐車しようとしている位置よりも高いところを人や車両などが移動しているとき



72M30555

- バックドアが開いているとき
- カメラ本体、およびその周辺部に強い衝撃や力が加わり、搭載位置がずれたとき
- 路面の勾配により、検知範囲がずれたとき

■ こんな場合にも作動することがあります

- 自車と平行に人や車両などが遠ざかっていくとき（※5）
- コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹が風でゆれているとき
- 波状のような連続模様のある壁やシャッター、柵、白線、側溝のグレーチングなどの金属製のフタがあるとき
- 点滅する看板、他車や自車の方向指示器や後退灯などが近くにあるとき
- カメラのレンズ上を水滴や白煙などが流れたとき
- 雨上がりなどで路面が濡れて光っているときや水たまりがあるとき
- 木や建物などの影や、日光や街灯などの強い光で明るさが変化したとき
- 車が大きく傾いたとき
- カメラ本体、およびその周辺部に強い衝撃や力が加わり、搭載位置がずれたとき
- 路面の勾配により、検知範囲がずれたとき

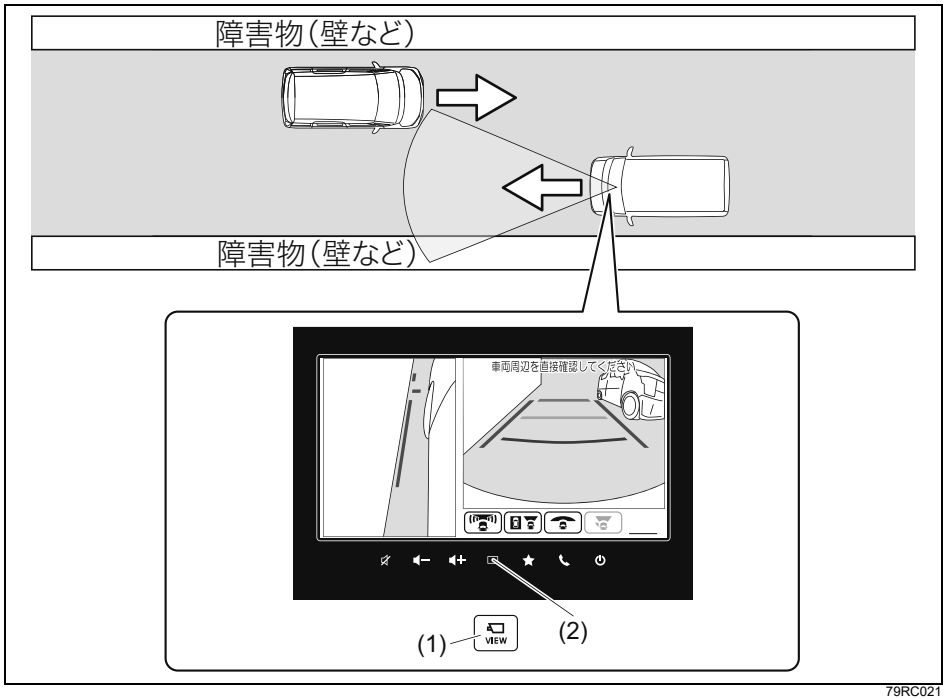
■ すれ違い支援機能

⚠警告

●走行中に画面を注視をすると、画面に気を取られて思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行中は、画面を注視しないでください。
●すれ違い支援機能は、すべての対向車を検知できるわけではありません。
●ドアミラーが格納された状態では周囲の映像が正しく映しだされず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
ドアミラーが格納された状態では使用しないでください。
●画面に表示される範囲には限界があり、人や障害物が映らないことがあります。周囲の安全は、直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと運転してください。
画面だけを見て運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

標準表示

低速（車速約5 km/h以下)で走行中、壁などの障害物がある狭い道路で対向車とすれ違うとき、モニターの画面に前方映像とサイド映像が自動的に表示される機能です。



79RC021

アドバイス

● 次の状況になると、もとの表示画面に戻ります。
  • セレクトレバーの位置を P にしたとき
  • カメラスイッチ（1）を押したとき
  • ナビゲーションのホーム画面スイッチ（2）を押したとき
  • 対向車が右折または左折したとき
  • 対向車がいなくなったあと、次のいずれかの条件を満たしたとき
    ー アクセルペダルを大きく踏み込んだ
    ー 自車の速度が速くなった
    ー 一定の距離を走行した
    ー セレクトレバーの位置を N にした
    ー パーキングブレーキをかけた
    ー 方向指示器を作動させた

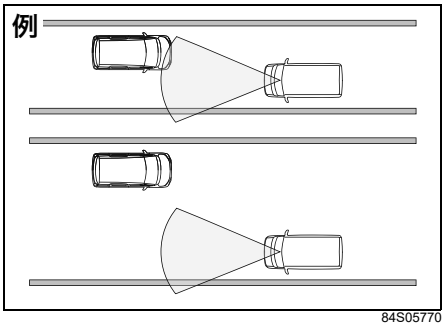
●すれ違い支援機能は、設定で変更が可能です。
初期設定（工場出荷時）は、非表示になっています。任意で表示させるように切替えてください。
→ **4-115ページ（設定の変更）**

こんな場合は作動しません

- 対向車がカメラに映し出されていないとき
- 太陽の光や対向車のヘッドライトなどの強い光で対象物（障害物、対向車）を検知できないとき
- 画面に表示されるカメラ映像の中で、明るい場所と暗い場所の差が大きいとき
- 方向指示器が作動しているとき
- 先行車がいるとき
- 対向車が自車から見て左側にいるとき
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
- 全方位モニターが正常に作動していないとき
- 自車の左側に障害物がないとき

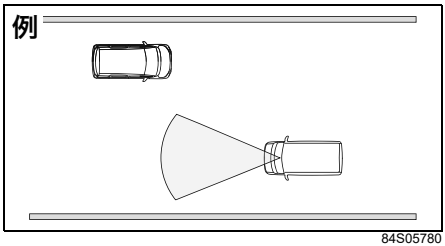
こんな場合は作動しないことがあります

- 自車左側の障害物が低いとき
- 自車左側の障害物が連続していないとき
- 対向車が自車と重なりすぎている、もしくは離れすぎているとき



84S05770

- 対向車の速度が速すぎるとき
- 対向車と障害物との距離が離れすぎているとき

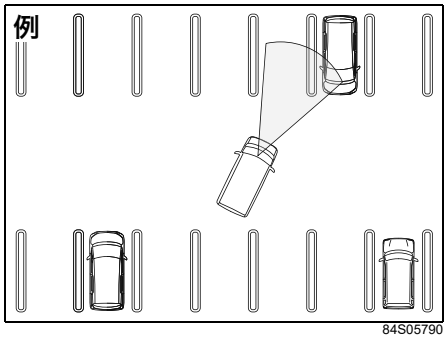


84S05780

- システムが対向車として認識できなかったとき
- システムが対向車を認識したときの距離が近すぎる、もしくは遠すぎるとき
- 急なカーブを走行しているとき
- エンジンかけて発進した直後のとき
- 自車の速度が対向車とすれ違うまでに十分減速しなかったとき
- システムがすれ違い発生を認識する前に自車を停車したとき

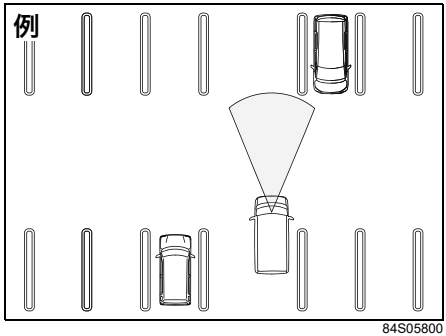
こんな場合にも作動することがあります

- 対向車側に看板等の障害物や横に並んだ人などがいるとき
- 緩やかなカーブを走行しているとき
- 駐車場などで自車の右前方に車両が駐車しているとき（前進時のみ）



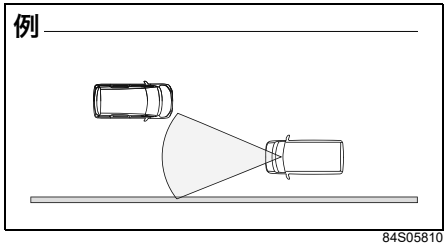
84S05790

- 駐車場などで自車の右前に車両が駐車しているとき（前進時）



84S05800

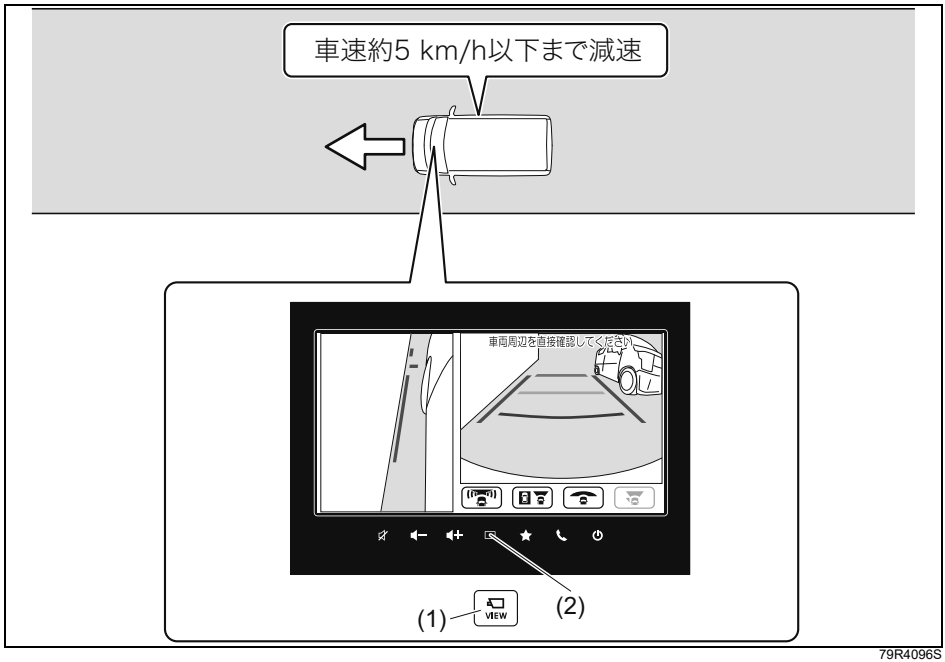
- 対向車側に障害物が無いが、対向車が自車側に寄っており、システムが道幅が狭いと判断したとき



84S05810

常時表示

壁などの障害物がないときでも、低速（車速約5 km/h以下)になると、モニターの画面に前方映像とサイド映像が自動的に表示されます。



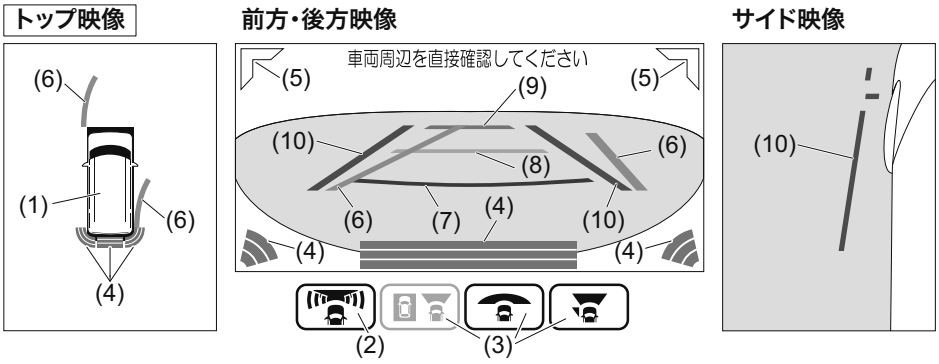
79R4096S

アドバイス

- 次の状況になると、もとの表示画面に戻ります。
  - セレクトレバーの位置を P にしたとき
  - カメラスイッチ（1）を押したとき
  - ナビゲーションのホーム画面スイッチ（2）を押したとき
  - 車速が約10 km/h以上になったとき
- すれ違い機能は、設定で変更が可能です。
  初期設定（工場出荷時）は、非表示になっています。任意で表示させるように切替えてください。
  → **4-115ページ（設定の変更）**

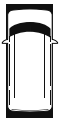
■ 画面の見かた

画面には周囲の映像とともに、次のようなガイド線やボタンなどが表示されます。
ガイド線は運転操作の目安として使用できます。



79R5027S

● 上図のイラストは代表例です。お車のタイプにより異なります。

番号	表示	内容	
(1)		自車の位置を示します。	
(2)		車両の前方が表示され、左右確認サポート機能が作動していることを緑色で示します。	ボタンをタッチすることにより、左右確認サポート機能のON/OFF を切替えることができます。 → **4-115 ページ (設定の変更)**
		車両の後方が表示され、左右確認サポート機能が作動していることを緑色で示します。	
		左右確認サポート機能が停止していることを示します。	
			

番号	表示	内容
(2)		車速が上昇し、左右確認サポート機能が非作動となっていることを示します。
		
		左右確認サポート機能に異常があることを示します。 マツダ販売店にご連絡ください。
		
(3)		トップ映像+前方映像が映っていることを示しています。
		トップ映像+後方映像が映っていることを示しています。
		前方ワイド映像が映っていることを示しています。
		後方ワイド映像が映っていることを示しています。
		サイド映像+前方映像が映っていることを示しています。
		サイド映像+後方映像が映っていることを示しています。

番号	表示色	名称	内容
(4)	緑 または 黄 または 赤	リヤパーキング センサー検知表示	後退中に壁や障害物などを検知すると表示されます。 → **4-88ページ（リヤパーキングセンサー）**
(5)	黄	左右確認サポート 表示	カメラの検知範囲内を人や車両などが外側から中央方向へ移動すると表示されます。
(6)	緑	進路目安線	ハンドル操作と連動して、前進／後退時の予想進路を目安として示します。（※）
(7)	赤	距離目安線	バンパー前端／後端の中央部から約 0.5 m 前方／後方の位置を目安として示します。
(8)	黄		バンパー前端／後端の中央部から約 1 m 前方／後方の位置を目安として示します。
(9)	水色		バンパー前端／後端の中央部から約 2 m 前方／後方の位置を目安として示します。

※ハンドルが中立（まっすぐ）の状態になるとトップ映像、前方／後方映像の進路目安線は非表示になります。

番号	表示色	名称	内容
(10)	紫	車幅目安線 （縦線）	車幅（ドアミラーの張り出し分を含む）の少し外側の位置を目安として示します。
		車幅目安線 （横線）	車両最前端の位置を目安として示します。

- ガイド線は路面に対して表示されているため、自車の周囲にある駐車車両などの障害物との距離を正確に表示するものではありません。また、トップ映像は平らな路面を基準に画像処理して表示しているため、路面より高い位置にある障害物（他車のバンパーなど）の位置を正確に表示するものではありません。
- 画面上に表示される台形状の距離・車幅ガイド線は目安であり、実際の距離間隔・車幅間隔とは異なる場合があります。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤに交換するとガイド線とトップ映像が正しく表示されないことがあります。
- 画面のボタンは押すことで表示されます。

⚠注意

- **トップ映像は、ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせ処理した擬似的な映像のため、次のように表示されることがあります。**
  - **立体物が倒れているように表示される**
  - **路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない**
  - **立体物が映像の継ぎ目で消える、または位置がずれる**
- **前方映像または後方映像に表示されている立体物がトップ映像には表示されないことがあります。**
- **トップ映像上で路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**
- **カメラの位置がずれると、映像やガイド線がずれることがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**
- **雪道や滑りやすい路面では、進路目安線と実際の進路が異なる場合があります。**
- **トップ映像に表示される車両アイコンはコンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なります。**
- **トップ映像は照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。**
- **映像の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。全方位モニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。**
- **全方位モニターのカメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画像上の距離と実際の距離が異なってみえたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。**
- **ワイド映像は広い範囲を映すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また、距離も実際とは異なる見えかたをします。**

アドバイス

ナビゲーションの起動時やタッチパネルの異常時は、ボタンが操作ができません。しばらく待つか、カメラスイッチを押してもとの表示画面にもどり、再度カメラスイッチを押して画面を表示させて操作してください。
それでも操作できない場合は、マツダ販売店にご相談ください。

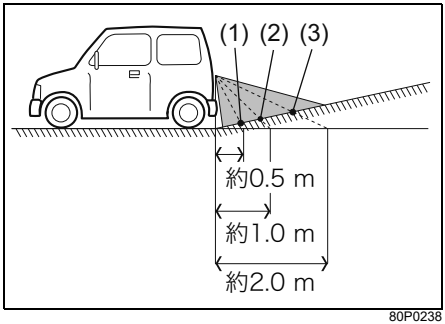
■ 映像と実際の路面との誤差

乗員人数、積載量、路面の勾配や状況などにより、画面のガイド線の示す位置、距離は変わります。運転するときは必ず周囲の安全を直接確認してください。

■ 進行方向に上り坂がある場合

実際の距離より手前に、距離目安線が見えます。

後方映像（代表例）



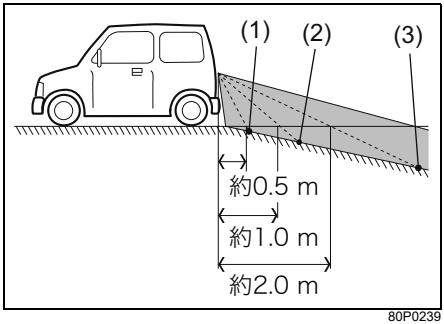
80P0238

(1) 赤色 距離目安線(約0.5 m)の示す地点
(2) 黄色 距離目安線(約1.0 m)の示す地点
(3) 水色 距離目安線(約2.0 m)の示す地点

■ 進行方向に下り坂がある場合

実際の距離より後ろに、距離目安線が見えます。

後方映像（代表例）



80P0239

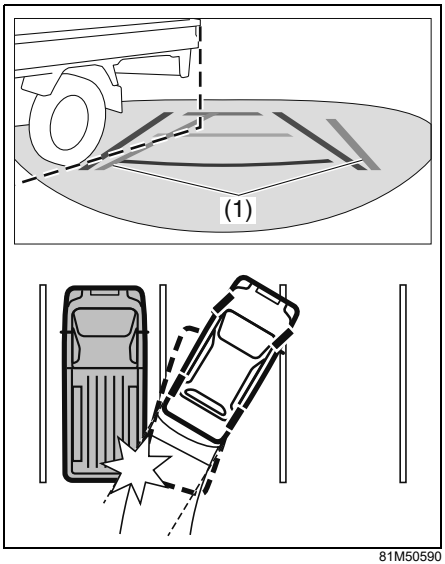
(1) 赤色 距離目安線(約0.5 m)の示す地点
(2) 黄色 距離目安線(約1.0 m)の示す地点
(3) 水色 距離目安線(約2.0 m)の示す地点

■ 立体物が近くにあるとき

立体物が近くにある場合、実際の距離と異なって表示されることがあります。

例1

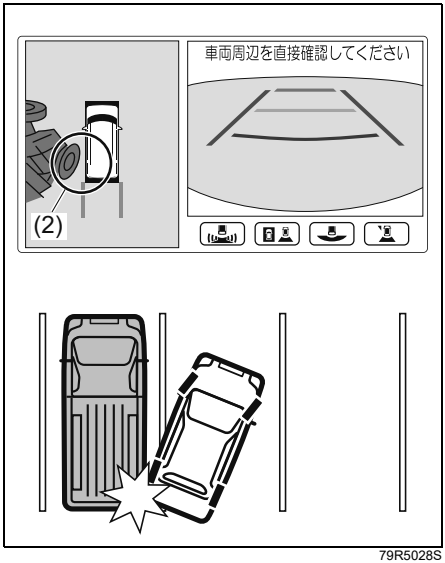
次の図の進路目安線（1）は、表示されているトラックの車体に触れていませんが、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合、ぶつかることがあります。



81M50590

例2

次の図のトップ映像（2）では、自車とトラックの車体間に、わずかな距離があるように見えますが、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。



79R5028S

■ 画面に映る範囲

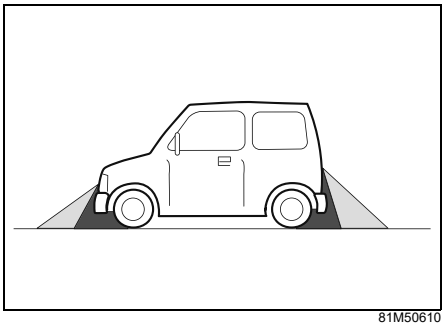
- 次の図の範囲がナビ画面に映しだされます。ただし、前後バンパー付近やバンパー下にあるものは映りません。
- カメラより上の部分は映し出されません。標識などの背が高く上部が張り出している障害物は、画面上では上部まで確認できません。
- 全方位モニターの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- 画面に映し出される範囲に駐車車両などの障害物があると、実際の距離と異なって画面に表示されることがあります。
- 後方の映像は、ルームミラーやドアミラーで見る場合と同じように、左右が反転して映し出されます。
- フロントカメラおよびバックカメラは、車両中心よりずれた位置に取り付けられています。そのため、前方映像および後方映像は、多少中心よりずれて映し出されます。

■ 全方位モニターの視野範囲イメージ

⚠注意

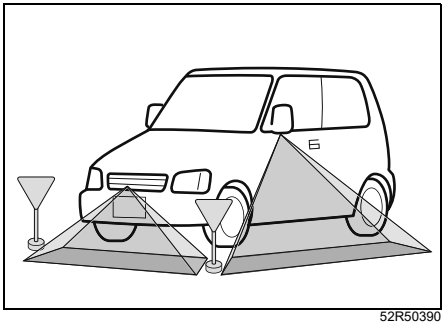
特定の領域は、カメラに映し出されない死角となります。
必ず目視で安全を確認してください。

- バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります。



81M50610

- トップ映像ではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります。



52R50390

アドバイス

●全方位モニターの映像は、実際の色味とは多少異なることがあります。
●移動物が映像に映っているときは、移動物の残像がでることがあります。
●次のような場合は、全方位モニターの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
- 夜間や雨の日、および暗い場所
- 炎天下や寒冷時にカメラ付近が熱いときや冷たいとき、または雨天などで湿度が高いとき（カメラレンズがくもる場合があります）
- 直接カメラに強い光が入るとき（映像に白い縦線などが入る場合があります）
- 蛍光灯などの照明の下（映像にちらつきが出る場合があります）
- 外気温が低いとき（画面が暗くなる場合があります）
- カメラのレンズが汚れているとき、または雪、水滴がついているとき

→ **4-121 ページ（全方位モニターの映像の映りが悪い）**

■ 設定の変更

映像の画質調整や、全方位モニターおよび左右確認サポートの設定を変更することができます。

⚠警告

設定の変更をするときは、周囲に何もないような安全な場所で行なってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

設定の変更はエンジンかけて行なってください。エンジンをかけないで長時間設定を行なうと鉛バッテリーあがりの原因となります。

■ 画質調整

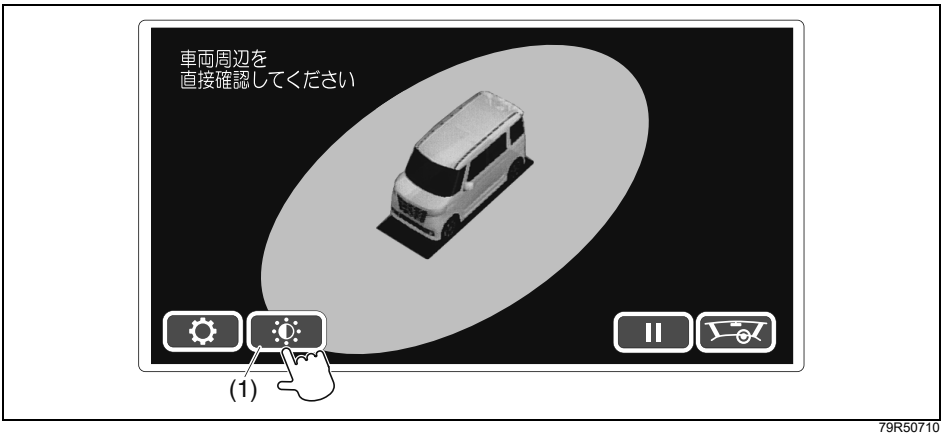
設定の変更は、次の手順で行ないます。

1 パーキングブレーキをしっかりと掛けます。

2 エンジンスイッチを ON にします。
→ **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

3 ナビゲーションのオープニング画面終了後、ナビ画面表示中にカメラスイッチを押します。

4 3Dビュー画面が映し出されたら、画質調整ボタン（1）をタッチします。



79R50710

5 明るさ、コントラストなどの調整ができます。
お好みの画質に調整してください。

アドバイス

- 設定した明るさの数値は、ライトの点灯／消灯で変わります。
- .詳細については、ナビゲーションに付属の取扱説明書をお読みください。

■ 全方位モニター／左右確認サポート設定

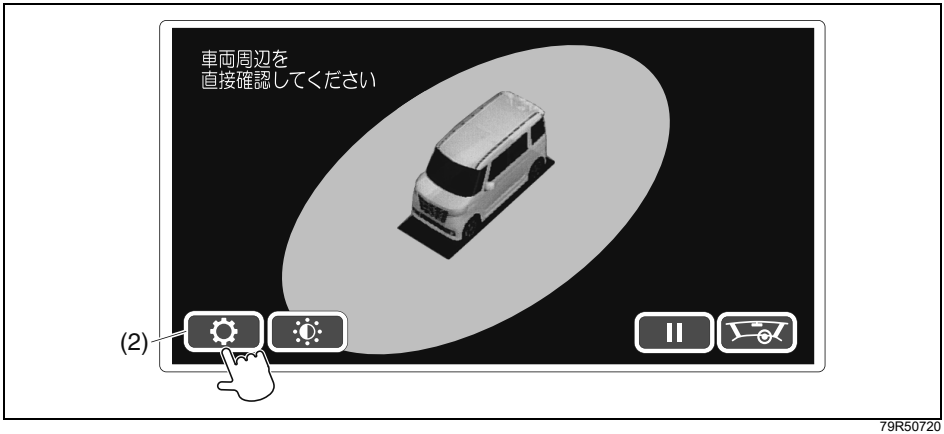
設定の変更は、次の手順で行ないます。

1 パーキングブレーキをしっかりと掛けます。

2 エンジンスイッチを ON にします。
→ **4-8ページ（エンジンのかけかた）**

3 ナビゲーションのオープニング画面終了後、ナビ画面表示中にカメラスイッチを押します。

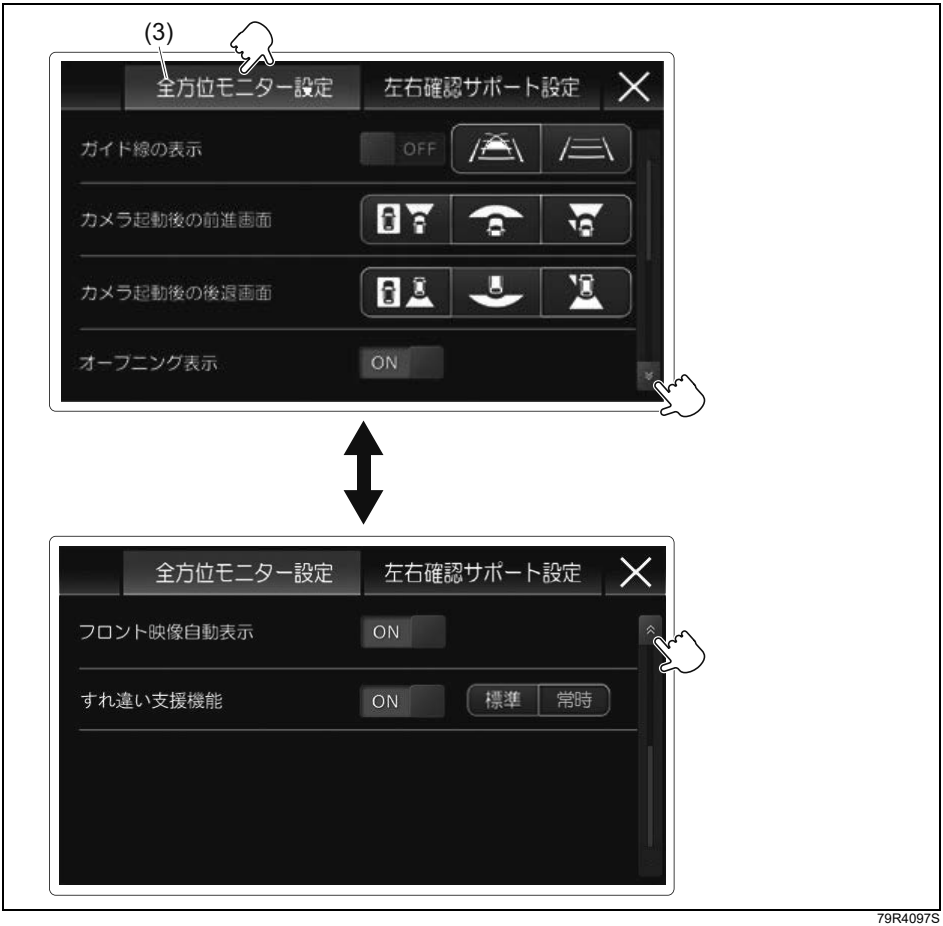
4 3Dビュー画面が映し出されたら、設定ボタン（2）をタッチします。



79R50720

5 “全方位モニター設定” (3) をタッチすると、全方位モニターの設定ができます。
お好みに応じて設定を変更してください。

図は代表例です



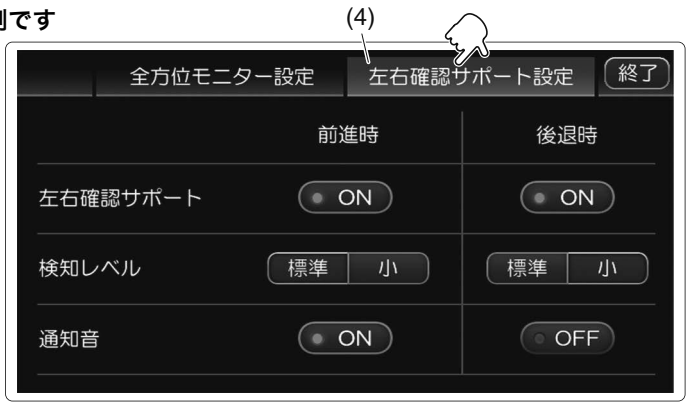
79R4097S

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

ガイド線の表示	目安線を“目安線線非表示”、“舵角連動目安線”、“固定目安線”から設定できます。
カメラ起動後の前進画面	前方を確認するための映像を“トップ映像+前方映像（初期状態）”、“前方ワイド映像”、“サイド映像+前方映像”から選択できます。
カメラ起動後の後退画面	後方を確認するための映像を“トップ映像+後方映像（初期状態）”、“後方ワイド映像”、“サイド映像+後方映像”から選択できます。
オープニング表示	起動時に自動表示される3Dビューの表示／非表示を設定できます。
フロント映像自動表示	セレクトレバーを R から P 以外にしたときに、自動表示されるカメラ映像の表示／非表示を設定できます。
すれ違い支援機能表示	対向車とすれ違うときに自動表示されるカメラ映像の表示／非表示、および標準表示／常時表示を設定できます。（初期設定（工場出荷時）は、OFFになっています）
タイヤ進路線の表示	タイヤの進路線の表示を表示／非表示を設定できます。
透過車両アイコンの表示	透過車両のアイコンの表示を表示／非表示を設定できます。

6 “左右確認サポート設定”(4) をタッチすると、左右確認サポートの設定ができます。お好みに応じて設定を変更してください。

図は表示例です



79R50740

4

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

左右確認サポート	左右確認サポート機能のON／OFFを設定できます。
検知レベル	左右確認サポート機能の検知レベルを設定できます。
通知音	左右確認サポート機能の通知音（ブザー）のON／OFFを設定できます。

カメラの取扱い

⚠注意

●カメラやその周辺をぶつけたときは、画面の映像が正しく表示されないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。
●カメラを交換したときは調整が必要です。マツダ販売店にご相談ください。
●カメラの作動をさまたげるものを、カメラ部分およびカメラ周辺に取り付けないでください。字光式ナンバープレートは取り付けることができません。

故障かなと思ったら

■ 画面にカメラシステムエラーマークが表示されたら

画面に⚠マークが表示された場合は、カメラシステムに異常が発生しています。

- 表示が消えない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■ 全方位モニターの映像の映りが悪い

- カメラのレンズが汚れていると、映像が見づらくなる場合があります。レンズに水滴、雪、泥などの汚れが付着しているときは水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときや、レンズにワックスなどが付着したときは、中性洗剤を使ってください。
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドライトの強い光が直接カメラに当たると、映像に白い縦線などが入り映像が見づらくなる場合がありますが、異常ではありません。

■ 画像やガイド線がずれている

次のような場合には、画像やガイド線がずれることがありますが、異常ではありません。

- 乗車人数や荷物などの影響で車両が傾いている

本製品のライセンスについて

全方位モニターに組み込まれたソフトウェアには、オープンソフトウェアが含まれています。
ライセンスは次の通りです。

[T-Kernel]

This Product uses the Source Code of T-Kernel under T-License granted by the T-Engine Forum (www.tron.org).

[OpenGL ES]

SGI FREE SOFTWARE LICENSE B (Version 2.0, Sept. 18, 2008)

Copyright (C) [dates of first publication] Silicon Graphics, Inc. All Rights Reserved.
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice including the dates of first publication and either this permission notice or a reference to http://oss.sgi.com/projects/FreeB/ shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL SILICON GRAPHICS, INC. BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

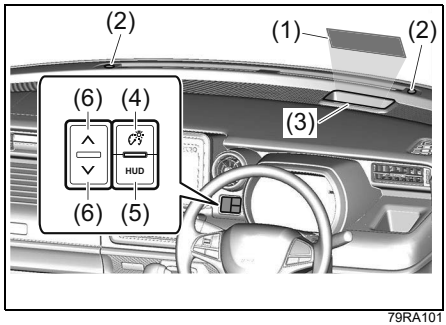
Except as contained in this notice, the name of Silicon Graphics, Inc. shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from Silicon Graphics, Inc.

79R40530

ヘッドアップディスプレイ

タイプ別装備

ヘッドアップディスプレイは、お車の車速やギヤポジションなどの情報を運転者の視界前方に表示する機能です。

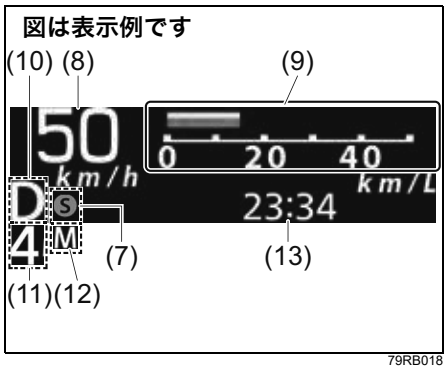


79RA101

(1) 表示部
(2) 受光部
(3) ヘッドアップディスプレイ開口部
(4) 明るさ調整スイッチ
(5) HUDスイッチ
(6) 上下スイッチ

受光部（2）はオートライトセンサーおよびオートエアコンの日射センサーを利用しています。

→ **3-135 ページ（AUTO の位置（オートライトシステム））**
→ **5-38ページ（エアコンの上手な使いかた）**



79RB018

(7) Sモード表示(※1)
→ **4-16ページ（Sモードスイッチ）**

(8) 車速
(9) 基本表示／割り込み表示
→ **4-125 ページ（ヘッドアップディスプレイの基本表示）**
→ **4-127ページ（割り込み表示）**

(10) セレクトレバー位置表示
→ **3-107、3-122ページ（セレクトレバー位置表示）**

(11) ギヤポジション表示(※1)
→ **3-107、3-122ページ（ギヤポジション表示）**

(12) マニュアルモード表示(※1)
→ **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

(13) 時計表示(※2)

※1 タイプ別装備
※2 初期設定（工場出荷時）は非表示

⚠警告

- **走行中にヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の車両、歩行者、障害物などを見落として、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **映像の明るさおよび表示位置は、安全運転に支障がないように適切な状態に調整してください。調整が不適切な場合、運転者の視界のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ヘッドアップディスプレイの操作は、必ず停車中に行なってください。走行中に操作しようとすると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**

注 記

●ヘッドアップディスプレイの故障の原因となるため、次のことをお守りください。
- **ヘッドアップディスプレイ開口部周辺および受光部には、ものや飲み物を置かない**
- **ヘッドアップディスプレイ開口部の内部および受光部にシールなどを貼らない**
- **受光部に強い光を当てない**

●ヘッドアップディスプレイ開口部に落としたものを取り出すときは、内部の部品が傷つかないように注意して取り出してください。

アドバイス

●サングラスを着用していると、表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、明るさを調整するか、サングラスをはずしてください。

●次のような場合は、表示が見づらくなることがあります。
- 雨の日や日差しの強い日など
- 積雪路を走行しているときや雨上がりなどで路面が濡れて光っているときなど
- 夜間、先行車に自車のヘッドライトの光が反射しているときなど
- 前方車両と表示が重なったとき
- 運転者の運転姿勢
- 外気温が極端に低い環境などでは、スピードメーターが示す速度とヘッドアップディスプレイの車速表示との間に、わずかなズレが生じることがあります。
  また、メーターとヘッドアップディスプレイを見る角度などによっても、わずかなズレが生じることがあります。

●炎天下に駐車した直後など、ヘッドアップディスプレイが高温になると、保護のために一時的に表示が暗くなる場合があります。さらに高温になると、一時的に表示が消え、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに HUD と表示されます。
- 温度が下がると自動的にもとの状態にもどりますが、上記の現象が繰り返される場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、時計を表示したり、高温時の警告をOFFにすることができます。

→ **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

●ヘッドアップディスプレイの初期化処理として、エンジンスイッチを ON にすると、ディスプレイの表示位置が一番高い位置まで移動したあと、設定された位置へ戻る動作をする場合があります。

ヘッドアップディスプレイの表示

■ ヘッドアップディスプレイの起動／終了

エンジンスイッチを ON にすると自動的にディスプレイが起動し、起動画面が表示されます。

図は表示例です



79R31120

エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、終了画面が表示され、エコスコアが一定時間表示されます。

図は表示例です



79R31130

エコスコアは、1 回の運転で燃費効率が良いと判定された割合から、運転内容を採点します。

- エコドライブの目安としてお使いください。
  → **2-39 ページ（エコドライブをしましょう）**

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、起動／終了画面を変更することができます。

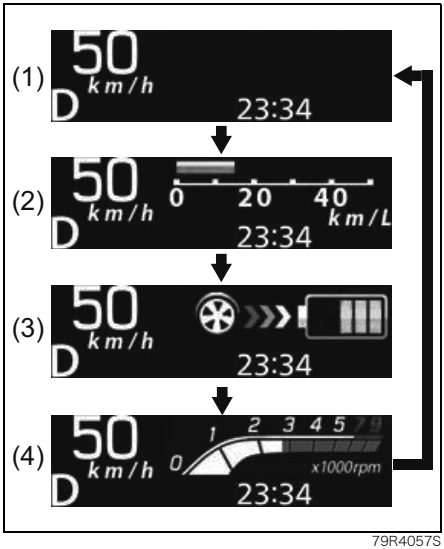
→ **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**

→ **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

■ ヘッドアップディスプレイの基本表示

HUDスイッチを押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

- 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。



79R4057S

(1) 非表示

(2) 瞬間燃費
→ **3-110ページ、3-124ページ（瞬間燃費）**

(3) エネルギーフロー
→ **4-134 ページ（エネルギーフローインジケーター）**

(4) タコメーター

アドバイス

- エンジンを停止しても表示設定を記憶しています。
- 車速の表示とスピードメーターで示される車速との間に、わずかに差が生じることがあります。

■ エアコンを操作したとき

エアコンを操作すると、ディスプレイに次のように表示されます。

→ **5-29ページ（オートエアコン）**

- オートスイッチを押すと、**AUTO**表示および設定温度がディスプレイに一定時間表示されます。

図は表示例です



79R4058S

- 温度調節ノブを操作すると、設定温度がディスプレイに一定時間表示されます。

図は表示例です



79R4059S

- ファン（風量）調節ノブを操作すると、風量がディスプレイに一定時間表示されます。

図は表示例です



79R4060S

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、エアコンの表示をOFFにすることができます。

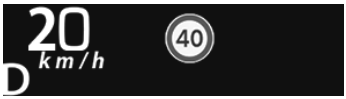
→ **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

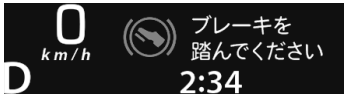
■ 割り込み表示

お知らせしたい情報があるとき、エンジンスイッチを ON にすると、次の内容が割り込み表示されます。
また、表示の種類によっては、同時にブザーが鳴る場合があります。

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

表示	ブザー	説明
	ポーン （ドアが閉まっていないときのみ）	いずれかのドア、ボンネット、またはフューエルリッドが完全に閉まっていないときに割り込み表示されます。（助手席側パワースライドドア装備車） 走行中の場合は、安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → **3-93ページ（半ドア警告灯）** → **5-2ページ（燃料給油口）** → **5-4ページ（ボンネット）**
	ポーン	燃料の残量が少なくなると割り込み表示されます。 すみやかに給油してください。 → **3-88ページ（燃料残量警告灯）**
	ピピッ	先行車発進お知らせ機能が作動しています。 → **4-58ページ** **（先行車発進お知らせ機能）**
	ピピピピピ	車線逸脱警報が作動しています。 → **4-51ページ（車線逸脱警報）**
	ピピピピピ	ふらつき警報が作動しています。 → **4-57ページ（ふらつき警報）**

表示	ブザー	説明
	ピピピピピ または ピーーーー	デュアルカメラブレーキサポートが作動しています。 → **4-43ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））**
	ピピピピピ	誤発進抑制機能が作動しています。 → **4-48ページ（誤発進抑制機能）**
	—	外気温が氷点下近くになると割り込み表示されます。 → **3-109、3-121ページ（外気温）**
	—	標識認識機能が作動しています。（ヘッドアップディスプレイの基本表示が非表示の場合） → **4-73ページ（標識認識機能）**
		
		
		

表示	ブザー	説明
	—	交差点案内を表示しています。（ナビゲーション装着車）
	—	アダプティブクルーズコントロール作動中に表示されます。 → **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**
	—	アダプティブクルーズコントロール作動中に表示されます。（車線逸脱抑制機能付車のとき） → **4-52ページ（車線逸脱抑制機能）**
	ピッピッピッ	アダプティブクルーズコントロールを使用中、車速が 0 km/h になるまで追従し、停車してから制御が自動的に解除されるまでの間（最大約2秒間）点灯します。 → **4-62ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**
	ピ ー ピ ー ピー または ピーーー	ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がありません。ハンドルを持って操作してください。 → **4-52ページ（車線逸脱抑制機能）**

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、標識認識機能および交差点案内（ナビゲーション装着車）の表示をOFFにすることができます。
→ **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

■ その他の表示

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

表示	ブザー	説明
	—	マニュアルモード使用中に表示されます。 → **4-17 ページ（マニュアルモードの使いかた）**
	—	Sモード使用中に表示されます。 → **4-16ページ（Sモードスイッチ）**
	—	時計が表示できます。 → **4-132 ページ（時刻の設定（マツダ純正用品ナビゲーション装着車を除く））**

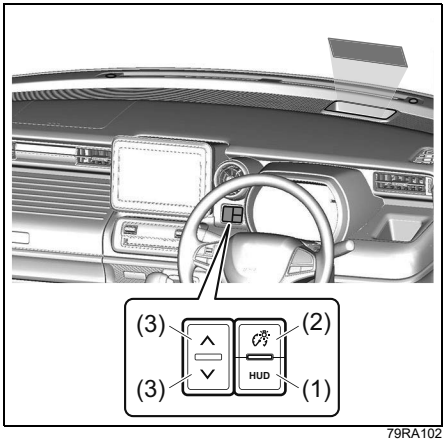
ヘッドアップディスプレイの操作

ヘッドアップディスプレイは停車中に操作してください。明るさと表示位置は走行中に調整することができません。

⚠警告

ヘッドアップディスプレイの明るさおよび表示位置は、安全運転のさまたげにならないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切な場合、視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ヘッドアップディスプレイ操作スイッチ



79RA102

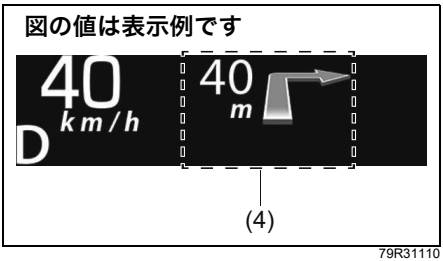
(1) HUDスイッチ
(2) 明るさ調整スイッチ
(3) 上下スイッチ

■ ヘッドアップディスプレイのON／OFF

エンジンが ON のときに、HUDスイッチ（1）を長押しすることでディスプレイのON／OFFを切り替えることができます。

■ 交差点案内表示の ON ／ OFF (※)

※ナビゲーション装着車のみ



79R31110

(4) 交差点案内表示

アドバイス

- 交差点案内表示のON／OFFは、マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで行ないます。
  → **3-115 ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130 ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**
- ヘッドアップディスプレイの交差点案内表示とナビゲーションの案内表示との間に、わずかなズレが生じることがあります。
- 交差点案内表示のON／OFFは、ナビゲーションの案内機能が表示されているときに切り替えてください。
  - 交差点案内表示の ON ／ OFF とナビゲーションで示される案内表示の間に、差が生じることがあります。
  - ナビゲーション本体の機能や操作方法については、付属の取扱説明書をお読みください。

■ 明るさ調整

表示の明るさは周囲の状況にあわせて自動的に調整されます。また、自動調整される明るさを、次の方法により明るめまたは暗めに調整することができます。

1 明るさ調整スイッチ（2）を押します。

2 明るくするときは上下スイッチ（3）の∧､暗くするときは∨を押します。



79R31230

アドバイス

- 明るさ調整スイッチによる調整は－10～＋10までの21段階です。
- 自動調整された明るさによっては、それ以上明るくしたり暗くしたりできない場合があります。
- 次のようなとき、運転席の状況に関わらず明るさが自動で変更されることがあります。
  - 助手席側が影の中に入ったとき
  - トンネルの中を走行しているときやトンネルの出入り口付近を通過しているとき
  - 頭上に構造物などがある道路を走行しているとき

■ 表示位置調整

上下スイッチ（3）を押してディスプレイの表示位置を上下に調整することができます。



79R31240

アドバイス

表示位置の調整は－30～＋29までの60段階です。

■ 時刻の設定（マツダ純正用品ナビゲーション装着車を除く）

時刻の設定は、次の手順で行ないます。

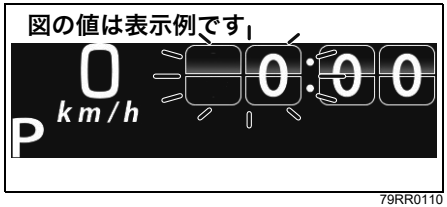
1 ヘッドアップディスプレイに時計を表示させます。

→ **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

2 「時」表示が点滅するまで、明るさ調整スイッチ（2）を長押しします。

3 上下スイッチ（3）の ∧ または ∨ を押して「時」を合わせます。明るさ調整スイッチを短押しすると「時」が決定され、「分」の設定に進みます。

- 上下スイッチを長押しすると、値が早送りされます。



79RR0110

4 「分」表示が点滅したら、上下スイッチの ∧ または ∨ 押して「分」を合わせます。明るさ調整を短押しすると「分」が決定され、時刻の設定が終了します。

⚠警告

走行中は、時刻の設定をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、設定をやり直す必要があります。

マイルドハイブリッド

この車のマイルドハイブリッドは、モーター機能付き発電機（ISG）を用いて、次の機能を運転操作にあわせて作動させることで静粛性および燃費向上を図ったものです。
ISG とは、Integrated Starter Generator（インテグレーテッド　スターター　ジェネレーター）の略です。

- 減速エネルギー回生機能
  減速時に集中的に ISG で発電を行ない、走行中の発電が不要なときは ISG を停止させることで、エンジンの負荷を低減して燃費を向上させます。

- モーターアシスト機能
  走行時に ISG がモーターとしてエンジンをアシストし、エンジンの出力を低減することで、燃費向上を図ります。

- スターターモーター機能
  アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止から再始動するときに、ISG がベルトを介してエンジンを再始動させます。

- モーターによるクリープ走行機能
  アイドリングストップ後、ブレーキを離したときや減速時に、ISG がモーターとしてエンジンを駆動させることで、最長で約 10 秒間、電力のみでクリープ走行できます。
  - モーターによるクリープ走行時、EV表示灯が点灯します。
    → **3-104ページ（EV表示灯）**

アドバイス

- エンジンスイッチを操作して再始動したときは、通常のスターターモーターが作動するため、ギヤの噛み込み音が聞こえます。
- 車速が低い場合などは減速エネルギー回生機能が作動しない場合があります。
- 次のような操作をすると、リチウムイオンバッテリーからカチッという音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
  - エンジンスイッチを ON にしたとき
  - エンジンスイッチを LOCK (OFF) にしたとき

■ ステータスインフォメーションランプ

減速エネルギー回生時には、スピードメーターの目盛りの照明の一部が、白色に変化します。

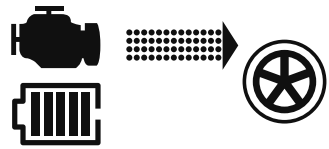
→ **3-84 ページ（ステータスインフォメーションランプ）**

■ エネルギーフローインジケーター

ISG が作動しているかどうかを、メーター内のエネルギーフローインジケーターで確認できます。

- 通常の走行時。ISGは作動していません。

図は表示例です



72M30410

- 通常走行の減速時に、減速エネルギー回生機能が作動しているとき。バッテリーへ充電しています。

図は表示例です



72M30411

- 停車中にエンジンが自動停止しているとき。バッテリーへの充電は行なわず、蓄積した電気をオーディオなどの電装品に使用しています。

図は表示例です



72M30412

- エンジン自動停止時にスターターモーター機能が作動したとき。バッテリーへの充電は行なわれず、蓄積した電気でISGを作動させます。

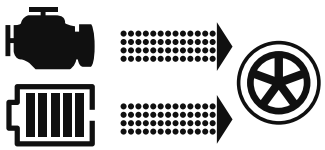
図は表示例です



72M30417

- ゆるやかな加速時にモーターアシスト機能が作動しているとき。エンジンをアシストしています。

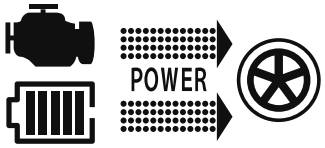
図は表示例です



72M30414

- パワーモードでモーターアシスト機能が作動しているとき。エンジンとCVT、ISG の制御が切り替わり、力強い走行をすることができます。

図は表示例です



79R40340

次の条件をすべてみたすと、モーターアシスト機能が作動します。

- 加速のために、少しアクセルペダルを踏み増しした
- セレクトレバーが D L M に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 発進後～約100 km/h
- エンジン回転数が5700 rpm 以下で走行中
- 次の機能が作動していない
  - ABS
  - DSC&TCS
- リチウムイオンバッテリーのバッテリー表示が 3 目盛り以上に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある
- エンジンの冷却水が所定温度内にある
- トランスミッションフルードが所定温度内にある

アドバイス

- 急加速などのアクセルペダルをいっぱいまで踏み込んだときはモーターアシスト機能は作動しません。
- モーターアシスト機能が作動しているとき、モーター音が発生することがありますが、異常ではありません。
- モーターアシスト時間は最長 30 秒間です。

- 減速時、または発進時にモーターによるクリープ走行の機能が作動しているとき。エンジンが停止し、またはエンジンが停止したまま、モーターだけでクリープ走行します。

図は表示例です



63R40470

次の条件をすべてみたすと、モーターによるクリープ走行になります。

- 車速約10 km/h以下
- アクセルペダルを踏んでいない
- 道が平坦である
- リチウムイオンバッテリーのバッテリー表示が３目盛り以上に充電されている
- 鉛バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの内部が所定温度内にある
- エンジンの冷却水が所定温度内にある
- トランスミッションフルードが所定温度内にある
- パワーモードスイッチが停止状態（OFF）になっている

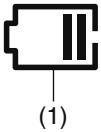
アドバイス

- モーターによるクリープ走行機能が作動しているとき、モーター音が発生することがありますが、異常ではありません。
- モーターによるクリープ走行時間は最長10秒間です。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、エネルギーフローをディスプレイに表示することができます。
  → **4-123ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

バッテリー表示について

バッテリー表示（1）の目盛りは、リチウムイオンバッテリーの充電量の目安を示します。充電状態によって、表示内の目盛りが増減します。

図は表示例です



72M30413

アドバイス

- エネルギーフローインジケーター表示は目安です。外気温が低いときなど、状況によっては表示が遅れたり、実際とは異なる表示になったりする場合があります。
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、エネルギーフローインジケーターの表示／非表示を設定できます。
  → **3-115ページ(セッティングモード（タコメーターなし車))**
  → **3-130ページ(セッティングモード（タコメーター装備車))**

アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステムは、信号待ちなどの一時的な停車時および停車前の減速時に、自動的にエンジンを停止・再始動させるシステムです。排出ガスの低減、燃費向上、エンジン騒音低下に役立ちます。

- 本システムは一定の条件のもとで、一時的にエンジンを停止させるものです。長時間停車するときや車から離れるときは、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止してください。
  → 4-10ページ（エンジンを止めるときは）

- 一定の条件をみたすと停車前の減速時（約10 km/h以下）に自動停止します。

⚠注意

●アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中は、車外に出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ブレーキペダルを踏んでいても運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開くとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムによるエンジン自動停止中であったことをお知らせします。



72M2042

●アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止後、自動で再始動しない場合は、エンジンスイッチを操作してエンジンを始動してください。エンジンが再始動しない状態で車を動かすと、ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注記

アイドリングストップシステムは、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないと本システムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

●バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）
→ 8-2ページ（サービスデータ）

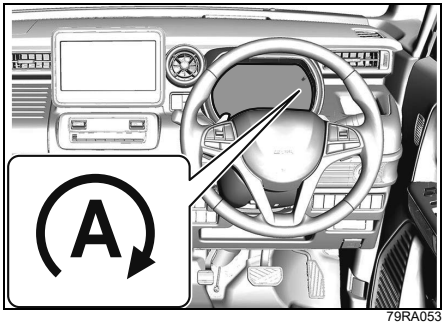
●バッテリー端子から電気製品の電源をとらない

エンジンの自動停止・再始動のしかた

1 走行中に、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。

→ **3-99ページ（アイドリングストップ表示灯）**

→ **4-141ページ（スタンバイ条件）**



79RA053

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

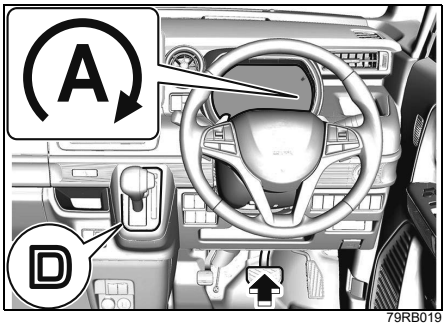
2 セレクトレバーが D のままブレーキペダルを踏んで減速すると、停車前（約 10 km/h 以下）にエンジンが自動停止します。このとき、アイドリングストップ表示灯（緑色）は点灯したままです。

- アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯した状態でブレーキペダルを踏んで減速しても、エンジン自動停止の条件をすべてみたさないと、エンジンが自動停止しません。

→ **4-142ページ（エンジン自動停止の条件）**

- 自動停止中に安全確保のため、室内ブザーが鳴ってエンスト状態にさせたり、エンジンを再始動させたりする場合があります。

→ **4-140 ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）**



79RB019

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

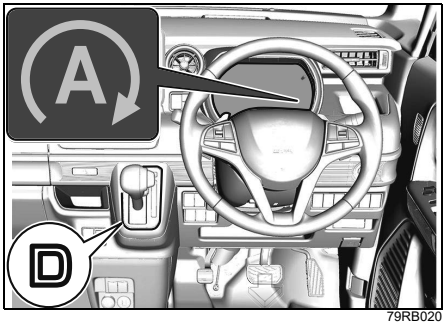
- ブレーキペダルを踏まずに、エンジンブレーキなどを使用して減速しても、エンジンは自動停止しません。ただし、モーターによるクリープ走行の機能が作動しているときはエンジンが停止します。

→ **4-133ページ（マイルドハイブリッド）**

- 停車前（約 10 km/h 以下）にエンジンが自動停止しない場合でも、停車時にエンジンが自動停止する場合があります。
- 自動停止中でもナビゲーション、またはオーディオなどの電装品は使用できますが、エアコンは送風に切り替わります。
- オートエアコン装備車の場合、冷暖房性能を長持ちさせるため、自動停止中の風量（自動制御時のみ）に制限がかかります。

3 停車の前後に関わらず、ブレーキペダルから足を離すとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

- ブレーキペダルを踏んでいても、エンジン自動再始動の条件をみたすと自動的に再始動します。
  → **4-143 ページ（エンジン自動再始動の条件）**
- エンジン再始動時にブレーキ踏力を一時的に保持することで車両のクリープ現象による動き出しや上り坂での後退を防ぎます。
  → **4-147 ページ（ヒルホールドコントロール）**
- ブレーキペダルから足を離しても、モーターによるクリープ走行の機能が作動しているときはエンジンは停止しています。
  → **4-133ページ（マイルドハイブリッド）**



79RB020

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

エンジン再始動のとき、ヒルホールドコントロールの作動により以下のような状態になることがありますが、異常ではありません。

- エンジンルームから音が聞こえる
- ブレーキペダルが硬くなり踏み込めないことがある

4 エンジン自動再始動後しばらく走行して、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。

エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて

⚠警告

自動停止中は、次表の操作は行なわないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作／車両の状態	対処方法
ボンネットを開ける ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。 ●エンジン自動停止状態からエンスト状態になります。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は消灯します。	エンジンを再始動するときは、次の手順で対処してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②ボンネットを完全に閉めます。 ③エンジンスイッチを操作して再始動します。 → **4-8ページ（エンジンのかけかた）**
運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開ける ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。（5回） ●エンジンが自動で再始動します。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は約5秒間点滅したあと消灯します。	発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-10ページ（エンジンを止めるときは）**

アドバイス

メーターパネル内の次の警告灯は、エンジンの自動停止中は点灯しませんが、エンスト状態になると点灯します。

●エンジン警告灯、パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯
→ **1-16ページ（警告灯）**

アイドリングストップシステムの作動条件

■ スタンバイ条件

次の条件をすべてみたすと、走行中にアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯し、エンジンの自動停止が可能な状態になります。

エンジン始動時	●ボンネットが完全に閉まっている状態でエンジンを始動する
走行時	●アイドリングストップシステムが停止状態（OFF）になっていない → **4-145ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）** ●バッテリーが十分に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある（※1） ●冷却水が所定温度内にある ●トランスミッションフルードが所定温度内にある ●運転席シートベルトを着用している ●運転席ドアが完全に閉まっている ●ボンネットが完全に閉まっている ●アイドリングストップシステム以外の電子制御システムから、エンジン停止を禁止する信号が出ていない（※2） ●セレクトレバーの位置が D または N である（※3） ●パワーモードスイッチが停止状態（OFF）になっている → **3-143ページ（パワーモードスイッチ）** ●エアコンの吹出し口温度が、冷房時は十分に冷えている、または暖房時は十分に暖まっている ●デフロスタースイッチが停止状態（OFF）になっている → **5-29ページ（オートエアコン）** **〈マニュアルモードなし車〉** ●Sモードスイッチが停止状態（OFF）になっている → **4-16ページ（Sモードスイッチ）** **〈マニュアルモード付車〉** ●マニュアルモードで走行していない → **4-18ページ（一時的にマニュアルモードにするときは）**

※1 車を長期間使用しなかったときや、エンジン停止中にナビゲーション、またはオーディオなどの電装品を長時間使用したときなど、バッテリーが放電している状況では、スタンバイ状態になるまでに時間がかかることがあります。
※2 アイドリングストップ表示灯（緑色）の点灯後に、エンジン停止を禁止する信号が出ることがあります。この場合、停車時にアイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯し、エンジンは自動停止しません。また、アイドリングストップシステムに影響をあたえる警告灯や表示灯のいずれかが点灯したときは、エンジンは自動停止しません。
※3 セレクトレバーの位置が N でもスタンバイ状態になりますが、このときは停車前の減速時（約10 km/h以下）ではなく、停車時にエンジンが自動停止します。

■ エンジン自動停止の条件

アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯中に次の条件をすべてみたすと、停車前の減速時または停車時にエンジンが自動停止します。

停車前の減速時（※2）	●ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※1） ●発進後に8 km/h以上の車速になったあと減速している ●車速約10km/h以下に減速している ●ハンドル操作をしていない ●アクセルペダルを踏んでいない ●急な坂道を走行していない ●急減速をしていない ●ABSやDSC&TCSが作動していない ●ブレーキ倍力装置の負圧が正常である
停車時	●ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※1） ●発進後に1 km/h以上の車速になったあと停車している ●ハンドル操作をしていない ●アクセルペダルを踏んでいない ●急な坂道で停車していない ●停車前に急減速をしていない ●ABSやDSC&TCSが作動していない ●ブレーキ倍力装置の負圧が正常である

※1 ブレーキペダルの踏みかたが弱い、または強いと、自動停止しない場合があります。
※2 モーターによるクリープ走行の機能が作動しているときはエンジンが停止します。
→ **4-133ページ（マイルドハイブリッド）**

■ エンジン自動再始動の条件

自動停止中に次のいずれかの操作をすると、または車両がいずれかの状態になると、エンジンが自動で再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

共通（※4）	●ブレーキペダルから足を離す（※1） ●ハンドル操作をする（※2） ●アクセルペダルを踏む ●下り坂などで車速が2 km/h以上増加したとき ●アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にする → **4-145ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）** ●バッテリーの放電が進んだとき（※3） ●本システムに関わる異常を検出したとき（※3） ●ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき（※3） ●パワーモードスイッチを作動状態（ON）にする → **3-143ページ（パワーモードスイッチ）** ●自動停止後、エアコンの吹出し口温度が大きく変化し、冷暖房性能が十分でなくなったとき（※3） ●温度調節ダイヤルを冷房時はCOOL側、暖房時はHOT側に大きくまわしたとき（※3） ●デフロスタースイッチを作動状態（ON）にしたとき（※3） → **5-29ページ（オートエアコン）** **〈マニュアルモードなし車〉** ●セレクトレバーを P R または L に入れる ●S（スポーツ）モードスイッチを作動状態（ON）にする → **4-16ページ（Sモードスイッチ）** **〈マニュアルモード付車〉** ●セレクトレバーを P R または M に入れる
減速時（約10 km/h以下）	●ボンネットを開けたとき ●セレクトレバーを N に入れたとき ●道路の勾配が急変したとき（※3）

停車時	●セレクトレバーを N に入れたあと D にもどす ●運転席シートベルトを外したとき（※3） ●運転席ドアを開けたとき（※3） ●坂道などで車両が動き出したとき（※3） ●自動停止してから、しばらく経過したとき（3分程度）（※3）

※1 ブレーキペダルの踏み込みが弱いと、自動再始動する場合があります。この場合、再びブレーキペダルを踏み込むと自動停止し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が再点灯することがあります。

※2 ハンドル操作時の自動再始動条件は、操作量ではなく操舵力となります。このため、自動再始動するときのハンドル操作量は、路面状況や乗車人数によって変化する場合があります。

※3 アイドリングストップ表示灯（緑色）は点滅したあと消灯します。

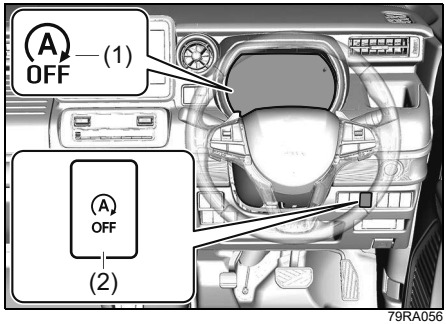
※4 モーターによるクリープ走行の機能が作動しているときはエンジンは停止しています。

→ **4-133ページ（マイルドハイブリッド）**

アイドリングストップシステムOFFスイッチ

アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にできます。

- システムを停止状態にするときは、メーターパネル内のアイドリングストップシステムOFF表示灯（1）が点灯するまで、アイドリングストップシステムOFFスイッチ（2）を押します。
- システムを作動可能な状態にもどすときは、表示灯（1）が消灯するまで、もう一度スイッチ（2）を押します。
- 手動でエンジンを停止するたびに、システムは作動可能な状態にもどり、アイドリングストップシステムOFF表示灯は消灯します。



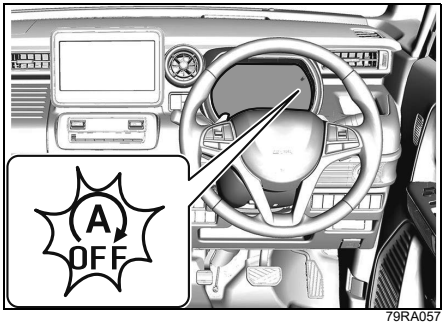
79RA056

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

エンジンの自動停止中にアイドリングストップシステム OFF スイッチ（2）を押すとエンジンが自動再始動し、アイドリングストップシステムOFF表示灯（1）が点灯します。

- メーターパネル内のアイドリングストップシステムOFF表示灯（オレンジ色）はアイドリングストップシステムが停止していることをお知らせするだけではなく、次のような場合、点灯または点滅します。点滅した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
  - システムが正常な場合、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。
  - システムに異常がある、またはバッテリーが交換時期の場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点滅します。（アイドリングストップシステムは正しく作動しません。）
    → **3-100ページ（アイドリングストップシステムOFF表示灯）**



79RA057

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

アイドリングストップによるエンジン自動停止中に点滅（システムが故障）すると、エンジンが再始動または、エンスト状態になる場合があります。

エコクール（蓄冷エバポレーター）

エアコンを使用して走行しているとき、エアコンユニット内の蓄冷材に冷気を蓄えます。蓄えられた冷気は、アイドリングストップによるエンジン自動停止中に車内に送風されるため、エアコンが作動していない状態でも車内温度の上昇を抑えます。

車内温度の上昇が抑えられることでエンジン自動停止の時間が長くなり、燃費の向上につながります。

アドバイス

走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。

アイドリングストップ空調設定

アイドリングストップシステムによるエンジン自動停止中の空調設定を「燃費優先」、「標準」、「快適優先」から選択できます。

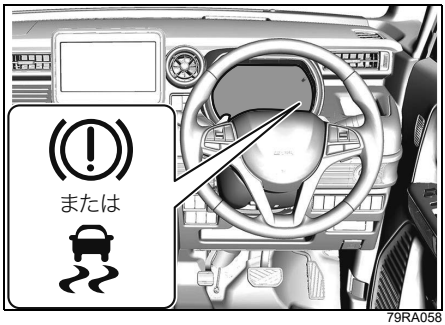
→ **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
→ **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

- 「燃費優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるアイドリングストップ条件が緩和され、エンジン自動停止になりやすく、自動停止時間も長くなります。（燃料の消費を抑えます。）
- 「快適優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるアイドリングストップ条件が厳しくなり、エンジンが自動停止しにくく、自動停止時間も短くなります。（快適性が向上します。）

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約２秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。
- 本システムに異常があると、メーター内の次のいずれかの警告灯が点灯し、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。また、アイドリングストップシステムが作動しません。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - DSC&TCS作動表示灯
    → **3-98ページ（DSC&TCS作動表示灯）**



79RA058

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

●常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。
●極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。
●極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るとき、ヒルホールドコントロールが作動するとタイヤがロックし、車両がコントロールできない場合があります。
●ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま２秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
●停止するときにブレーキペダルの踏み方が不十分な場合、ヒルホールドコントロールが作動しないことがあります。

■ ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約 2 秒間、車が後退することを防ぎます。

- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

前記条件をみたしていなくても、エンジン自動停止後の再始動時ならヒルホールドコントロールが作動します。

→ **4-137ページ（アイドリングストップシステム）**

アドバイス

作動中に以下のような状態になることがありますが、異常ではありません。

- エンジンルームから音が聞こえる
- ブレーキペダルが硬くなり踏み込めないことがある

5. 装備の取扱い

● **主な装備**
燃料給油口 ····· 5-2
ボンネット ····· 5-4
サンバイザー ····· 5-6
ロールサンシェード ····· 5-7
室内灯 ····· 5-8
インパネ収納スペース ····· 5-10
ドリンクホルダー ····· 5-13
そのほかの装備 ····· 5-16

● **エアコン、ヒーター**
エアコンの吹出し口 ····· 5-27
オートエアコン ····· 5-29
スリムサーキュレーター ····· 5-36
リヤデフォッガースイッチ ····· 5-37
エアコンの上手な使いかた ····· 5-38

● **オーディオ**
アンテナ ····· 5-41
オーディオ機能について ····· 5-42
ステアリングオーディオスイッチ ····· 5-42

燃料給油口

2-26 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

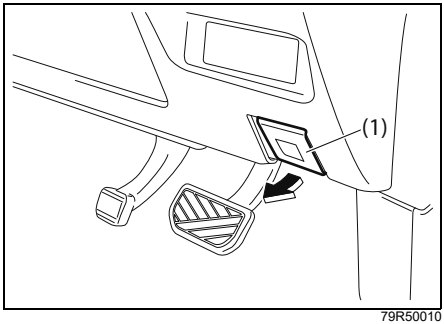
⚠警告

必ず次のことをお守りください。
●エンジンを止めてください。
●給油中はドアや窓を閉めてください。
●ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

フューエルリッド

助手席側の車両後方にあります。

- 開けるときは、運転席ひざ元のフューエルリッドオープナー（1）を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押し付けます。
- フューエルリッドが開いていると、干渉防止のため、助手席側スライドドアは少ししか開きません。また、助手席側のパワースライドドア機能が作動しません。



79R50010

注 記

助手席側スライドドアが全開しているときに、フューエルリッドを開けないでください。ドアの内側に当たり、破損するおそれがあります。

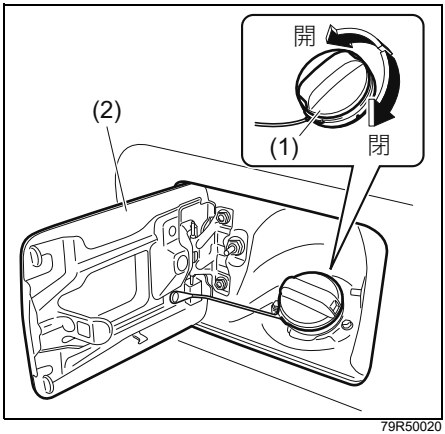
アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、フューエルリッドが完全に閉まっていないとき、ディスプレイに警告が表示されます。（助手席側パワースライドドア装備車）

→ **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは、カチッという音が 2 回以上するまで時計方向にまわします。



79R50020

(1) フューエルキャップ
(2) フューエルリッド

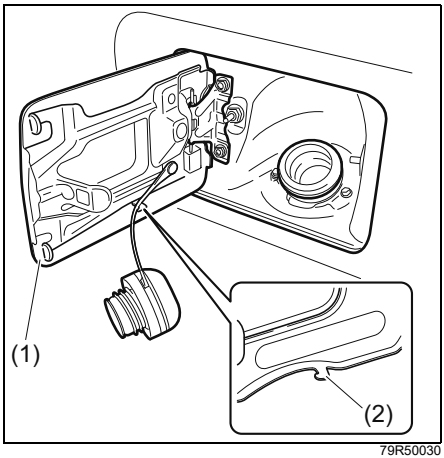
⚠ 警告

- **フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。**
- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、フューエルキャップをカチッという音が2回以上するまで閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **指定のマツダ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。**

キャップホルダー

フューエルリッド(1)の裏側にあります。

- 給油中は、外したキャップが車体に当たらないように、ひもの部分をかけてください。



79R50030

(2) キャップホルダー

5

ボンネット

⚠警告

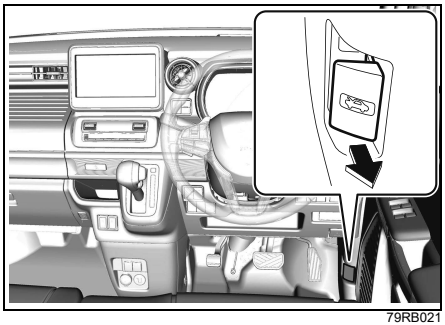
●お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
●ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
●点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置いたままにしないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。

⚠注意

動いているドライブベルトや冷却ファンに近づかないでください、手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

開けかた

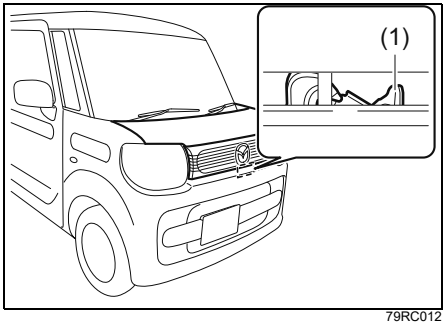
1 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



79RB021

● 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

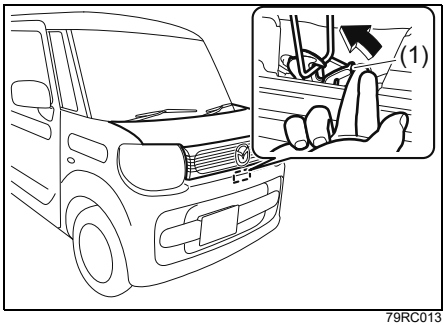
2 浮き上がったボンネットのすきまからロックレバー（1）の位置を確認します。



79RC012

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

3 浮き上がったボンネットのすきまに手を入れ、ロックレバー（1）を左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



79RC013

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

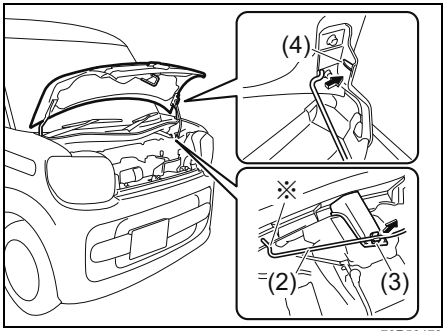
エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注 記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

4 ボンネットを固定します。

- 車体側にあるステー（2）をホルダー（3）から外し、ボンネット側の固定穴（4）に差し込みます。



79R50470

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

- **エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。**
- **ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。**
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。**

注 記

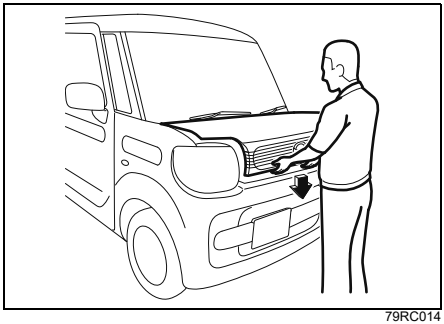
ステーをホルダーから外すときは、ステーの先端（※部）を持ってください。

閉めかた

1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外してもとのホルダーに固定します。

2 ボンネットを閉めます。

- ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



79RC014

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

- **ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。**
- **ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。**

アドバイス

ヘッドアップディスプレイ装備車は、ボンネットが完全に閉まっていないとき、ディスプレイに警告が表示されます。

→ **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

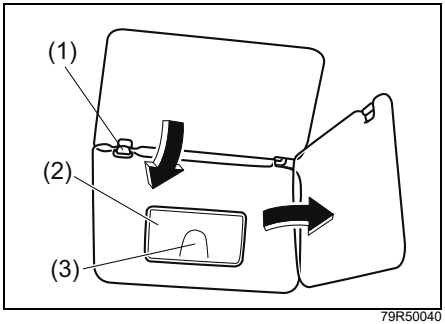
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

チケットホルダー

助手席側はタイプ別装備

サンバイザーの裏側にあります。有料道路の通行券などがはさめます。



79R50040

(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

注 記

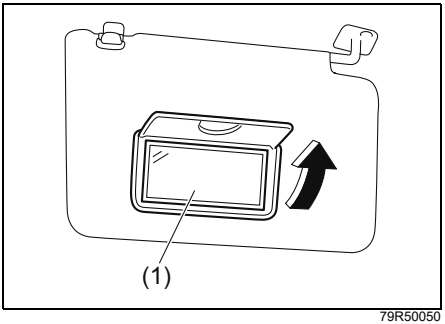
炎天下で駐車するときは、チケットホルダーにプラスチック素材のカードなどを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→ 2-26 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

バニティミラー

助手席側はタイプ別装備

ミラーカバーを開けた場所にあります。



79R50050

(1) バニティミラー

⚠警告

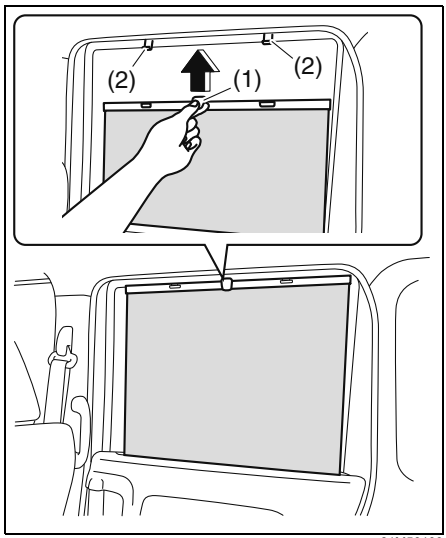
- **走行中はバニティミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **バニティミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。**

ロールサンシェード

タイプ別装備

後席の両側にあり、日差しがまぶしいときなどに使用します。

- ツマミ（1）を持ってゆっくり上に引き出し、シェードの 2 か所の穴をフック（2）にかけます。
- 収納するときは、ツマミを持って少し上に引き上げフックから外し、ゆっくり下げます。



81M50100

⚠ 警告

シェードに手をつかないでください。シェードを破損するだけでなく、窓が開いていると手などが外へ出て思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

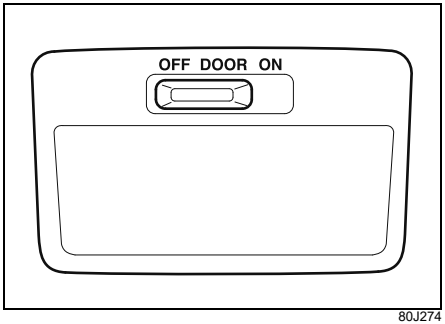
- **使用するときは 2 か所の穴がフックにかかっているか確認してください。片側のみで使用すると、走行時の振動などでフックから外れ、シェードが暴れてけがをするおそれがあります。**
- **シェードを操作するときは、ツマミをしっかりと持って操作してください。途中でツマミを離すと、シェードが巻きもどされ、指などをはさまれてけがをするおそれがあります。**

注 記

シェードを上以外の方向に引き出したり、勢いよく引き出したりしないでください。シェードが破損するおそれがあります。また、収納するときはまっすぐ下方向に下げてください。傾けた状態で下げると、正しく収納されなかったり、しわができたりするおそれがあります。

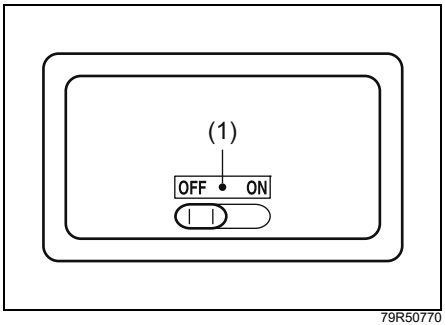
室内灯

前席室内灯



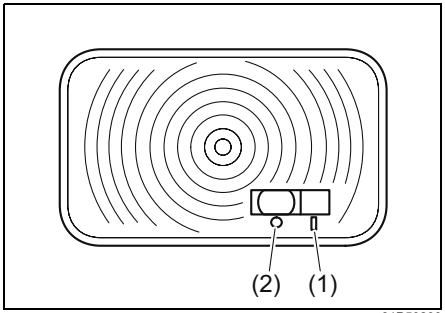
80J274

後席室内灯



79R50770

荷室室内灯(タイプ別装備)



81P50200

(1) DOOR位置
(2) OFF位置

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

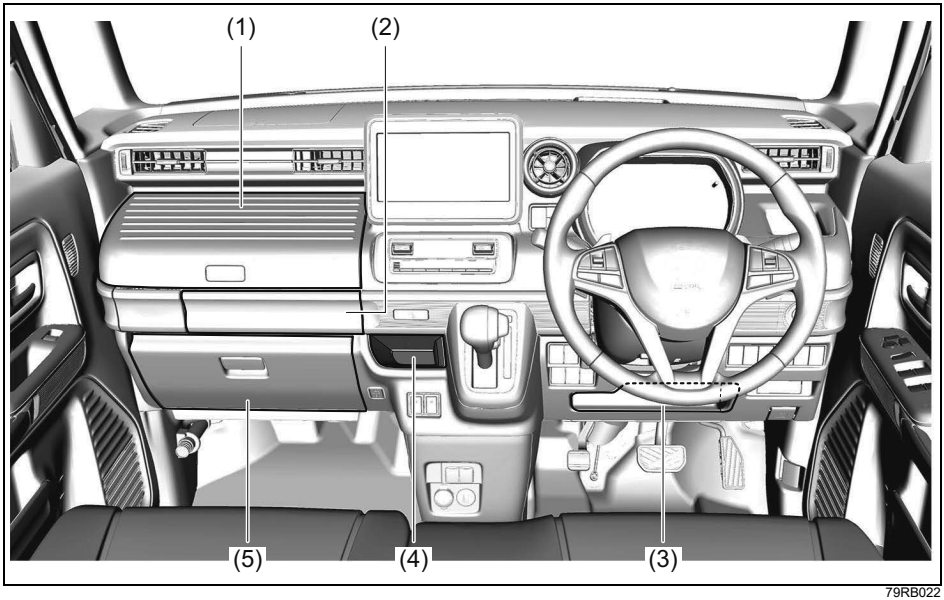
- 鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、室内灯が自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)
  - エンジンスイッチが LOCK (OFF) の位置
  - 室内灯スイッチがDOOR位置
  - 点灯したまま15分が経過

- 室内灯スイッチが DOOR 位置のときに、リクエストスイッチを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。
  → **3-11ページ(アンサーバック機能)**

スイッチの位置	ON	ドアの開閉に関係なく点灯します。
	DOOR	いずれかのドアを開けると点灯します。 ●すべてのドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 ●すべてのドアを閉じているときでも、エンジンスイッチを ON から LOCK (OFF) の位置にすると、約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。 ●エンジンスイッチを ACC または ON の位置にする ●キーまたは運転席ドアのロックレバーによる施錠 ●キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによる施錠
	OFF	ドアの開閉に関係なく消灯します。

インパネ収納スペース

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



79RB022

(1) インパネアッパーボックス
(2) インパネミドルボックス
(3) インパネアンダートレイ
(4) インパネセンターポケット
(5)グローブボックス

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

ふた付収納スペースの場合、ふたを開けたまま走行したり、走行中にふたを開けたりしないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

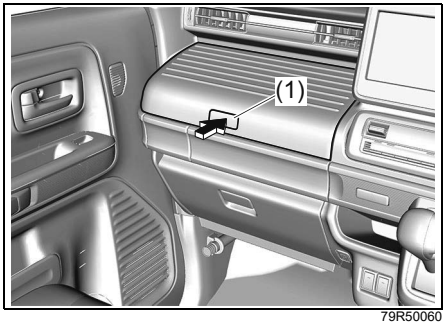
アドバイス

携帯リモコンをいずれかのインパネ収納スペースに置いた場合、検知できないことがあります。

ふた付収納スペースの取扱い

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ インパネアッパーボックス



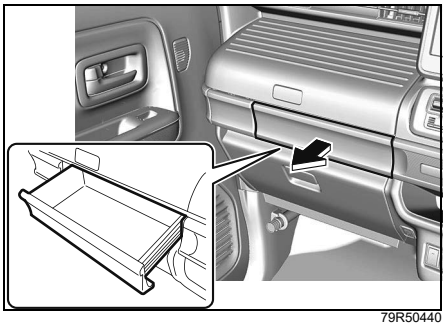
79R50060

- ボタン（1）を押すと、ふたのロックが解除されます。
- ふたを全開の位置まで引き上げると、その位置で保持することができます。
- 閉めるときはふたの中央部を押し、“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

⚠注意

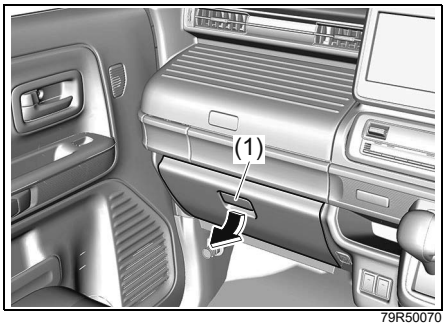
●ふたは、勢いよく開けたり閉めたりしないでください。手をはさんでけがをしたり、ふたが破損したりするおそれがあります。
●ふたを全開の位置まで引き上げた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。けがをしたり、ふたが破損したりするおそれがあります。

■ インパネミドルボックス


79R50440

- インパネミドルボックスの下部を手前に引いて引き出します。
- ものを出し入れするとき以外は、押し込んで格納します。

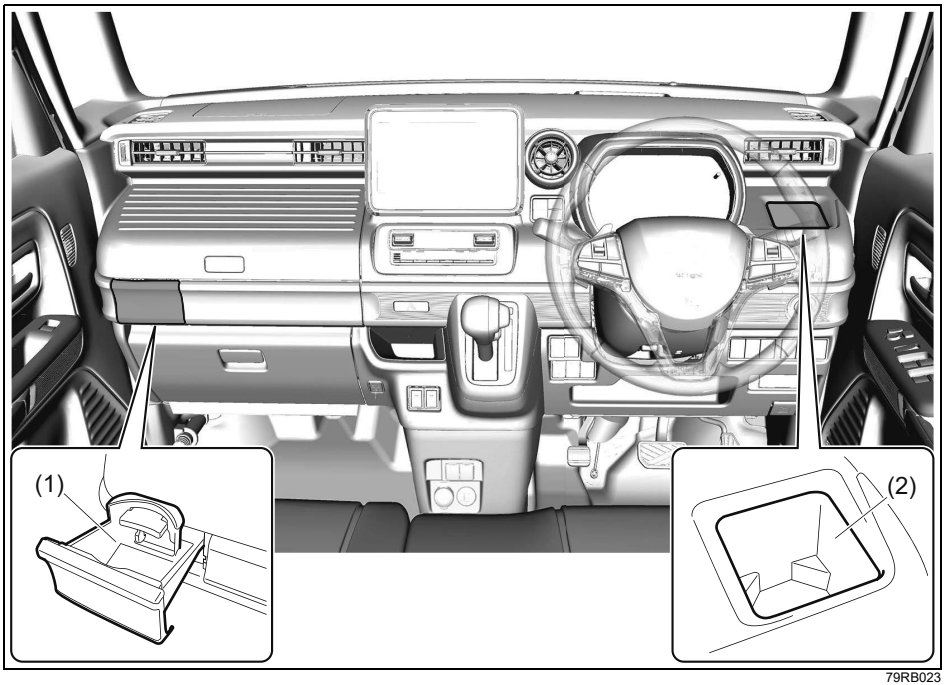
■ グローブボックス



79R50070

- レバー（1）を手前に引いてふたを開けます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

ドリンクホルダー

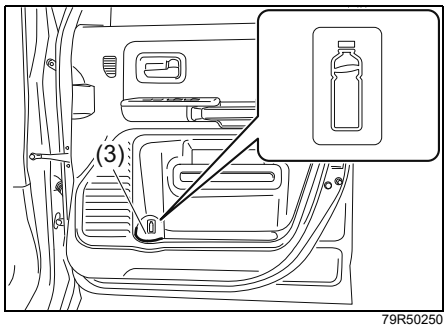


79RB023

(1) 助手席ドリンクホルダー
(2) 運転席ドリンクホルダー

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

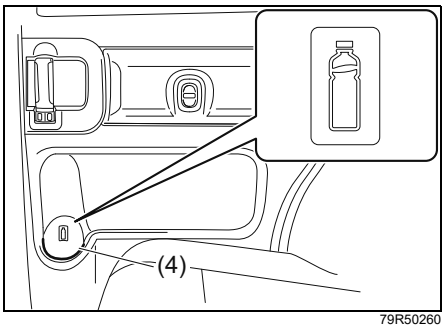
前席ドア



79R50250

(3) 前席用ペットボトルホルダー

後席ドア



79R50260

(4) 後席用ペットボトルホルダー

⚠警告

●飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
・ナビゲーションまたはオーディオ
・スイッチ、配線などの電気部品
・セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分

●運転席／助手席ドリンクホルダーに、缶ジュースやカップ、紙パック以外のもの、または背が高い飲料用容器などを置かないでください。さらに、鋭利なものや硬いもの、割れやすいものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。

※運転席ドリンクホルダーには、500mlを超えるサイズの紙パックを置かないでください。倒れたり、中身がこぼれたりするおそれがあります。
助手席ドリンクホルダーには、200mlを超えるサイズの紙パックを置かないでください。倒れたり、中身がこぼれたりするおそれがあります。

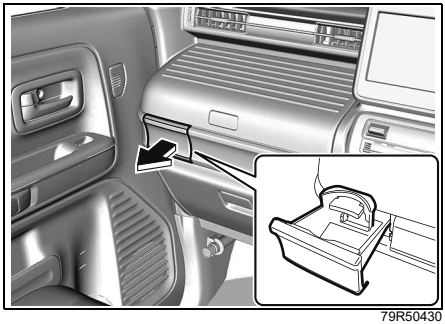
アドバイス

携帯リモコンをドリンクホルダーや、ペットボトルホルダーに置いた場合、検知できないことがあります。

格納式ドリンクホルダーの取扱い

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

助手席ドリンクホルダー



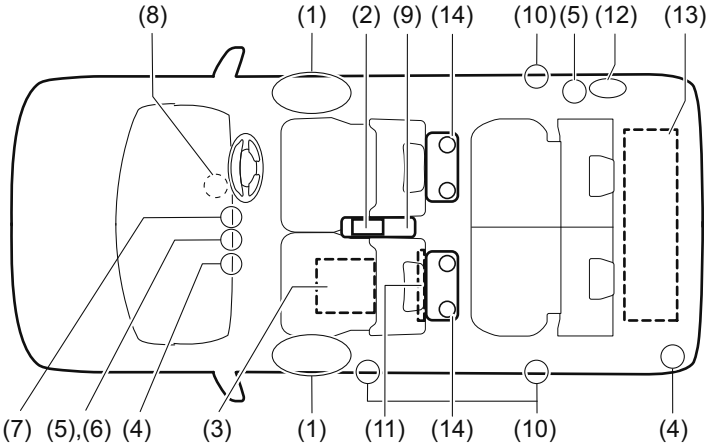
79R50430

● 手前に引き出して使用します。
● 使用後は、押し込んで格納します。

⚠注意

●格納式ドリンクホルダーに手をかけたり、足を乗せたりしないでください。ドリンクホルダーが破損して、けがのおそれがあります。
●格納式ドリンクホルダーを使わないときは、必ず収納してください。急ブレーキをかけたときなどに助手席の乗員に当たって、思わぬけがをするおそれがあります。

そのほかの装備



79RB038

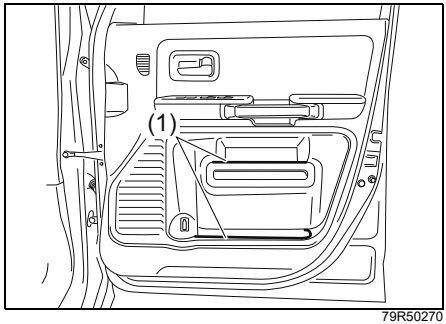
(1) ドアポケット(※) ····· 5-17
(2) アームレストボックス(タイプ別装備)(※) ····· 5-17
(3) シートアンダーボックス(※) ····· 5-18
(4) ショッピングフック ····· 5-19
(5) アクセサリーソケット ····· 5-20
(6) USB電源ソケット(タイプ別装備) ····· 5-21
(7) USBソケット(タイプ別装備) ····· 5-20
(8) フットレスト ····· 5-22
(9) アームレスト(ひじ掛け) ····· 5-22
(10) 可倒式アシストグリップ ····· 5-22
(11) 助手席シートバックポケット(タイプ別装備)(※) ····· 5-23
(12) リヤクォータートリムポケット ····· 5-17
(13) ラゲッジアンダーボックス(※) ····· 5-25
(14) パーソナルテーブル(タイプ別装備) ····· 5-23

※携帯リモコンをこの場所に置いた場合、検知できないことがあります。

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

ドアポケット

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



79R50270

(1) ドアポケット

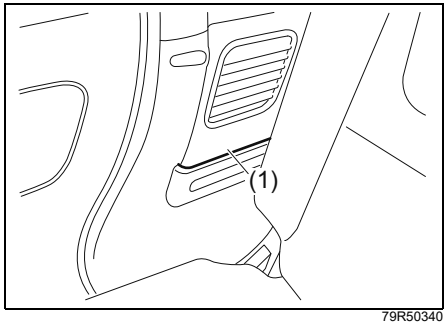
⚠注意

ドアを閉めるときは、ドアポケット（1）をつかんで引かないでください。けがをしたり、ポケットが破損したりするおそれがあります。

リヤクォータートリムポケット

■ 後席右側

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



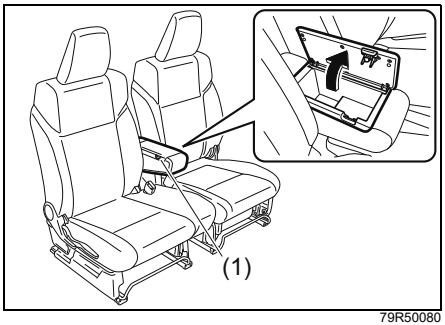
79R50340

(1) リヤクォータートリムポケット

アームレストボックス

タイプ別装備

- 開けるときは、ボタン（1）を押したまま、ふたを持ち上げます。
- ものを出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。



79R50080

注 記

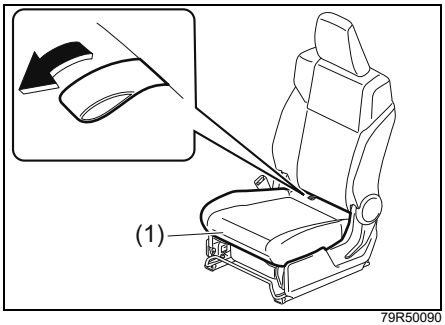
ボックスの中に重いものを入れたり、ふたを開けたままにしたりしないでください。アームレストを収納したり、運転席の背もたれを後方に倒したりしたときに、中のものが飛び出すおそれがあります。また、ふた破損の原因となります。

シートアンダーボックス

■ 取り出しかた

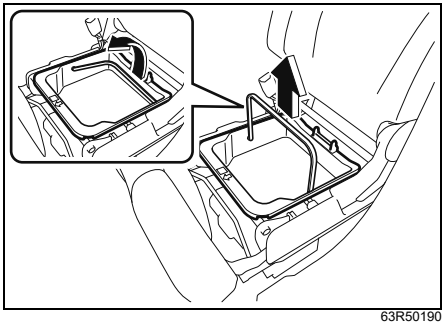
1 助手席を後方へスライドし、クッション（1）後部のバンドを引き上げて、固定を外します。

- バンドを引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。



79R50090

2 クッションを車の前方向に起こし、とっ手を持ってボックスを取り出します。



63R50190

注 記

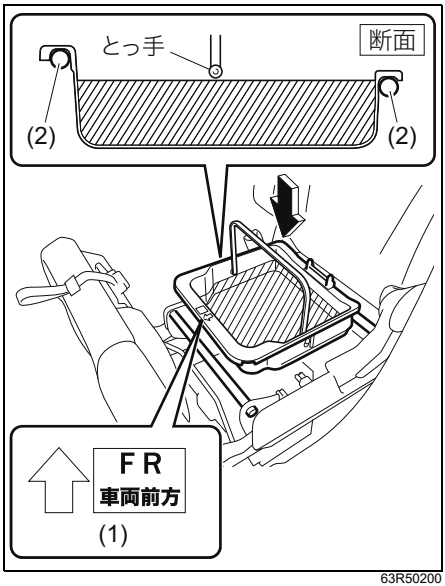
起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

アドバイス

シートアンダーボックスの下に、リチウムイオンバッテリーがあります。
→ **2-4ページ**
（リチウムイオンバッテリー）

■ もとにもどすときは

1 ボックスの取り付け方向マーク（1）の矢印が車両前方を向く方向で、両端がシートのパイプ（2）にはまるように、ボックスをはめ込みます。



63R50200

注 記

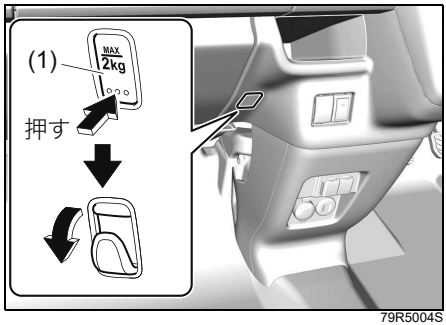
上図の斜線部分よりも上にものを入れないでください。クッションやボックス、中のものが破損するおそれがあります。

2 クッションを車の後方へ倒します。クッションは、もとの位置までもどると固定されます。

ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。

■ インパネ



79R5004S

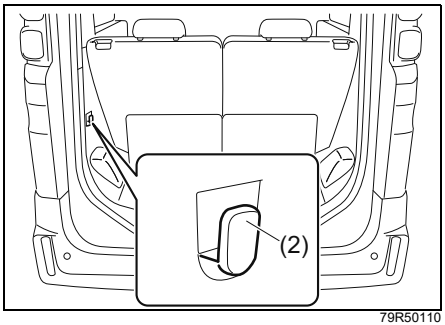
- 使用するときは、フック（1）の下部を押しながら回転させます。
- 使用後は、反転させてフックを格納します。

注 記

フックにかけるものは、2 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

■ ラゲッジサイド左側

荷室の左側面にフック（2）があります。



79R50110

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

注 記

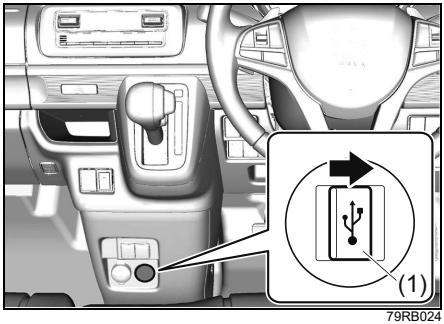
フックにかけるものは、1 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

USBソケット

タイプ別装備

ふた（1）を開けると、接続ケーブル（市販品）を使用して、お使いのナビゲーションにUSB機器、スマートフォンなどが接続できます。

- 機能については、お使いのナビゲーションに付属の取扱説明書をお読みください。



79RB024

⚠ 警告

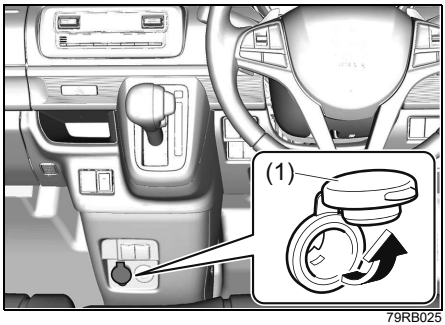
使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電気製品の電源として使用できます。使用できる電気製品の規定容量はインパネとリヤクォータートリムあわせて12 V10 A(120 W)以下です。

- 使用するときは、ふた（1）を開けます。

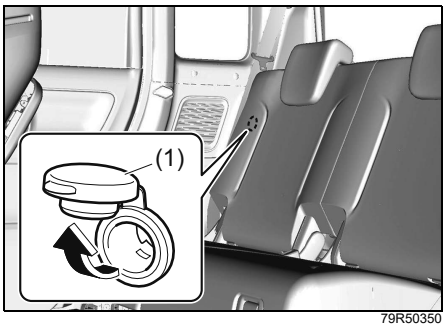
インパネ



79RB025

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

リヤクォータートリム



79R50350

⚠警告

使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

注 記

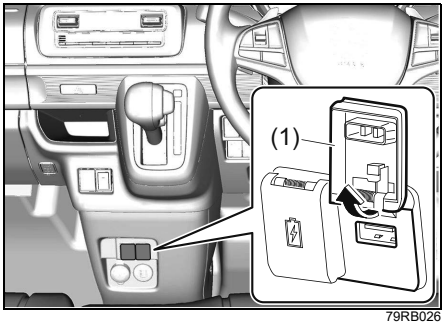
- **規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。**
- **エンジン停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。**
- **エンジンスイッチが LOCK (OFF) の状態で、オーディオまたはナビゲーションの電源が切れなかったり、キーレスエントリーが作動しなかったりする場合は、アクセサリーソケットに接続された機器が影響している可能性があります。**
  アクセサリーソケットから機器を取り外して、状況が改善されるか確認してください。改善されない場合は、マツダ販売店にご連絡ください。

USB電源ソケット

タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、接続ケーブル（市販品）を使用して、お使いのスマートフォンなどのモバイル端末が充電できます。
規定容量は、ひとつあたり 5 V / 2.4 A (12 W) 以下です。
使用できるUSB 端子の規格は、USB Type-Aです。

- 使用するときは、ふた (1) を開けます。



79RB026

⚠警告

使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

注 記

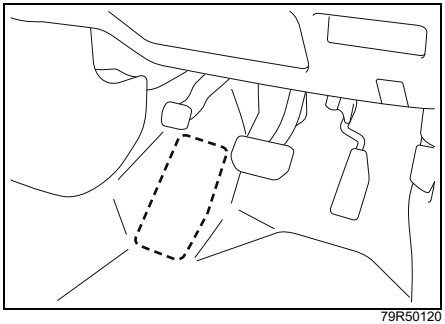
エンジン停止中に長時間充電をしないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- USB電源ソケットは充電専用です。
- 一部の機器では、充電中に充電が途切れることがありますが、異常ではありません。
- 車両状態によっては、一時的に充電を停止することがあります。（例：炎天下に駐車した後など車室内温度が高い場合、エンジン始動時）

フットレスト

フロアカーペット内にあります。左足のささえとして使用します。

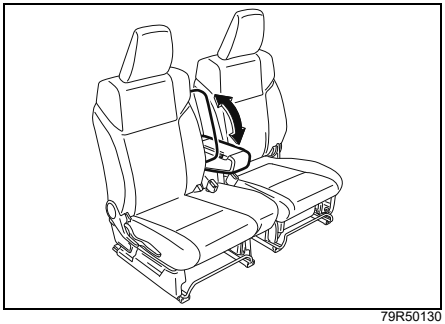


79R50120

アームレスト（ひじ掛け）

手前に倒して使用します。

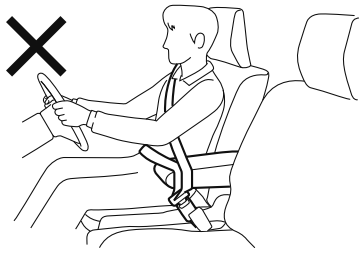
- 使用後は、持ち上げて収納します。



79R50130

⚠ 警告

シートベルトは、アームレストの下を通してください。アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。



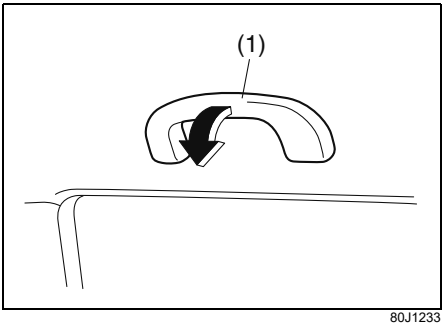
70K40011

注 記

アームレストに腰をかけたり、荷物を載せたりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

可倒式アシストグリップ

アシストグリップ（1）を手前に倒して使用します。

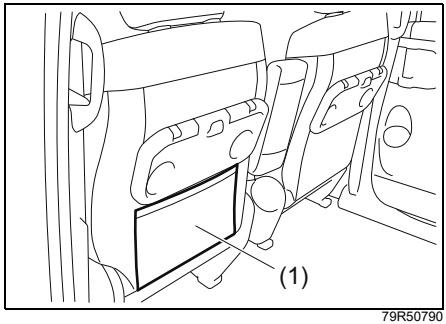


80J1233

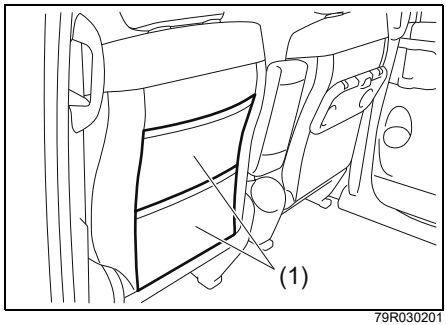
助手席シートバックポケット

タイプ別装備

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。



79R50790



79R030201

(1) シートバックポケット

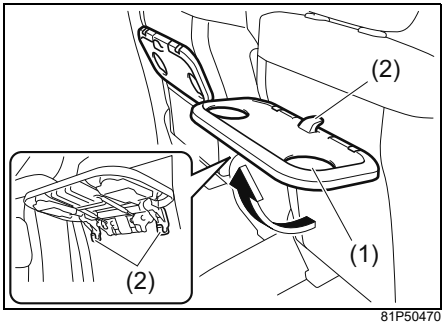
注 記

シート表皮を破損するような鋭利なものや、重たいものを収納しないでください。

パーソナルテーブル

タイプ別装備

手前に引き上げて使用します。



81P50470

(1) ドリンクホルダー
(2) ショッピングフック(3個)

- 使用するときは、確実に固定されているか確認してください。
- 使用後は、テーブル先端の中央部を押し下げてもとの位置にもどします。

⚠注意

●ブレーキや加速、衝突のときなどに、テーブル上のものが飛んだり、顔や頭などの身体がテーブルに当たったりしてけがのおそれがあります。
テーブルは、走行中は格納し使用しないでください。
●テーブル使用中に、テーブルに手を突いたり、もたれかかったりすると、急にテーブルが倒れ、思わぬけがのおそれがあります。
使用中は、テーブルに手を突いたり、もたれかかったりしないでください。

注 記

テーブルに載せるものは、合計 2 kg 以下としてください。テーブルが破損するおそれがあります。

■ ドリンクホルダー

ペットボトルなどの飲み物が置けます。

⚠ 警告

飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、リチウムイオンバッテリーに飲み物がかかると、火災や感電を引き起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあります。

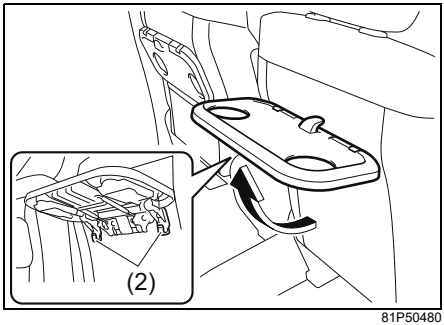
アドバイス

ドリンクホルダーに置く飲み物は、ふたが閉められるものをおすすめします。

■ ショッピングフック

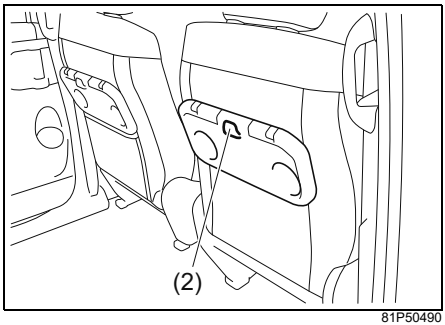
買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。

テーブル使用時



81P50480

テーブル収納時



81P50490

⚠ 注意

フックに荷物がしっかりとかからない場合は使用しないでください。走行中の振動で荷物が落下し、けがのおそれがあります。

注 記

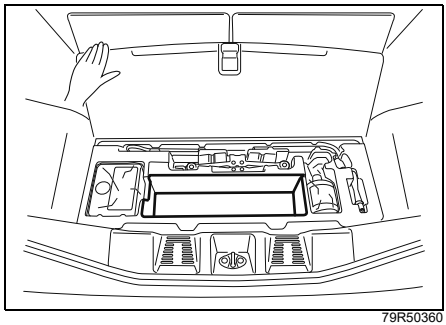
フックにかけるものは、テーブル使用時はフック1個につき1 kg以下、テーブル収納時は 4 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

ラゲッジアンダーボックス

荷室のフロアボード下にあります。

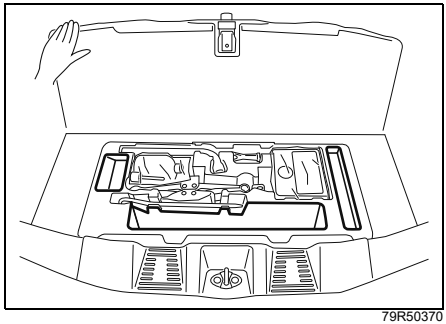
- 手回り品や小物などの収納にご使用ください。

2WD車



79R50360

4WD車



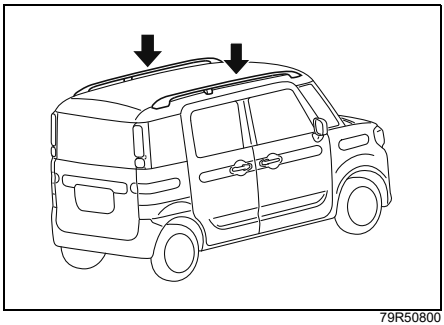
79R50370

注 記

フロアボードを立てた状態で後席を後方へスライドさせたり、背もたれを後方へ倒したりしないでください。フロアボードや周辺の部品、収納物などが破損するおそれがあります。

ルーフレール

タイプ別装備



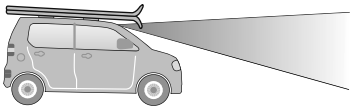
79R50800

ルーフレールに別売りのベースキャリアおよびアタッチメントを装着すると、ルーフの上にスキーやサーフボードなどの荷物が積めます。

- マツダ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は30 kg（ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取り付けおよび使用上の注意については、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠注意

搭載したルーフキャリアやスキー板などの長尺物がレーダー検知範囲内にあるとき、デュアルカメラブレーキサポートが作動する場合があります。
→ 4-43 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））



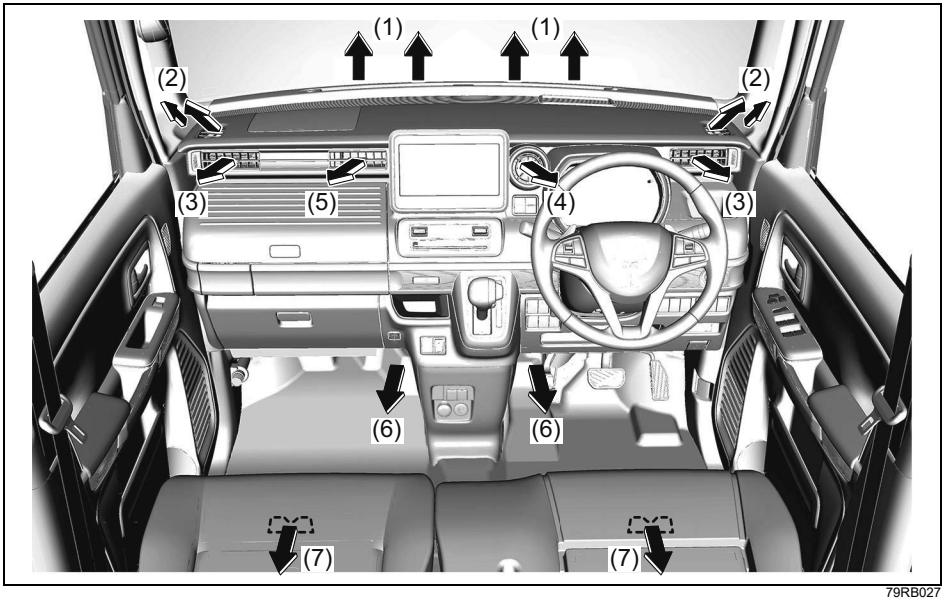
72M20423

注 記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

エアコンの吹出し口

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。



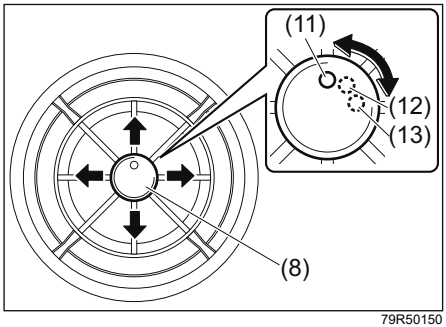
79RB027

(1) デフロスター
(2) サイドデミスター
(3) サイド吹出し口
(4) エアコンルーバー[風量調整機能付]
(5) 助手席中央吹出し口
(6) 足元吹出し口
(7) 後席足元吹出し口(リヤヒーターダクト)

● エアコンルーバー［風量調整機能付］（4）は、ノブ（8）を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
● エアコンルーバー［風量調整機能付］（4）は、ノブ（8）を回転させると、エアコンの風量を2段階で調節できます。
全開モード（11）は、肌に直接風が当たり、1段目（12）および2段目（13）は、肌に当たる風がソフトになります。
● サイド吹出し口（3）および助手席中央吹出し口（5）は、ノブ（9）を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
● サイド吹出し口（3）は、ダイヤル（10）を上下にまわすと開閉できます。

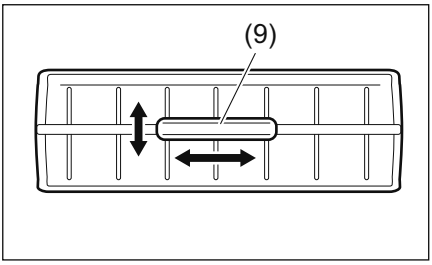
● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

エアコンルーバー［風量調整機能付］

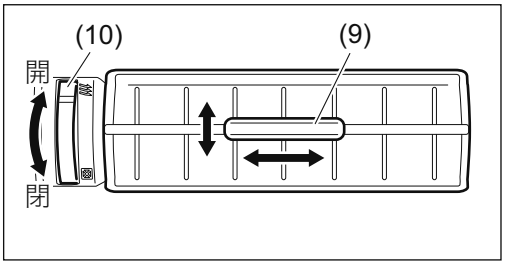


(11)全開モード
(12)1段目
(13)2段目

助手席中央吹出し口



サイド吹出し口



79R50160

⚠注意

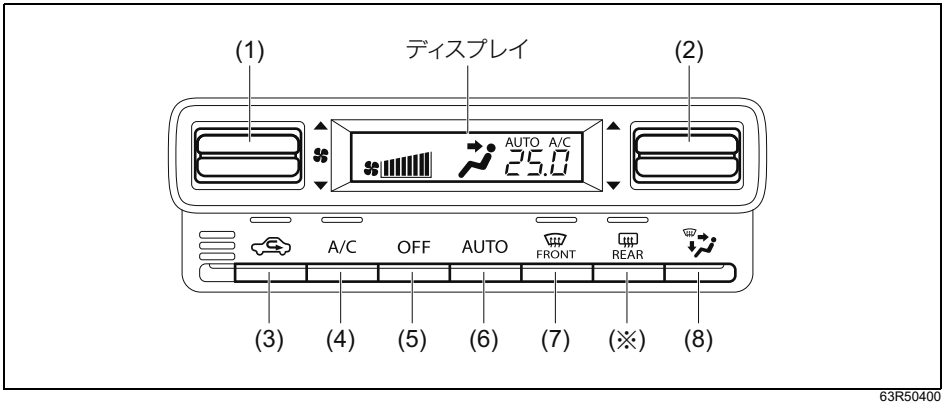
エアコンやヒーターからの温風に長時間さらされると、低温やけどのおそれがあります。とくに、お子さま、お年寄り、皮膚の弱い方が乗車される場合や、同乗者が仮眠される場合には、足元の吹出し口からの温風に長時間さらされないように注意してください。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

オートエアコン

次の図は代表例です。お車のタイプにより異なります。



63R50400

(1) ファン(風量)調節ノブ
(2) 温度調節ノブ
(3) 内外気切替えスイッチ
(4) エアコンスイッチ
(5) OFFスイッチ
(6) オートスイッチ
(7) デフロスタースイッチ
(8) モード(吹出し口)切替えスイッチ

※リヤデフォッガースイッチについては、**5-37ページ**をお読みください。

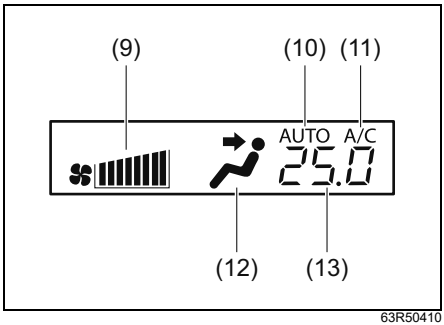
オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた（自動で使うとき）

オートスイッチ（6）を押して温度調節ノブ（2）で希望の温度を設定すると、各機能が自動制御されます。ただし、デフロスター位置へは自動で切り替わりません。

→ **5-34ページ（オートスイッチ）**

1 エンジンをかけ、オートスイッチ（6）を押します。ディスプレイに次のように表示（代表例）されます。



63R50410

(9) 風量
(10)**AUTO**表示
(11)**A/C**表示
(12)吹出し口
(13)設定温度

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチ（4）を押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。
- フロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押すか、モード（吹出し口）切替えスイッチを押して「デフロスター／足元」位置へ切り替えてください。

→ **5-33ページ（モード切替えスイッチ）**
→ **5-35ページ（デフロスタースイッチ）**

2 温度調節ノブ（2）を操作して希望温度を設定します。設定温度はLO、18℃～32℃、HIの間で、0.5℃間隔で設定できます。

- 25℃を基準に希望の温度を設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

3 作動を停止するときは、OFFスイッチ（5）を押します。

アドバイス

- エンジンを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO作動中に、ファン（風量）調節ノブ（1）、モード（吹出し口）切替えスイッチ（8）のいずれかを操作すると、操作したノブやスイッチの機能が優先されて**AUTO**表示が消えます。ただし、操作したノブやスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO作動中にデフロスタースイッチ（7）を押すと、**AUTO** 表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- 外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さないことがあります。
- エンジンスイッチが ON のときに、ディスプレイの **AUTO** 表示が点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- ヘッドアップディスプレイ装備車は、オートエアコンの情報を一定時間ディスプレイに表示することができます。
  → **4-123 ページ（ヘッドアップディスプレイ）**

■ 手動で使うとき

好みにあわせてスイッチを操作してください。

- AUTO 作動中でも、操作したスイッチの機能が優先され、操作したスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチ（6）を押します。
- 止めるときは、OFFスイッチ（5）を押します。

■ アイドリングストップ中

エンジン自動停止中は送風に切り替わり、エコクールで蓄えた冷気を車内に送ります。

→ **4-146ページ（エコクール）**

- 設定を切り替えることで、アイドリングストップ中の空調を変更できます。
  → **3-115ページ（セッティングモード（タコメーターなし車））**
  → **3-130ページ（セッティングモード（タコメーター装備車））**

アドバイス

- 走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。
- エンジン自動停止により、冷暖房性能が十分でなくなった場合は、アイドリングストップシステム OFF スイッチを押して、アイドリングストップシステムを停止状態にしてください。（エンジンが自動再始動し、冷暖房性能が復帰します。）

→ **4-145 ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）**

- エンジン自動停止中にフロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押してください。（デフロスタースイッチを押すとエンジンが自動再始動し、デフロスターが作動します。）

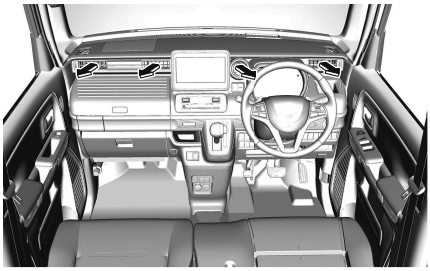
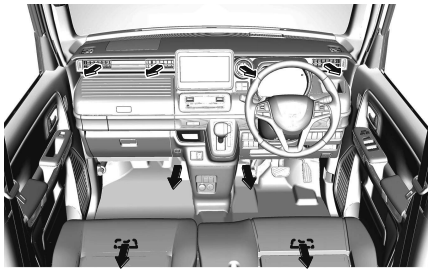
→ **4-137 ページ（アイドリングストップシステム）**
→ **5-35ページ（デフロスタースイッチ）**

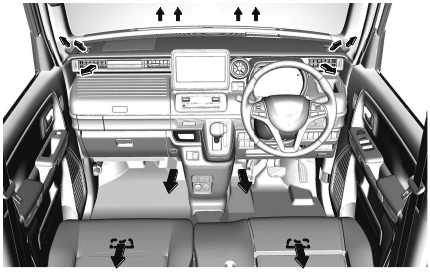
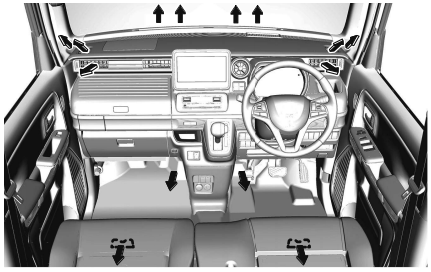
各スイッチ、ダイヤルの使いかた

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ モード（吹出し口）切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
表示		
吹出し口	 79RB028	 79RB029

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示		
吹出し口	 79RB030	 79RB031

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わります。内気循環のときに、スイッチの上の表示灯が点灯します。

表示	状態
(消灯) (外気導入)	外気を導入しています。 ●通常はこの位置でお使いください。
(点灯) (内気循環)	外気をしゃ断しています。 ●トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切り替えてください。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

■ オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ディスプレイに **AUTO A/C** が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え

内気循環／外気導入の自動制御

手動で内気循環を選択しているときは、オートスイッチを押しても内気循環はそのままで自動制御されません。内気循環／外気導入の切替えを自動制御にもどすには、次のようにします。

1 内外気切替えスイッチ（3）、またはデフロスタースイッチ（7）を押して外気導入に切り替えます。

2 オートスイッチを押します。

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹出し口切替え表示が のときに、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ 温度調節ノブ

温度調節ノブを操作すると、LO、18℃～32℃、HIの間で設定温度を変更できます。設定温度はディスプレイに表示されます。

- ノブを18℃から押し下げると、ディスプレイに **LO** が表示され、最大冷房になります。また、ノブを32℃から押し上げると、ディスプレイに **HI** が表示され、最大暖房になります。

アドバイス

LO または **HI** が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

■ ファン（風量）調節ノブ

ファン（風量）調節ノブを操作すると、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- 風量を大きくするときは上方向、風量を小さくするときは下方向へ操作します。
- 連続調節するときは、操作し続けます。
- ファンを停止するときは、OFF スイッチ（5）を押します。

■ エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。
- エアコンの作動中はスイッチの上の表示灯が点灯します。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

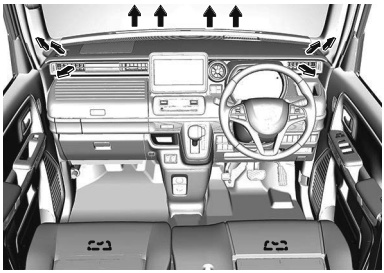
- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温度が0℃近くまで下がっているとき外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

■ デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切り替わります。同時にスイッチの上の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切り替わります。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン（風量）調節ノブを操作して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示	
吹出し口	

79RB031

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 内気循環に切り替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチの上の表示灯は吹出し口がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

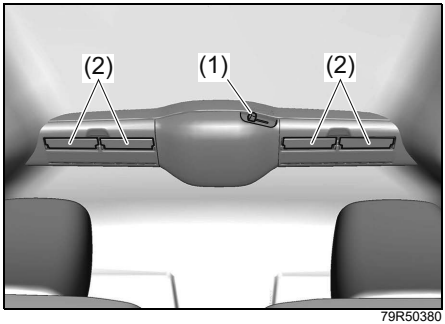
■ OFFスイッチ

OFF スイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

スリムサーキュレーター

タイプ別装備

後席の乗員へ風を送る装置です。

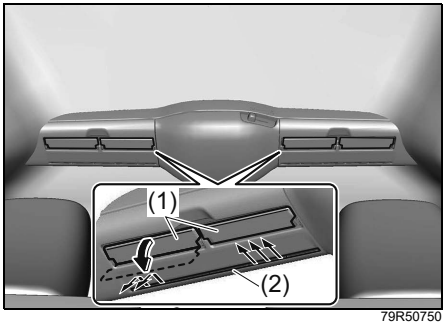


79R50380

(1) 風量調整ノブ　(2) フラップ

風向きの調整

フラップ（1）を上下に動かすことにより、吹出し口（2）からの風向きが調整できます。



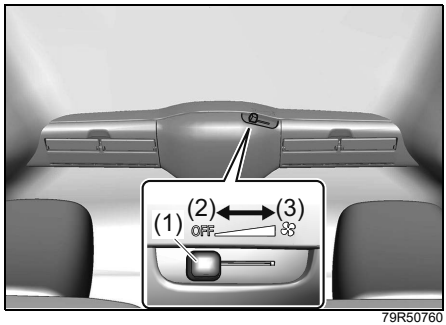
79R50750

(1) フラップ　(2) 吹出し口

風量の調整

風量調整ノブ（1）を動かすと、風量が調整できます。

- 風量調整ノブ（1）を右へ動かすと、風量が強くなります。
- 風量調整ノブ（1）を左へ動かすと、風量が弱くなります。

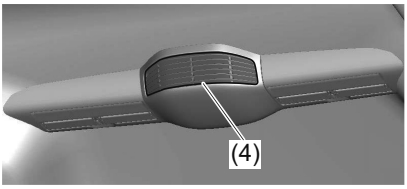


79R50760

(1) 風量調整ノブ
(2) 弱　　(3) 強

注記

空気の吸い込み口（4）にものなどを入れないでください。スリムサーキュレーター故障の原因となります。



79R50780

アドバイス

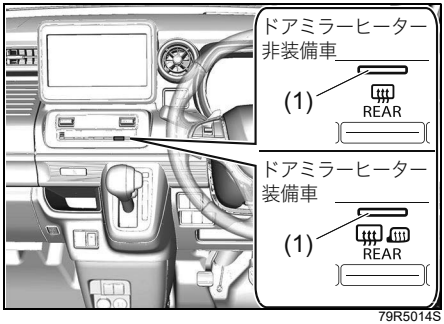
バッテリーの状態や車両の走行状況（モーターアシストや減速エネルギー回生など）によっては、スリムサーキュレーターの風量が変化する場合がありますが、異常ではありません。

リヤデフォッガースイッチ

エンジン回転中、またはアイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中に使用でき、バックドアガラスの内側のくもりを取ります。
ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。

→ **4-137ページ**
（アイドリングストップシステム）
→ **3-40ページ**
（ドアミラーヒータースイッチ）

- スイッチを押すとバックドアガラスが暖められて、スイッチ内、もしくはスイッチの上の表示灯(1)が点灯します。もう一度押すとスイッチが切れます。
- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。



79R5014S

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

注 記

●鉛バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりする目的で使用しないでください。
●バックドアガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

アドバイス

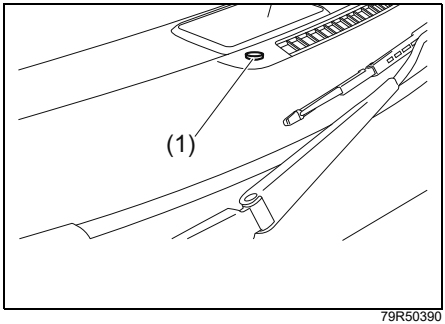
エンジン停止中はスイッチが入りません。

エアコンの上手な使いかた

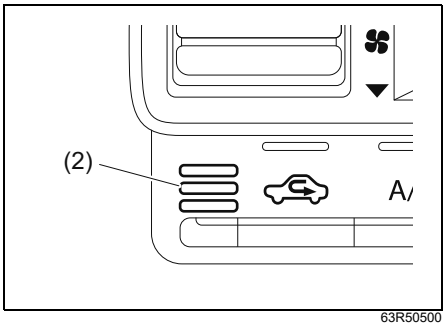
温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー（1）、室温センサー（2）、外気温センサーなどによって周囲の状況を感知し、自動制御しています。

インパネ運転席側



79R50390



63R50500

アドバイス

日射センサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないでください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充填するときは

エアコンガスは、必ず冷媒HFC134a（R134a）を使用してください。

- エアコンガスを充填するときは、マツダ販売店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、マツダ販売店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを清掃、交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

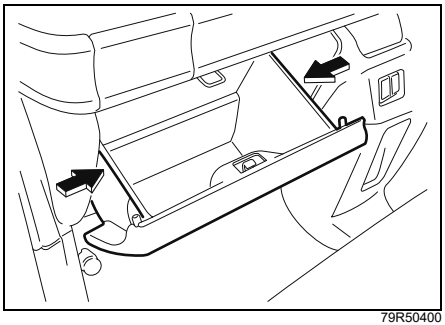
地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	**5,000 km**ごと、または**6か月**ごと	車検ごと
上記以外の地域	**10,000 km**ごと、または**12か月**ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、マツダ販売店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはマツダ販売店でご購入ください。

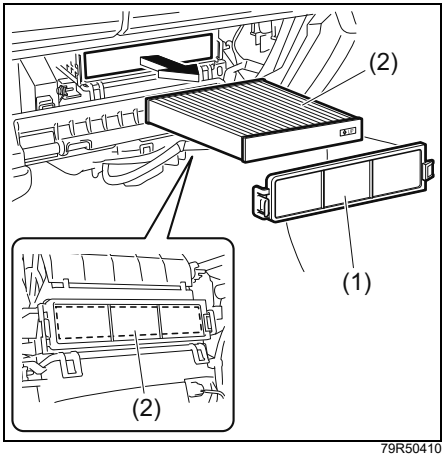
■ エアフィルターの取り外し

1 グローブボックスの側面を矢印の方向に押し込み、取り外します。



79R50400

2 ホルダー（1）を外し、エアフィルター（2）を取り出します。

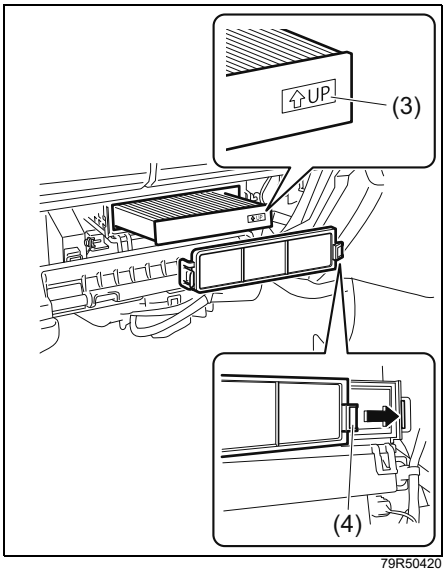


79R50410

■ エアフィルターの取り付け

1 エアフィルターは、取り付け方向マーク（3）の矢印を上向きにして挿入します。

2 ホルダー右側のつめ（4）をケース側にひっかけます。



79R50420

アンテナ

アドバイス

アンテナで受信できるラジオやテレビの電波は使用環境により変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

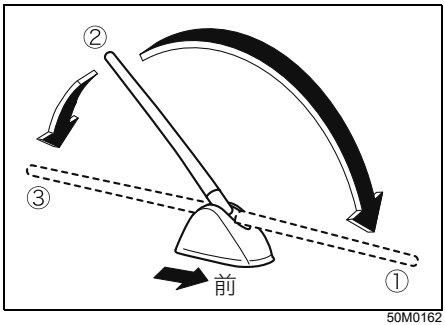
ルーフアンテナ

車両後部の運転席側にあります。

■ アンテナの調節

アンテナの位置は 3 段階（①、②、③）に調節できます。

- 調節は手でアンテナを動かして行ないます。
- ラジオまたはテレビを視聴するときは、アンテナを②の位置に固定してください。
  アンテナが①または③の位置に倒れていると、ラジオやテレビの受信が正常にできないことがあります。



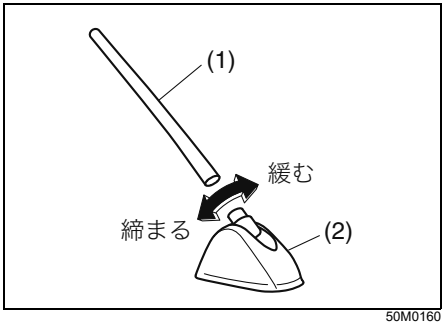
50M0162

注 記

車庫の天井などにアンテナが当たるときは、手でアンテナを①または③の位置に倒してください。

■ アンテナの脱着

- 取り外すときはアンテナ（1）を反時計方向にまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部（2）にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



50M0160

注 記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。
●自動洗車機にかけるとき
●ボディカバーをかけるとき
●降雪時に長時間駐車するとき

ガラスアンテナ

タイプ別装備

リヤクォーターガラスに内蔵されています。

注 記

●アンテナ線部に次のようなものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
・金属が含まれるウインドーフィルム
・そのほかの金属物（マツダ純正用品を除く）

●リヤクォーターガラスの室内側をふくときは、アンテナ線を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布でアンテナ線に沿ってふいてください。

オーディオ機能について

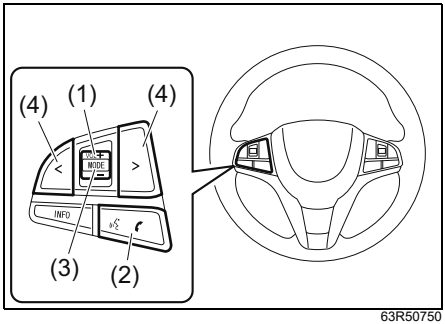
この車にはオーディオは標準装備されていません。
別売りのオーディオについては、マツダ販売店にお問い合わせください。

ステアリング オーディオスイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、手元でナビゲーションまたはオーディオの操作ができます。

- お使いのナビゲーションまたはオーディオによっては、ステアリングオーディオスイッチの機能が、実際の機能と異なることがあります。付属の取扱説明書をお読みください。



63R50750

(1) 音量調節スイッチ
(2) ハンズフリー/音声認識スイッチ
(3) モードスイッチ
(4) 選局(選曲)スイッチ

音量調節スイッチ（1）

音量が調節できます。

- 大きくするときは＋側へ押し上げます
- 小さくするときはー側へ押し下げます
- 連続調節するときは、＋またはー側へ長押ししします

ハンズフリー/音声認識スイッチ（2）

次の機能の操作ができます。

■ ハンズフリー機能

ハンズフリー機能がある機器で使用できます。機能を使用するにはお使いの機器にあわせた設定が必要となります。付属の取扱説明書をお読みください。

■ 音声認識機能

音声認識機能がある機器で使用できます。機能を使用するにはお使いの機器にあわせた設定が必要となります。お使いのナビゲーションまたはオーディオに付属の取扱説明書をお読みください。

モードスイッチ（3）

スイッチを押すたびに、順番にオーディオ（ラジオやCDなど）のモードを切り替えます。

ご使用のナビゲーションまたはオーディオによっては、機器本体の電源が切れているときにスイッチを押すと、電源を入れることもできます。

選局（選曲）スイッチ（4）

スイッチを押すたびに、使用中のモードにあわせて、放送局の選局や再生する曲の選曲などができます。

MEMO

6. お車との上手なつきあいかた

● **お手入れ**
外装のお手入れ ····· 6-2
内装のお手入れ ····· 6-5
タイヤの交換 ····· 6-8
携帯リモコンの電池交換 ····· 6-9
ワイパーブレードラバーの交換 ····· 6-11

● **寒冷時の取扱い**
冬期に入る前の準備 ····· 6-15
出発の前に ····· 6-16
雪道を走行するとき ····· 6-18
駐車するとき ····· 6-19
タイヤチェーンを装着するとき ····· 6-20

外装のお手入れ

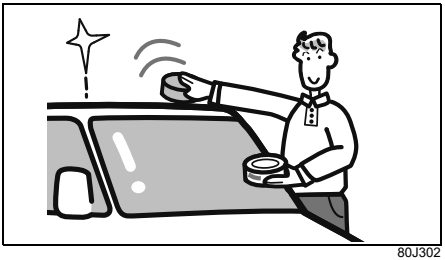
塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。

アドバイス

ワックスがけのときに塗装されていない樹脂部品にワックスを使わないでください。ワックスが付着すると白くなったりムラになったりするおそれがあります。



80J302

- 飛び石の傷や、ひっかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注記

塗装面の傷を補修するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **パワースライドドア装備車の場合、洗車をするときは、安全のためパワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。**
  → 3-23ページ（パワースライドドアメインスイッチ）
- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  → 2-20ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）

注 記

- **エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。**
- **洗車やワックスがけをするとき、車体に寄りかかったり強い力で押したりしないでください。**
  車体が変形するおそれがあります。



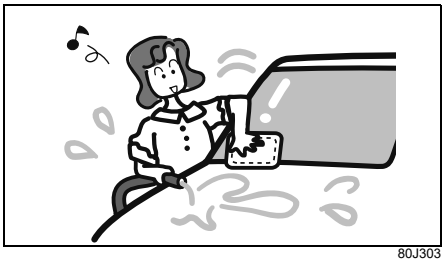
84S09240

手洗い洗車をするときは

1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。

2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

3 やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注 記

- **ドアミラーを格納し、アンテナを収納または取り外してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。**
- **ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。**
- **自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。**

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

⚠警告

高圧洗浄機を使うときは、全方位モニター（タイプ別装備）の各カメラ周辺部にノズルを向けないでください。カメラに水が入るなどして、火災や故障、結露などの原因となります。

注 記

- **洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。**
- **洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。**

フロントガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

注 記

フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士が当たって傷つきの原因となります。

アルミホイール（タイプ別装備）の手入れ

6-3ページの「**手洗い洗車をするときは**」をお読みください。

注 記

- **酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびセンターキャップの損傷の原因となります。**
- **硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。**

全方位モニター（タイプ別装備）のカメラの手入れ

- レンズ部分は水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときは中性洗剤をご使用ください。
- ワックスをかけるときは、カメラに付着しないよう気をつけてください。

→ **4-121ページ（全方位モニターの映像の映りが悪い）**

⚠警告

- **高圧洗浄機を使うときは、カメラ周辺部にノズルを向けないでください。カメラに水が入るなどして、火災や故障、結露などの原因となります。**
- **カメラは精密機械ですので、強い衝撃をあたえないでください。また、カメラに付着して固まった泥や凍り付いた雪などは、棒などで突くなどして落とさないでください。破損して火災や故障の原因となります。**

注 記

●カメラをふくときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。レンズが損傷する原因となります。
●カメラのレンズは傷がつきにくいようハードコート仕様になっていますが、傷つきには十分気をつけてください。洗車ブラシなどは使用しないください。全方位モニターの映像が見づらくなる場合があります。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠警告

●車内に水などをかけないでください。ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
●助手席下（シートアンダーボックス下）には、リチウムイオンバッテリーがあります。バッテリーを水などで濡らさないでください。火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあります。

注 記

●次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
  • ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤
  • 酸性、アルカリ性の洗剤
  • 漂白剤や染料

●エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが付着した場合、故障の原因となるおそれがあります。
●色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。

2 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。

3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

本革の手入れ

タイプ別装備

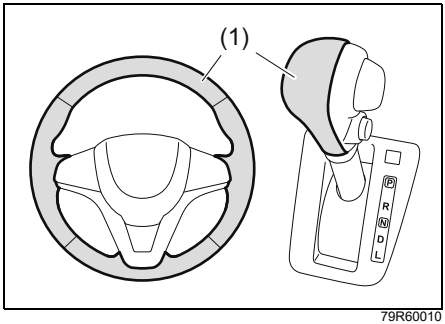
1 ウール用中性洗剤を次の比率でうすめたものをやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
ウール用中性洗剤：水＝1：20

2 真水を含ませたやわらかい布を固くしぼり、残った洗剤分をふき取ります。

注 記

洗剤のふき残しがあると、本革部分を傷めるおそれがあります。

3 乾いたやわらかい布で乾ぶきし、風通しの良い日陰で乾燥させます。



79R60010

(1)本革部分

注 記

化粧液やハンドクリームなどに含まれるオレイン酸は変色、しみの原因となります。万一、ハンドクリームなどがハンドルの本革部分に付着した際は、すみやかにティッシュペーパーや、やわらかい布でふき取り、前記手順でお手入れをしてください。

アドバイス

- 外観品質を長く保つため、年に2回程度は定期的にお手入れをしてください。
- 水が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。ぬれたままにしておくと、硬くなって縮むことがあります。
- 炎天下に駐車するときは、日よけなどを使用してください。直射日光に長時間さらすと、色あせや縮みの原因となります。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、皮革本来の傷などがあっても、皮革としての物性に影響はありません。

フロントガラスの室内側の手入れ

ステレオカメラ装備車の場合、フロントガラスの内側を清掃するときは、ステレオカメラのレンズ部にほこりやガラスクリーナーなどが付着しないように保護してください。

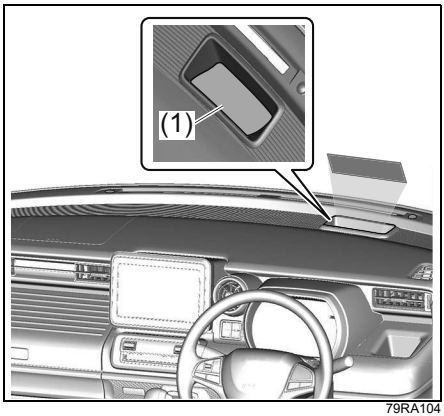
リヤクォーターガラス／バックドアガラスの室内側の手入れ

注 記

アンテナ線や熱線、端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布でアンテナ線または熱線に沿ってふいてください。

ヘッドアップディスプレイ（タイプ別装備）の手入れ

ヘッドアップディスプレイ開口部内の防塵シート（1）は、表面がコーティングされています。お手入れをするときは、メガネふきのようなやわらかい布で汚れをふき取ってください。



79RA104

注 記

- **ヘッドアップディスプレイが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがありますので、硬い布や洗剤などは使用しないでください。**
- **薬品などがヘッドアップディスプレイに付着した場合は、すぐにふき取ってください。防塵シートが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがあります。**

アドバイス

防塵シートは、エアーを吹きつけて清掃することをおすすめします。

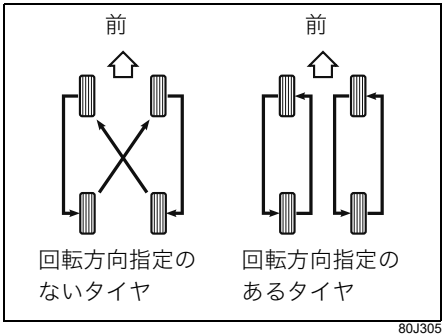
タイヤの交換

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、応急用スペアタイヤ（別売り）などを使用して 1 輪ずつ交換します。
  → **7-21ページ（ジャッキアップ）**

- タイヤパンク応急修理セット装備車には、応急用スペアタイヤが装備されていないため、マツダ販売店にご相談ください。



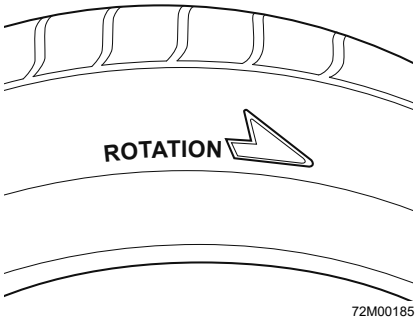
80J305

⚠注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、側面に図のような “**ROTATION**” の文字と、回転方向を示す矢印が刻印されています。

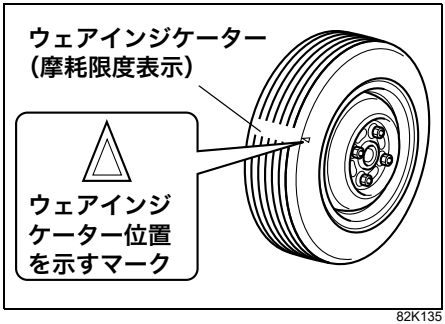


72M00185

- 上図のタイヤは代表例です。

タイヤ交換するときは

- タイヤの指定サイズと指定空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが 1.6mm 浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、ほかのタイヤと交換してください。



82K135

⚠警告

指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)

- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **DSC&TCS**
  - **デュアルカメラブレーキサポート**
  - **誤発進抑制機能**
  - **アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）（タイプ別装備）**
  - **後退時ブレーキサポート**
  - **後方誤発進抑制機能**

- **4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

携帯リモコンの電池交換

⚠警告

電池が小さいため、お子さまが誤って飲み込むと、のどなどに詰まらせて重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながる可能性があります。電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

注 記

- **故障を防ぐため、次のことをお守りください。**
  - **濡れた手で電池交換をしない**
  - **電池以外の端子や電子部品に触れない**
  - **端子を曲げない**
  - **油や異物を付着させない**

- **お客様ご自身で電池を交換される場合は、静電気により携帯リモコンが破損するおそれがあるため、ほかの金属物に触れて身体や衣類の静電気を除去してください。**

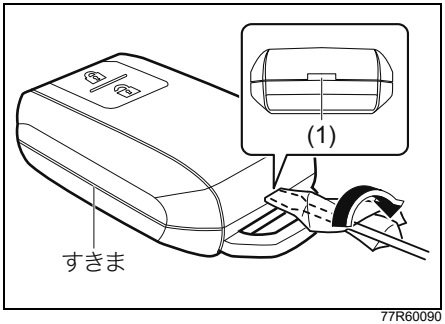
アドバイス

- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、マツダ販売店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、製造年をお確かめのうえマツダ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

使用電池	リチウム電池CR2032

1 携帯リモコンのケースを分割します。

- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。リモコンの側面左側にある溝（1）へ差し込み、ケースを分割します。このとき、ケースのあわせ部分のすきまへつめを差し込むと、分割しやすくなります。
- 下図の携帯リモコンは代表例です。お車のタイプにより異なります。



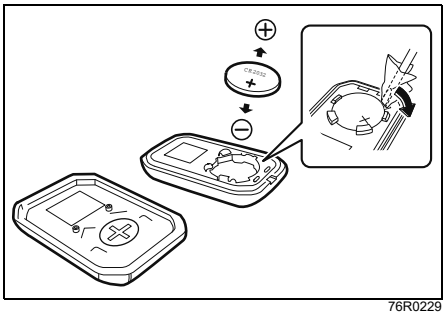
77R60090

注 記

ドライバーでケースを分割するときに、内部ユニットを破損するおそれがあります。ケースを分割するときは注意してください。

2 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。
- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



76R0229

3 ケースを組み付けます。

- ケースのあわせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。

注 記

ケースの組み付けはあわせ部分のすきまが均等になるように、確実にはめ込んでください。すきまから水などが進入することにより、携帯リモコンが正常に動作しなくなるおそれがあります。

4 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

■ 携帯リモコン電池消耗警告灯のリセットのしかた

電池交換前に携帯リモコン電池消耗警告灯が表示されていた場合は、電池交換後に次の操作を行なって警告灯をリセットしてください。

- キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を2回以上繰り返す
  → **3-10ページ（キーレスエントリー）**
  → **3-15ページ（携帯リモコン電池消耗警告灯）**

アドバイス

所持している予備の携帯リモコンの電池が正常な場合、予備の携帯リモコンで上記の操作を行なっても警告灯をリセットできます。

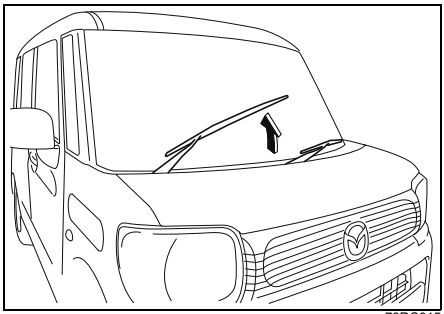
ワイパーブレードラバーの交換

注 記

- **ワイパーブレード、ブレードラバーはマツダ純正品の使用をおすすめします。マツダ純正品以外のものを使用すると適切に取り付けできないおそれがあります。**
- **ワイパーブレードラバーが傷んでいると、ふき取りがきれいにできなかったり、ガラスに傷がついたりするおそれがあります。定期的にワイパーブレードラバーを点検し、傷んでいる場合は交換してください。**
- **ワイパーブレード、ブレードラバーを交換するときはワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないようにしてください。ガラスに当たるとガラスが破損したり傷がついたりするおそれがあります。**

フロントワイパー

1 ワイパーアームを起こします。

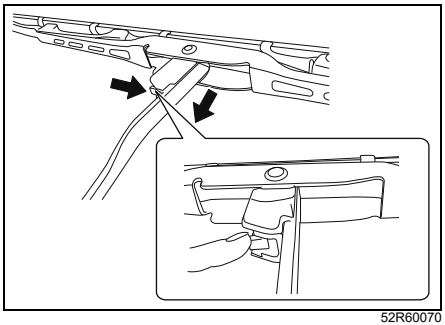


79RC015

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

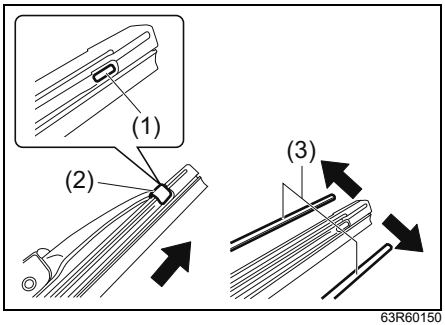
6

2 脱着用のつめを押しながらワイパーブレードをワイパーアームから外します。



52R60070

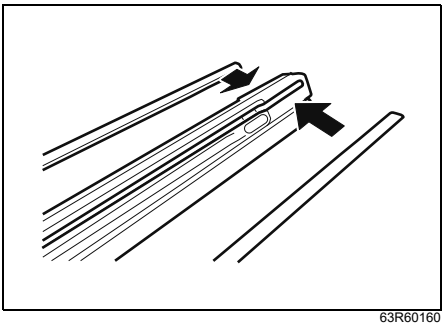
3 ブレードラバーのストッパー（1）がつめから外れるまで引っ張り出し、そのままブレードから引き抜きます。ブレードラバーからリテーナーを引き抜きます。



63R60150

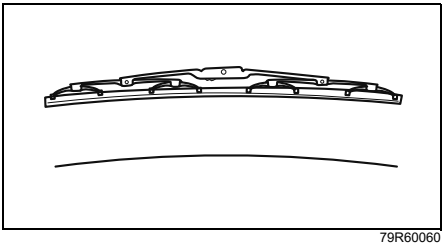
(1) ストッパー　(2) つめ
(3) リテーナー

4 新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。



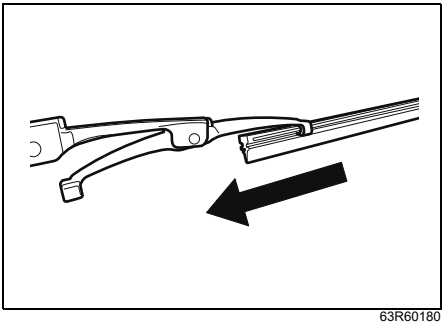
63R60160

- リテーナーは、反りの向きを次の図のようにあわせて取り付けてください。



79R60060

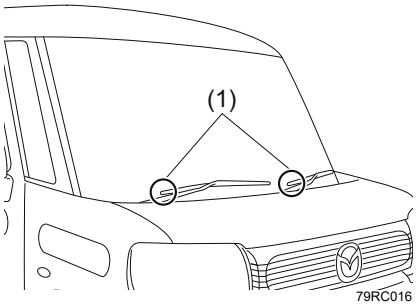
5 ブレードラバーをワイパーブレードに差し込みます。ブレードラバーを取り付けるときは、ストッパーのない方からワイパーブレードに差し込みます。



63R60180

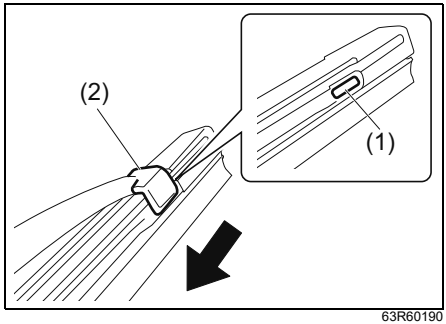
注 記

ブレードラバーは、ストッパー（1）のある側が運転席側になるように取り付けてください。ワイパーの作動中にブレードラバーがずれるおそれがあります。



- **上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。**

6 ワイパーブレードのつめをストッパーに押し込んでブレードラバーを確実に固定します。



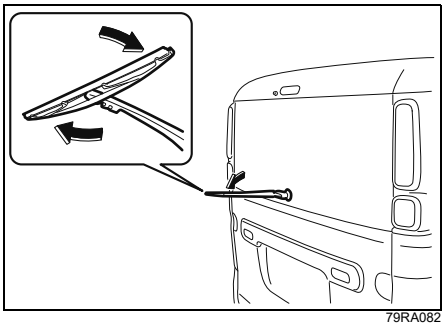
(1) ストッパー　　(2) つめ

7 ワイパーアームにワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。

8 ワイパーアームをもどします。

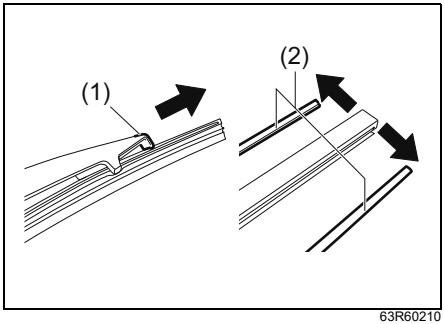
リヤワイパー

1 ワイパーアームを起こします。起こしたあと、ワイパーブレードを回転させてワイパーブレードをワイパーアームから外します。



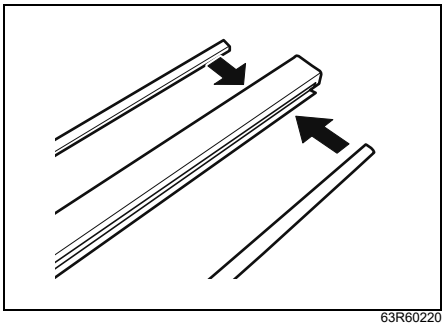
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

2 ブレードラバーの先端を引っ張りワイパーブレードのストッパーから外し、そのまま引き抜きます。取り外したブレードラバーからリテーナーを取り外します。



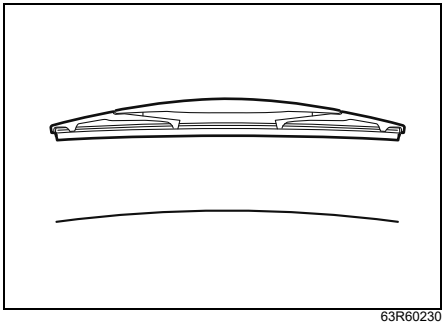
(1) ストッパー　　(2) リテーナー

3 新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。



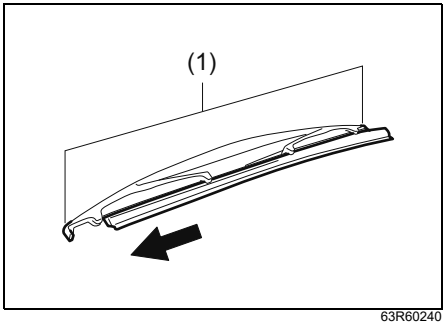
63R60220

- リテーナーは、反りの向きを次の図のようにあわせて取り付けてください。



63R60230

4 ブレードラバーをワイパーブレードに差し込みます。ブレードラバーの両端がワイパーブレードの両端のストッパー(1) 内に収まるように確実に取り付けます。



63R60240

5 ワイパーアームにワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。そのあと、ワイパーアームをもどします。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈マツダ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−50℃

鉛バッテリー

鉛バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-4ページ**
（鉛バッテリーの液面を点検する）

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、マツダ販売店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠注意

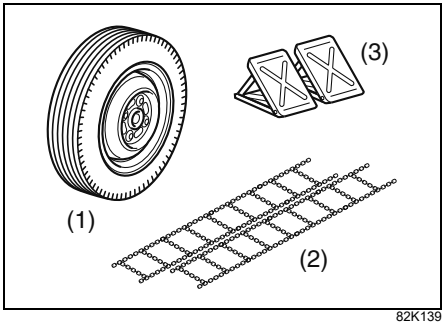
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

- 雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。
- マツダ純正品のスノーブレードについては、マツダ販売店にご相談ください。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



82K139

(1) 冬用タイヤ(市販品)
(2) タイヤチェーン(別売り)
(3) 輪止め(市販品)

出発の前に

屋根に積もった雪

出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。

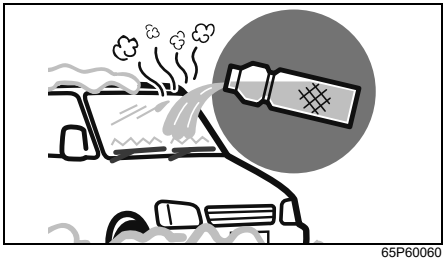
- ステレオカメラ装備車の場合、フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルカメラブレーキサポートが正常に作動しない場合があります。
  → **4-43 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））**



80J308

ワイパーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。

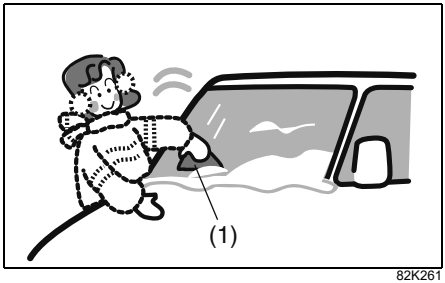


65P60060

ガラス面の雪や霜

プラスチックの板（1）を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。

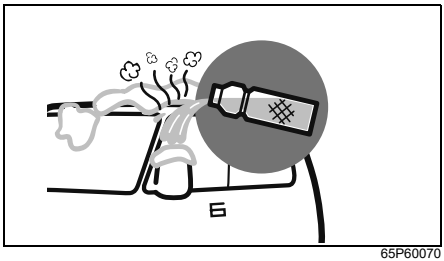
- ステレオカメラ装備車の場合、フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルカメラブレーキサポートが正常に作動しない場合があります。
  → **4-43 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））**



82K261

ドアミラーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障するおそれがあります。



65P60070

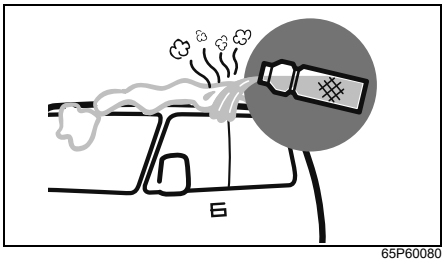
注 記

●ドアミラー格納スイッチを使用するときは、ドアミラーが手で動かせることを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 3-37ページ（ドアミラー格納スイッチ）

●リモート格納ミラー（タイプ別装備）の場合、ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 3-38ページ（リモート格納ミラー）

ドアの凍結

ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



65P60080

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



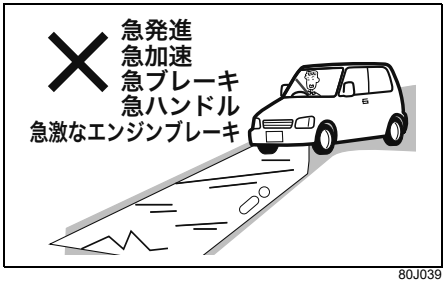
80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



80J039

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

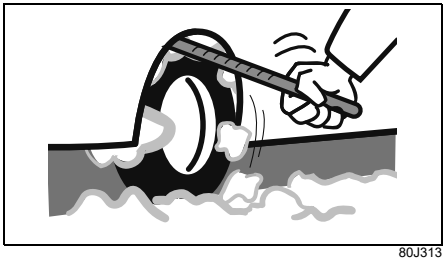
雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
  → **6-8ページ（タイヤ交換するときは）**
  → **6-20ページ（タイヤチェーンを装着するとき）**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

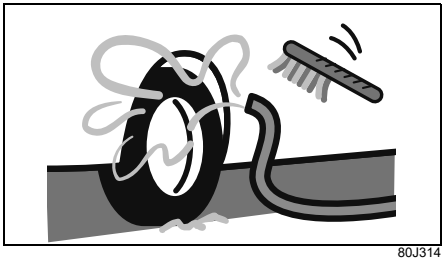
パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときはパーキングブレーキをかけず、セレクトレバーを P に入れ、輪止め（市販品）をします。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

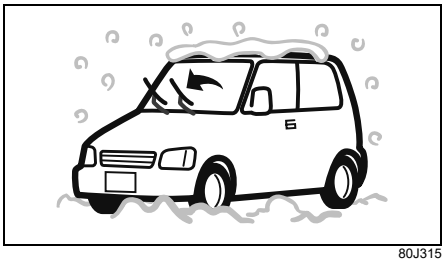


80J314

屋外に駐車するときは

注 記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- ルーフアンテナの場合、降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
  → 5-41ページ（アンテナの脱着）
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。
- フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士が当たって傷つきの原因となります。

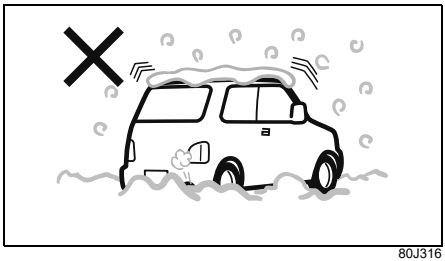


80J315

排気管のまわりが雪で覆われたときは

⚠警告

排気管のまわりが雪で覆われたままエンジンを回転させないでください。
排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したマツダ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、マツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

- 適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

⚠注意

- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h 以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。**
- **タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **DSC&TCS**
  - **デュアルカメラブレーキサポート**
  - **誤発進抑制機能**
  - **アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）（タイプ別装備）**
  - **後退時ブレーキサポート**
  - **後方誤発進抑制機能**

注 記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。後輪には装着しないでください。

■ 応急用スペアタイヤ（別売り）には装着できません

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてから、タイヤチェーンを前輪に装着します。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-19 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

■ フルホイールキャップ（タイプ別装備）を外してから装着

フルホイールキャップの傷つき防止のため、キャップを外してからタイヤチェーンを装着します。キャップの外しかたは**7-20ページ**をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

MEMO

7. 万一のとき

● **トラブルが起きたときの対処方法**

故障したときは ····· 7-2
発炎筒 ····· 7-4
ロープけん引 ····· 7-4
水没したときは ····· 7-8
万一、事故が起きたときは ····· 7-9

● **パンク**

工具、ジャッキ、
　タイヤパンク応急修理セットの収納場所 ····· 7-9
パンクしたときは ····· 7-10
タイヤパンク応急修理セット ····· 7-10
応急用スペアタイヤ（別売り）の取扱い ····· 7-17
タイヤ交換の準備 ····· 7-19
ジャッキアップ ····· 7-21
タイヤの取り付け・取り外し ····· 7-25
タイヤを交換したあとは ····· 7-27

● **バッテリーあがり**

鉛バッテリーあがりとは ····· 7-28
鉛バッテリーあがりのときは ····· 7-28
バッテリーあがりを防ぐためには ····· 7-30

● **オーバーヒート**

オーバーヒートとは ····· 7-30
オーバーヒートしたときは ····· 7-31

● **ヒューズ切れ**

ヒューズが切れたときは ····· 7-32
ヒューズの点検と交換 ····· 7-36

● **電球切れ**

電球の点検 ····· 7-37
電球を交換するときは ····· 7-37

故障したときは

故障したときの連絡先は

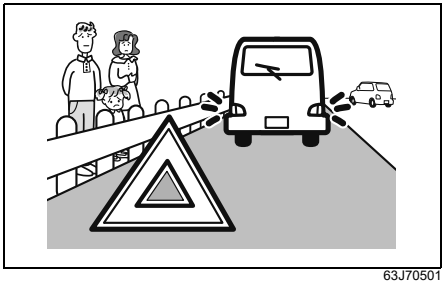
お買い求めのマツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

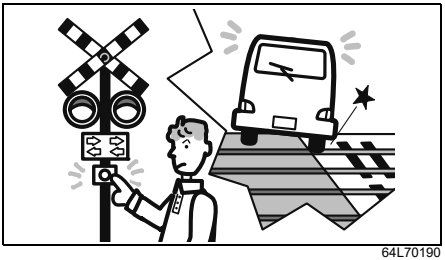


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

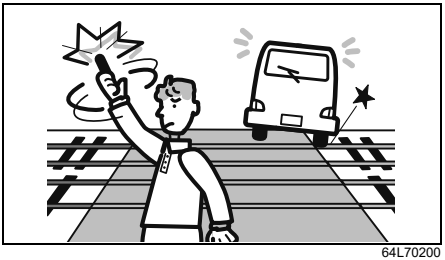
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、セレクトレバーを N に入れます。



64L70210

アドバイス

- エンジンスイッチを START の位置で保持してスターターをまわすことにより、車を動かすことはできません。
- エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、**4-16ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

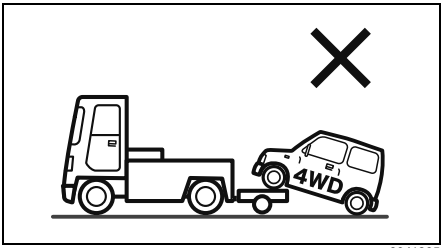
けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず４輪を持ち上げてください。2WD車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。
  けん引する前に、マツダ販売店にご連絡ください。

⚠警告

●ステレオカメラ装備車をけん引するときは、デュアルカメラブレーキサポート OFF スイッチを操作して作動停止（OFF）にしてください。急にデュアルカメラブレーキサポートが作動して思いがけない事故につながるおそれがあります。
→ 4-43ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS））

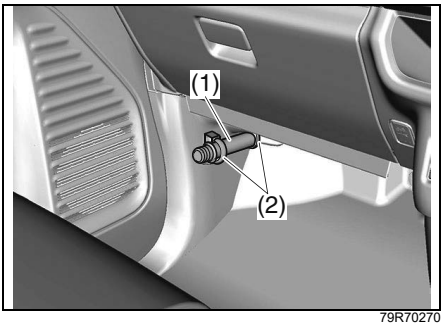
●4WD車は、前輪だけまたは後輪だけを台車に載せた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



80J1265

発炎筒

- 発炎筒（1）は、助手席足元の左側面のホルダー（2）に取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はマツダ販売店でご購入ください。



79R70270

⚠ 警告

●お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
●必ずホルダーに保管してください。
●点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
●トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

ロープけん引

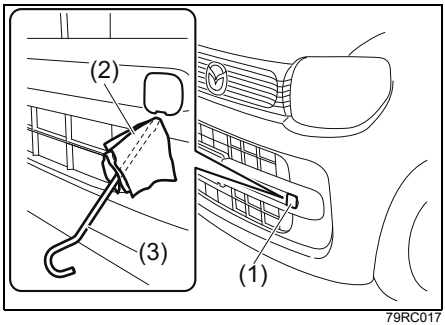
ロープをかける位置は

ロープは、けん引フックにかけます。

1 工具（ジャッキバー、ホイールナットレンチ、けん引フック）を取り出します。
→ **7-9ページ**
（工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所）

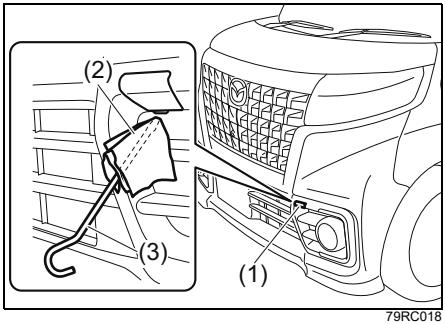
2 けん引フックカバー（1）の切り欠き部に、先端に布（2）をかぶせたジャッキバー（3）を差し込み、カバーをこじって外します。

Aタイプ



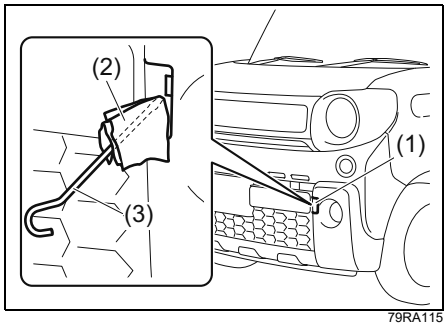
79RC017

Bタイプ



79RC018

Cタイプ



79RA115

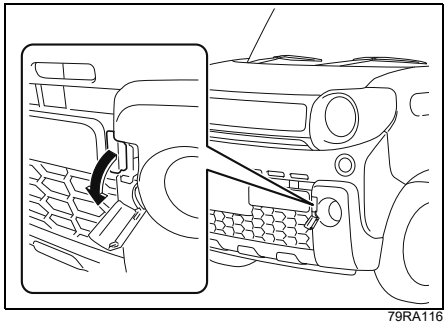
注 記

けん引フックカバーを外すときは、勢いよく引いたり、ねじったりしないでください。落下防止のひもが破損するおそれがあります。

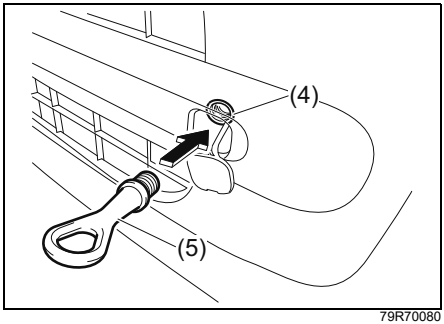
アドバイス

外したけん引フックカバーは、粘着テープなどで固定しておくとけん引中に落ちたり、バンパーに当たったりしにくくなります。

3 Cタイプ は、もう一つのけん引フックカバーを前方に引いて外します。


79RA116

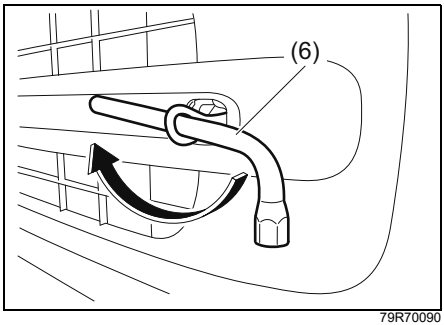
4 けん引フック差し込み口（4）にけん引フック（5）を差し込み、手でまわせなくなる程度まで締め付けます。



79R70080

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

5 ホイールナットレンチ（6）でけん引フックをしっかり締め付けます。



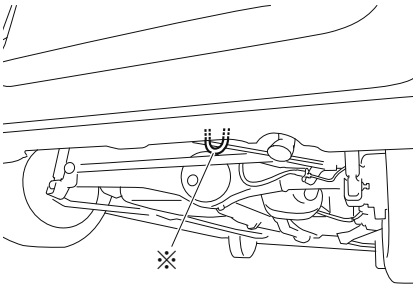
79R70090

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

注 記

●この車で他車をけん引することはできません。

●リヤ側に装備されている ※ 印のフックは、船積み専用フックです。けん引や積載車などで搬送するときには使用しないでください。フックや車体が破損するおそれがあります。

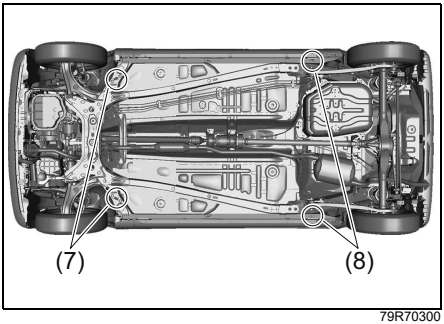


79R70100

●上図のイラストは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ 積載車用の取り付け穴

積載車などに載せて搬送する場合は、前輪後部および後輪前部の取り付け穴にフックをかけます。



79R70300

(7) 前輪後部の取り付け穴(長穴)
(8) 後輪前部の取り付け穴(長穴)

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

ロープでけん引してもらうときは

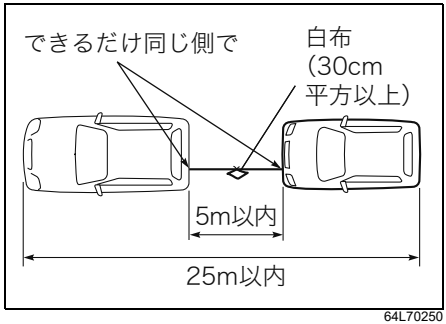
1 けん引フックにロープをかけます。

- ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注 記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

2 ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）を付けます。



64L70250

3 エンジンはかけたままにします。

- エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを LOCK (OFF) 以外の位置にします。
- ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。
- ステレオカメラ装備車は、エンジンスイッチ位置が ON のときは、デュアルカメラブレーキサポートOFFスイッチを操作して作動停止 (OFF) にしてください。

⚠警告

エンジンがかからない車の運転

●エンジンスイッチを LOCK (OFF) の位置にしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。
●ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。
●パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。

⚠注意

故障や鉛バッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 セレクトレバーを N に入れます。

アドバイス

故障や鉛バッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーの位置を P からほかの位置へ動かせないときは、**4-16 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

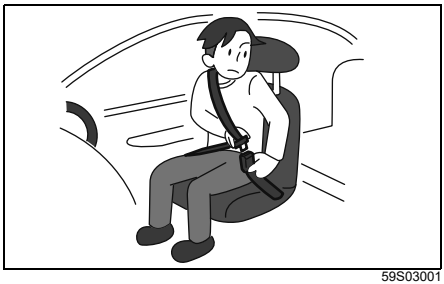
注 記

●けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。
●やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30 km/h以下、走行距離30 km以内にしてください。

水没したときは

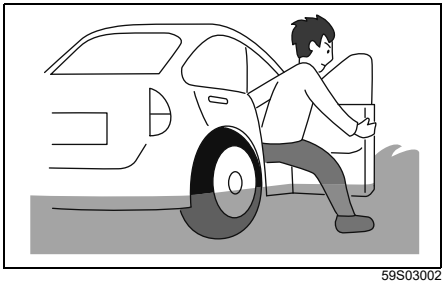
万一、お車が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。



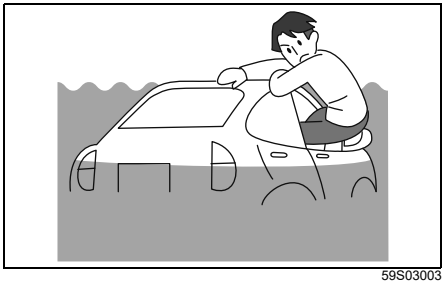
59S03001

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。



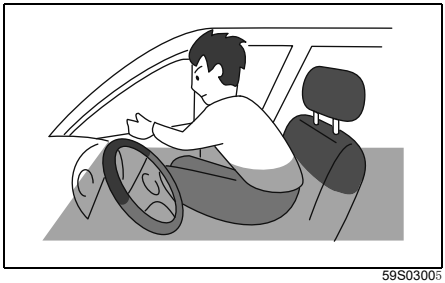
59S03002

- パワーウインドースイッチでウインドーガラスを開けてください。ドアを開けることができない場合、窓から車外に出てください。



59S03003

- パワーウインドースイッチでウインドーガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差が無くなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。



59S03005

⚠警告

●水没した後、時間が経過するとパワーウインドーが動作しなくなります。
●この車のフロントドアガラス・リヤドアガラス・バックドアガラスは緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができますが、フロントガラスは合わせガラスのため緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができません。
●着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

アドバイス

車内外の水位差に応じた方法で対処してください。
- 水位差がある場合は窓から避難してください。
- 水位差がない場合はドアを開けて避難してください。

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

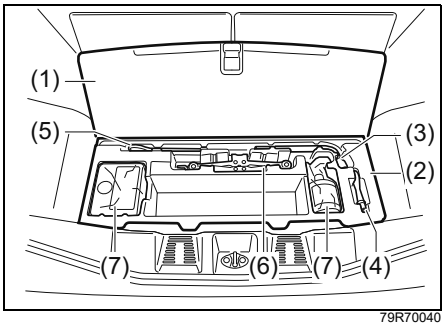
外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所

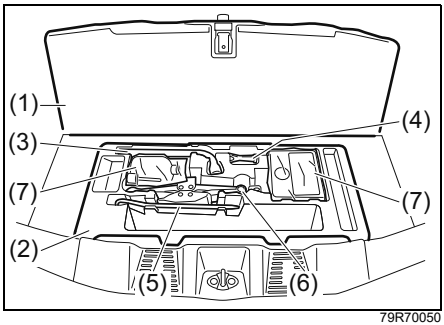
荷室のフロアボード（1）下にあるラゲッジアンダーボックス（2）に収納されています。

2WD車



79R70040

4WD車



79R70050

(3) ホイールナットレンチ
(4) けん引フック
(5) ジャッキバー
(6) ジャッキ
(7) タイヤパンク応急修理セット

- 使用後は、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから収納してください。

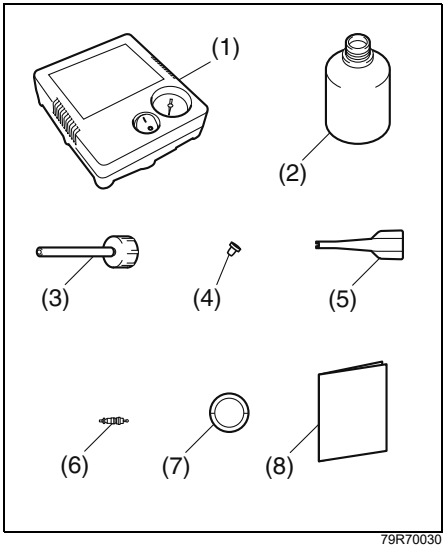
パンクしたときは

お車にはスペアタイヤが搭載されていません。タイヤパンク応急修理セットをお使いください。

- 別売りの応急用スペアタイヤを使用するときは、**7-17 ページ**の「**応急用スペアタイヤ（別売り）の取扱い**」以降の項目をお読みください。

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにマツダ販売店で修理または交換してください。



(1) エアコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル（タイヤ1本分）
(3) 注入ホース
(4) 注入ホースの栓
(5) コア回し
(6) バルブコア（予備）
(7) 速度制限シール（※）
(8) セット付属の取扱説明書

※速度制限シールは、修理剤ボトルの底面に貼付されています。

⚠注意

●応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
●応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
●保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。

注 記

●エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
●エアコンプレッサーはDC12 V専用です。ほかの電源での使用はできません。
●エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。
- **10分以上連続して使用しない**
- **防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする**
- **砂やほこりなどを吸い込ませない**
- **使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する**
- **分解、改造などをしない**
- **強い衝撃や圧力を加えない**

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
  - 期限が切れる前に、新品と交換してください。

- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
  - エンジンスイッチを ACC にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

応急修理の可否判断

■ 次のようなとき、タイヤの応急修理ができます

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

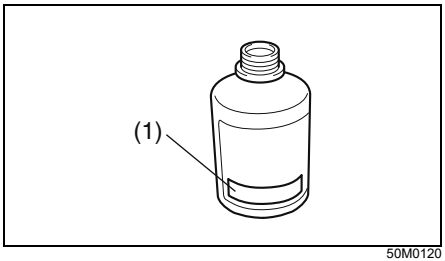
注 記

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

■ 次のような場合は、タイヤの応急修理ができません

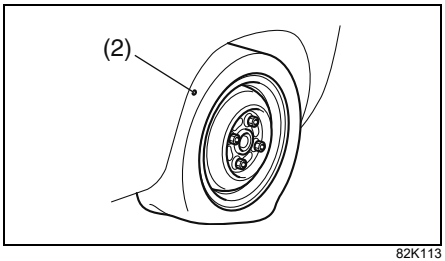
マツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限（1）が切れている（有効期限はボトルのラベルに記載）



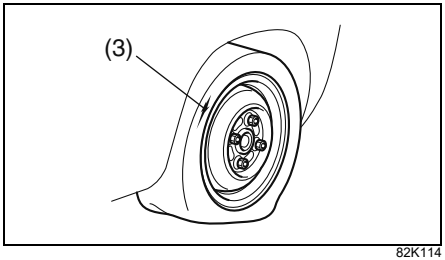
50M0120

- タイヤの接地面に長さ4 mm以上の切り傷や刺し傷（2）がある



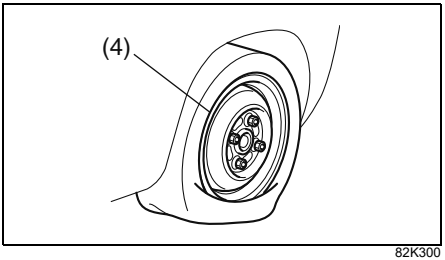
82K113

- タイヤの側面に傷(3)を受けている



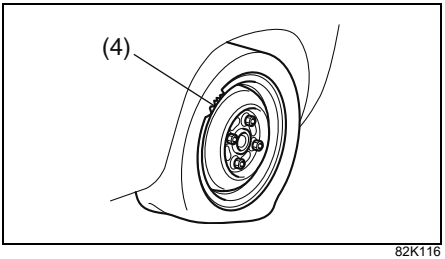
82K114

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム（4）の外側へ完全に外れている



82K300

- ホイールリム（4）が破損または変形している



82K116

- タイヤが2本以上パンクしている（修理剤はタイヤ1本分です）

■ タイヤ応急修理のしかた

1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

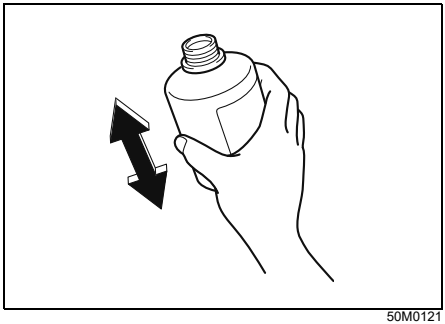
2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- セレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

- パンクしたタイヤの状態を確認します。
  → **7-11ページ**
  （応急修理の可否判断）

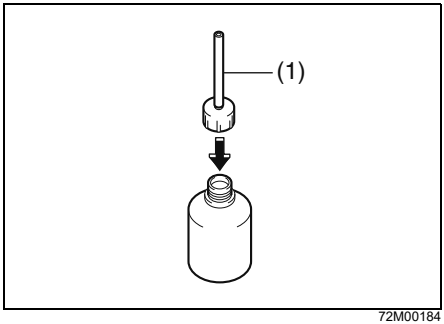
3 同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振ります。



50M0121

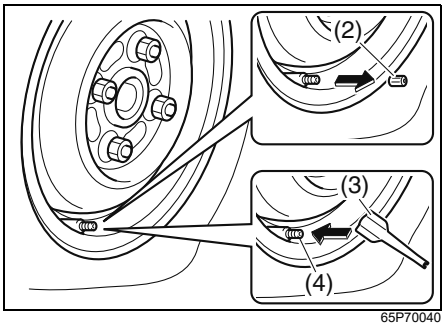
4 注入ホース（1）を修理剤ボトルにしっかりとねじ込みます。

- ボトルの栓が破れます。



72M00184

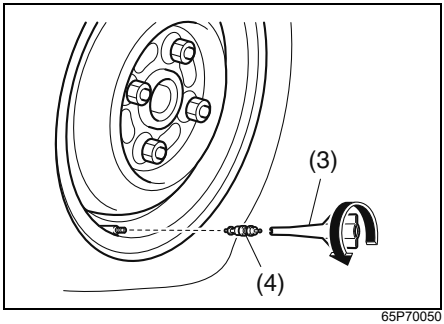
5 タイヤバルブからキャップ（2）を反時計方向にまわして外します。コア回し（3）の羽根状部分の先端などでバルブ内のバルブコア（4）を押し、タイヤに残った空気を完全に抜きます。



65P70040

6 コア回し（3）でバルブコア（4）を反時計方向にまわして外します。

- バルブコアは再使用します。汚れないようにきれいなところへ保管します。



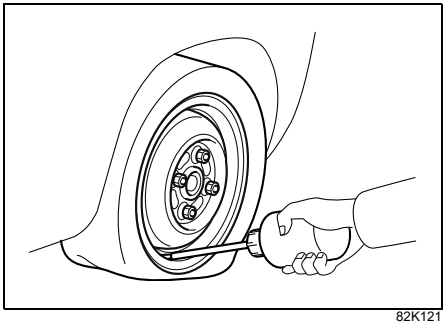
65P70050

⚠注意

バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

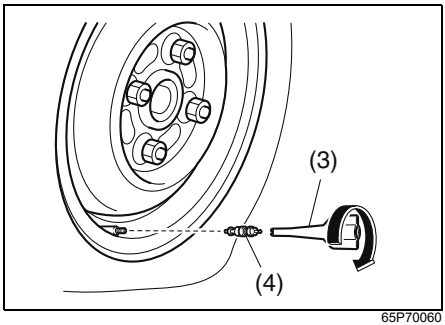
7 注入ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。修理剤ボトルを逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

- 空になったボトルは、修理剤の抜き取りに必要なため、タイヤ交換または修理を依頼するときにマツダ販売店にお渡しください。
- こぼれた修理剤は、ふき取るかそのまま乾燥させてからはがします。


82K121

8 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、コア回し（3）でバルブコア（4）をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

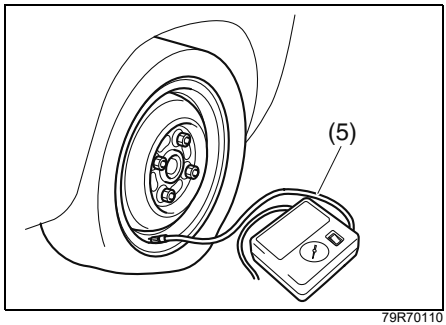
- 外しておいたバルブコアが汚れていたり紛失したりした場合は、タイヤパンク応急修理セット内にある予備のバルブコアをご使用ください。



65P70060

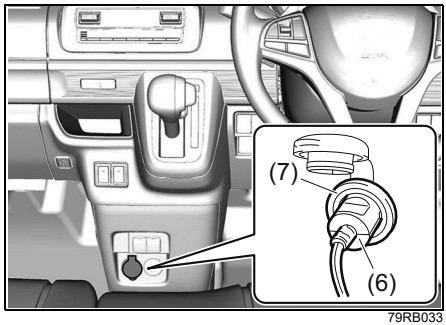
9 エアコンプレッサーの底面から、ホースを取り出します。

10 エアコンプレッサーのホース（5）先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



79R70110

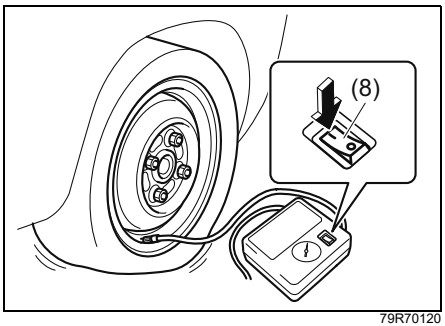
11 エアコンプレッサーのスイッチがOFF になっていることを確認します。電源プラグ（6）をアクセサリーソケット（7）に差し込み、エンジンスイッチを ACC にします。



79RB033

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

12 エアコンプレッサーのスイッチ（8）を ON にし、空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。



79R70120

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すきまがなくなれば空気圧が上がります。）
- 指定空気圧まで昇圧するには、約10分程度が必要です。10分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。マツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、コンプレッサーのホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

⚠注意

●コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。
●タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。

注 記

●コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。
●コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

13 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、コンプレッサーを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

14 約10分間または5 km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130 kPa（1.3 kgf/cm^2）以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

- タイヤ空気圧を測定するときは、コンプレッサーのホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチをONにしたあと、すぐにスイッチをOFFにして空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が130 kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、マツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

15 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80 km/h以下の速度で走行してください。



65J5050

⚠ 警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。
- **SRS エアバッグの収納部。万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。**
- **警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置**

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにマツダ販売店で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はマツダ販売店でご購入ください。

応急用スペアタイヤ（別売り）の取扱い

応急用スペアタイヤ（別売り）は、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。パンクしたタイヤはただちに修理または交換し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べて空気圧が高く、幅が細く、直径がやや小さいため、次の事項を守ってください。

アドバイス

お車のタイプによっては、応急用スペアタイヤが収納できません。
応急用スペアタイヤご購入については、マツダ販売店にご相談ください。

■ 定期的に点検する

⚠ 警告

空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗した状態での使用は、思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用スペアタイヤの指定空気圧は 420 kPa（4.2 kgf/cm^2）です。

■ ほかの車のスペアタイヤを使わない

⚠ 警告

応急用スペアタイヤは、この車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用スペアタイヤをこの車に使用したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 装着するとき

⚠ 警告

2つ以上の応急用スペアタイヤを同時に使用しないでください。

■ 装着したときの走行は

⚠ 警告

応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。やむをえず走行する場合は、80km/h 以下の速度で走行し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。

⚠ 注意

●正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。
- **ABS**
- **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
- **DSC&TCS**
- **デュアルカメラブレーキサポート**
- **誤発進抑制機能**
- **アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）（タイプ別装備）**
- **後退時ブレーキサポート**
- **後方誤発進抑制機能**

注 記

●4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
●応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べ直径がやや小さいため、車高が少し低くなります。突起物などを乗り越えるときは、車体を接触させないように気をつけてください。

■ 前輪には使用しない

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてください。

■ デュアルカメラブレーキサポート装備車での取扱い

応急用スペアタイヤを使用する場合は、デュアルカメラブレーキサポートOFFスイッチを操作して誤発進抑制機能を停止させてください。

■ タイヤチェーンは装着できません

タイヤチェーンを装着した前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてからタイヤチェーンを再装着してください。

■ ラベルは見えるように
応急用スペアタイヤを装着したときはホイールに貼り付けてあるラベルが見えるようにしてください。

■ ラベルは剥がさない
応急用スペアタイヤのホイールに貼り付けてある速度制限ラベルを剥がさないでください。

■ ラベルが剥がれたときは
応急用スペアタイヤのホイールに貼りつけてある速度制限ラベルが剥がれたときは、貼り直してください。

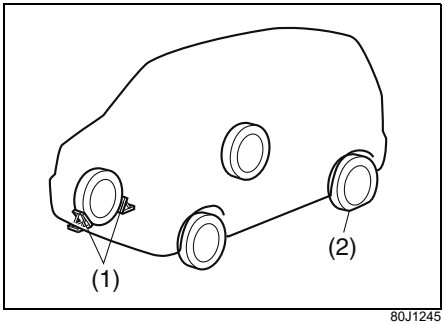
タイヤ交換の準備
別売りの応急用スペアタイヤが準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。
→ **7-10ページ**
（タイヤパンク応急修理セット）

1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。
- セレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

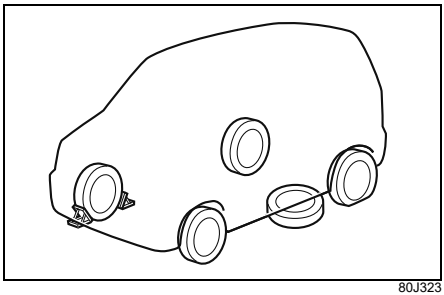
3 交換するタイヤ（2）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（1）（市販品）を置きます。



80J1245

4 工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。

- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出した応急用スペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。



80J323

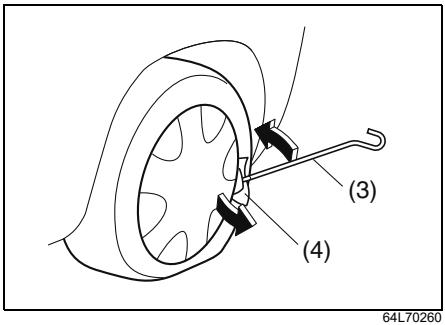
アドバイス

応急用スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5 ホイールキャップ（タイプ別装備）を外します。

- 傷つき防止のため、ジャッキバー（3）の先端に布（4）をあてがってホイールとキャップの間に差し込み、こじって外します。

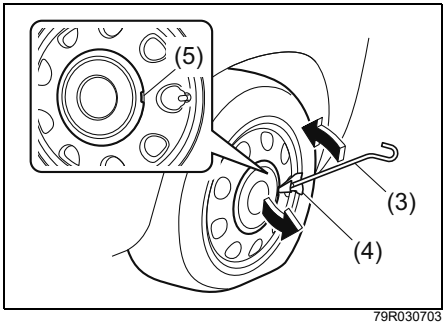
フルホイールキャップ装備車



64L70260

ハーフホイールキャップ装備車

- ハーフホイールキャップ装備車の場合、キャップが勢いよく外れるおそれがあるため、キャップ表面を片手で支えながら作業をしてください。

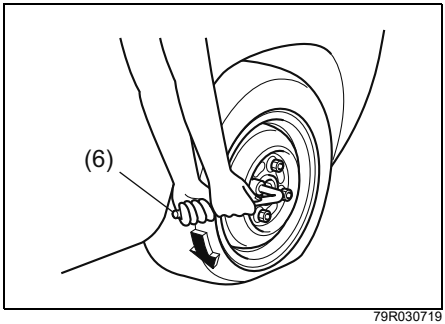


79R030703

アドバイス

ハーフホイールキャップ装備車の場合、切り欠き部（5）が下側にあると、ジャッキバー（3）が使用できないことがあります。作業ができる位置まで、お車を移動してください。

6 ホイールナットレンチ（6）を使用して、ホイールナット4個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



79R030719

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

セレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。

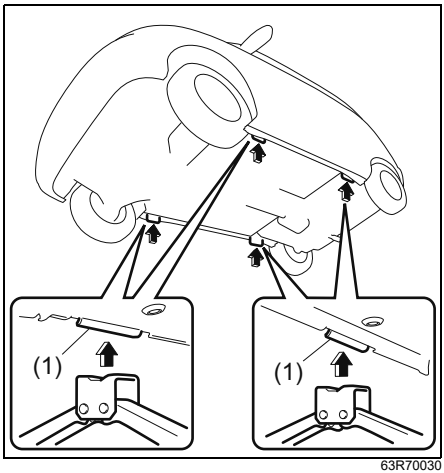
⚠ 警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にものをはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置（1）に軽く接触させます。

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置（1）にはまっているか確認します。

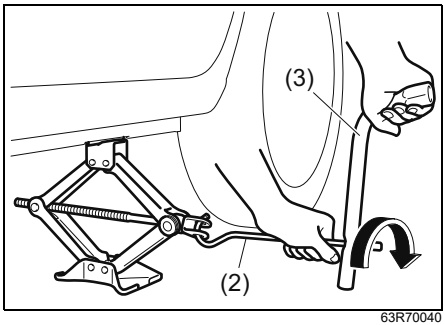


63R70030

3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。（次の図参照）

- ジャッキバーは次の図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。

4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。

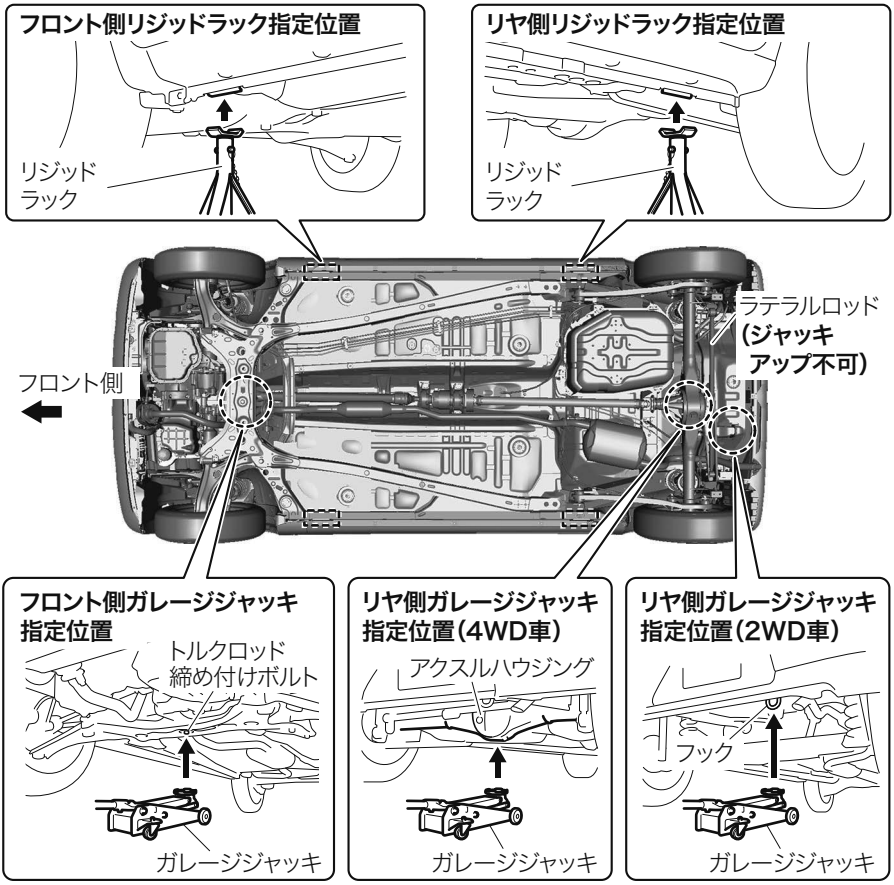


63R70040

(2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を次の図に示します。詳細については、マツダ販売店にご相談ください。



79R70260

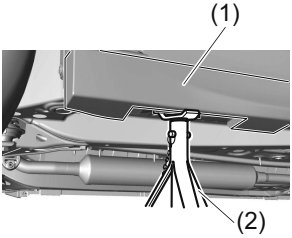
⚠警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

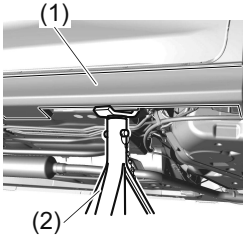
注 記

サイドスカート（1）（タイプ別装備）にリジッドラック（2）が接触した状態で使用すると、サイドスカートが破損したり傷ついたりするおそれがあります。
リジッドラックを使用するときは、サイドスカートに当たらないように位置を調整してください。

フロント側リジッドラック指定位置



リヤ側リジッドラック指定位置



83S08180

タイヤの取り付け・取り外し

1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

⚠注意

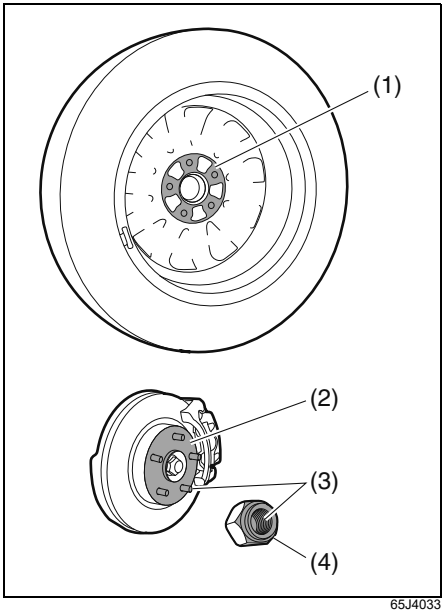
走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりは高温になっていることがあるため、やけどのおそれがあります。
走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりなどには触れないでください。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取り付け面（1）
- 車体側の取り付け面（ハブ面）(2)
- ボルトやホイールナットのネジ部（3）
- ホイールナットのテーパー面（4）
- ホイール穴のテーパー面（5）



65J4033

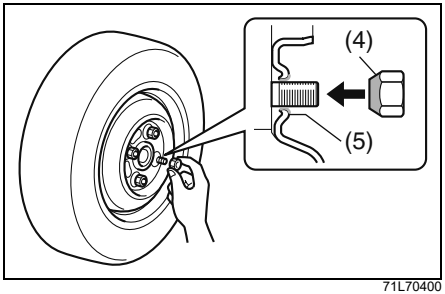
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
  - このとき、ボルトやナットのネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

●前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
●ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締めすぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

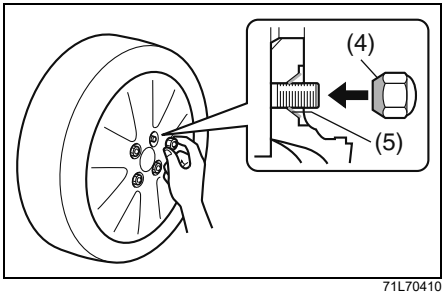
3 ホイールナットのテーパー面（4）が、ホイール穴のテーパー面（5）に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

スチールホイール装備車



71L70400

アルミホイール装備車



71L70410

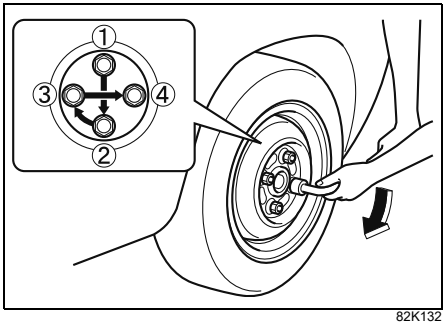
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：85 N・m (870 kgf・cm)

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は330 N（34 kgf）を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



82K132

⚠警告

●ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くマツダ販売店で締め付けトルクの点検を受けてください。

●ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締めすぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。

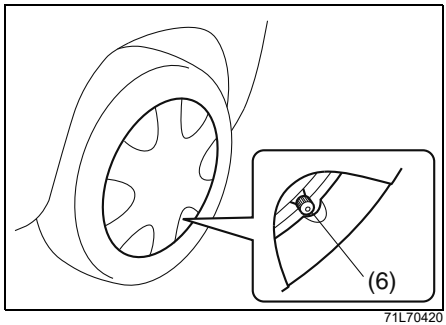
アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

6 ホイールキャップ（タイプ別装備）を付けます。

フルホイールキャップ装備車

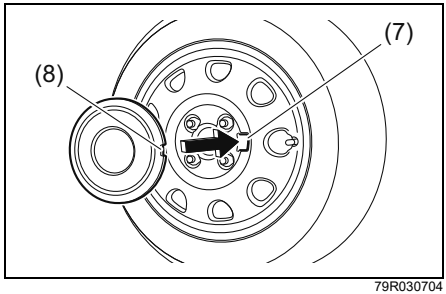
- タイヤの空気注入口（6）とキャップの切り欠き部分をあわせてから、確実に押し込みます。



71L70420

ハーフホイールキャップ装備車

- ホイールの凹部（7）とキャップの切り欠き部（8）をあわせてから、キャップを確実に押し込みます。



79R030704

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキは、所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから 1,000 km 程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

⚠ 警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。

鉛バッテリーあがりとは

次のようなときは、鉛バッテリーがあがっています。

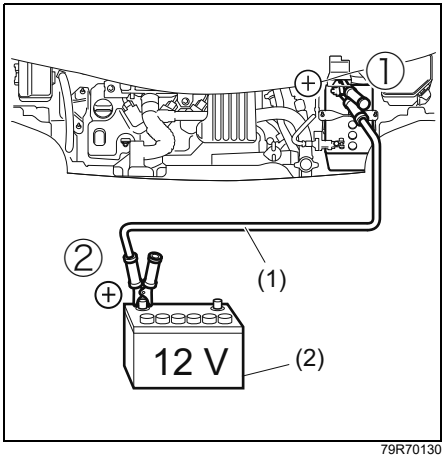
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

鉛バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 Vバッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1 1 本目のブースターケーブル（1）を①→②の順序で接続します。

①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
②バッテリー正常車の ⊕ 端子

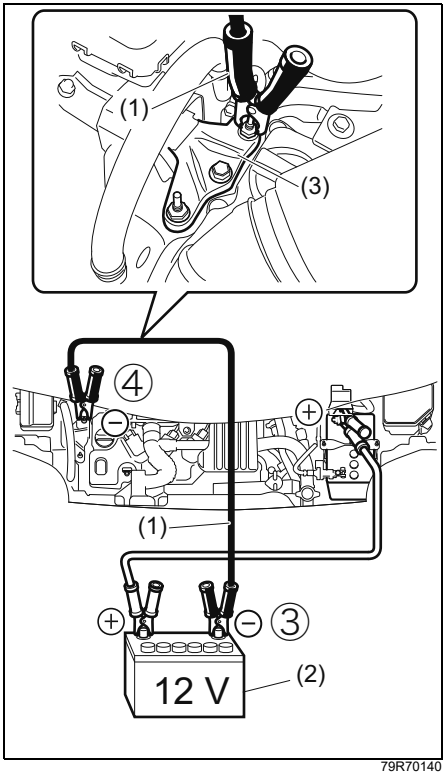


79R70130

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車の鉛バッテリー

2 2 本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

③バッテリー正常車の ⊖ 端子
④バッテリーあがり車のエンジンマウントのボルト



79R70140

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車の鉛バッテリー
(3) エンジンマウント

3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

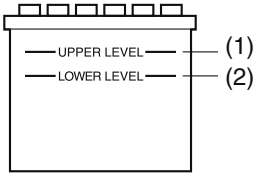
4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

5 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

6 お近くのマツダ販売店でバッテリーを完全充電します。

⚠警告

- 鉛バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。
  - バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限（2）以下のままで充電などすると、バッテリーが発熱して爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。
    バッテリー補充液を上限（1）まで補充してから、充電などを行なってください。



82K209

  - 充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。
  - ④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジンマウントのボルトに接続してください。
  - 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠注意

- ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。
- ショート防止のため、ブースターケーブルの ⊕ 端子は、バッテリーの ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。
- オートマチック車 は押しがけができません。

バッテリーあがりを防ぐためには

- 1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。

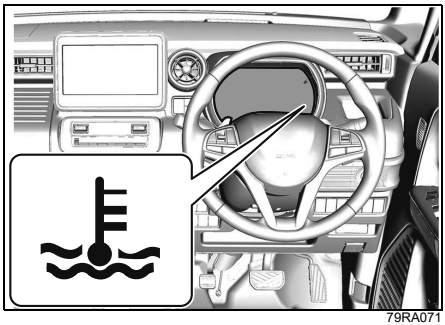
→ **2-4 ページ（鉛バッテリーの液面を点検する）**

オーバーヒートとは

ラジエーターなどの冷却システムによるエンジンの冷却が間に合わなくなり、冷却水を適温に保てなくなった状態をオーバーヒートといいます。
次のようなときは、オーバーヒートです。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている
- エンジンの力が急に落ちた
- エンジン冷却水温が異常に高くなって、メーターパネル内の水温警告灯が点滅、または点灯

→ **3-89ページ（水温警告灯）**



- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。
- 必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。
→ **5-4ページ（ボンネット）**

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

3 冷却ファン（ラジエーターファン）の作動を確認し、水温警告灯が消灯するのを待ってエンジンを止めます。
- 冷却ファン（ラジエーターファン）が作動していないときや、水温警告灯が消灯しないときは、ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



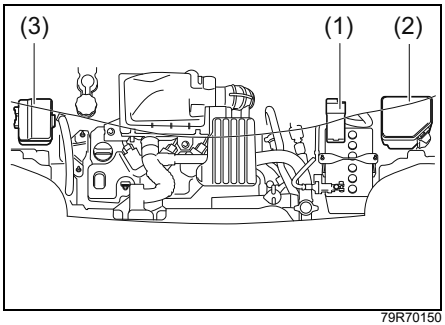
5 冷却水の量が不足しているときは補充します。
- 水漏れなどの異常があるときは、マツダ販売店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補充したときは、できるだけ早くマツダ販売店で冷却水の点検または交換をしてください。

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と助手席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

エンジンルーム内のヒューズ



79R70150

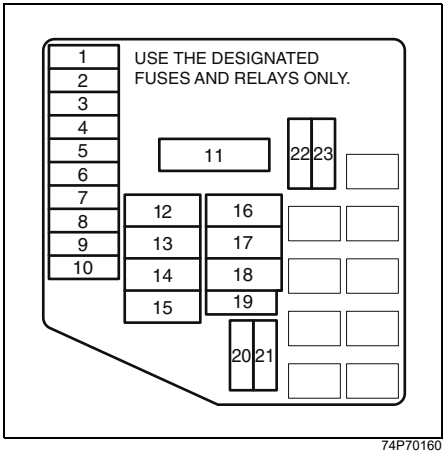
(1) メインヒューズボックス
（タイプ別装備）
(2) リレーボックス No.1
(3) リレーボックス No.2(タイプ別装備)

- 上図のエンジンルームは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ リレーボックス内のヒューズ

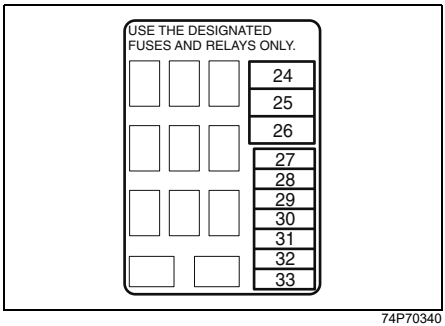
ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。

リレーボックス No.1



74P70160

リレーボックス No.2



74P70340

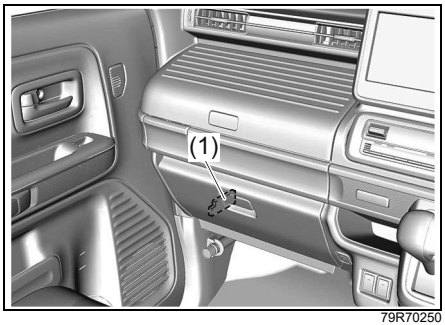
- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	RDTR	30A	ラジエーターファン
2	ST	30A	スターター

位置	表示	容量	接続先名称
3	SUB BAT	30A	—
	DCDC	30A	—
4	ABS SOL	25A	ABS ソレノイド
5	BLW	25A	—
6	H/L R	15A	ヘッドライト (右)
7	ST2	20A	—
	FI	15A	—
8	H/L L	15A	ヘッドライト (左)
9	CONT	10A	コントローラー
10	CPRSR	10A	コンプレッサー
11	ALT	150A	オルタネーター
		80A	—
12	ABS MOT	40A	ABS モーター
13	IGN2	40A	エンジンスイッチ
14	P/S	40A	パワーステアリング
15	IGN	30A	エンジンスイッチ
		40A	—
16	BTRY	50A	ジャンクションボックス
17	BTRY2	30A	リレーボックス No.2

位置	表示	容量	接続先名称
18	T/M PUMP	30A	—
	SUB BAT2	40A	—
19	B/U	25A	バックアップ
20	FI2	15A	燃料噴射装置
21	BLW2	25A	ブロワーファン
22	ST SIG	5A	アイドリングストップコントローラー
23	ST SIG2	5A	—
24	—	—	—
25	—	—	—
26	—	—	—
27	H/L HI L	15A	ヘッドライト (左)
28	H/L HI R	15A	ヘッドライト (右)
29	H/L	10A	ヘッドライト (ハイビーム)
30	FOG	15A	フォグランプ
31	USB	10A	USB電源ソケット
32	—	—	—
33	—	—	—

助手席足元のヒューズ



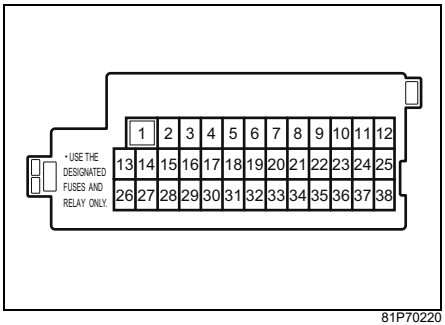
79R70250

(1) 助手席足元のヒューズ

- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ 助手席足元のヒューズ

ヒューズの表は、ヒューズのふたにあります。



81P70220

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	P/W	30A	パワーウインドー
2	ACC	5A	ラジオ
3	MTR	10A	メーター
4	IG	15A	イグニッション
5	IG1 SIG2	5A	パワーステアリング
6	PSD R	20A	パワースライドドア/スライドドアクローザー（右）
7	T/M 2	5A	ー
8	STL	15A	電動ハンドルロック
9	HORN	15A	ホーン
10	D/L	20A	ドアロック
11	HAZ	10A	ハザード
12	T/M	10A	トランスミッション
13	RADIO	15A	ラジオ
14	ACC2	15A	アクセサリーソケット
15	IG1 SIG3	5A	ステレオカメラ/超音波センサー
16	ACC3	5A	ー
17	DOME2	10A	室内灯

位置	表示	容量	接続先名称
18	DOME	5A	メーター
19	KEY	5A	イグニッション スイッチ
20	注) P/W T	20A	パワーウインドー タイマー機能
21	PSD L	20A	パワースライドドア/スライドドアクローザー(左)
22	KEY 2	5A	イグニッション スイッチ
23	TAIL L	5A	尾灯(左)
24	A-STOP	5A	エンジン コントローラ
25	TAIL	10A	尾灯(右)/番号灯
26	IG1 SIG	10A	アイドリング ストップ またはBCM
27	A/B	10A	エアバッグ
28	BACK	10A	後退灯
29	ABS	5A	ABS/ DSC&TCS
30	MRR HTR	10A	ドアミラー ヒーター
31	RR DEF	15A	リヤ デフォッガー
32	S/H	10A	シートヒーター
33	WIP	10A	ワイパー
34	IG2 SIG	5A	ブロアファン
35	WASH	15A	ウォッシャー モーター
36	T/M 3	10A	トランス ミッション
37	FR WIP	20A	フロント ワイパー
38	STOP	10A	制動灯

注）P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。
→ **3-34 ページ（はさみ込み防止機構の初期設定が必要なとき）**

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜き（低背ヒューズ用、市販品）および交換用ヒューズ（別売り）が必要となります。点検・交換の際は、マツダ販売店にご相談ください。

点検・交換のしかた

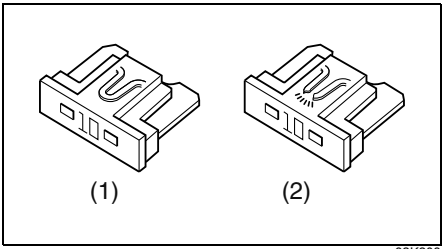
1 エンジンスイッチを LOCK (OFF) にします。

2 エンジンルーム内のリレーボックスでは、ボックスのカバーを外します。

3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



82K208

(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

⚠警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯はほかの人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面がくもることや結露することがあります。これは、ランプ内外の温度差により一時的に起こる現象です。（雨天時などに窓ガラスがくもるのと同じ現象です。）
また、レンズの縁に水滴が付着しランプ内に水が入っているように見えることがあります。これは、ランプの外側に水が付着することで一時的に起こる現象です。これらは機能上の問題はありません。ただし、ランプ内に実際に水がたまっているときやレンズ内面に大粒の水滴がついているときは、マツダ販売店にご相談ください。

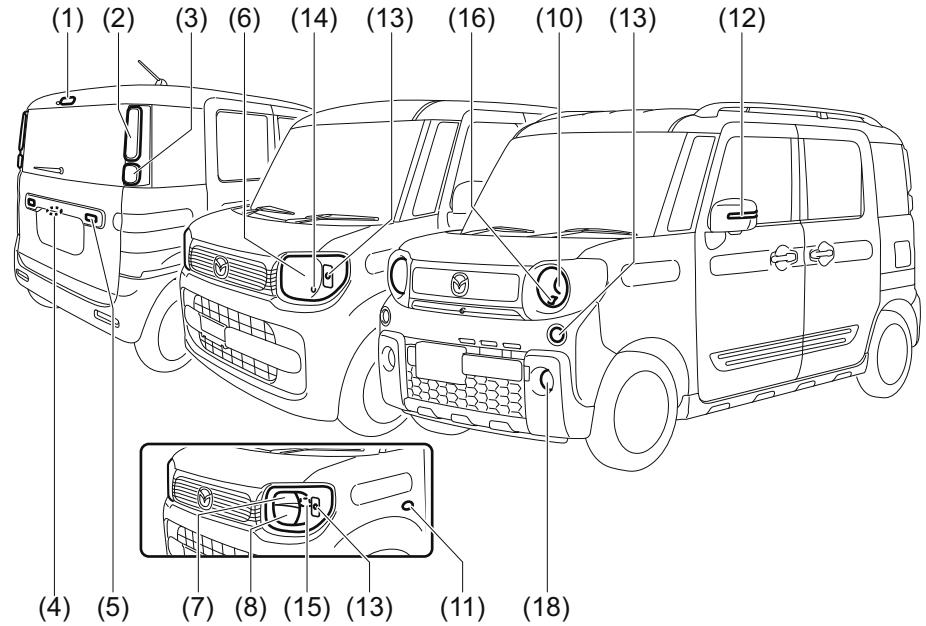
電球を交換するときは

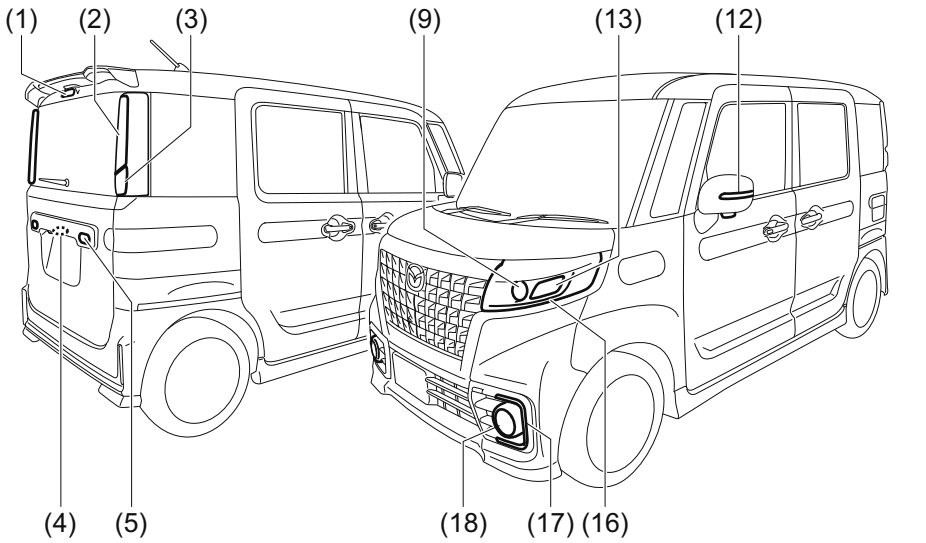
電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、電球の容量（**7-39ページ**）をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

■ 電球の位置

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。





79RC019

■ 電球の容量

番号	名称				ワット数(型式)
(1)	ハイマウントストップランプ				LED(※1)
(2)	制動灯／尾灯				LED(※1)
(3)	方向指示器／非常点滅表示灯	後面			21W(WY21W)(※2)
(4)	番号灯				5W(W5W)(※2)
(5)	後退灯				16W(W16W)(※2)
(6)	ヘッドライト	Aタイプ	ハロゲン仕様車		60/55W(H4)
(7)			LED仕様車(上向きハロゲン仕様)	上向き	60W(HB3)
(8)				下向き	LED(※1)
(9)		Bタイプ			LED(※1)
(10)		Cタイプ			LED(※1)
(11)	方向指示器／非常点滅表示灯	側面	フェンダー		5W(※1)
(12)			ドアミラー		LED(※1)
(13)		前面	Aタイプ		21W(WY21W)(※2)
			Bタイプ		
(14)	車幅灯	Aタイプ	ハロゲン仕様車		5W(W5W)(※2)
(15)			LED仕様車(上向きハロゲン仕様)		LED(※1)
(16)		Bタイプ			LED(※1)
		Cタイプ			LED(※1)
(17)	LEDイルミネーション				LED(※1)
(18)	フォグランプ	Bタイプ			LED(※1)
		Cタイプ			LED(※1)

- 表に記載されている※1の電球の場合、点検・交換の際はマツダ販売店にご相談ください。

※1 非分解式のランプのため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。

※2 ウエッジタイプの電球

→ **7-42ページ（車幅灯）**
→ **7-43ページ（方向指示器／非常点滅表示灯（前面））**
→ **7-44ページ（リヤコンビネーションランプ）**
→ **7-45ページ（後退灯）**
→ **7-46ページ（番号灯）**

⚠注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **エンジンを止め、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**



51K0180

注 記

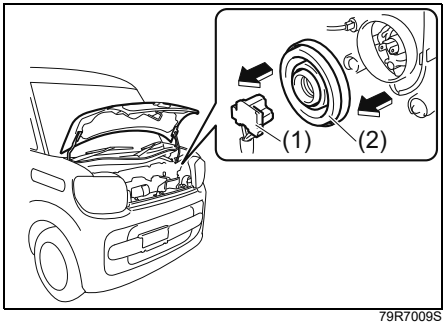
ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。

ハロゲンヘッドライト

タイプ別装備

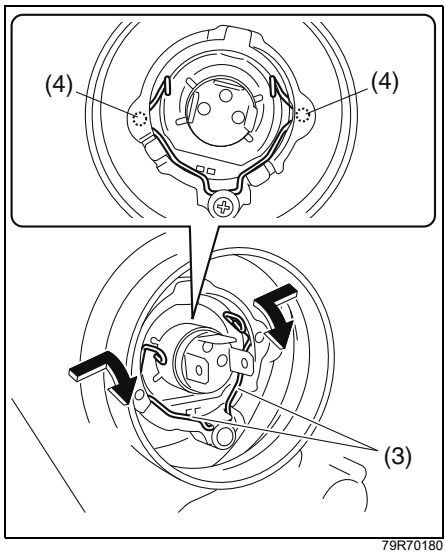
1 ボンネットを開けます。
→ **5-4ページ（ボンネット）**

2 カプラー（1）は、カプラー本体をしっかり持って車両後方へまっすぐ引いて外します。
ゴムカバー（2） を引いて外します。



79R7009S

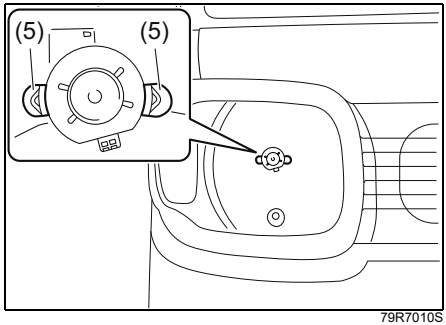
3 両側にある止め金（3）を図の矢印のように、中央に寄せながら手前に倒して固定フック（4）から外します。



79R70180

アドバイス

止め金の固定状態は、電球下側の穴（5）を通して車両前方からも確認できます。



79R7010S

4 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

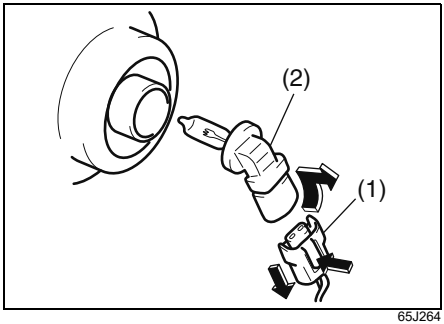
ハロゲンヘッドライト（上向き）

タイプ別装備

1 ボンネットを開けます。
→ **5-4ページ（ボンネット）**

2 カプラー（1）は、つめを押しながら外します。

3 電球（ソケット一体式）（2）は、反時計方向にまわして外します。



65J264

交換後は外したときと逆の手順でもとにもどします。

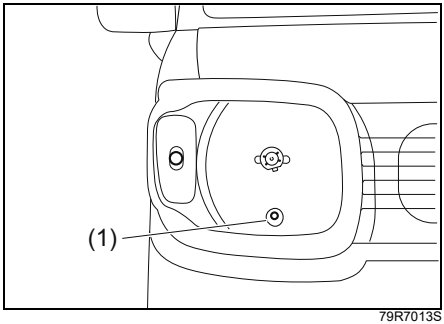
非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、マツダ販売店にご相談ください。

- LEDヘッドライト（タイプ別装備）
- LEDヘッドライト車の車幅灯（タイプ別装備）
- LEDイルミネーション（タイプ別装備）
- フォグランプ（タイプ別装備）
- 制動灯／尾灯
- 方向指示器／非常点滅表示灯（フェンダーまたはドアミラー）
- ハイマウントストップランプ

車幅灯

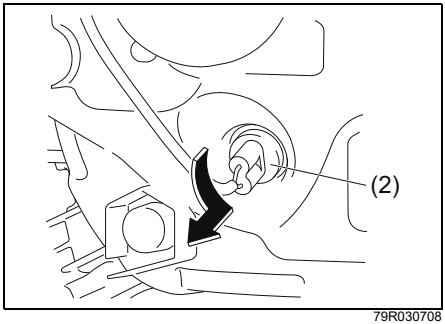
1 ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。



79R7013S

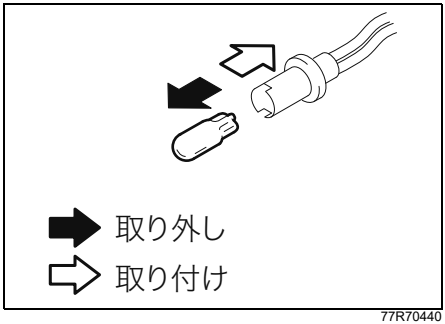
(1) 車幅灯

2 電球（ソケット一体式）（2）は、反時計方向にまわして外します。



79R030708

3 電球は図のように抜き差しします。



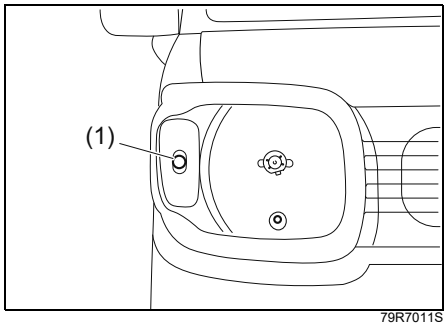
77R70440

4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

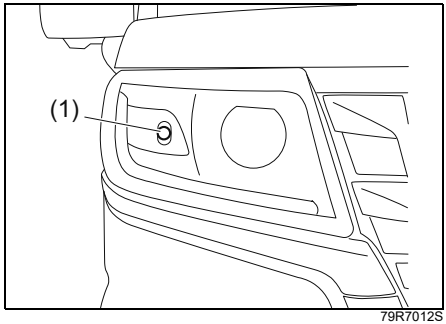
1 ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。

Aタイプ



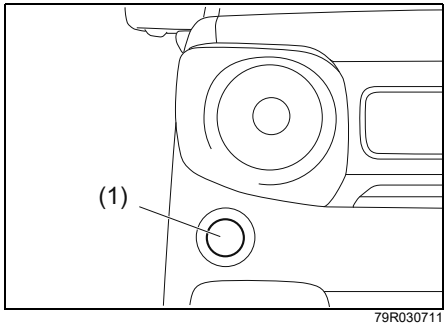
79R7011S

Bタイプ



79R7012S

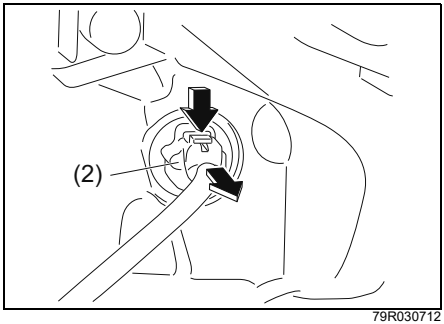
Cタイプ



79R030711

(1) 方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

2 カプラー（2）は、つめを押しながら外します。

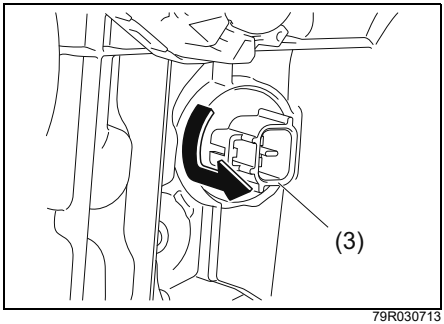


79R030712

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

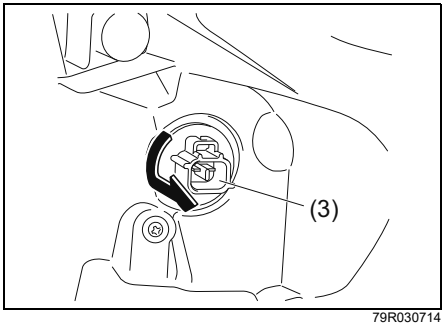
3 電球（ソケット一体式）（3）は、反時計方向にまわして外します。

Aタイプ



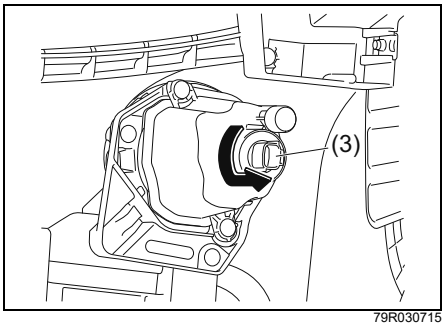
79R030713

Bタイプ



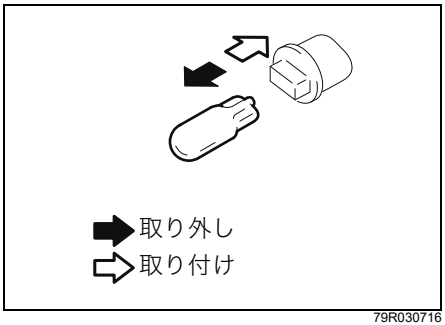
79R030714

Cタイプ



79R030715

4 電球は図のように抜き差しします。



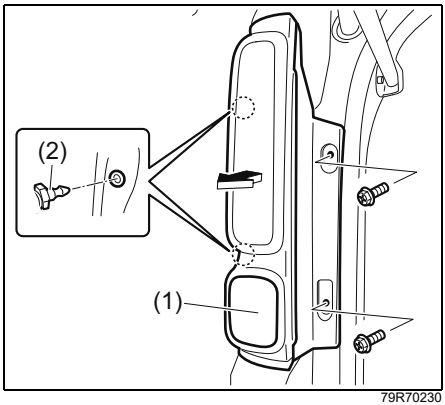
79R030716

5 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

リヤコンビネーションランプ

1 バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

- ボルト2個を外します。
- ランプ本体は、まっすぐ車両後方へ引いて外します。

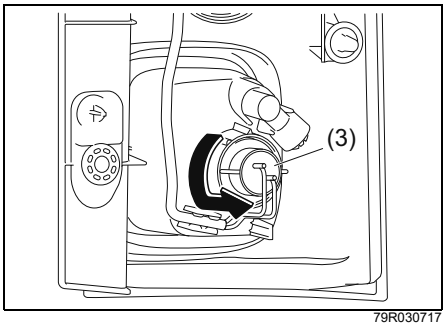


79R70230

(1) 方向指示器／非常点滅表示灯（後面）

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

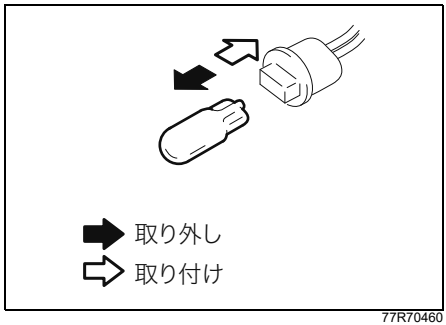
2 電球ソケット（3）は、反時計方向にまわして外します。



79R030717

7

3 電球は図のように抜き差しします。



77R70460

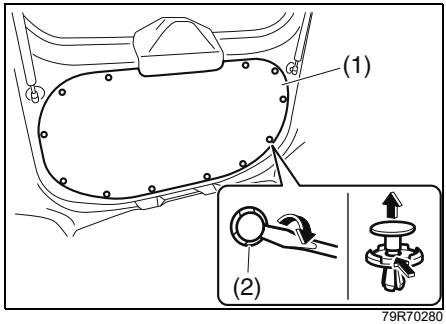
4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどしますが、次の点に注意ください。

- ランプ本体をもとにもどすときは、クリップ 2 か所（2）を車体側の穴にあわせて押し込みます。

後退灯

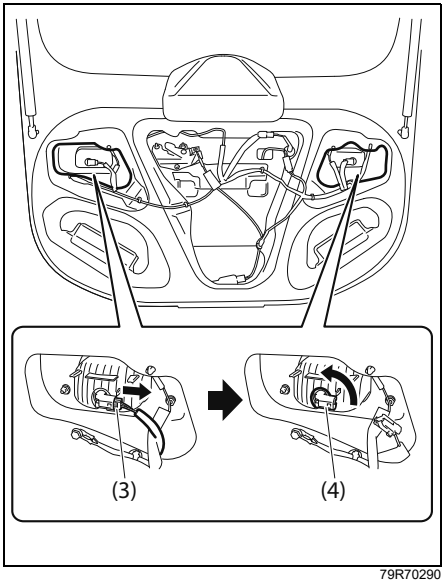
1 バックドアを開け、ロアトリム（1）を外します。

- クリップ（2）14個は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。



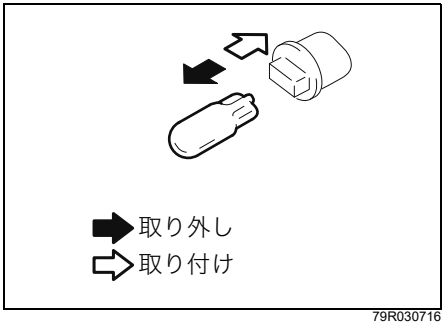
79R70280

2 カプラー（3）は、つめを押しながら外します。
カプラーを外したあとにソケット（4）を、反時計方向にまわして取り外します。



79R70290

3 電球は図のように抜き差しします。



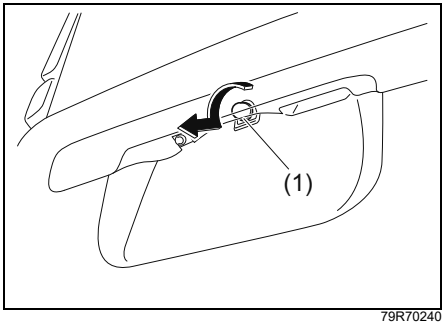
79R030716

4 交換後は外したときと逆の手順でもとにもどします。

7

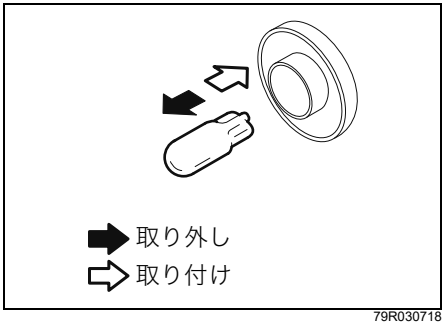
番号灯

1 レンズ（1）を反時計方向にまわして外します。



79R70240

2 電球は図のように抜き差しします。



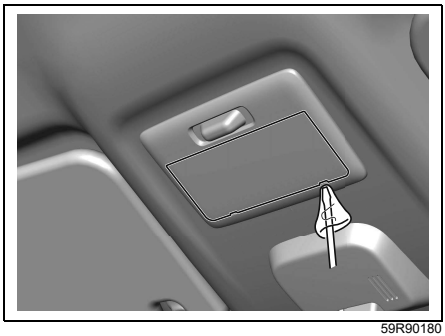
79R030718

3 交換後は外したときと逆の手順でもとにもどします。

室内灯

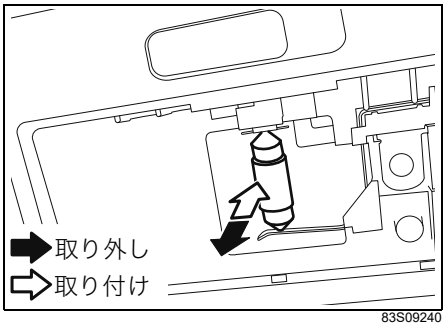
■ 前室室内灯

1 先端に布をかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用してレンズを取り外します。



59R90180

2 電球は図のように抜き差しします。

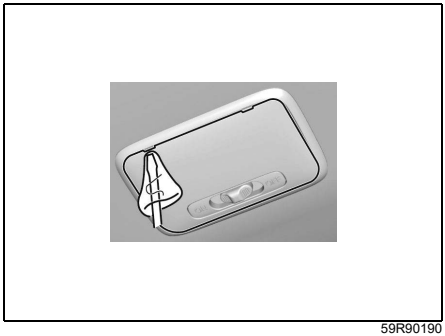


83S09240

3 交換後は外したときと逆の手順でもとにもどします。

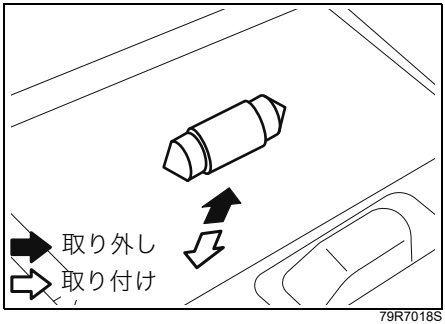
■ 後室室内灯

1 先端に布をかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用してレンズを取り外します。



59R90190

2 電球は図のように抜き差しします。

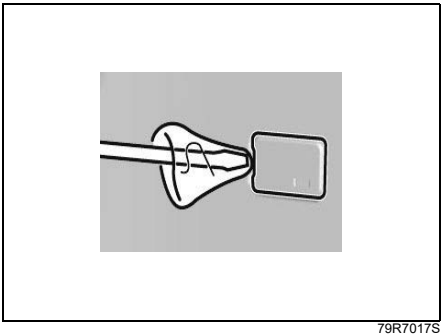


79R7018S

3 交換後は外したときと逆の手順でもとにもどします。

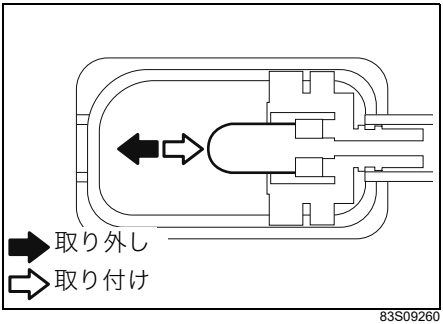
■ 荷室室内灯

1 先端に布をかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用してレンズを取り外します。



79R7017S

2 電球は図のように抜き差しします。



83S09260

3 交換後は外したときと逆の手順でもとにもどします。

MEMO

項目		データ				
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン				
	タンク容量	27 L				
エンジンオイル（※）	グレード	エンジン	オイル名	API サービス分類	SAE 粘度	使用温度範囲（外気温℃）
		ターボなし車	エクスターF	SN	0W-16	−35〜40
			純正モーターオイル ゴールデンECO7	–	0W-20	
		ターボ車	純正モーターオイル ゴールデン SN	SN	5W-30	−25〜40
	規定量	オイル交換時			2.4 L	
		オイル、オイルフィルター同時交換時			2.6 L	
トランスミッションフルード	グレード	CVTF 4401				
	規定量	5.8 L				
トランスファーオイル（4WD車）	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85				
	規定量	0.41 L				
リヤデファレンシャルオイル（4WD車）	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85				
	規定量	0.9 L				
冷却水	グレード	マツダ純正ロングライフクーラント				
		スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）				
	規定量	ターボなし車	3.3 L			
		ターボ車	3.1 L			
ウォッシャー液	グレード	ウインドーウォッシャー液				
	タンク容量	1.5 L				
ブレーキ液	グレード	ブレーキフルード　BF-3（DOT-3）				

※適切なオイルのご使用方法については、**2-38ページ**の「**エンジンオイルの規格／粘度**」をお読みください。0W-16は燃費性能に優れたオイルです。（ターボなし車）

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のトランスミッションフルード、ブレーキ液は絶対に入れないでください。
  指定外のトランスミッションフルードを使用すると、CVT が破損するおそれがあります。トランスミッションフルードの補充や交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- 冷却水は、マツダ純正品とスズキ純正品を混ぜないでください。

項目		データ		
スパークプラグ	タイプ	ターボなし車	NGK: SILKR7F11（イリジウム）	
		ターボ車	NGK：ILKR7J8（イリジウム） DENSO：ZXU22HPR8（イリジウム）	
	電極のすきま	ターボなし車	1.0～1.1 mm	
		ターボ車	0.7～0.8 mm	
バッテリー	タイプ	鉛バッテリー	K-42R	
		リチウムイオンバッテリー	点検不要（※1）	
フロントブレーキ	ディスク厚さ（※2）	ソリッドディスク	基準値（新品時）	10.0 mm
			限度値	9.0 mm
		ベンチレーテッドディスク	基準値（新品時）	17.0 mm
			限度値	15.0 mm
リヤブレーキ	ドラム内径（※2）	基準値（新品時）		165 mm
		限度値		166 mm
ブレーキペダル	遊び	1～8 mm		
	床板とのすきま	110 mm以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕		
パーキングブレーキペダル	踏みしろ	6～8 ノッチ〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕		
ドライブベルト	たわみ量〔100N（10kgf）で押したとき〕	自動調整式		
ハンドル	遊び	0～30 mm（ホイール外周）		
タイヤ	ローテーション	5,000 km走行ごと		

※1 リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、マツダ販売店にご相談ください。

※2 点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。マツダ販売店にご相談ください。

■ 電球の容量（室内）

名　称	ワット数(型式)
前席室内灯	10W
後席室内灯	10W
荷室室内灯	5W

● 点検・交換の際はマツダ販売店にご相談ください。

■ タイヤ／ホイール

タイヤの指定サイズと指定空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

タイヤの種類		タイヤサイズ	空気圧
標準タイヤ	Aタイプ／Cタイプ	155/65R14 75S	240 kPa (2.4 kgf/cm^2)
	Bタイプ	155/65R14 75S	
		165/55R15 75V	
応急用スペアタイヤ（別売り）		T125/70D14	420 kPa (4.2 kgf/cm^2)

ホイールのサイズ

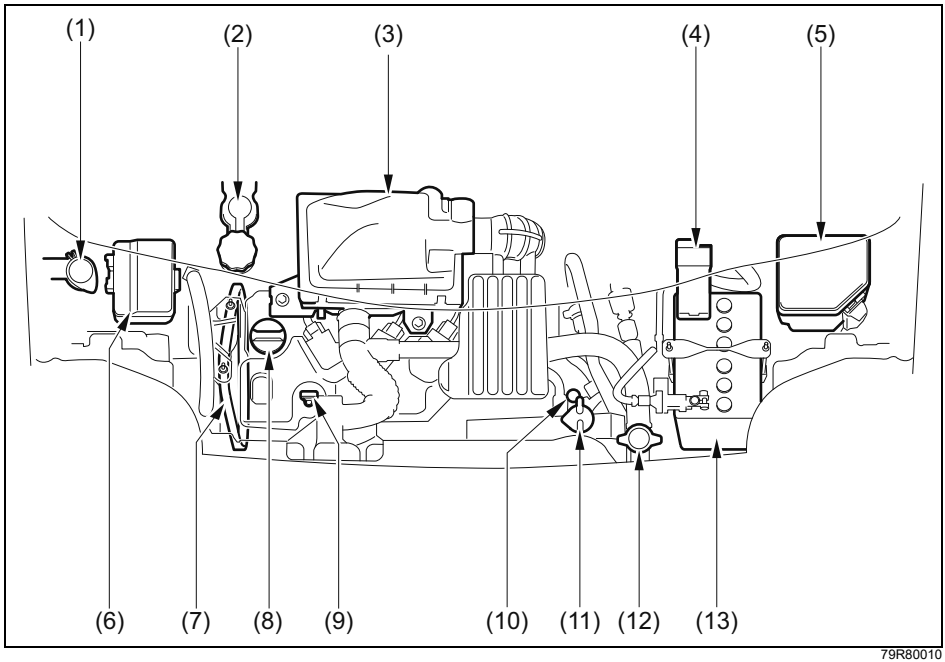
タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取り付けピッチ円直径 (PCD)
155/65R14 75S	14 × 4 1/2J	45 mm	100 mm
165/55R15 75V	15 × 4 1/2J		

タイヤチェーン

この車に適合したマツダ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、マツダ販売店にご相談ください。

エンジンルームをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **ウォッシャータンク**
(2) **ブレーキフルードリザーバータンク**
(3) エアクリーナー
(4) メインヒューズボックス
(5) リレーボックスNo.1
(6) リレーボックスNo.2
(7) ドライブベルト
(8) エンジンオイルフィラーキャップ
(9) **エンジンオイルレベルゲージ**
(10) CVTフルードレベルゲージ
(11) **冷却水リザーバータンク**
(12) ラジエーターキャップ
(13) **鉛バッテリー**

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー → **3-31ページ**	はさみ込み防止機構 → **3-34ページ**	鉛バッテリー端子やヒューズ（**7-32ページ**参照）を外すなどしたとき

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

次の機能の設定切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

- アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム
- アンサーバック機能（非常点滅表示灯／室内灯による合図）
- ハイビームアシスト

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
アンサーバック機能 → **3-11ページ**	車外ブザーによる合図	あり	なし
セキュリティアラーム → **3-29ページ**	セキュリティアラームモード	警報モード	警報なしモード
リモート格納ミラー（タイプ別装備） → **3-38ページ**	ドアの施錠やエンジンスイッチ操作による連動動作	あり	なし
オートドアロック → **3-19ページ**	すべてのドアを自動で施錠	車速連動モード	シフト連動モード
			オートドアロック無効モード
オートドアアンロック → **3-20ページ**	すべてのドアを自動で解錠	シフト連動モード	エンジンスイッチ連動モード
			オートドアアンロック無効モード
エネルギーフローインジケーター → **4-134ページ**	マイルドハイブリッドの作動状態の表示	あり	なし

項目	機能	初期設定 (工場出荷時)	設定切替え時
エコスコア → **3-114ページ、 3-129ページ**	エンジンスイッチを LOCK (OFF)にしたときのエコスコアの表示	あり	なし
ステータスインフォメーションランプ → **3-84ページ**	ステータスインフォメーションランプの表示設定	あり	なし
アイドリングストップ節約燃料／時間表示 → **3-113ページ、 3-128ページ**	エンジンスイッチを LOCK (OFF)にしたときのアイドリングストップ節約燃料／時間の表示	あり	なし
先行車発進お知らせ機能 → **4-58ページ**	先行車が発進したときのお知らせ	あり	なし
アイドリングストップ空調設定 → **4-146ページ**	エンジン自動停止中のエアコン設定	標準	燃費優先
			快適優先

MEMO

数字

4WD車の運転 …… 2-34

A

ABS
（アンチロックブレーキシステム）
警告灯 …… 3-89、4-34
装置 …… 4-32
ACC表示灯 …… 3-99

D

DCBS（デュアルカメラ
ブレーキサポート） …… 4-43
DSC&TCS OFFスイッチ …… 4-30
DSC&TCS OFF表示灯 …… 4-31
DSC&TCS作動表示灯 …… 4-29
DSC&TCS装備車の取扱い …… 4-28

E

EV表示灯 …… 3-104

I

IG ON表示灯 …… 3-99
ISG …… 4-133
ISOFIX …… 3-79
ISOFIX対応お子さま用シート
固定専用金具 …… 3-79

L

LEDヘッドライト警告灯 …… 3-93

M

M（マニュアル）モード表示 …… 3-107

R

Rポジション警告ブザー …… 2-28、4-20

S

SRSエアバッグ警告灯
…… 3-58、3-70、3-88
SRSエアバッグシステム …… 2-31、3-59
Sモードスイッチ …… 4-16
Sモード表示灯 …… 3-97

U

USBソケット …… 5-20
USB電源ソケット …… 5-21

ア

アームレスト(ひじ掛け) ・・・・・・・・・5-22
アームレストボックス ・・・・・・・・・・・5-17
アイドリングストップ時間
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-113、3-128
アイドリングストップシステム ・・4-137
アイドリングストップシステム
OFFスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・4-145
アイドリングストップシステム
OFF表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・3-100
アイドリングストップ節約燃料
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-113、3-128
アイドリングストップ表示灯 ・・・・・3-99
アクセサリーソケット ・・・・・・・・・・・5-20
アシストグリップ ・・・・・・・・・・・・・・5-22
アダプティブクルーズコントロール
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4-62
アダプティブクルーズコントロール
警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-95、3-96
アダプティブクルーズコントロール
スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4-65
アドバンストキーレスエントリー&
キーレスプッシュボタンスタート
システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-5
アルミホイール
タイヤ交換の準備 ・・・・・・・・・・・・・7-19
タイヤチェーン ・・・・・・・・・・・・・・・6-20
アンサーバック機能 ・・・・・・・・・・・・3-11
アンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-41
ガラスアンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・5-42
ルーフアンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・5-41

イ

イモビライザー警告灯 ・・・・・・・3-92、4-4
イモビライザーシステム ・・・・・・・・・・ 4-4
インパネアッパーボックス ・・・・・・・5-10
インパネアンダートレイ ・・・・・・・・・5-10
インパネボックス(助手席) ・・・・・・・5-10
インパネミドルボックス ・・・・・・・・・5-12

ウ

ウインドー
ウインドーロックスイッチ・・・・・ 3-33
パワーウインドー・・・・・・・・・・・・・ 3-31
フロントガラスの手入れ・・・・・・・・・6-4
ウォッシャー液・・・・・・・・・ 6-15、8-1、8-5
ウォッシャースイッチ・・・・・・・・・・ 3-140
運転席シートヒータースイッチ・・・ 3-44

エ

エアコン、ヒーター
オートエアコン・・・・・・・・・・・・・・・ 5-29
吹出し口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-27
エアフィルター・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-39
エコ運転表示機能・・・・・・・・・・・・・ 3-113
エコクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-146
エコスコア・・・・・・・・・・・・・ 3-114、3-129
エコドライブ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-39
エネルギーフロー
インジケーター・・・・・・・・・・・・・・ 4-134
エマージェンシーストップシグナル
(ESS)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-35
エンジンオイル・・・・・・・・2-38、3-91、8-1
エンジン回転計(タコメーター)・・・ 3-84
エンジンキー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-2
エンジン警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-90
エンジンスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・4-2
エンジンスイッチ照明・・・・・・・・・・・・・4-8
エンジンスイッチもどし忘れ
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-11
エンジンのかけかた・・・・・・・・・・・・・・4-8
エンジンの止めかた・・・・・・・・・・・・・ 4-10
エンジンフード(ボンネット)・・・・・・・5-4
エンジンブレーキ・・・・・・・・・・・・・・・ 2-18
エンジンルームをのぞいて・・・・・・・・・8-5
エンジンを止めるときは・・・・・・・・・ 4-10
エンスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-3

オ

オイル(エンジンオイル)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-38、3-91、8-1
応急用スペアタイヤ
取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-17
オーディオ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-42
オートエアコン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-29
オートドアアンロック・・・・・・・・・・・・ 3-20
オートドアロック・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-19
オートマチック車
運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-22
セレクトレバー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-14
オートレベリング警告灯・・・・・・・・・ 3-90
オーバーヒート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-30
お子さま用シートの
シートベルトによる固定・・・・・・・ 3-77
お子さま用シートの
選択について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-71
お子さまを乗せるときは・・・・・・・・・・・2-6
オドメーター・・・・・・・・・・・・ 3-109、3-123

カ

外気導入
(エアコン、ヒーター)・・・・・・・・・・ 5-34
外装のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-2
ガソリン(燃料)・・・・・・・・・・・・・ 2-27、8-1
仮眠するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-25
ガラスアンテナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-42
ガレージジャッキ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-23
冠水した場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-20
寒冷時の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-15

キ

キー(エンジンキー)・・・・・・・・・・・・・・ 3-2
キースイッチ(エンジンスイッチ)・・ 4-2
キーナンバープレート・・・・・・・・・・・・ 3-3
キーレスエントリー・・・・・・・・・・・・・・ 3-10
キックダウン・・・・・・・・・・・・・・・4-19、4-24
ギヤポジション表示・・・・・ 3-107、3-122
給油・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-26、5-2、8-1

ク

空気圧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-4
くもり取り(デフロスター)・・5-27、5-35
くもり取り(リヤデフォッガー)・・・ 5-37
クリープ現象・・・・・・・・・・・・・・2-28、4-19
車のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2
グローブボックス・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-12

ケ

警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-16
警告灯・表示灯の見かた ・・・・・・・・・・3-86
警告ブザー
　R(リバース)ポジション
　　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・ 2-28、4-20
　エンジンスイッチもどし忘れ
　　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・4-11
　警告ブザーが鳴ったときは ・・・・・1-24
　携帯リモコン検出範囲外
　　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・4-7、4-10
　シートベルト警告ブザー ・・・・・・・3-53
　パーキングブレーキ解除忘れ
　　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・4-13
　ハンドルロック未作動
　　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・4-11
　ライト消し忘れ警告ブザー ・・・・3-136
　リクエストスイッチ未作動
　　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・3-17
携帯電話 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-17
携帯リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-12
携帯リモコン車外持ち出し警告 ・・・・ 4-7
携帯リモコン電池消耗警告灯
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-15、3-94
携帯リモコン閉じ込み防止機能 ・・・3-17
携帯リモコンの電池交換 ・・・・・・・・・・ 6-9
警報装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-29
けん引 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-3

コ

工具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-9
光軸調整ダイヤル・・・・・・・・・・・・・・ 3-138
後席シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-45
航続可能距離・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-111
後退時ブレーキサポート・・・・・・・・・ 4-82
後退時ブレーキサポート
　作動表示灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-102
後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-45
後方誤発進抑制機能・・・・・・・・・・・・・ 4-85
故障したときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-2
誤発進抑制機能・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-48

サ

サービスデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-1
左右確認サポート・・・・・・・・・・・・・・・ 4-99
サンバイザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-6

シ

シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-42
シートアンダーボックス
　（助手席）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-18
シートヒーター（運転席）・・・・・・・・・ 3-44
シートベルト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-52
シートベルト可変
　フォースリミッター・・・・・・・・・・・・ 3-58
シートベルト警告灯・・・・・・・・・・・・・ 3-87
シートベルト警告ブザー・・・・・・・・・・ 3-53
シートベルトプリテンショナー・・・ 3-57
事故が起きたときは・・・・・・・・・・・・・・・・7-9
室内灯・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-8、7-46、8-3
シフトロック・・・・・・・・・・・・・・ 4-15、4-25
車線逸脱警報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-51
車線逸脱警報OFFスイッチ・・・・・・・ 4-73
車線逸脱警報OFF表示灯・・・・・・・・ 3-103
車線逸脱警報作動表示灯・・・・・・・・ 3-103
車線逸脱抑制機能・・・・・・・・・・・・・・・ 4-52
ジャッキ（収納場所）・・・・・・・・・・・・・・7-9
ジャッキアップ
　（タイヤチェーン）・・・・・・・・・・・・・ 6-21

ジャッキアップ
（パンクしたとき）・・・・・・・・・・・・ 7-21
車両接近通報装置・・・・・・・・・・・・・・ 4-27
車両接近通報装置警告灯・・・・・・・・・ 3-95
集中ドアロック
（パワードアロック）・・・・・・・・・・・・・3-8
充電警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-92
樹脂部品などの手入れ・・・・・・・・・・・・・6-6
出発の前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-2
ジュニアシート・・・・・・・・・・・・・ 3-72、2-8
瞬間燃費・・・・・・・・・・・・・・・ 3-110、3-124
衝突被害軽減ブレーキ他・・・・・・・・・ 4-36
後方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-79
前方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-36
照明コントロール表示・・・・・・・・・・ 3-112
助手席シートバックポケット・・・・・ 5-23
助手席シートヒータースイッチ・・・ 3-44
ショッピングフック・・・・・・・・・・・・・ 5-19

ス

水温警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-89
水没したときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-8
スタック（立ち往生）・・・・・・・・・・・・・ 2-22
ステアリングオーディオ
スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-42
ステータスインフォメーション
ランプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-84
ステレオカメラ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-36
スノーブレード・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-15
スピードメーター（速度計）・・・・・・・ 3-84
スペアタイヤ（応急用スペアタイヤ）
取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-17
スライドドアクローザー・・・・・・・・・ 3-20
スライドレバー・・・・・・・・・・・・・ 3-42、3-45
スリムサーキュレーター・・・・・・・・・ 5-36
すれ違い支援機能・・・・・・・・・・・・・・ 4-102

セ

積算アイドリングストップ時間
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-112、3-126
積算アイドリングストップ
節約燃料・・・・・・・・・・・・・・ 3-111、3-125
セキュリティアラーム
インジケーター・・・・・・・・・・・・・・・3-100
セッティングモード・・・・・ 3-115、3-130
セレクトレバー
位置表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-107
操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-14
先行車発進お知らせ機能・・・・・・・・・ 4-58
洗車・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-3
前照灯（ヘッドライト）
・・・・・・・・・・・・・7-37、7-39、7-40、7-41
前席シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-42
全方位モニター・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-93

ソ

走行中の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-16
速度計（スピードメーター）・・・・・・・ 3-84

タ

ターボ車の運転 ……2-35
タイマーロック機能 ……3-12
タイヤ
　応急修理したあとは ……7-17
　応急修理のしかた ……7-13
　空気圧 …… 8-4
　交換したあとは ……7-27
　交換するときは …… 6-8
　交換の準備 ……7-19
　チェーン ……6-20
　パンク応急修理セット ……7-10
　冬用タイヤ ……6-16
　ホイールサイズ …… 8-4
　ローテーション …… 6-8
　輪止め …… 2-24、6-16
タコメーター(エンジン回転計) …3-84
立ち往生 ……2-22
暖機運転 ……2-40

チ

チェーン(タイヤチェーン) ……6-20
チケットホルダー(サンバイザー) … 5-6
チャイルドシート ……3-72
チャイルドプルーフ …… 3-9
駐車するときは ……2-23、4-25、6-19
チルトステアリング ……3-42

テ

停止表示板……7-2
低水温表示灯…… 3-98
デフロスター
　(エアコン、ヒーター)…… 5-27
デフロスタースイッチ…… 5-35
デュアルカメラブレーキサポート
　(DCBS) …… 4-43
デュアルカメラブレーキサポート
　(DCBS)OFFスイッチ …… 4-72
デュアルカメラブレーキサポート
　(DCBS)OFF表示灯 …… 3-101
デュアルカメラブレーキサポート
　(DCBS)作動表示灯 …… 3-101
電球
　電球の位置…… 7-38
　電球の交換(ランプ類)…… 7-37
　電球の点検…… 7-37
　ワット数(ランプ類)…… 7-39、8-3
点検……2-2、8-1
電源が切り替わらないときは……4-6
電源の切替え……4-6
電池交換(携帯リモコン)……6-9

ト

ドア……3-3
ドアの開閉……3-2
ドアポケット…… 5-17
ドアミラー…… 3-36
ドアミラー角度調節スイッチ…… 3-36
ドアミラー格納スイッチ…… 3-37
ドアミラーヒータースイッチ…… 3-40
ドアロック解除機能……3-9
凍結防止剤…… 6-19
凍結路…… 6-18
登降坂変速制御…… 4-19
トランスミッション警告灯…… 3-92
トリップメーター…… 3-109、3-123
ドリンクホルダー…… 5-13

ナ

内気循環(エアコン、ヒーター)‥‥ 5-34
内装のお手入れ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥6-5
長い荷物を積むとき
　(助手席シート)‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-50
鉛バッテリー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥2-4

ニ

日常点検‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥2-2

ネ

燃費
　瞬間燃費‥‥‥‥‥‥‥ 3-110、3-124
　平均燃費‥‥‥‥‥‥‥ 3-110、3-124
燃料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 2-27、8-1
燃料給油口‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥5-2
燃料計‥‥‥ 3-83、3-85、3-108、3-128
燃料残量警告灯‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-88
燃料タンク容量‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥8-1

ハ

パーキングブレーキ
　寒冷時の取扱い‥‥‥‥‥‥‥‥ 6-19
　操作‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 4-12
　ブレーキ警告灯‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-86
パーソナルテーブル‥‥‥‥‥‥‥ 5-23
ハーフホイールキャップ
　(取り付け)‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-27
ハーフホイールキャップ
　(取り外し)‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-20
ハイドロプレーニング現象‥‥‥‥ 2-20
ハイビームアシスト‥‥‥‥‥‥‥ 4-59
ハイマウントストップランプ
　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-39、7-42
はさみ込み防止機構‥‥‥‥ 3-28、3-34
発炎筒‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥7-4
バックミラー(ルームミラー)‥‥‥ 3-36
バッテリー
　鉛バッテリー‥‥‥‥‥‥‥‥ 2-4、6-15
　鉛バッテリーあがり‥‥‥‥‥‥‥ 7-28
　バッテリーについて ‥‥‥‥‥‥‥ 2-3
　リチウムイオンバッテリー ‥‥‥ 2-4
バッテリーあがり ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-28
パドルシフトスイッチ ‥‥‥‥‥‥‥ 4-17
バニティミラー(サンバイザー) ‥‥ 5-6
ハロゲンヘッドライト ‥‥‥7-39、7-40
パワーウインドー ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-31
パワーステアリング警告灯 ‥‥‥‥ 3-91
パワースライドドア ‥‥‥‥2-30、3-21
パワースライドドアスイッチ ‥‥‥ 3-26
パワースライドドアボタン ‥‥‥‥ 3-26
パワースライドドア
　メインスイッチ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-23
パワースライドドア予約ロック ‥‥ 3-27
パワードアロック ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-8
パワーモード ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥3-143
パワーモードスイッチ ‥‥‥‥‥‥3-143
パワーモード表示灯 ‥‥‥‥‥‥‥‥3-104
パンク
　応急修理のしかた ‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-13
　タイヤ交換 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-19
番号灯 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥7-39、7-46
半ドア警告灯 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3-93
ハンドルロックが解除できない
　ときは ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 4-3
ハンドルロック未作動
　警告ブザー ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 4-11

ヒ

ヒーター(エアコン) ‥‥‥‥‥‥‥‥ 5-27
　オートエアコン ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 5-29
　吹出し口 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 5-27
非常点滅表示灯 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥7-39、7-42
非常点滅表示灯スイッチ ‥‥‥‥‥‥3-139
必読！ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 2-2
ヒューズ切れ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-32
標識認識機能 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 4-73
表示灯 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 1-20
日よけ(サンバイザー) ‥‥‥‥‥‥‥ 5-6
ヒルホールドコントロール ‥‥‥‥4-147

フ

ブースターケーブル ・・・・・・・・・・・・・7-28
フォグランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・7-39
フォグランプスイッチ ・・・・・・・・・・3-137
プッシュ表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・3-98
フットレスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・5-22
フューエルキャップ ・・・・・・・・・・・・・ 5-2
フューエルリッド ・・・・・・・・・・・・5-2、5-3
ふらつき警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・4-57
フルフラットシート ・・・・・・・・・・・・・3-51
フルホイールキャップ
（取り付け）・・・・・・・・・・・・・・・・・7-27
フルホイールキャップ
（取り外し）・・・・・・・・・・・・・・・・・7-20
ブレーキ
ブレーキ液 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1
ブレーキ警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・3-86
ブレーキ倍力装置 ・・・ 2-22、4-10、7-7
ブレーキリクエストインジケーター3-95
フロントシート ・・・・・・・・・・・・・・・・3-42
フロントワイパー／
ウォッシャースイッチ ・・・・・・・・3-140

ヘ

平均燃費 ・・・・・・・・・・・・・・・3-110、3-124
ヘッドアップディスプレイ ・・・・・・4-123
ヘッドライト（前照灯）
・・・・・・・・・・・・ 7-37、7-39、7-40、7-41
ヘッドライト上向き（ハイビーム）
表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-97
ヘッドレスト
後席 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-47
前席 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-44
ベビーシート ・・・・・・・・・・・・・・・・・3-72

ホ

ホイールキャップ（取り付け）・・・・・ 7-27
ホイールキャップ（取り外し）・・・・・ 7-20
ホイールサイズ・・・・・・・・・・・・・・・・・8-4
方向指示器・・・・・・・・・・・・・・・ 7-39、7-42
方向指示器スイッチ・・・・・・・・・・・・ 3-139
方向指示器表示灯・・・・・・・・・・・・・・ 3-97
ホーンスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-142
ボンネット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4

マ

マイルドハイブリッド・・・・・・・・・・ 4-133
マスターウォーニング・・・・・・・・・・・ 3-94
マニュアルモードの使いかた・・・・・ 4-17
マルチインフォメーション
ディスプレイ・・・・・・・・・ 3-105、3-119
万一のとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-1

ミ

ミラー
後方視界支援ミラー・・・・・・・・・・・・ 3-41
サイドアンダービューミラー・・・ 3-40
ドアミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-36
バニティミラー（サンバイザー）・・・5-6
ルームミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-36

メ

メーター
マルチインフォメーション
ディスプレイ・・・・・・・ 3-105、3-119
メーターの照明・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-85
メーターの見かた・・・・・・・・・・・・・・・ 3-83

ユ

油圧警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-91
雪道を走行するとき・・・・・・・・・・・・・ 6-18

ヨ

よくあるご質問…… 1-29
横風が強いときは…… 2-19

ラ

ライセンスについて…… 4-122
ライト消し忘れ警告ブザー…… 3-136
ライト自動消灯システム…… 3-136
ライトスイッチ…… 3-134
ライト点灯表示灯…… 3-97
ラゲッジアンダーボックス…… 5-25
ラジエーターキャップ…… 7-31、8-5
ランプ
　後退灯…… 7-45
　室内灯……5-8
　電球の交換(ランプ類)…… 7-37
　ハイマウントストップランプ… 7-42
　番号灯…… 7-46
　フォグランプ…… 3-137
　ヘッドライト…… 7-37、7-40、7-41
　方向指示器／非常点滅表示灯… 7-42
　リヤコンビネーションランプ… 7-44
　ワット数(ランプ類)…… 7-39、8-3

リ

リクエストスイッチ…… 3-15
リクエストスイッチ未作動
　警告ブザー…… 3-17
リクライニングレバー…… 3-43
リジッドラック…… 7-23
リチウムイオンバッテリー……2-4
リバース(R)ポジション警告ブザー
　……2-28、4-20
リモート格納ミラー…… 3-38
リヤ(後席)シート…… 3-45
リヤクォーターガラス／バックドア
　ガラスの室内側の手入れ……6-7
リヤクォータートリムポケット… 5-17
リヤコンビネーションランプ…… 7-44
リヤサーキュレーター…… 5-36
リヤデフォッガースイッチ…… 5-37
リヤパーキングセンサー …… 4-88
リヤワイパー／ウォッシャー
　スイッチ……3-141

ル

ルーフアンテナ……5-41
ルーフレール……5-25
ルームミラー……3-36
ルームランプ(室内灯)…… 5-8、8-3

レ

冷却水(ラジエーター液)
　寒冷時の取扱い…… 6-15
　規定水量…… 8-1

ロ

ロールサンシェード…… 5-7

ワ

ワイパー
　寒冷時の取扱い…… 6-15、6-16、6-20
　ワイパースイッチ……3-140
ワイパーブレードラバーの交換… 6-11
ワックス…… 6-2
ワンアクションスイッチ…… 3-25

MEMO